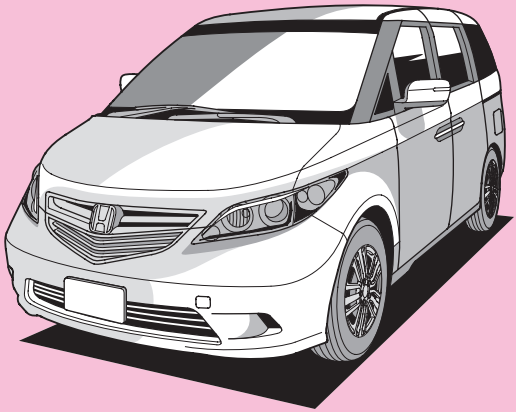
取扱説明書

ご使用の前に
よくお読みください。

ELYSION

このたびはHonda車をお買い上げいただき、ありがとうございます。

この本は ELYSION の取り扱いについて
必要事項を説明しています。
安全で快適なドライブをお楽しみいただくために、
ご使用前に必ずお読みください。



●運転はルールを守り、マナーよく。 ・シートベルトを着用しましょう。 ・法定速度を守りましょう。 ・子供やお年寄りをいたわりましょう。 ・駐停車は、ルールに従いましょう。 ・迷惑運転はやめましょう。 ・自然環境保護に気をくばりましょう。	●お車に“ ⚠ 📖 ”の表示があるところは、ご使用前に本書の記載を確認してください。
	●取扱説明書は、メンテナンスノートと共に、いつもお車に保管してください。
	●お車をゆずられるときは、つぎに所有されるかたのためにこの取扱説明書およびメンテナンスノートを車につけておいてください。
●保証や点検整備に関することはメンテナンスノートに記載しておりますので、ご使用前に必ずお読みください。	●ご不明な点は、担当セールスマンにおたずねください。

車の仕様などの変更により、この本の内容と実車が一致しない場合がありますのでご了承ください。

本書の読みかた

この本はドライバーの動作に沿って各部の取り扱いを説明しています。
また、装備、万一のときの応急処置、お車の手入れなど、必要な情報を説明しています。

「安全ドライブのための必読 6 ポイント」

重要ですので、しっかりお読みください。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

お車に関することや、その他のアドバイスは下記の表示を使って記載しています。

アドバイス
お車のために守っていただきたいこと
（車が故障・破損するのを防ぐためのアドバイス、異常事態の処置方法を記載しています）

知 識
知っておいていただきたいこと
知っておくと便利なこと

タイトル
階層ごとにデザインを
変えてあります

ヘッダー
ページの内容を
示しています

**ページ
インデックス**
（→4ページ）

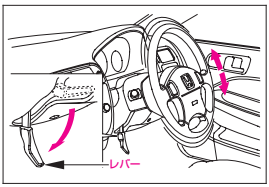
ハンドル・バックミラーの調節

チルトステアリング

ハンドルの高さを適切な位置に変えることができます。

▼

レバーを押し下げ、ハンドルの高さを適切な位置にして、レバーを元の位置まで確実に引き上げて固定します。



⚠注意

●走行中に調節するとハンドルが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行する前に行い、ハンドルに上下方向の力を加え固定されていることを確認してください。

ルームミラー

知識

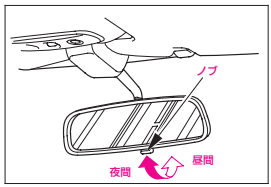
●走行中はミラーの調節を行わないでください。

●防眩式ルームミラー

夜間走行時、後続車のライトがまぶしいときにライトの反射を弱くできます。

▼

ノブを動かして切り換えます。



角度調節はノブを昼間の位置にして行ってください。

**●長期間使わないで
屋外におくとき**

塗装面の保護とドアまわりの凍結を防ぐために、ボディカバーを使ってください。

⚠注意

●格納するとき、エンジン部を毛布で覆ったり、ラジエーターのまわりに段ボールや新聞紙をはさみ込んだりしないでください。そのまま走行すると、火災のおそれがあります。

説明文
装置／機構について

解説
▼
操作方法

に分けて記載しています。

安全に関する表示

※このページはサンプルページですので、記載されている内容と実車は異なります。

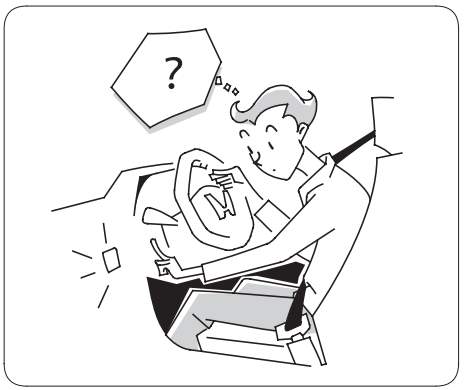
本書の上手な使いかた

知りたい項目の説明がすぐ探せるように、いろいろな引きかたが用意されています。

タイトルから探すとき

目次(P.6)

ページインデックス:
目次と対応しているので、目的のページが辞書を引くように探せます。

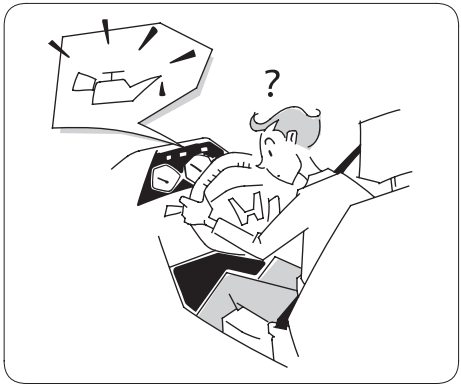


スイッチ類などの名称が
わからないとき

ビジュアル目次
(P.8〜P.13)

名称から探すとき

さくいん
(P.510〜520)



メーター内にランプ(警告灯)が
点灯したとき

警告灯目次(P.14)

故障かな、と思ったときや
万一のとき

さくいん(赤色文字)
(P.510〜520)
「こんなことでお困りのとき」
(巻末)

目　次

◆安全ドライブのための必読 6 ポイント

1. 車を運転する前に

2. 車を運転するときに

3. 安全装備

4. ドライブを快適にする装備

5. 万一のとき

6. 車の手入れ

7. 車との上手なつきあいかた

・サービスデータ

・さくいん

・こんなことでお困りのとき

1．お出かけまえに 16
2．お子さまに思いやりを 18
3．正しい知識で最適運転 22
4．オートマチック車の注意ポイント 24
5．駐車や停車はしっかりと 28
6．こんなことにも注意をしよう 30
15

・各部の開閉 38
・シートの調節 92
・ハンドル・バックミラーの調節 120
・シートベルト 124
・チャイルドシート固定装置 136
37

・メーター 144
・マルチインフォメーションディスプレイ 152
・表示灯 160
・警告灯 168
・スイッチの使いかた 180
・運転のしかた 196
・Hondaスマートカードキーシステム 222
143

・SRSエアバッグシステム 250
・サイドエアバッグシステム／サイドカーテンエアバッグシステム 258
・シートベルトプリテンショナー 274
・E-プリテンショナー 278
・アンチロックブレーキシステム（ABS） 280
・ブレーキアシスト 282
・ビークルスタビリティアシスト（VSA） 284
・追突軽減ブレーキ（CMS） 288
・四輪駆動機構（4WD） 298
・その他の安全装備 299
249

・エアコン 302
・オーディオ 338
・リヤカメラシステム 360
・室内照明 364
・室内装備品 372
・カスタマイズ機能 386
・セキュリティーシステム 410
301

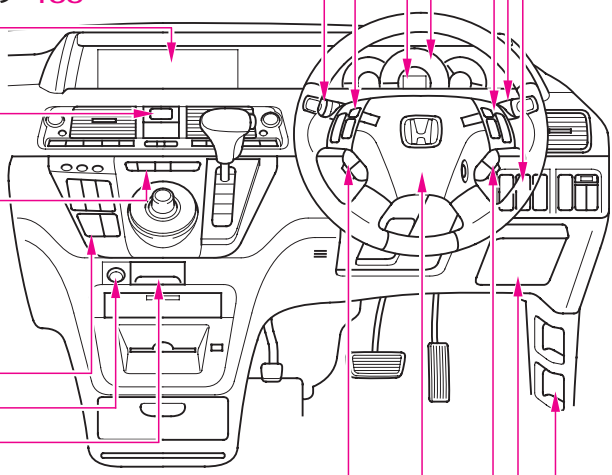
・工具・スペアタイヤ・発炎筒 414
・故障したとき 416
・事故が起きたとき 418
・けん引 420
・パンクしたとき 424
・オーバーヒートしたとき 438
・電気系統が異常のとき 440
413

・点検・整備について 464
・日常の手入れ 466
・車にあった部品の使用 482
463

・積雪・寒冷時の取り扱い 484
・こんなときは 494
・環境にやさしい省エネドライブをするために 498
483

502
510
巻末

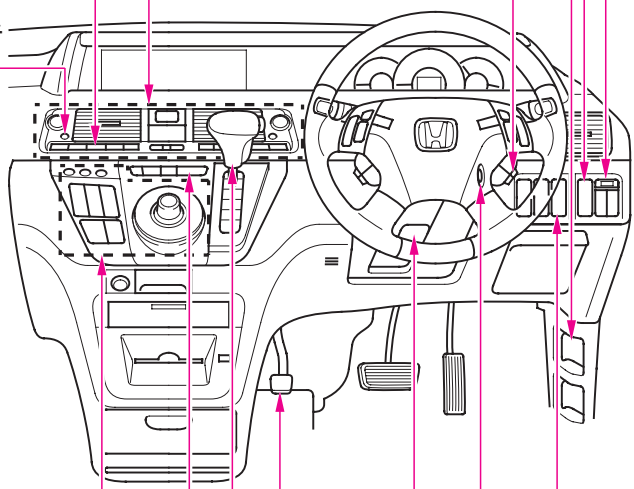
ビジュアル目次



CMS OFFスイッチ IHCC装備車 294
オートロックキャンセルスイッチ タイプ別装備 234
ライト／方向指示器(ウィンカー)スイッチ182、187
クルーズコントロールスイッチ タイプ別装備 216
IHCCスイッチ※1 タイプ別装備
メーター 144
マルチインフォメーションディスプレイ
IHCC装備車 152
表示灯 160
警告灯 168
オーディオリモートコントロールスイッチ
タイプ別装備 359
ワイパー／ウォッシャースイッチ 188
ナビゲーションシステム※2
非常点滅表示灯スイッチ 194
室内灯スイッチ 365
リアエンターテインメント
システムメインスイッチ※3
タイプ別注文装備
シガレットライター 372
灰皿 373
ボイスコントロールスイッチ※2
ナビゲーションシステム装備車 314
ホーンスイッチ 194
DISTANCEスイッチ※1 IHCC装備車
コインポケット 377
ボンネット解錠ノブ 77

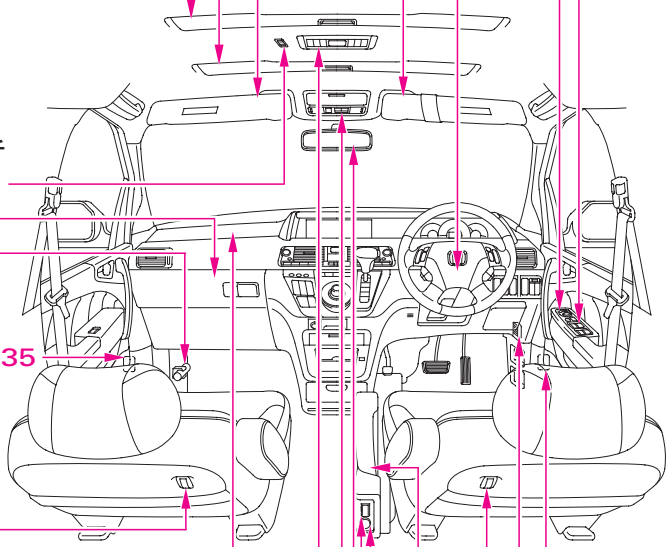
※1：IHCCについては、別冊のIHCC取扱説明書をご覧ください。
※2：ナビゲーションシステム装備車については、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をご覧ください。
※3：別冊のリアエンターテインメントシステム取扱説明書をご覧ください。

パワースライドドアスイッチ タイプ別装備 51
パワーテールゲート運転席スイッチ タイプ別注文装備 64
フューエルリッドオープナー 80
インフォ(INFO)スイッチ IHCC装備車 152
セレクト／リセット(SEL RESET)スイッチ
IHCC装備車 152
エアコン 302
リヤデフロスター
スイッチ 193
ヒーテッドドアミラースイッチ
タイプ別装備 122
フロントガラス熱線スイッチ
タイプ別装備 192



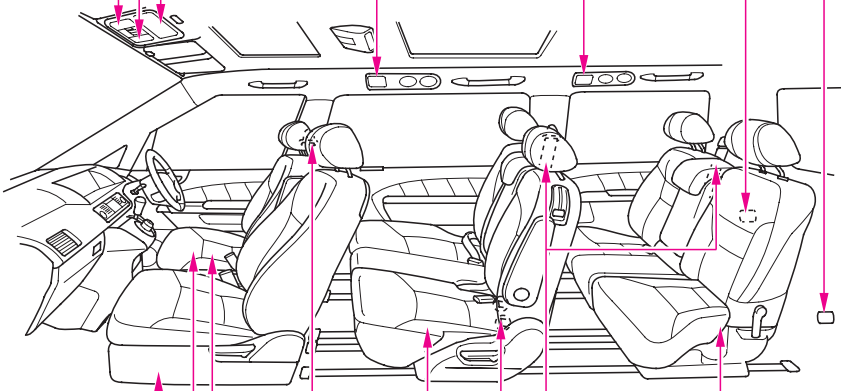
オーディオ タイプ別装備 338
スノー(SNOW)モードスイッチ
タイプ別装備 204
セレクトレバー 202
パーキングブレーキ 199
チルトステアリングレバー 120
エンジンスイッチノブ タイプ別装備 235
エンジンスイッチ 180
VSA OFFスイッチ タイプ別装備 286
アダプティブフロントライティングシステム(AFS)OFFスイッチ
タイプ別装備 184

ビジュアル目次



パワーウィンドースイッチ 82
ドアミラー調節スイッチ 121
SRSエアバッグシステム(運転席用) 250
サンバイザー 374
サンルーフ タイプ別注文装備 88
後席用サンルーフスイッチ タイプ別注文装備 89
グローブボックス 376
発炎筒 415
シートヒータースイッチ（助手席用） タイプ別注文装備 335
コンビニフック 379
SRSエアバッグシステム（助手席用） 250
後席用オートエアコン タイプ別装備 318
後席用クーラー タイプ別装備 328
サンルーフスイッチ タイプ別注文装備 89
ルームミラー 120
AV入力端子※ ナビゲーションシステム装備車 385
AUX端子 タイプ別装備 356
アクセサリーソケット 382
センターテーブル タイプ別装備 380
コンビニフック 379
ヒューズボックス 444
シートヒータースイッチ(運転席用) タイプ別注文装備 335

※：ナビゲーションシステム装備車については、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をご覧ください。

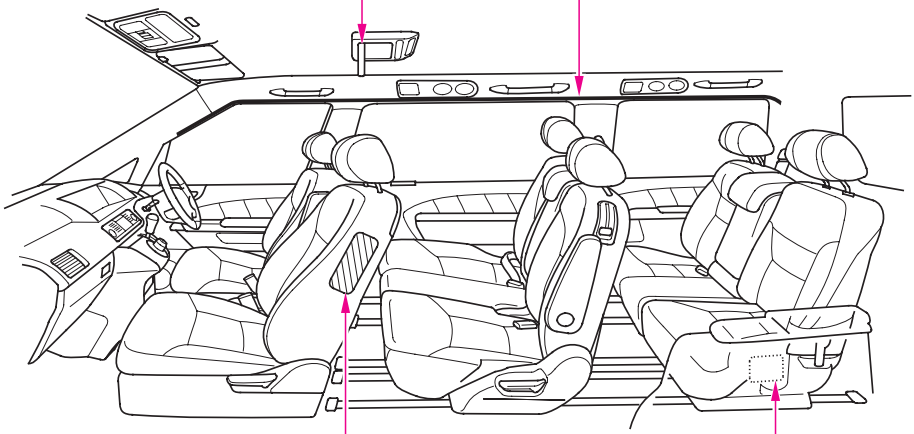


前席室内灯／マップランプ 365、368
サングラスホルダー 375
後席室内灯／マップランプ 365、368
カーゴスペース照明灯（車体右側） 369
AC100V電源ソケット（車体左側）
タイプ別装備 383

サードシート 110
シートベルト（チャイルドシート
固定機構付き） 136
ISO FIXテザータイプ
チャイルドシート固定装置 139
セカンドシート 102
シートベルト 124
フロントパワーシート（運転席のみ） タイプ別装備 96
フロントマニュアルシート タイプ別装備 99

ビジュアル目次

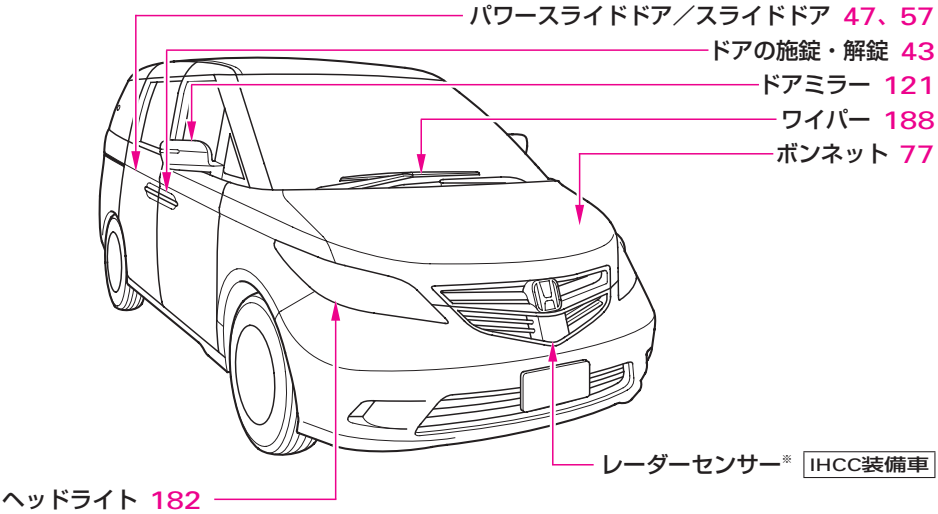
リアエンターテインメントシステム※ タイプ別注文装備
サイドカーテンエアバッグシステム 注文装備 261

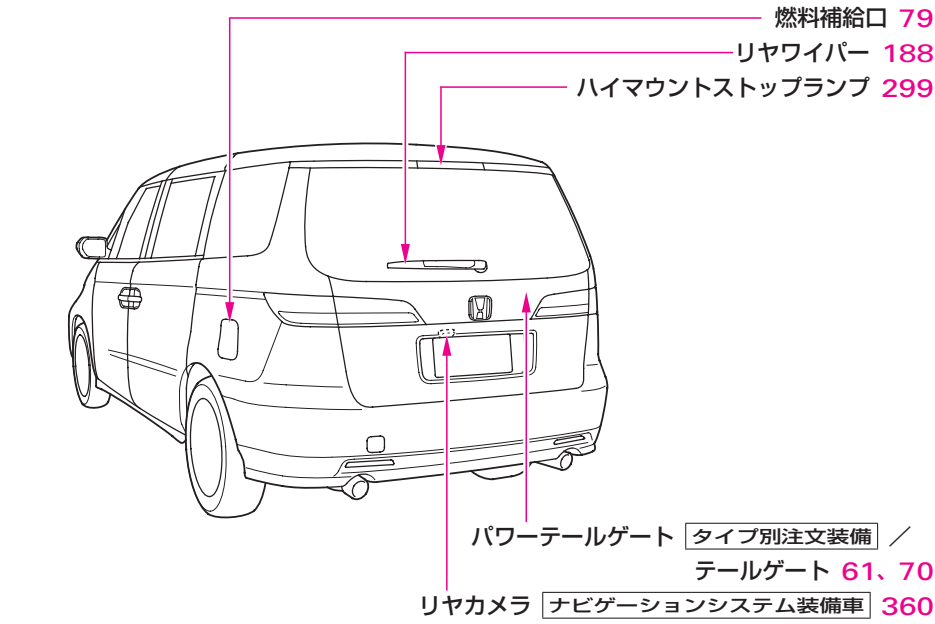


AV入力端子※／音量調節機能付き
ヘッドホン端子※
リアエンターテインメントシステム装備車 385
サイドエアバッグシステム 注文装備 260

ヘッドホン※
リアエンターテインメントシステム装備車

※：別冊のリアエンターテインメントシステム取扱説明書をご覧ください。



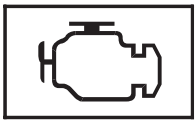


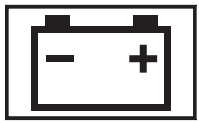
※：IHCCについては、別冊のIHCC取扱説明書をご覧ください。

警告灯目次

ブレーキ警告灯
→171ページ

油圧警告灯
→172ページ


PGM-FI警告灯
→172ページ


充電警告灯
→173ページ

トランスミッション警告灯
→173ページ

シートベルト非着用警告灯
→173ページ

燃料残量警告灯
→174ページ

Hondaスマートカードキーシステム警告灯
→174ページ

Hondaインテリジェントハイウェイクルーズコントロールシステム(IHCC)警告灯 →174ページ

アンチロックブレーキシステム(ABS)警告灯 →174ページ

SRSエアバッグシステム警告灯
→175ページ

ビークルスタビリティアシスト(VSA)警告灯 →175ページ

追突軽減ブレーキ(CMS)警告灯
→176ページ

アダプティブフロントライティングシステム(AFS)警告灯 →176ページ

パワースライドドア警告灯
→177ページ

パワーテールゲート警告灯
→177ページ

オートライトコントロール警告灯
→177ページ

安全ドライブのための
必読6ポイント

ご使用の前に知っておいていただきたいこと、
守っていただきたいことをまとめてあります。

POINTS 6

●お出かけまえに …… 16
●お子さまに思いやりを …… 18
●正しい知識で最適運転 …… 22
●オートマチック車の注意ポイント … 24
●駐車や停車はしっかりと …… 28
●こんなことにも注意をしよう …… 30

1 お出かけまえに・・・

点検をわすれずに。
＜メンテナンスノート参照＞

- 道路運送車両法により、法定定期点検と日常点検が義務づけられています。
  安全・快適にお使いいただくために、Hondaの点検要領に従って必ず点検してください。
  日常点検は車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検で、お客様自身で実施が可能な項目となっています。
- 普段と違う点に気づいたら、Honda販売店で点検を受けてください。
  （音、におい、ブレーキ液の不足、地面に油のあとが残っている時・・・）
- 走行中も車の状態に気を配り、いつもと違う音やにおい、運転感覚などを感じたら早めに点検しましょう。

シートベルトを正しく着用。
＜124ページ参照＞

- 運転する人はもちろん、同乗する人にも必ず着用させてください。
- シートに深く腰かけ、背もたれは必要以上に倒さないでください。
- 腰骨のできるだけ低い位置に着用してください。

- ベルトにねじれがないか確かめてください。

- ベルトがくび、あご、顔などに当たらないようにしてください。

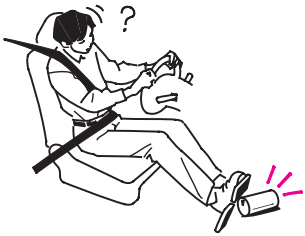
- 一本のベルトを二人以上で使用しないでください。

燃料の入った容器やスプレー缶などはのせないで。

引火、爆発のおそれがあります。

運転のさまたげになるものには注意を。

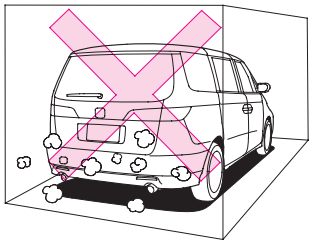
- **走行中動きやすい物を床にそのまま置かないでください。**
- **フロアマットが、ペダルに引っかからないように注意してください。**
  ブレーキやアクセルのペダル操作が、確実にできないおそれがあります。



- **手荷物はシートの高さを越えないようにしましょう。**
  後方視界をさまたげたり、急ブレーキのときなどに荷物がとび出すおそれがあります。

排気ガスには十分に気をつけて。

- **排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素が含まれているため、吸い込むと一酸化炭素中毒のおそれがあります。**
- **車庫や屋内などの換気の悪いところでは、エンジンをかけたままにしないでください。**
  車内や屋内などに排気ガスが充満し一酸化炭素中毒のおそれがあります。



- **排気管に穴や亀裂があったり、排気音の異常に気づいたらHonda販売店で点検を受けてください。**
  車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。

2 お子さまに思いやりを

お子さまは、うしろの席に。

●**助手席にのせるのは避けましょう。**

・不意の動作が気になったり、スイッチ・レバー類のいたずらなど運転のさまたげになるおそれがあります。また、事故が起きた場合、後席のほうが安全といわれています。

・インストルメントパネルに手をついたり、顔や胸を近づけた状態での乗車は、SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受けるおそれがあり危険です。

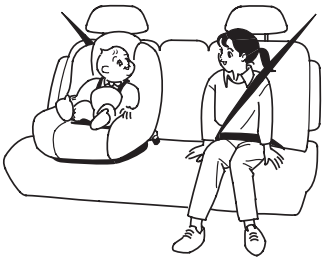
・サイドエアバッグ装備車では、フロントドアに寄りかかった状態での乗車は、サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受けるおそれがあり危険です。

・お子さまを後席に乗せることができなく、やむをえず助手席に乗せるときは、一番大きなお子さまを乗せてください。

お子さまにもシートベルトを。

●**お子さまにも必ずシートベルトを着用させるか、チャイルドシート※をお使いください。**

お子さまを抱いていても、衝突したときなどに支えることができず危険です。



※：乳児用シート、幼児用シート、学童用シートをまとめた総称として「チャイルドシート」と呼んでいます。

●**お子さまのくびやあごにシートベルトがあたる場合や腰骨にかからない場合は、幼児用シートや学童用シートを使用してください。**

・シートベルトをそのまま使うと衝突のときに腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
また、ひとりですわることのできない小さなお子さまは乳児用シートを使用してください。

・チャイルドシートは安全装備です。国土交通大臣が型式を指定または認定したマークが付いているもの、もしくはアメリカやヨーロッパなどの安全基準に合格しているものを必ず選んでください。

・シート形状などにより、チャイルドシートを正しく取り付けできない席があります。このようなときは、他の席で試してください。または、この車に合ったチャイルドシートを使用してください。

・この車には、ISO FIXテザータイプのチャイルドシートを固定するための専用バーとテザーアンカーが装備されています。
この車用に認可を取得したチャイルドシートのみ、固定し使用することができます。

ISO FIX テザータイプチャイルドシート固定装置　→139ページ

・Honda純正品をご用意しています。ご購入、ご使用に際してはHonda販売店にご相談ください。

《選択の目安》
詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

ISO FIX タイプを除く

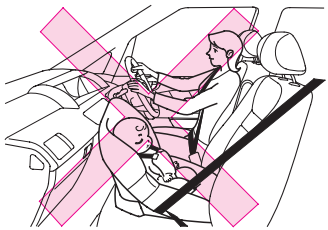
	体重(kg)	参考身長(cm)	参考年令
乳児用(ベビー)シート	～10	～75	～12か月
幼児用(チャイルド)シート	9～18	70～100	9か月～4才
学童用(ジュニア)シート	15～32	100～135	4才～10才

ISO FIX テザータイプ

	体重(kg)	参考身長(cm)	参考年令
乳児用(ベビー)シート	～9	～70	～9か月
幼児用(チャイルド)シート	9～18	70～100	9か月～4才

●**チャイルドシートは確実に取り付けてください。**
お子さまを乗せるときは、チャイルドシートが車に確実に取り付けられていることを確認してください。
また、お子さまの体をチャイルドシートにきちんと固定してください。
・ISO FIX対応以外のチャイルドシートは、シートベルトの種類やチャイルドシートの種類と取り付けの向きによっては、固定金具(ロッキングクリップ)が必要になることがあります。
シートベルトの種類　→126ページ
チャイルドシート固定機構付きシートベルト　→136ページ
・ISO FIX テザータイプのチャイルドシートは、専用バーとテザーアンカーを用いて固定します。
チャイルドシートを前向きに取り付けるときは、このバーとテザーアンカーを用いて固定します。
後ろ向きに取り付けるときは、テザーアンカーは使用しません。
チャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。
・テザーアンカーにテザーストラップを結合することにより、チャイルドシートを確実に固定することができます。
ISO FIX テザータイプチャイルドシート固定装置　→139ページ
・詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

●**助手席には乳児用シートを取り付けないでください。また、幼児用シートを後ろ向きに取り付けないでください。**
・SRSエアバッグが膨らむ際、乳児用シートや、幼児用シートの背面に強い衝撃を受け危険です。
・やむをえず幼児用シートを前向きに取り付ける場合は、SRSエアバッグから遠ざけるため、シートを一番後ろに下げてください。



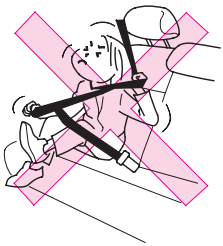
●**チャイルドシートを取り外したまま車内に放置しないでください。**
ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートがとび出し傷害を受けるおそれがあります。
お子さまを乗せないときでも確実に取り付けるか、家などに保管してください。

ドア、テールゲート、ウィンドー、サンルーフ、シートの操作は必ず大人が。

- **手、足、顔などをはさまないよう、気をつけてください。**
- **走行する前にすべてのドアが完全に閉まっていることを確認してください。**
  ドアが完全に閉まっていないと走行中にドアが開き、思わぬ事故の原因となります。
- **チャイルドプルーフを使ってスライドドアを車内から開かないようにしてください。**
  <56、59ページ参照>
  走行中にドアを開けると、お子さまが車外に放り出されるおそれがあります。
- **パワーウィンドーのメインスイッチは、“OFF”にしておきましょう。**
  <82、84ページ参照>
- **走行中、一時停止のときなど、窓やサンルーフから手や頭、物などを出さないよう、注意してください。**
  思わぬ障害物で事故のおそれがあります。

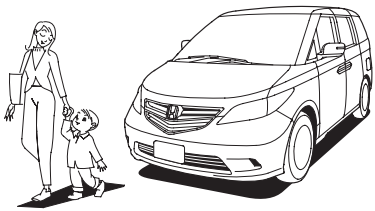
お子さまをシートベルトで遊ばせないで。

- **チャイルドシート固定機構付きシートベルトでは、ベルトをすべて引き出すと完全にベルトを戻すまでは引き出し方向には動きません。**
  ベルトを身体に巻きつけたりして遊んでいると、固定機構が作動してベルトがゆるまなくなり、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあります。
  万一ベルトをゆるめることができなくなった場合は、はさみなどでベルトを切断してください。



車から離れるときは、お子さまも一緒に連れて。

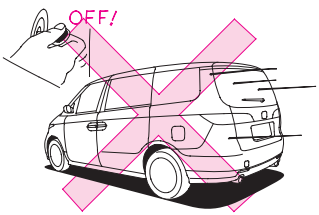
- **お子さまだけを車内に残さないでください。**
  - 炎天下の車内は、高温になり危険です。
  - お子さまのいたずらにより車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。



3 正しい知識で最適運転

●**走行中ハンドルの中に手を入れて、スイッチを操作しないでください。**
ハンドル操作のさまたげになり大変危険です。

●**走行中はエンジンを止めないでください。**
・ブレーキ倍力装置が作用しないため、ブレーキのききが悪くなります。
・パワーステアリングのパワー装置がはたらかなくなり、ハンドル操作が重くなります。



長い下り坂ではエンジンブレーキを。

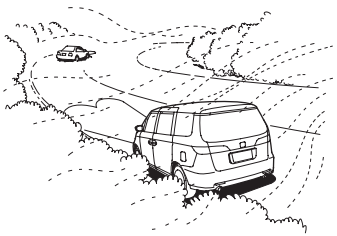
●**ブレーキペダルを踏み続けて走行するとブレーキが過熱して、ききが悪くなることがあります。**

●**長い下り坂では、走行速度に合わせ、D3スイッチをONにするか2を使ってエンジンブレーキを併用してください。**
さらに強いエンジンブレーキが必要なときは、1を使ってください。

エンジンブレーキ：
走行中アクセルペダルを戻したときにかかるブレーキ力のことで、低速ギヤほどよくききます。

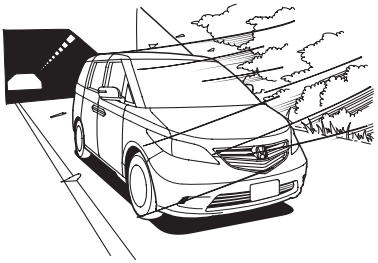
霧が出たときは。

●**霧が出たときは、視界が悪くなります。昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレールや前の車の尾灯などをめやすにして、速度を落として運転してください。**



横風の強い日は。

●**横風を受け、車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、スピードを徐々に下げて進路を立て直してください。**
トンネルの出口、橋・土手の上、山を削った切り通し、大型トラックを追い越したり、追い越されたりするときなどには、特に横風の影響を受けやすいので十分注意してください。



雨天時の走行には注意を。

●**雨天時やぬれた道路では、路面が滑りやすくなっておりタイヤのグリップ力が低下するため、通常より注意深い運転が必要です。**
急加速、急ブレーキや急ハンドルを避け、スピードを落として安全運転に心がけてください。

●**わだちなどの水のたまりやすい場所では、ハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。**
ハイドロプレーニング現象とは
→494ページ

●**冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。**
エンジンの破損や電装品の故障および車両故障につながるおそれがあります。

水たまりに入ったあとはブレーキのきき具合を確認。

●**水たまり走行後や洗車後は、低速で走行しながらブレーキペダルを軽く踏んできき具合を確認してください。**
ぬれたブレーキはききが悪かったり、ぬれていない片側だけがきいてハンドルをとられることがあります。

●**ブレーキのききが悪いときは、前後の車に十分注意しながら低速で走行し、ブレーキのききが回復するまで、繰り返しブレーキペダルを踏んでください。**

走行中異常があったら。

●**警告灯が点灯したら、ただちに安全な場所に停車し処置をしてください。**
＜168ページ参照＞
点灯したまま走行を続けると、思わぬ事故のもとになったり、エンジンなどを損傷するおそれがあります。

●**走行中にタイヤがパンクやバースト（破裂）してもあわてずに、ハンドルをしっかり握り、徐々にブレーキをかけてスピードを落とし、安全な場所に停車してください。**
急ブレーキや急ハンドルは車のコントロールを失うことがあり危険です。

●**床下に強い衝撃を受けたときは、ただちに車を止めて、ブレーキ液や燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。**
ブレーキ液や燃料の漏れ、損傷などにより思わぬ事故につながるおそれがあります。

4 オートマチック車の注意ポイント

オートマチック車は、その特性や操作上の注意をよく理解することが大切です。
「オートマチック車の運転のしかた」もあわせてお読みください。
＜207ページ参照＞

オートマチック車の特性を正しく理解。

クリープ現象とは

- エンジンがかかっているとき、セレクトレバーがPN以外に入っていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくりと動き出します。
  これをクリープ現象といいます。

キックダウンとは

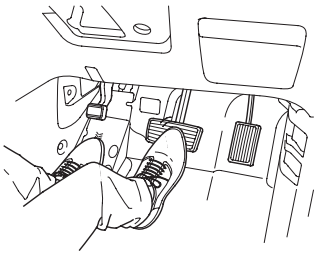
- Dで走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低速ギヤに切り換わり、エンジンの回転数が上がって、力強い加速を得ることができます。
  これをキックダウンといいます。

1 ブレーキは右足で。

●ブレーキペダルは右足で踏む習慣をつけましょう。
不慣れな左足では、適切なブレーキ操作ができません。

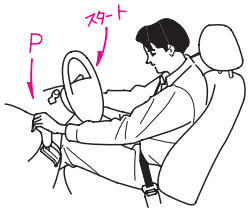
2 エンジンをかけるまえに。

●ペダルの踏みまちがいのないよう、右足でペダルの位置を確認しておきましょう。



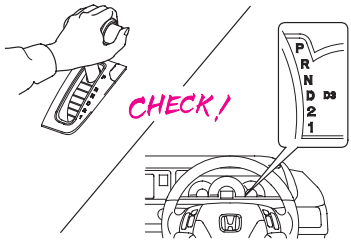
3 エンジンをかけるとき。

●安全のため、セレクトレバーは駆動輪が固定されるPでエンジンをかけましょう。



4 スタートするとき。

●思いちがいを防ぐため、セレクトレバーの位置を目で確認しましょう。



●発進時のセレクトレバーの操作は、右足でブレーキペダルをしっかり踏み、車が動かないようにして行いましょう。

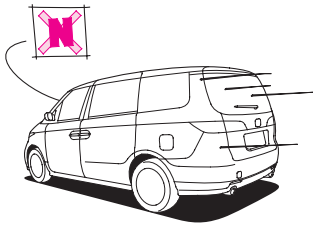
●アクセルペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作しないでください。
急発進して思わぬ事故のもとになります。

●エンジン始動直後は、自動的にエンジンの回転が上がり、クリープ現象が強くなりますので、ブレーキペダルはしっかり踏んでいてください。
エアコン作動時も同じです。

●坂道での発進は車が後退しないように必ずパーキングブレーキを併用し、先にブレーキペダルを離してアクセルペダルに踏みかえてから、パーキングブレーキを解除してください。

5 走行しているとき。

- **走行中は、セレクトレバーをⓃにしないでください。**
  エンジンブレーキが全くきかず、思わぬ事故のもとになります。



- **上り坂で、速度を保とうとしてアクセルペダルを踏み込んだとき、キックダウンにより、急にエンジン回転が上がり、思ったより速度が出てしまうことがあります。**
  アクセルペダルは、慎重に操作してください。
  また、すべりやすい路面やカーブでは、急激なアクセルペダル操作は避けてください。
- **下り坂では、エンジンブレーキも使いましょう。**
  フットブレーキを使いすぎると、ブレーキが過熱して、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。

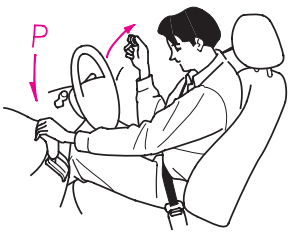
エンジンブレーキ　→22ページ

6 停車しているとき。

- **車が動かないようにブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけましょう。**
- **停車中の空ぶかしは、やめましょう。**
  万一、セレクトレバーがⓅⓃ以外のとき、思わぬ急発進のもとになります。

7 駐車するとき。

- **駐車するときは、パーキングブレーキをかけてセレクトレバーをⓅに入れ、エンジンを止めましょう。**
  万一、セレクトレバーがⓅⓃ以外に入っていると、クリープ現象で車が動き出したり、乗り込むときに、誤ってアクセルペダルを踏み込んで急発進したりするおそれがあります。



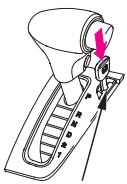
ほかに気をつけたいこと。

- **セレクトレバーは正しい位置で使用してください。**
  坂道などで、前進(D、2、1)の位置にしたまま惰性で後退したり、後退(R)の位置にしたまま前進したりすると、エンジンが停止してブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなり、思わぬ事故の原因となるおそれがあります。
- **後退したあとは、すぐRからNにもどす習慣をつけましょう。**
  ちょっと後退したときなど、Rに入れたことを忘れてしまうことがあります。
- **前進から後退、後退から前進するときは車を完全に止め、ブレーキペダルを踏んだままセレクトレバーを操作してください。**
  車が完全に止まらないうちにレバーを操作すると、トランスミッション破損のおそれがあります。
- **車が完全に止まらないうちに、Pに入れないでください。**
  急停止して危険であるばかりでなく、トランスミッション破損のもとになります。

シフトロック装置の正しい理解を。

- **ブレーキペダルを踏んでいないと、Pからのセレクトレバー操作はできません。**
  - エンジンスイッチが、“I”または“0”のときには、ブレーキペダルを踏んでも、レバーは操作できません。
  - セレクトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。
- **P以外では、エンジンスイッチからキーは抜けません。**
  P以外では、キーが“I”から“0”に回りません。
- **Rに入れるとチャイムが鳴ります。**
  - セレクトレバーがRのときにチャイムが鳴り、Rに入っていることを運転者に知らせます。
  - 車外の人には音が聞こえませんので、ご注意ください。
- **万一、Pからセレクトレバーが操作できないときは:**
  - カバーを外し、

    →210ページ
  - キーをシフトロック解除穴に差し込み、
  - キーを押しながら、セレクトレバーを操作します。

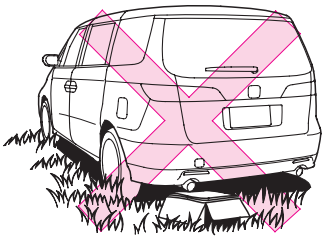


シフトロック解除穴

5 駐車や停車はしっかりと

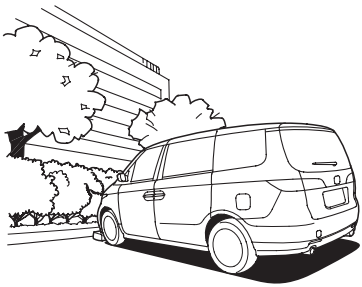
可燃物には注意を。

●**枯草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには、駐停車しないでください。**
排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。



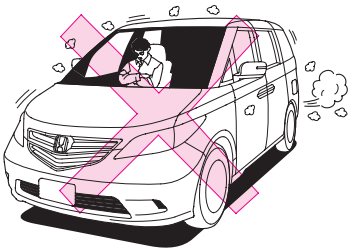
植込みなどにも注意して。

●**植込みなどの近くに駐停車するときには、排気ガスが当たらないように、車の向きを決めましょう。**



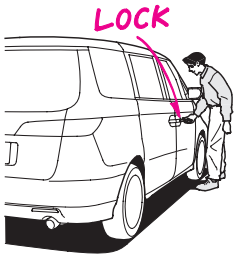
仮眠するときはエンジンを止める。

●**エンジンを必ず止めてください。**
無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ事故を起こすおそれがあります。
また、無意識にアクセルペダルを踏み続けたりした場合、オーバーヒートなどを起こしたり、エンジンや排気管などの異常過熱による火災事故が発生するおそれがあります。
さらに風向や周囲の状況等によっては、車内に排気ガスが侵入し一酸化炭素中毒のおそれもあります。



車から離れるときには施錠を。

●**必ずパーキングブレーキをかけ、エンジンを止め、ドアを施錠してください。**
●**車内の見えるところに、貴重品などを置かないようにしましょう。**
●**お子さまも連れていきましょう。**



車の移動はエンジンをかけて。

●**車を移動するときは、必ずエンジンをかけてください。**
下り坂を利用しての移動などは、思わぬ事故を招くことがあります。

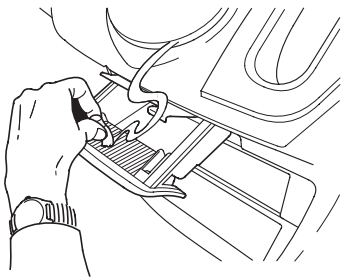
坂道での駐車は。

●**パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを[P]に入れてください。**
さらに、タイヤに輪止めをすると効果があります。

6 こんなことにも注意をしよう

タバコの吸いがらは火を消して。

- **タバコ、マッチなどは、確実に火を消してから灰皿に捨て、灰皿は必ず閉めてください。**
- **灰皿の中に吸いがらをため過ぎたり、燃えやすいものを入れたりしないでください。**

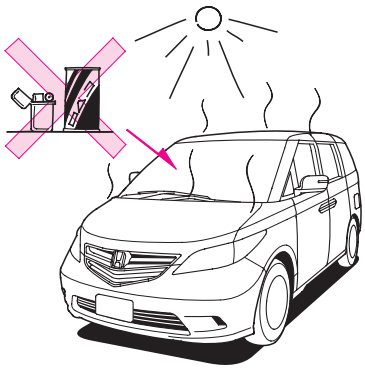


アクセサリーの取り付けには注意を。

- **ガラス面にアクセサリーなどを取り付けないでください。**
  視界をさまたげたり、吸盤がレンズのはたらきをして火災を起こしたり、思わぬ事故のもとになります。

車内にライターや炭酸飲料缶などを放置しないで。

炎天下での駐車などで車内温度が上昇すると、ライターなどの可燃物は自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。



ラジエーターキャップに気をつけて。

●**ラジエーターキャップが熱いときは、外さないでください。**
蒸気や熱湯が吹き出し危険です。

ハンドルをいっぱいに回した状態をつづけない。

●**ハンドルをいっぱいに回した状態から、さらに回そうとする力をかけつづけないでください。**
パワーステアリングポンプがオイル潤滑不良をおこし、損傷することがあります。

動物を乗せるときは、動きまわらないように注意して。

運転のさまたげになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあります。

携帯電話の使用は停車中に。

●**運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。**
運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

改造はしない。

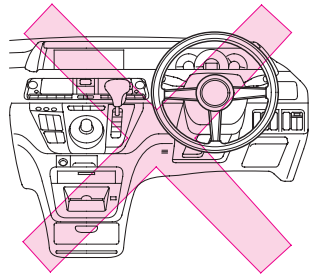
●**Honda純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を、使用しないでください。**
・適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故のもとになったりすることがあります。
・Hondaが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。

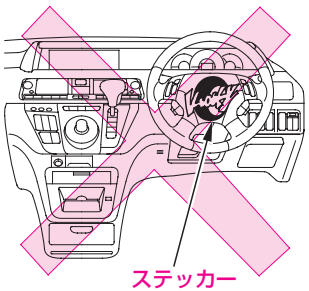
●**ホイールは、ELYSION専用品をご使用ください。**
専用品以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすことがあります。
Honda販売店にご相談ください。

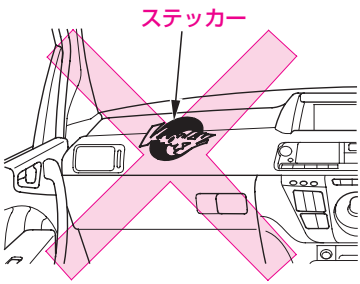
●**無線装置や自動車電話などの取り付けの際には、必ずHonda販売店にご相談ください。**
装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

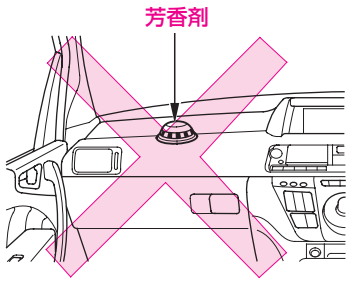
●**運転席および助手席に、SRSエアバッグシステムが装備されています。ハンドルを交換したり、パッドにステッカー類を貼ったりしないでください。**
インストルメントパネル上面には、ステッカー類を貼ったり、アクセサリーや芳香剤など物を置かないでください。
また、フロントガラスにアクセサリーなどを取り付けたり、ルームミラーにワイドミラーを取り付けたりしないでください。

・SRSエアバッグが正常に機能しなくなります。
・作動時にこれらの物が飛ぶことがあり危険です。
・次の場合は、必ず、Honda販売店にご相談ください。
①ハンドルまわりの修理
②センターコンソール付近の修理
③カーステレオ等用品の取り付け
④ダッシュボード周辺の板金塗装および修理
⑤インストルメントパネルまわりの修理



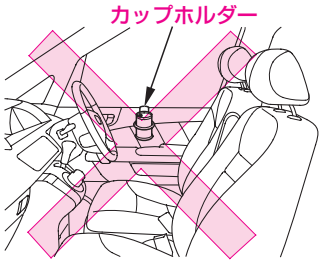


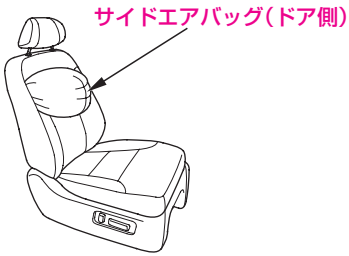




●**運転席および助手席用サイドエアバッグシステム装備車は、フロントドアやその周辺にカップホルダーなどの用品を取り付けたりしないでください。**
フロントシートとドアの間付近に傘などの物を置かないでください。
フロントシートにこの車専用のHonda純正用品(シートカバーなど)以外を取り付けないでください。また、新車時についているビニールのシートカバーは、必ず外してください。

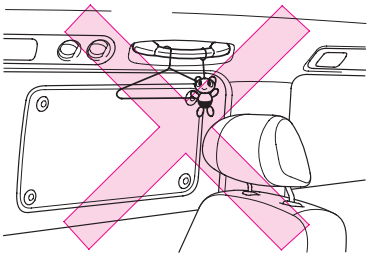
・サイドエアバッグが正常に機能しなくなります。
・作動時にこれらの物が飛ぶことがあり危険です。
・次の場合は、必ず、Honda販売店にご相談ください。
①フロントシートまわりの修理
②センターコンソール付近の修理
③カーステレオ等用品の取り付け
④センターピラーまわりの修理

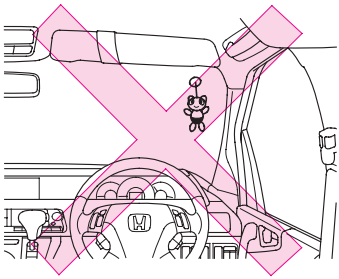


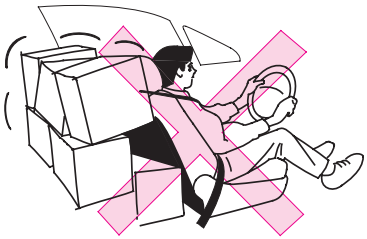


●**サイドカーテンエアバッグシステム装備車は、グラブレールにものをかけないでください。**
フロントガラス、ドアガラス、フロント、センター、クォーター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーなどを取り付けないでください。
また、カーゴスペースや座席に荷物を載せるときは、サイドウィンドー下端部の高さを越えないようにしてください。

・サイドカーテンエアバッグが正常に機能しなくなります。
・作動時にこれらの物が飛ぶことがあり危険です。
・次の場合は、必ず、Honda販売店にご相談ください。
①フロント、センター、クォーター、リヤの各ピラーまわりの修理
②ルーフサイドまわりの修理
③センターコンソール付近の修理
④カーステレオ等用品の取り付け



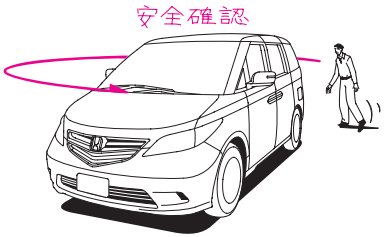




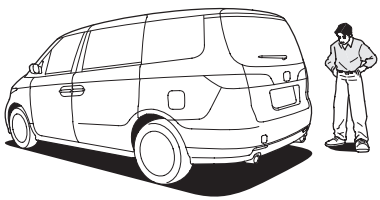
発進するときは、まわりの状況に十分注意して。

車のまわりには運転席から見えないところ(死角)があります。発進するときは子供や障害物など車のまわりの状況に十分注意してください。

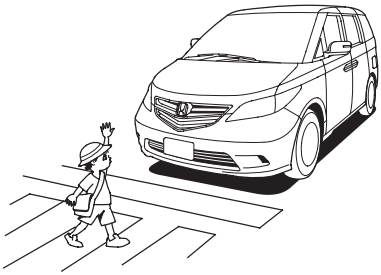
- 駐車後に発進するときは、車のまわりの安全確認を十分に行ってください。



- 後退するときに十分な視界が得られない場合は、車から降りて後方を確認してください。
  バックミラーでは確認しきれない死角(車の直後など)があります。



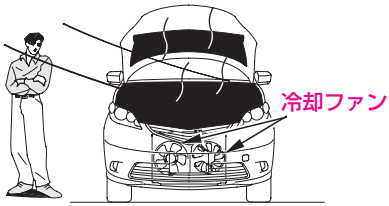
- 信号待ちなどの停車後に発進するときは、つねにまわりの状況に目を配り、安全確認を十分に行ってください。



VZ、VX、VG

エンジンルーム内を点検するときは、冷却ファンが止まってから。

- エンジンの温度が高い状態でエンジンを停止したとき、冷却ファンが自動的に作動することがあります。エンジンルーム内を点検する場合は、ファンが止まってから行ってください。



1

車を運転する前に

●各部の開閉

キー……38
ドアの施錠・解錠……43
フロントドア……45
パワースライドドア……47
スライドドア……56
イージードアクローザー……60
パワーテールゲート……61
テールゲート……70
キーレスエントリー……73
ボンネット……77
燃料補給口……79
パワーウィンドー……82
後席ウィンドー……87
サンルーフ……88

●シートの調節

正しい運転姿勢……92
シートアレンジ
インデックス……94
フロントパワーシート
（運転席のみ）……96
フロントマニュアルシート……99
セカンドシート……102
サードシート……110
フラットシート（フロント・
セカンドシート、セカンド・
サードシート）……115
カーゴスペースの作りかた…119

●ハンドル・バックミラーの調節

チルトステアリング……120
ルームミラー……120
ドアミラー……121

●シートベルト

シートベルト……124
着用のしかた……132

●チャイルドシート固定装置

チャイルドシート固定機構
付きシートベルト
（セカンドシート外側2座席、
サードシート外側
2座席）……136
ISO FIXテザータイプ
チャイルドシート
固定装置（セカンドシート
外側2座席）……139

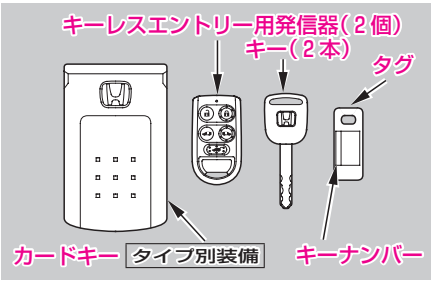
各部の開閉

キー

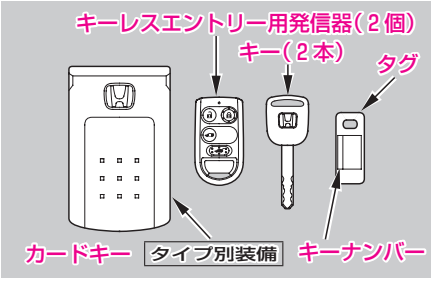
この車には、以下のキーが付いています。全てのキーには、イモビライザー機能（車両盗難防止装置）が付いてます。

イモビライザーシステム　→41ページ

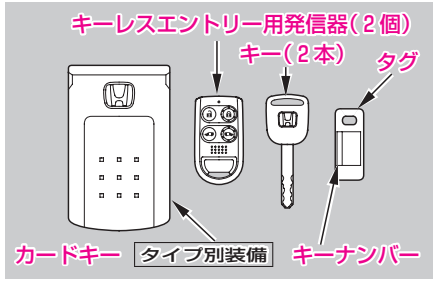
パワーテールゲート、両側パワースライドドア装備車



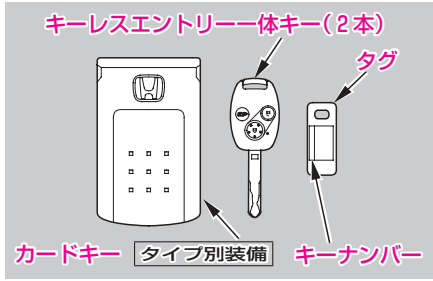
パワーテールゲート、助手席側パワースライドドア装備車



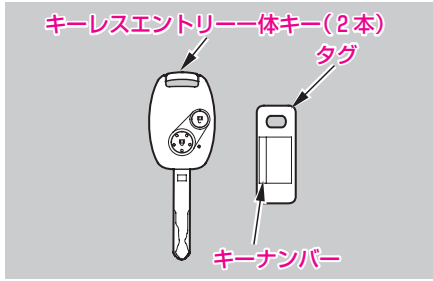
両側パワースライドドア装備車



助手席側パワースライドドア装備車



パワースライドドア非装備車



● キー（イモビライザー機能付き）

タイプ別装備

キーはエンジンの始動、停止のほかに、すべてのドアとテールゲートの施錠・解錠に使えます。

●キーレスエントリー一体キー（イモビライザー機能付き）

タイプ別装備

キーレスエントリー用発信器がついています。キーはエンジンの始動、停止のほかに、すべてのドアとテールゲートの施錠・解錠に使えます。

パワースライドドア装備車

キーレスエントリー用発信器はすべてのドアとテールゲートの施錠・解錠、パワースライドドアの開閉が発信器のボタンで行えます。

キーレスエントリー　→73ページ

パワースライドドア非装備車

キーレスエントリー用発信器はすべてのドアとテールゲートの施錠・解錠が発信器のボタンで行えます。

●キーレスエントリー用発信器

タイプ別装備

パワーテールゲート装備車

キーレスエントリー用発信器はすべてのドアとテールゲートの施錠・解錠、パワースライドドアとパワーテールゲートの開閉が発信器のボタンで行えます。

キーレスエントリー　→73ページ

パワーテールゲート非装備車

キーレスエントリー用発信器はすべてのドアとテールゲートの施錠・解錠、パワースライドドアの開閉が発信器のボタンで行えます。

キーレスエントリー　→73ページ

●カードキー（イモビライザー機能付き）

タイプ別装備

カードキーを携帯すると、すべてのドアとテールゲートの施錠・解錠およびエンジンの始動がキーを使わずにできます。

Hondaスマートカードキーシステム
→222ページ

知 識

- キーには信号を発信するための精密な電子部品が組み込まれています。
  電子部品の故障を防ぐため、次のことをお守りください。
  - 直射日光が当たるところやインストルメントパネルの上など、高温、多湿になるところに置かないでください。
  - 衝撃を与えないでください。
  - 水にぬらさないでください。
  - 分解しないでください。
  - 火であぶったりしないでください。

  電子部品が故障すると、イモビライザーシステムがキーの信号を正しく受信できないためエンジンの始動ができなくなります。
  エンジンの始動ができないときは、Honda販売店にご連絡ください。
- タグにはキーナンバーが表示してあります。紛失しないように、キーとは別に車両以外の場所に大切に保管してください。キーを紛失したときは、キーナンバーをHonda販売店へご連絡ください。
  キーを紛失したときは、盗難などを防ぐため、Honda販売店にご相談ください。
  キーレスエントリー用発信器を紛失したときは、Honda販売店へご連絡ください。
- キーを追加するときは、Honda販売店にご相談ください。
  キーは 6 本まで(但しキーレスエントリー一体キーは 3 本まで)、カードキーは 6 枚まで登録できます。

●イモビライザーシステム

イモビライザーシステムはお車を盗難から守るための装置です。
キーに信号を発信する電子部品があり、あらかじめ登録されたキーでないとエンジンの始動ができないようにしたシステムです。
イモビライザーシステムは、車両とキーとの電子照合を行うとき、微弱な電波を使用しています。
次のような場合、正常に作動しないことがあります。

- 近くに強い電波を発する設備があるとき
- キーグリップ部が金属物に触れたり覆われているとき

▼

キーでエンジンを始動するときは、登録されたキーをエンジンスイッチに差し込んでください。
Hondaスマートカードキーシステム装備車で、カードキーを使ってエンジンを始動するときは、エンジンスイッチノブを押し込んでください。
エンジンスイッチを“II”にすると、イモビライザーシステム表示灯が数秒間点灯してから消灯し、エンジンの始動ができるようになります。

表示灯が点滅したときは、システムが登録されたキーの信号を認識していないので、エンジンを始動することはできません。

- キーを使っているときは、エンジンスイッチを“0”へ回しキーを抜いてから、もう一度エンジンスイッチに差し込み“II”にしてください。
- Hondaスマートカードキーシステム装備車で、カードキーを使っているときは、エンジンスイッチノブを“0”（プッシュオフ）にしてから、もう一度エンジンスイッチを押し込んで、エンジンスイッチを“II”にしてください。

エンジンスイッチを次のようにしたときにも、イモビライザーシステム表示灯が数回点滅します。

- キーを使ってエンジンスイッチを“II”から“I”または“0”にしたとき
- Hondaスマートカードキーシステム装備車で、カードキーを使ってエンジンスイッチノブを“0”（プッシュオフ）にしたとき

イモビライザーシステム表示灯

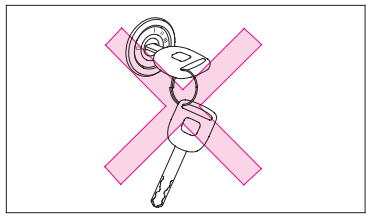
→164ページ

アドバイス

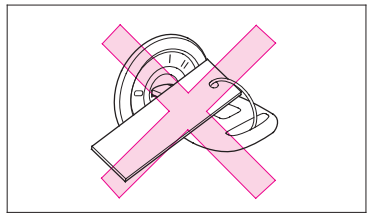
- システムを改造したりしないでください。
  エンジンシステムが故障するおそれがあります。
- エンジンスイッチを“II”にしても表示灯が点灯しないときや、頻繁に表示灯の点滅を繰り返す場合は、システムの異常が考えられますので、Honda販売店で点検を受けてください。

知 識

- エンジンスイッチとキーの部分に、別のイモビライザーシステム用のキーや金属物を近づけたり接触させたりすると、登録されたキーの信号をシステムが認識できなくなりエンジンの始動ができないことがあります。
  - 他のイモビライザーシステム用のキーを取り付けないでください。



  - 金属製のキーホルダーを使わないでください。



ドアの施錠・解錠

⚠注意

- 走行する前にすべてのドアが完全に閉まっていることを確認してください。完全に閉まっていないと、走行中にドアが開き思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

知 識

- ドアは不用意に開けると後続車などがぶつかることがあるので周囲の安全を確かめてから開けてください。
- 強風時にドアを開閉するときは、風にあおられないよう注意してください。
- 車から離れるときは、エンジンを止めドアを必ず施錠してください。また、車内の見えるところに、貴重品などを置かないようにしましょう。
- 運転席ドアの解錠・施錠に連動して、室内灯が点灯・消灯します。

室内灯　→365ページ

- **Hondaスマートカードキーシステム装備車**

  カードキーを使ってドアを施錠・解錠するとき

→230ページ

●オートドアロック

車速連動

車速が約15km/h以上になると、すべてのドアとテールゲートが自動的に施錠されます。

知 識

- オートドアロックの作動条件を、セレクトレバー連動に設定したり、その機能を解除することができます。
（工場出荷時は、車速連動に設定されています。）

カスタマイズ機能　→386ページ

●オートドアアンロック

セレクトレバー連動

セレクトレバーを[P]に入れたときに、すべてのドアとテールゲートが自動的に解錠されます。

知 識

- オートドアアンロックの作動条件を、エンジンスイッチ連動に設定したり、その機能を解除することができます。
（工場出荷時は、セレクトレバー連動に設定されています。）

カスタマイズ機能　→386ページ

●衝撃感知ドアロック解除システム

車両に衝撃が加わったときに、自動的にすべてのドアとテールゲートを解錠します。

作動するとき

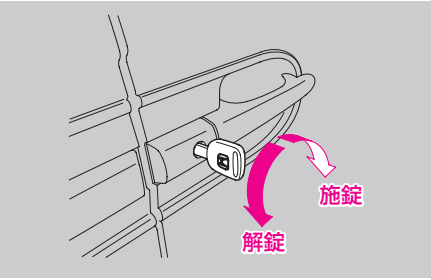
正面からの衝撃では、SRSエアバッグが作動したときに解錠します。
サイドエアバッグシステム装備車は、側面からの衝撃でサイドエアバッグが作動したときにも解錠します。
エアバッグが作動しない後面からの衝撃では、衝撃が大きいと解錠します。
安全性を考慮して、衝撃が加わってから約10秒後に解錠します。

フロントドア

●施錠・解錠

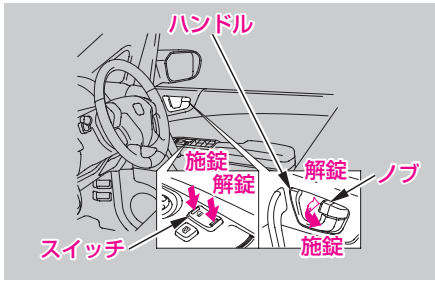
車外から行う場合

キーを確実に差し込んで回します。
運転席ドアを施錠(解錠)すると、他のすべてのドアとテールゲートも同時に施錠(解錠)します。



車内から行う場合

スイッチまたはノブを矢印の方向に動かします。
運転席ドア部のスイッチを操作すればすべてのドアとテールゲートの施錠(解錠)ができ、ノブの操作では施錠のみ連動します。パワーテールゲートは、ノブの操作で解錠も連動します。



運転席ドアは内側のハンドルを引くと施錠していても開けることができます。

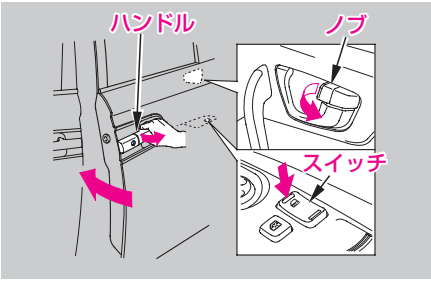
キーを使わないで施錠する場合

知 識

- キー閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してから施錠しましょう。

・運転席ドア

①ドアのハンドルを引いたままノブかスイッチを施錠の方向に動かします。



②ドアを閉めます。

運転席ドアを施錠すると、他のすべてのドアとテールゲートも同時に施錠されます。

・キー閉じ込み防止装置(運転席のみ)

キーがエンジンスイッチに差し込まれたままだと施錠できません。

Hondaスマートカードキー装備車は、カードキーが車内の作動範囲内に置いてあると、施錠できません。

Hondaスマートカードキーシステム
→222ページ

・助手席ドア

ノブを施錠の方向に動かしてドアを閉めます。

キーレスエントリーで施錠・解錠を行う場合

キーレスエントリー用発信器を使ってすべてのドアとテールゲートの施錠・解錠ができます。

キーレスエントリー →73ページ

パワースライドドア

助手席側：タイプ別装備
運転席側：タイプ別注文装備

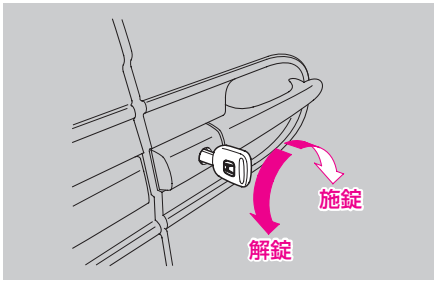
●施錠・解錠

知 識

- キー閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してから施錠しましょう。
- 運転席ドアを施錠したあとにパワースライドドアを閉めると、施錠されてパワースライドドアが開かなくなります。

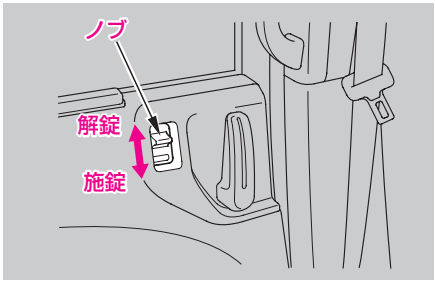
車外から行う場合

運転席ドアにキーを確実に差し込んで矢印の方向に回します。



車内から行う場合

ノブを矢印の方向に動かします。



キーを使わないで施錠する場合

ノブを施錠の方向に動かしてドアを閉めると、施錠できます。

運転席ドアを施錠すると、他のすべてのドアとテールゲートも同時に施錠されます。

キーレスエントリーで施錠・解錠を行う場合

キーレスエントリー用発信器を使ってパワースライドドアの施錠・解錠ができます。

キーレスエントリー　→73ページ

●開閉

⚠警告

●パワースライドドアを開閉するときは、ドア付近に障害物がないことを確認してください。
また、ドアが動いているときは触ったり、近づいたりしないでください。
ドアにはさまれて重大な傷害を受けるおそれがあります。
特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

●後輪タイヤを交換するときは、メインスイッチを“OFF”にしてください。
“ON”のままだと、誤ってスイッチに触れたりしてドアが開き、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

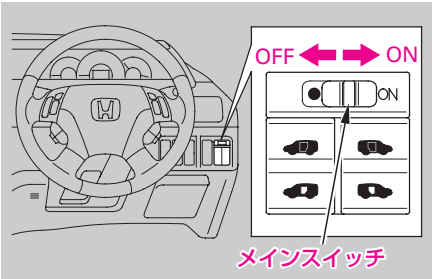
●車両が完全に停止した状態でパワースライドドアを開閉してください。また、乗り降りのときも車両が動き出さないように、確実にブレーキをかけてください。
パワースライドドアの開閉中や乗り降りのときに車両が動き出すと、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

⚠注意

●パワースライドドアを開閉するときは手、足、顔などをはさまないように注意してください。
特にお子さまには気をつけてください。
・手、足、顔を出さないでください。
・ドアのアームやレールなどには、手、足をかけないでください。
・傾斜地ではスライドドアを開けたままにしないでください。ドアが不意に閉まり思わぬ事故につながるおそれがあります。
・手動で開閉するときは、ドアハンドルをしっかり持って開閉してください。ドア本体を持ったり、車体側に手をかけないでください。

パワースライドドアは、自動開閉と手動開閉に切り換えることができます。

自動で開閉するとき
…メインスイッチを“ON”にします。
手動で開閉するとき
…メインスイッチを“OFF”にします。



手動で開閉するときは、スライドドアについても合わせてご覧ください。

スライドドア　→56ページ

知 識

- 通常はメインスイッチを“ON”（自動開閉）で使います。
  後輪タイヤを交換するときなどは、メインスイッチを“OFF”（手動開閉）にします。
- メインスイッチを“OFF”にしているときでもイージードアクローザーは作動します。

イージードアクローザー
→60ページ

知 識

- パワースライドドアの開閉はお子さまではなく大人が操作するようにしてください。
- 小さなお子さまが同乗しているときは、お子さまが誤って操作しないよう、チャイルドプルーフのツマミを“施錠”の位置にしておきましょう。
  “施錠”の位置にしておくと、ドア内側のハンドルで開けることができません。
  その場合でも、ドア外側ハンドル、運転席スイッチ、キーレスエントリー用発信器で開閉できます。

チャイルドプルーフ　→56ページ

- パワースライドドアを開けるときは、ウィンドーを閉めてから必ずいっぱいに開けて、ストッパーで固定させ、ドアの自重で閉まらないようにしてください。
- パワースライドドアのポケットにはみ出すものを入れないでください。開閉の妨げになるだけでなく、車体に傷をつけるおそれがあります。

パワースライドドアの自動開閉は、次の条件が揃ったときに行えます。

- メインスイッチが“ON”のとき
- ノブが“解錠”になっているとき
- フューエルリッドが閉じているとき（助手席側のみ）
- エンジンスイッチを“II”にしているときは、セレクトレバーがPのとき、またはP以外でもブレーキペダルを踏むか、パーキングブレーキがかかっているとき
- エンジンスイッチにキーが差し込まれていないとき（キーレスエントリー用発信器操作時のみ）
- カードキー（タイプ別装備）を使用しているときは、エンジンスイッチが“0”のとき（キーレスエントリー用発信器操作時のみ）

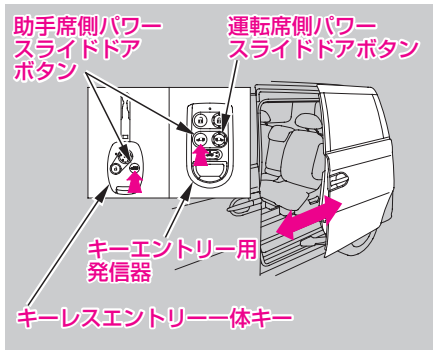
キーレスエントリーで行う場合

パワースライドドアの開閉が、ドアハンドルを使わずにできます。

▼

発信器のパワースライドドアボタンを約1秒続けて押すと、パワースライドドアが開き（閉まり）ます。もう一度押し続けると、閉まり（開き）ます。

運転席側のドアを開閉するときは運転席側パワースライドドアボタンを、助手席側のドアを開閉するときは助手席側パワースライドドアボタンを押します。



知 識

- パワースライドドアを開閉中に動いているドア側の発信器のパワースライドドアボタンを押すと、ピーピーピーという音が鳴り、ドアは途中で止まります。もう一度押すと反対方向に動きます。

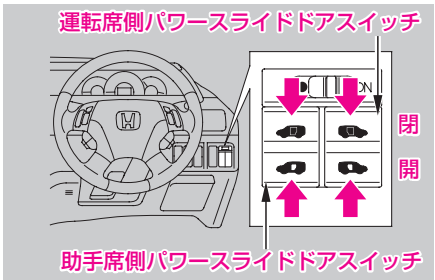
運転席スイッチで行う場合

助手席側のドアを操作するときは助手席側のスイッチを押し、運転席側のドアを操作するときは運転席側のスイッチを押します。

“ ”、または“ ”を押すと、ドアは自動的に開閉します。

開けるとき…“ ”を押します。
閉めるとき…“ ”を押します。

・パワースライドドアスイッチ

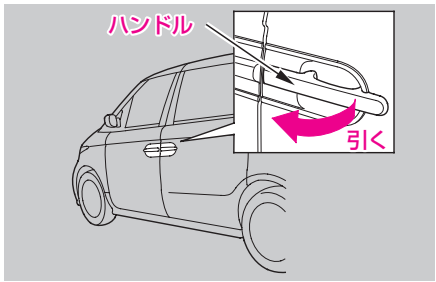


エンジンスイッチの位置に関係なく操作できます。

ドアのハンドルで行う場合

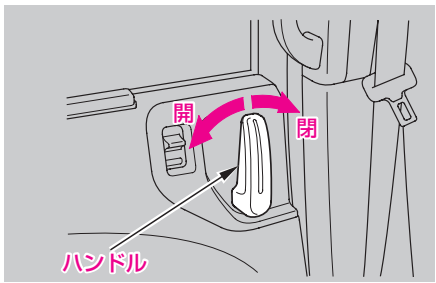
・外側のハンドル

外側のハンドルを引きます。
ドアは、自動的に開閉します。



・内側のハンドル

内側のハンドルを矢印の方向に動かします。
“開”の方向に動かすとドアは自動的に開き、“閉”の方向に動かすとドアは自動的に閉まります。



知 識

- パワースライドドアが“全開”のときは、ハンドルを“開”“閉”どちらに動かしても閉まります。

パワースライドドアを開閉中に途中で止めるには

万一のときなど、パワースライドドアの開閉を途中で止めることができます。
止めるときは、次のどちらかの操作を行ってください。
ピーピーピーという音が鳴り、ドアは途中で止まります。

- 動いているドア側のスイッチの“ ”か“ ”のどちらかを押します。
- 動いているドア側の内側のハンドルを“開”か“閉”のどちらかに動かします。
- 動いているドア側の外側のハンドルを引きます。
- 動いているドア側のキーレスエントリー用発信器のボタンを押します。

開閉途中でメインスイッチを“OFF”にして止めないでください。
“OFF”にすると手動開閉に切り換わり、坂道などでドアが自重で動く場合には落下防止機構が作動し、ドアが自重で動かないように保持され、ブザーが鳴り続けます。
落下防止機構が作動しているときは、再びメインスイッチを“ON”にしてドアを自動で閉めてください。落下防止機構が作動しているときにドアハンドルを操作したりメインスイッチを“ON”から“OFF”にすると、落下防止機構が解除され、ドアが自重で動くことがありますので注意してください。

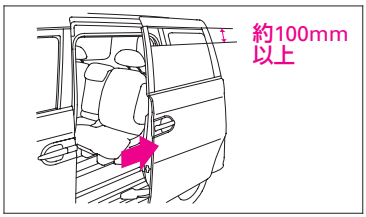
途中から動かすときは

次の操作を行います。

- 運転席スイッチで操作する場合、“ ”を押すと“開”方向へ、“ ”を押すと“閉”方向へ動きます。
- 内側のハンドルで操作する場合、開くときは“開”方向へ、閉めるときは“閉”方向へ動かします。
- 外側のハンドルで操作する場合、ハンドルを引くと“開”方向へ動きます。
- キーレスエントリー用発信器で操作する場合、ボタンを押すと、止める前に動いていた方向の反対方向に動きます。

知 識

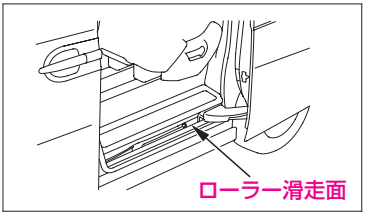
- パワースライドドアのウィンドーが約100mm以上開いているときは、中間ストッパーが作動してパワースライドドアは途中までしか開きません。



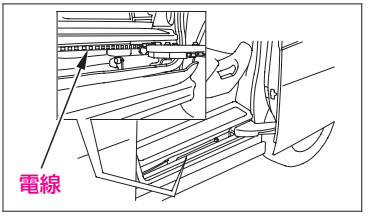
- フューエルリッド(燃料補給口)が開いているときに助手席側パワースライドドアの操作を行うと、ピーピーピーという音が鳴り作動しません。フューエルリッドを閉めてから操作してください。
- 助手席側パワースライドドアは、フューエルリッドが開いているときは、手動で開けられますが、中間ストッパーが作動して、パワースライドドアは途中までしか開きません。
- 助手席側パワースライドドアが自動で作動しているときに、フューエルリッドを開くとピーピーピーという音が鳴り作動が停止します。フューエルリッドを閉めてから操作してください。
- エンジンスイッチが"II"でパワースライドドアを自動で開けているときに、セレクトレバーがP以外の位置でブレーキペダルから足を離したり、パーキングブレーキを解除すると、作動が途中で止まり、ピーという音が鳴り続けます。
  この場合は、セレクトレバーをPに戻すか、ブレーキペダルを踏むかまたはパーキングブレーキをかけてから、もう一度操作をしてください。
- エンジンスイッチが"II"でパワースライドドアを自動で閉めているときに、セレクトレバーがP以外の位置でブレーキペダルから足を離したり、パーキングブレーキを解除すると、ピーピーピーという音は鳴り続けますが、そのまま閉まります。
- エンジンスイッチが"II"のときにセレクトレバーがP以外の位置でブレーキペダルから足を離したり、パーキングブレーキを解除したときに、内側または外側ドアのハンドルでパワースライドドアを開けようとしても、ピーという音が鳴り、ドアは少し開きますが、自動作動はしません。
  セレクトレバーをPに戻すか、ブレーキペダルを踏むかまたはパーキングブレーキをかけてから開けてください。

知 識

- パワースライドドアが“施錠”されている状態で開けようとしても、ピーピーピーという音が鳴りドアは開きません（ドアハンドルの操作では音は鳴りません）。“解錠”してから行ってください。
- 坂道でエンジンを停止した状態で、パワースライドドアを途中停止させたまま約30分以上経過すると、バッテリーの消耗を防ぐために、ブザーを鳴らしながらドアが自動的にゆっくりと傾斜方向に開き（閉まり）ます。
- 急な坂道で止まっているときは、パワースライドドアが開閉できないことがあります。
- パワースライドドアのローラー滑走面に石などの異物があると、作動不良になる場合があります。異物を取り除く場合は、水平な場所で必ずメインスイッチを“OFF”にして行ってください。



- ローラー滑走面の奥にある電線が傷つくと、作動不良の原因になりますので注意してください。



●はさみ込み防止機構

パワースライドドアを自動で閉じているときにドアが障害物を検知すると、はさみ込み防止機構が作動して、ドアが反対方向に動きます。
この時ピーピーピーという音が鳴ります。

⚠警告

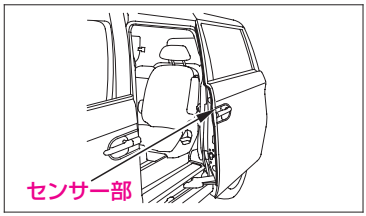
- はさみ込み防止機構は、万一のときに、障害物を検知して、ドアにはさまれてしまうことを防ぐためのものです。
  ドアを閉める前には、ドア付近に障害物がないことを必ず確認してください。
  ドアにはさまれて重大な傷害を受けるおそれがあります。
  特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

- パワースライドドアを確実に閉めるため、閉めきる直前の部分では、はさみ込みを検知できない領域があります。指などをはさまないように注意してください。

知 識

- パワースライドドアを開けた状態で、バッテリーやヒューズを交換した場合は、パワースライドドアが自動的に閉まらなくなります。
  その場合は、一度手動で完全に閉じてください。
  その後、パワースライドドアの開閉を確認します。パワースライドドアの操作ができない場合やパワースライドドア警告灯が点灯している場合は、Honda販売店にご相談ください。
- パワースライドドア前端のセンサーに触れていると閉まりません。
  また、前端のセンサーを鋭利な物などで傷つけないでください。
  センサーが切断されると、電動で開閉することができなくなります。

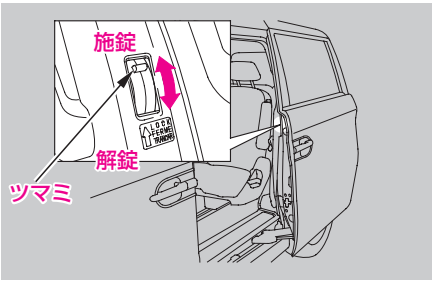


●チャイルドプルーフ

ノブの位置に関係なく、パワースライドドアが完全に閉まっていると、ドア内側のハンドルで開かなくなります。お子さまを乗せるときなどにお使いください。

▼

ツマミを施錠の位置にしてドアを閉めます。



パワースライドドアを開ける場合は、ドア外側のハンドルで開けます。

知 識

- 運転席スイッチ、キーレスエントリー用発信器でも開閉できます。
→50、51ページ

スライドドア

タイプ別装備

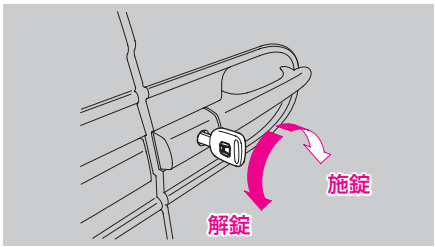
●施錠・解錠

知 識

- キー閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してから施錠しましょう。
- 運転席ドアを施錠したあとにスライドドアを閉めると、施錠されてスライドドアが開かなくなります。

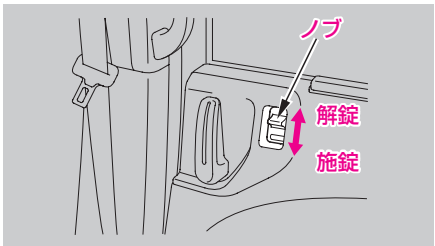
車外から行う場合

運転席ドアにキーを確実に差し込んで矢印の方向に回します。



車内から行う場合

ノブを矢印の方向に動かします。



キーを使わないで施錠する場合

ノブを施錠の方向に動かしてドアを閉めると施錠できます。

運転席ドアを施錠すると、他のすべてのドアとテールゲートも同時に施錠されます。

キーレスエントリーで施錠・解錠を行う場合

キーレスエントリー用発信器を使ってスライドドアの施錠・解錠ができます。

キーレスエントリー　→73ページ

●開閉

⚠注意

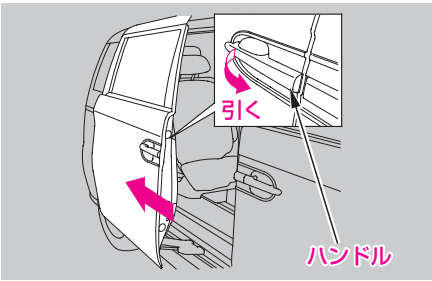
- スライドドアを開閉するときは手、足、顔などをはさまないように注意してください。
  - ・ドアハンドルをしっかり持って開閉してください。ドア本体を持って閉めたり、車体側に手をかけないでください。
  - ・手、足、顔を出さないでください。
  - ・スライドドア後方の安全を十分確認してください。
  - ・ドアのアームやレールなどには、手、足をかけないでください。
  - ・傾斜地ではスライドドアを開けたままにしないでください。ドアが不意に閉まるおそれがあります。

知 識

- スライドドアの開閉はお子さまではなく大人が操作するようにしてください。
- スライドドアを開けるときは、ウィンドーを閉めてから必ずいっぱいに開けて、ストッパーで固定させ、ドアの自重で閉まらないようにしてください。
- スライドドアのポケットにはみ出すものを入れないでください。開閉の妨げになるだけでなく、車体に傷をつけるおそれがあります。

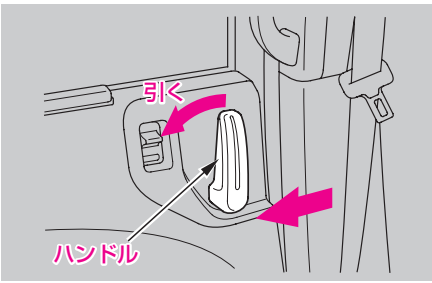
車外から開ける場合

ドアハンドルを持ってドアを後方へスライドさせます。全開にするとドアがストッパーで固定されます。



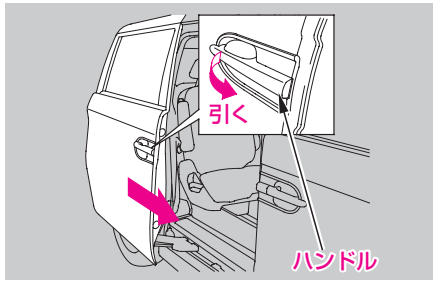
車内から開ける場合

内側のハンドルを持ち後方へスライドさせます。全開にするとドアがストッパーで固定されます。



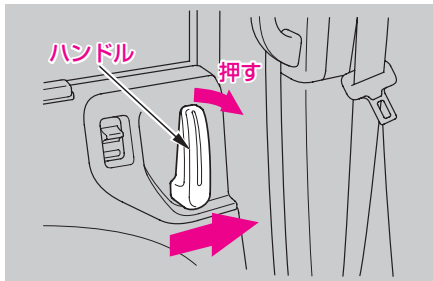
車外から閉める場合

全開にされたスライドドアを閉めるときは、ドアハンドルを引いてストッパーを解除してから閉めてください。



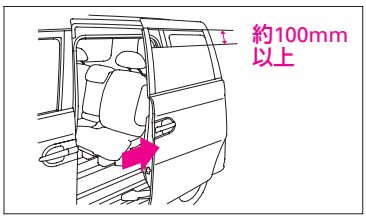
車内から閉める場合

内側のハンドルを持ち前方へ押して閉めます。



知 識

- フューエルリッド(燃料補給口)が開いていると、中間ストッパーが作動して、助手席側のスライドドアは途中までしか開きません。フューエルリッドを閉めてスライドドアを少し閉めてから開けてください。
- スライドドアのウィンドーが約100mm以上開いているときは、中間ストッパーが作動して、スライドドアは途中までしか開きません。

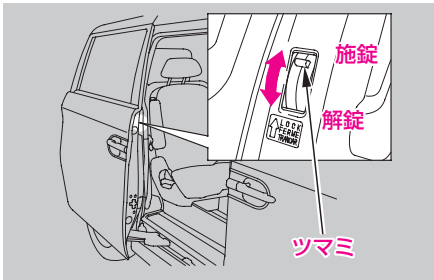


●チャイルドプルーフ

ノブの位置に関係なく、スライドドアが車内から開かなくなります。お子さまを乗せるときなどにお使いください。

▼

ツマミを施錠の位置にしてスライドドアを閉めます。



ドアを開く場合は、外側のドアハンドルで開けます。

イージードアクローザー

スライドドアを半ドアの位置まで閉めると、自動的に閉まります。

⚠注意

- 半ドアの状態からドアが自動的に閉まるため、手などをはさまないように注意してください。

アドバイス

- イージードアクローザーが作動しているときは、無理な力をかけないでください。故障の原因となります。

知 識

- イージードアクローザー作動中にスライドドアのハンドルを引くと作動が止まり、半ドアのままになります。また、ハンドルを引いたままドアを閉めると、イージードアクローザーは作動しません。
- **パワースライドドア装備車**
  イージードアクローザーは、パワースライドドアのメインスイッチの位置に関係なく作動します。
  ただし、メインスイッチが“ON”のときにフューエルリッドを開けると、イージードアクローザーは作動しません。

メインスイッチ　→49ページ

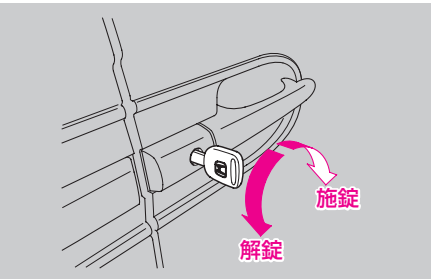
パワーテールゲート

タイプ別注文装備

●施錠・解錠

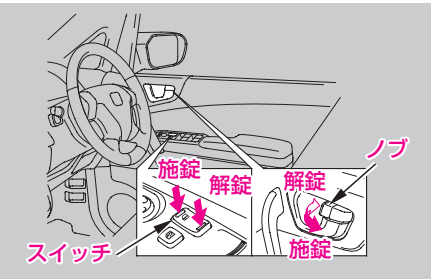
車外から行う場合

キーを確実に差し込んで回します。
運転席ドアを施錠(解錠)すると、他のすべてのドアとパワーテールゲートも同時に施錠(解錠)します。



車内から行う場合

運転席ドア部のスイッチを操作すればすべてのドアとパワーテールゲートの施錠(解錠)ができます。
ノブの操作ではパワーテールゲートのみ施錠(解錠)ができ、その他のドアは施錠のみ連動します。



キーレスエントリーで施錠・解錠を行う場合

キーレスエントリー用発信器を使ってパワーテールゲートの施錠・解錠ができます。

キーレスエントリー　→73ページ

知 識

- **Hondaスマートカードキーシステム装備車**
  カードキーを使ってパワーテールゲートを施錠・解錠するとき
  →230ページ

●開閉

⚠注意

- パワーテールゲートを開閉をするときは、周囲の安全と車の上方や後方に十分なスペースがあることを確認し、頭をぶつけたり、手などをはさんだり、他のものにぶつからないように注意してください。
- エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないでください。
  やけどなど思わぬけがをすることがあります。
- カーゴスペース内には人を乗せないでください。
  ブレーキや加速、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。

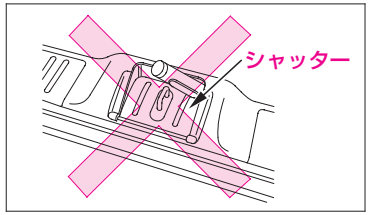
アドバイス

- パワーテールゲートが開かないとき

→461ページ

知 識

- パワーテールゲートを開けたまま走行しないでください。車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。
- 運転席ドアを施錠したあとにパワーテールゲートを閉めると、施錠されてパワーテールゲートが開かなくなります。
- テールゲートストライカー部のシャッター内に物が入らないように注意してください。
  入った物がとれなくなったり、パワーテールゲートが確実に閉まらなくなるおそれがあります。



自動開閉

キーレスエントリー用発信器及び運転席スイッチを使ってパワーテールゲートを自動で開閉することができます。
また、パワーテールゲートにあるクローズスイッチを押して自動で閉めることができます。

パワーテールゲートの自動開閉は、次の条件が揃ったときに行えます。

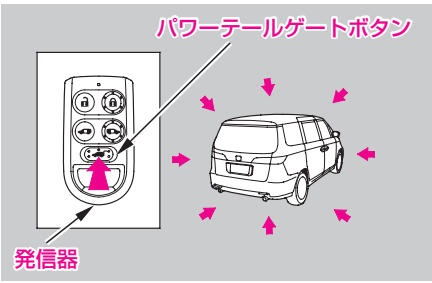
（開けるとき）
- パワーテールゲートが解錠されているとき
- パワーテールゲートが全閉のとき
- セレクトレバーがPのとき
- エンジンスイッチにキーが差し込まれていないとき（キーレスエントリー用発信器操作時のみ）
- カードキー（タイプ別装備）を使用しているときは、エンジンスイッチが“0”のとき（キーレスエントリー用発信器操作時のみ）

（閉めるとき）
キーレスエントリー用発信器で閉めるときは、
- パワーテールゲートが全開のとき
- エンジンスイッチにキーが差し込まれていないとき
- カードキー（タイプ別装備）を使用しているときは、エンジンスイッチが“0”のとき

クローズスイッチ及び運転席スイッチでは、いつでも閉めることができます。

・キーレスエントリーで行う場合

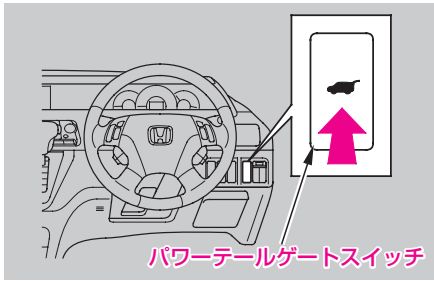
発信器のパワーテールゲートボタンを約1秒以上押すと、パワーテールゲートが開き(閉まり)ます。
このとき“ピー”とブザーが鳴り、非常点滅表示灯が4回点滅します。



開閉中にパワーテールゲートボタンを押すと“ピーピーピー”とブザーが鳴り、パワーテールゲートが反対側に動きます。

・運転席スイッチで行う場合

“ ”を約1秒以上押すと、パワーテールゲートが開き(閉まり)ます。
このとき、“ピー”とブザーが鳴り、非常点滅表示灯が4回点滅します。



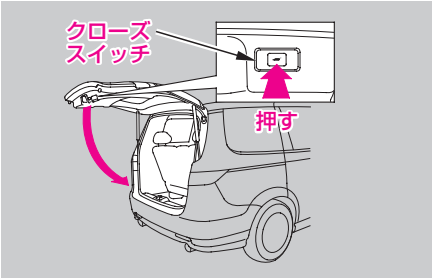
開閉中に“ ”を押すと“ピーピーピー”とブザーが鳴り、パワーテールゲートが反対側に動きます。

⚠注意

- パワーテールゲートを開閉をするときは、周囲の安全と車の上方や後方に十分なスペースがあることを確認し、頭をぶつけたり、手などをはさんだり、他のものとぶつからないようにしてください。特にお子さまには気をつけてください。

・クローズスイッチで行う場合

クローズスイッチを押すと、パワーテールゲートが閉まります。
このとき、“ピー”とブザーが鳴ります。



開閉中にクローズスイッチを押すと“ピーピーピー”とブザーが鳴り、パワーテールゲートが反対側に動きます。

⚠注意

- パワーテールゲートが自動開閉中にパワーテールゲートのハンドルを引くと、手動操作に切り換ります。このとき、パワーテールゲートの位置によっては急に開閉することがあるので注意してください。

知 識

- 開閉中に障害物を検知すると、はさみ込み防止機構が作動して、パワーテールゲートが反対側に動きます。
  はさみ込み防止機構　→68ページ
- パワーテールゲートが完全に閉まっていない状態で、エンジンスイッチを“II”にしてセレクトレバーを回以外の位置に切り換えるとブザーが鳴ります。

知 識

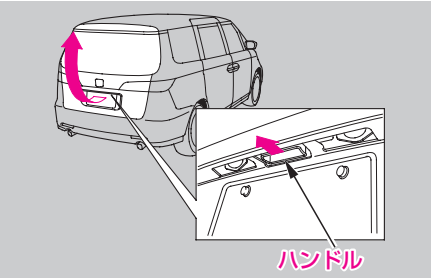
- 荷物の出し入れは、パワーテールゲートが完全に開ききったことを確認してから行ってください。
- 次のような場合、パワーテールゲートが確実に開閉しないことがあります。
  - ・開閉中にエンジンを始動したとき
  - ・傾斜している場所
  - ・風の強いとき
  - ・パワーテールゲートやルーフに雪が積もっているとき
    （開閉する前に雪を取り除いてください）
- パワーテールゲートが確実に閉まったことを確認してから走行してください。

知 識

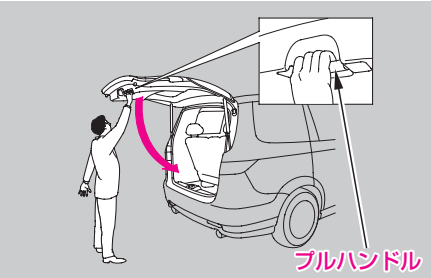
- パワーテールゲートにこの車専用（Honda純正品）以外のアクセサリーや字光式ナンバープレートを取り付けないでください。
  パワーテールゲートが確実に開閉しないことがあります。
- パワーテールゲートが開いている状態で、バッテリーやヒューズを交換した場合は、自動で閉まらなくなります。
  その場合は、手動でパワーテールゲートを閉めると機能が復帰します。

手動開閉

パワーテールゲートにあるハンドルを引き、静かに引き上げて開けます。



閉めるときはプルハンドルを利用してください。



知　識

- パワーテールゲートが完全に閉まっていない状態で、エンジンスイッチを“II”にしてセレクトレバーを[P]から他の位置に切り換えるとピーピーピーとブザーが鳴ります。
- 走行中は、ハンドルを引いてもパワーテールゲートを開くことはできません。

イージーテールゲートクローザー

手動でパワーテールゲートを半ドア状態の位置まで閉めると、自動的に閉まります。

⚠注意

- 半ドア状態の位置からパワーテールゲートが自動的に閉まるため、手などをはさまないように注意してください。

アドバイス

- イージーテールゲートクローザーが作動しているときは、無理な力をかけないでください。故障の原因となります。

知　識

- イージーテールゲートクローザー作動中にパワーテールゲートのハンドルを引くと作動が止まり、半ドア状態のままになります。また、ハンドルを引いたままパワーテールゲートを閉めると、イージーテールゲートクローザーは作動しません。

はさみ込み防止機構

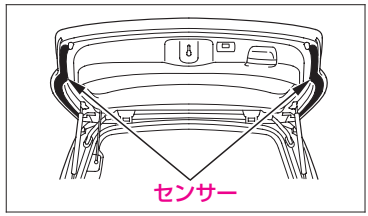
自動で開閉中に障害物を検知すると、はさみ込み防止機構が作動して、パワーテールゲートが反対側に動きます。
このとき、“ピーピーピー”とブザーが鳴ります。

⚠注意

- はさみ込み防止機構は、万一のときに障害物を検知して、パワーテールゲートにはさまれてしまうことやパワーテールゲートが損傷するのを防ぐためのものです。
  パワーテールゲートを開閉するときは、周囲の安全と車の上方や後方に十分なスペースがあることを確認し、頭をぶつけたり、手などをはさんだり、他のものとぶつからないようにしてください。
  特にお子さまには気をつけてください。
- パワーテールゲートを確実に閉めるため、閉めきる直前の部分では、はさみ込みを検知できない領域があります。また、センサーがある部分でもはさみ込みを検知できない領域があります。
  手などをはさまないように注意してください。

知 識

- パワーテールゲート両側にあるセンサーに触れていると閉まりません。
  また、センサーを鋭利な物などで傷つけないでください。
  センサーが切断されると、自動で閉めることができなくなります。



パワーテールゲート落下防止機構

パワーテールゲートを自動で開けたとき、パワーテールゲートにこの車専用以外のアクセサリーを取り付けていたり積雪などがあると、全開直後に自動で閉まることがあります。

積雪などの重みによるパワーテールゲートの落下を検知すると、落下防止機構が作動して自動で閉まります。

落下防止機構が作動しているときは、“ピー”という連続音のブザーが鳴り続けます。

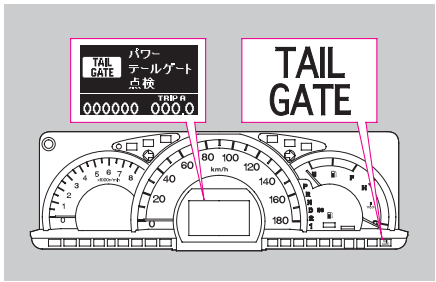
知 識

- パワーテールゲートにはこの車専用（Honda純正品）以外のアクセサリーを取り付けないでください。
- パワーテールゲートに積雪がある場合は、パワーテールゲートを作動させる前に雪を取り除いてください。
- パワーテールゲート落下防止機構が作動した場合は車から離れて、パワーテールゲートが全閉するまでお待ちください。
- 自動で全開した直後に、手動でパワーテールゲートを閉めようとすると落下防止機構が作動することがあります。
- 落下防止機構が作動し続ける場合はHonda販売店で点検を受けてください。

●パワーテールゲート警告灯

メーター内に組み込まれており、パワーテールゲートが異常のときに点灯します。IHCC装備車は、マルチインフォメーションディスプレイに“パワーテールゲート点検”が表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイ →158ページ



エンジンスイッチを“II”にしたときに数秒間点灯して消えるのが正常です。

アドバイス

- 警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
  - ・運転中に点灯したとき
  - ・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは数秒経過しても消灯しないとき
- 警告灯が点灯しているときは、パワーテールゲートの開閉は手動で行ってください。

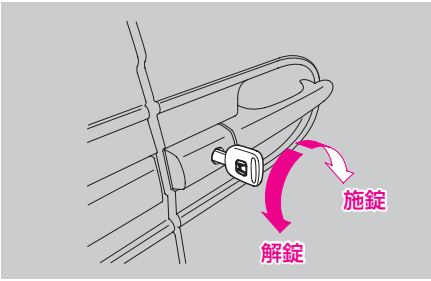
パワーテールゲートが開かないとき →461ページ

テールゲート

●施錠・解錠

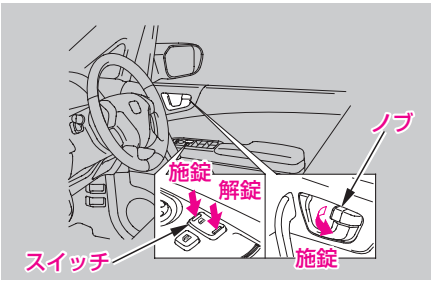
車外から行う場合

キーを確実に差し込んで回します。
運転席ドアを施錠(解錠)すると、他のすべてのドアとテールゲートも同時に施錠(解錠)します。



車内から行う場合

運転席ドア部のスイッチを操作すればすべてのドアとテールゲートの施錠(解錠)ができます。
ノブの操作では施錠のみ連動します。



キーレスエントリーで施錠・解錠を行う場合

キーレスエントリー用発信器を使ってテールゲートの施錠・解錠ができます。

キーレスエントリー　→73ページ

知 識

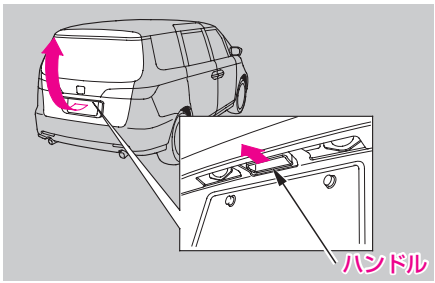
- **Hondaスマートカードキーシステム装備車**

  カードキーを使ってテールゲートを施錠・解錠するとき

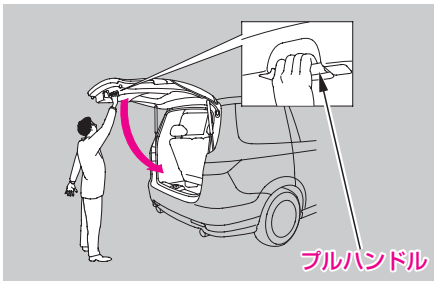
  →230ページ

●開閉

テールゲートを解錠してから、ハンドルを引き静かに引き上げて開けます。



閉めるときはプルハンドルを利用してください。



⚠注意

- テールゲートを閉めるときは頭をぶつけたり、手などをはさまないように注意してください。
- エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないでください。
  やけどなど思わぬけがをすることがあります。
- カーゴスペース内には人を乗せないでください。
  ブレーキや加速、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。

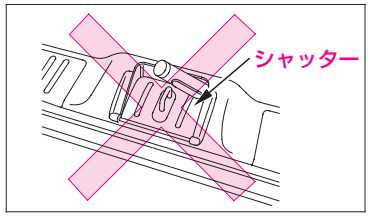
アドバイス

- テールゲートの解錠ができないとき

→462ページ

知 識

- テールゲートを開けたまま走行しないでください。車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。
- 運転席ドアを施錠したあとにテールゲートを閉めると、施錠されてテールゲートが開かなくなります。
- テールゲートストライカー部のシャッター内に物が入らないように注意してください。
  入った物がとれなくなったり、テールゲートが確実に閉まらなくなるおそれがあります。

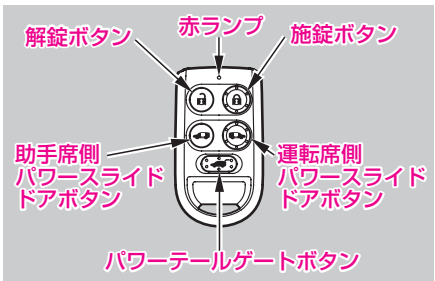


キーレスエントリー

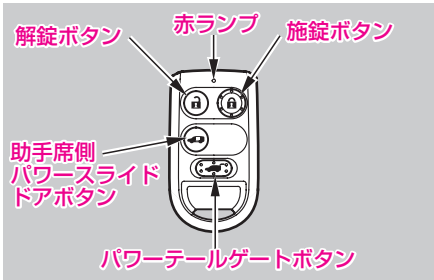
知 識

- 発信器には、精密な電子部品が組み込まれています。発信器の故障を防ぐため、次のことをお守りください。
  - ・直射日光が当たるところやインストルメントパネルの上など、高温になるところに置かないでください。
  - ・衝撃を与えないでください。
  - ・水にぬらさないでください。
- 微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が変化することがあります。

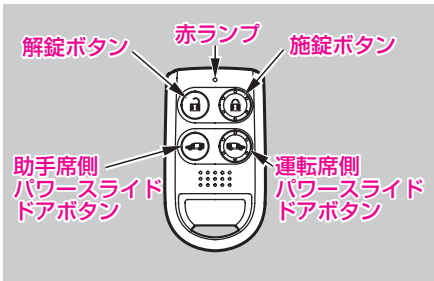
パワーテールゲート、
両側パワースライドドア装備車



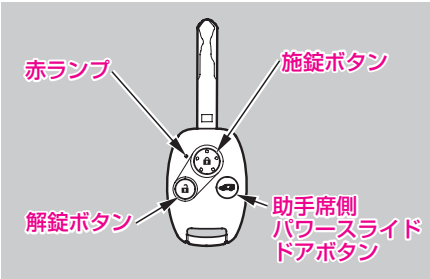
パワーテールゲート、
助手席側パワースライドドア装備車



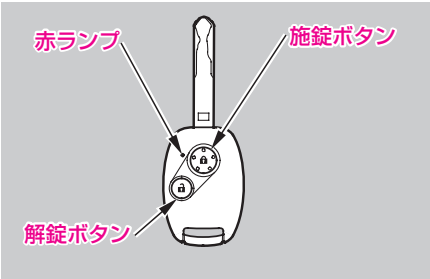
両側パワースライドドア装備車



助手席側パワースライドドア装備車



パワースライドドア非装備車



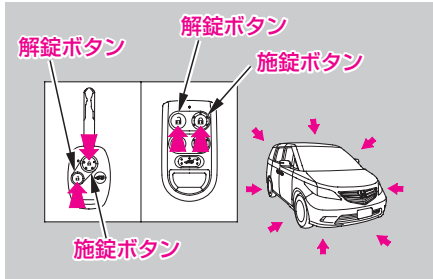
●施錠・解錠ボタン

すべてのドアとテールゲートの施錠・解錠が施錠・解錠ボタンでできます。

▼

発信器のボタンを押すとすべてのドアとテールゲートが施錠(解錠)され、もう一度押すと解錠(施錠)されます。

キーレスエントリーで施錠・解錠を行うと非常点滅表示灯が施錠時は1回、解錠時は2回点滅します。



知 識

- 施錠・解錠ボタンを使って、カスタマイズグループのスマートカードキー設定、ドア／ウィンドウ設定、ワイパー設定を一時的に工場出荷時の設定にすることができます。
  工場出荷時設定のしかた
  →408ページ
- **タイプ別装備**
  施錠・解錠ボタンを使ってパワーウィンドーの開閉をすることができます。
  パワーウィンドー　→83ページ

知 識

- キーレスエントリー用発信器で解錠してから約30秒以内にドア、テールゲートを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。
- 再度施錠されるまでの時間の設定を変更することができます。
  カスタマイズ機能　→386ページ
- エンジンスイッチにキーが差し込まれているときや、ドアまたはテールゲートが開いているときは、キーレスエントリーで施錠できません。
- 運転席ドアの解錠・施錠に連動して、室内灯が点灯・消灯します。
  室内灯　→365ページ
- 車を離れるときは、ドア、テールゲートが確実に施錠されていることを確認してください。

●パワースライドドアボタン

タイプ別装備

キーレスエントリー用発信器を使ってパワースライドドアを自動で開閉することができます。

→50ページ

●パワーテールゲートボタン

タイプ別注文装備

キーレスエントリー用発信器を使ってパワーテールゲートを自動で開閉することができます。

→63ページ

●電池交換

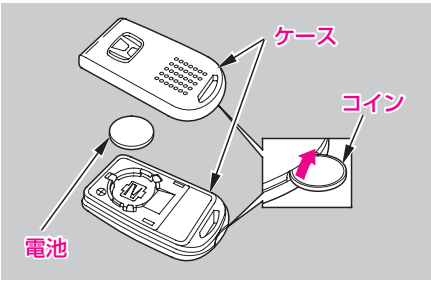
発信器のボタンを押しても作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられますので早めに電池を交換してください。ボタンを押したときに赤ランプが点灯しない場合は電池ぎれです。電池を交換してください。

キーレスエントリー用発信器

タイプ別装備

使用電池・・・・・・・・・ボタン電池CR2025

コインを使ってカバーを外し、電池を交換します。

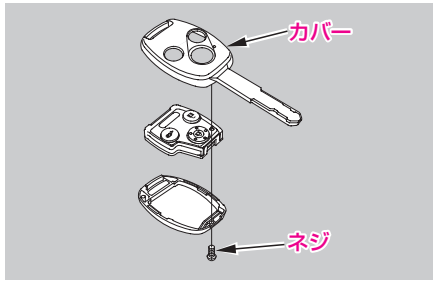


キーレスエントリー一体キー

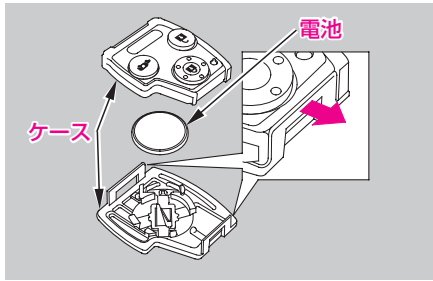
タイプ別装備

使用電池・・・・・・・・ボタン電池CR1616

①ネジを外してカバーを外します。



②ケースを外して、電池を交換します。



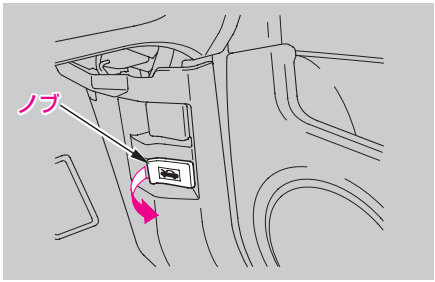
知 識

- 液漏れなどを防ぐため、電池の⊕極と⊖極は正しく取り付けてください。
- 電池はHonda販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

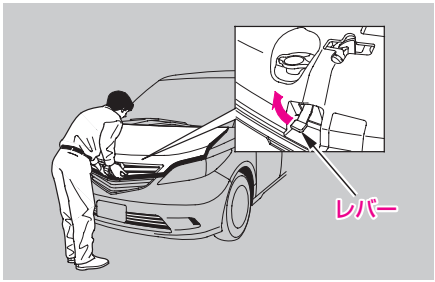
ボンネット

●開けかた

①運転席足元のノブを引きます。



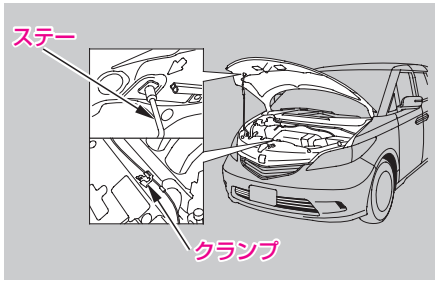
②ボンネット前部が少し浮き上がるので、レバーを押し上げながら開けます。



知　識

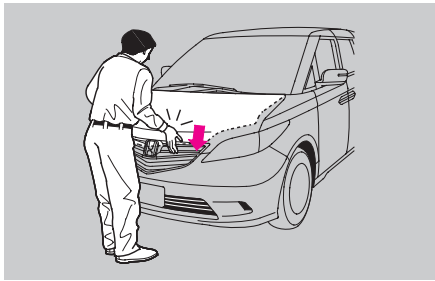
- ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けないでください。ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷します。

③必ずステーを確実にかけ、固定します。



●閉めかた

ステーを外し、クランプに納めます。
ボンネットを静かに下げ、手を離します。



ボンネットが完全に閉まっていることを確認します。

⚠注意

- ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意してください。

知 識

- ボンネットを開けているときに、風にあおられてステーが外れることがあります。特に風の強いときは、ご注意ください。
- ボンネットが完全に閉まっていないままで走行すると開くことがあります。走行前に必ず確認してください。

燃料補給口

燃料補給口は車の左側後方にあります。

指定燃料：

VZ、VX、VG	**無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）**
X、G、M	**無鉛レギュラーガソリン（無鉛ハイオクも使用可能）**

タンク容量：70ℓ

⚠警告

- 燃料補給時は火気厳禁です。
  燃料は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。
  - エンジンは必ず止めてください。
  - タバコなどの火気を近づけないでください。
- 燃料補給作業は静電気を除去してから行ってください。
  静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

アドバイス

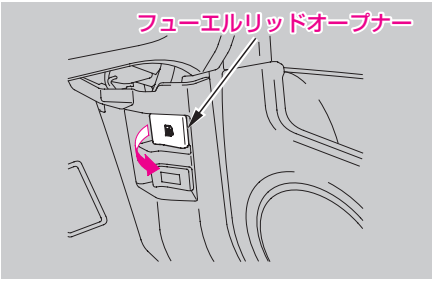
- 必ず無鉛ガソリンを補給してください。補給するときは、無鉛ガソリンであることを確認してください。
  - 有鉛ガソリンを補給すると、触媒装置などを損ないます。
  - 高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
  - 軽油や粗悪ガソリンを補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響を与えます。

知 識

- VZ、VX、VG
  無鉛プレミアムガソリンが入手できない場合には、無鉛レギュラーガソリンをお使いになることもできますが、この場合エンジン性能を十分に発揮できません。

●開けかた

①運転席足元にあるフューエルリッドオープナーを引いてリッドを開けます。

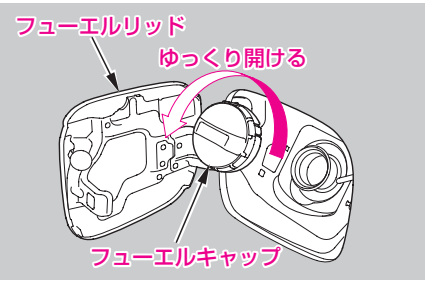


知 識

●フューエルリッドはスライドドアが閉まっていることを確認してから開けてください。
スライドドアが開いていると、フューエルリッドがドアにあたります。

②フューエルキャップを開ける前に、身体の静電気除去を行います。

③フューエルキャップをゆっくり回して開けます。



⚠注意

●キャップはゆっくり開けてください。
急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。

知 識

- 車体や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- 燃料補給作業は、静電気を放電した人のみで行ってください。
- 燃料補給中に車内にもどったりすると再び帯電することがあります。
- 燃料補給は自動停止後に追加補給しないでください。気温などの変化によりあふれることがあります。
- **パワースライドドア装備車**
  フューエルリッド(燃料補給口)が開いていると、助手席側のパワースライドドアの操作を行っても作動しません。フューエルリッドを閉めてから操作してください。
- フューエルリッドが開いていると、助手席側のパワースライドドアまたはスライドドアは、手動で途中までしか開きません。

●閉めかた

キャップを“カチッ”という音が2回以上するまで締め付けます。フューエルリッドは手で押さえつければ閉まります。

⚠注意

- キャップが確実に閉まっていることを確認してください。
  確実に閉まっていないと走行中に燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

パワーウィンドー

エンジンスイッチが“II”のとき、ウィンドーの開閉ができます。

▼

開閉は、それぞれのドアにあるスイッチで操作します。

・運転席スイッチは、助手席および後席ウィンドーも操作できます。

●ウィンドーの開閉

VZ、VX、VG、X

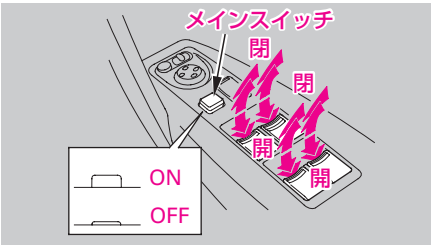
スイッチを軽く操作している間、作動します。

強く操作すると、自動で全開(全閉)します。

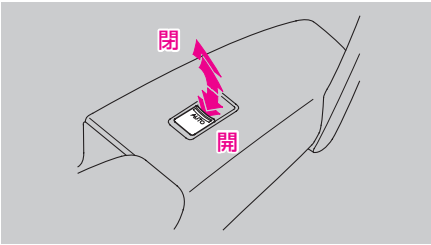
開けるとき･･･スイッチを押します。

閉めるとき･･･スイッチを引き上げます。

・運転席ドアスイッチ



・その他のドアスイッチ



自動開閉中にウィンドーを停止させるときは、スイッチを作動方向とは逆へ軽く操作します。

メインスイッチ

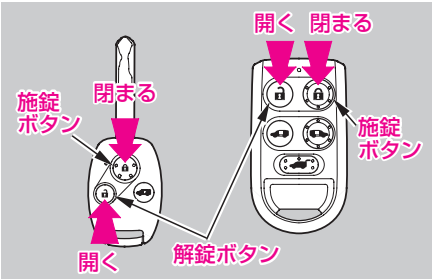
スイッチを押すごとに“ON”↔“OFF”が切り換わります。

ON ････すべてのウィンドーの操作ができます。

OFF････運転席以外のウィンドーは操作できません。

キーレスエントリー用発信器で開閉するとき

キーレスエントリー用発信器で施錠(解錠)後、約10秒以内に再度施錠(解錠)ボタンを押し続けると、押し続けている間すべてのドアのパワーウィンドーが閉まり(開き)ます。



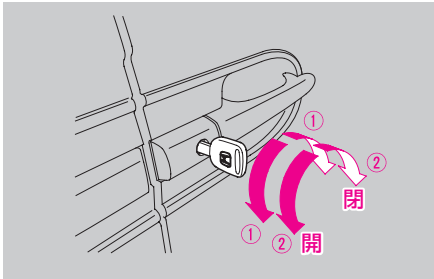
知 識

- 以下の条件のときは、キーレスエントリー用発信器を使ってパワーウィンドーの開閉は行えません。
  - ・エンジンスイッチにキーまたはキーレスエントリー一体キーが差し込まれているとき
  - ・カードキー(タイプ別装備)使用時、エンジンスイッチが“0”(プッシュオフ)以外のとき
  - ・ドアまたはテールゲートが開いているとき(閉めるときのみ)
- キーレスエントリー用発信器を使ったパワーウィンドーの開閉機能を解除することができます。

カスタマイズ機能　→386ページ

運転席ドアのキーシリンダーで開閉するとき

運転席ドアにキーを差し込み施錠(解錠)後、キーを戻してから約10秒以内に再度施錠(解錠)側いっぱいに回したままにしている間、すべてのドアのパワーウィンドーが閉まり(開き)ます。



知 識

- ドアまたはテールゲートが開いているときは、運転席ドアのキーシリンダーでパワーウィンドーを閉めることはできません。
- 運転席ドアのキーシリンダーでのパワーウィンドーの開閉機能を解除することができます。

カスタマイズ機能　→386ページ

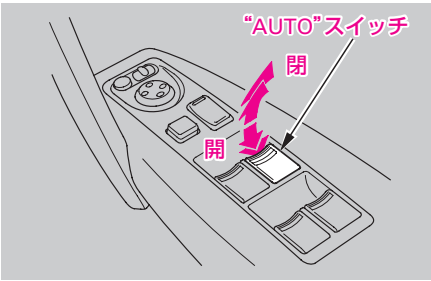
●ウィンドーの開閉

G、M

運転席ウィンドー

スイッチを軽く操作している間、作動します。
強く操作すると、自動で全開(全閉)します。

開けるとき･･･スイッチを押します。
閉めるとき･･･スイッチを引き上げます。



自動開閉中にウィンドーを停止させるときは、スイッチを作動方向とは逆へ軽く操作します。

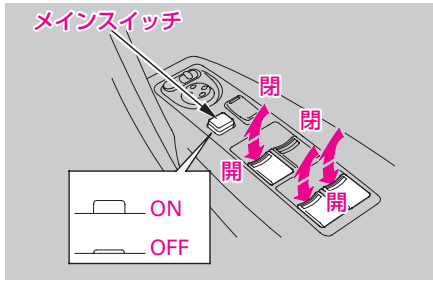
運転席以外のウィンドー

メインスイッチを“ON”にしてから、スイッチを操作します。

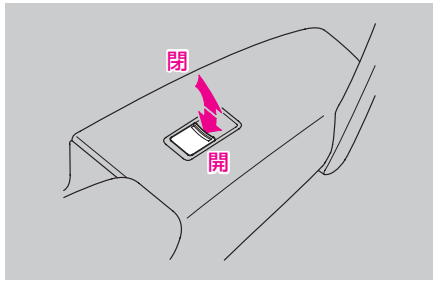
スイッチを操作している間、作動します。

開けるとき･･･スイッチを押します。
閉めるとき･･･スイッチを引き上げます。

・運転席ドアスイッチ



・その他のドアスイッチ



メインスイッチ

スイッチを押すごとに“ON”↔“OFF”が切り換わります。

ON ‥‥すべてのウィンドーの操作ができます。

OFF‥‥運転席以外のウィンドーは操作できません。

⚠警告

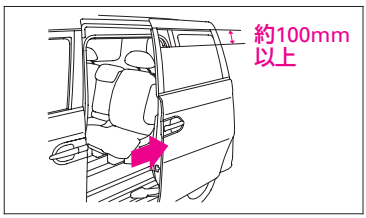
- パワーウィンドーを閉めるときは、手やくびなどをはさまないようにしてください。
  ドアガラスにはさまれて重大な傷害を受けるおそれがあります。
  特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

- 車から離れるときはキーを抜き、お子さまも一緒に連れて行ってください。
  いたずらなど誤った操作をして思わぬ事故につながるおそれがあります。

知 識

- ウィンドーの開閉はお子さまではなく大人が操作するようにしてください。
- 小さなお子さまが同乗しているときは、お子さまが誤って操作しないよう、メインスイッチを“OFF”にしておきましょう。
- スライドドアまたはパワースライドドアのウィンドーが約100mm以上開いているときは、スライドドアまたはパワースライドドアは途中までしか開きません。



●キーオフオペレーション（自動開閉ウィンドーのみ）

エンジンスイッチを“II”から“I”または“0”にしてから設定された時間内は、パワーウィンドーの操作ができます。
ただし、エンジンスイッチを“II”から“I”または“0”にしてからキーオフオペレーション作動時間内に、運転席ドアを開けてから閉めると、パワーウィンドーの操作はできなくなります。

知 識

- VZ、VX、VG、X
  工場出荷時のキーオフオペレーション作動時間は、約10分間に設定されています。
- G、M
  工場出荷時のキーオフオペレーション作動時間は、約45秒間に設定されています。
- キーオフオペレーションの作動時間の設定やその機能を解除することができます。

カスタマイズ機能　→386ページ

●はさみ込み防止機構（自動開閉ウィンドーのみ）

ウィンドーを自動で閉じているときに、窓枠とドアガラスの間に異物のはさみ込みを検知するとはさみ込み防止機構が作動し、ドアガラスの上昇が停止して自動で下降します。

⚠注意

- ウィンドーを確実に閉めるため、閉めきる直前の部分では、はさみ込みを検知できない領域があります。指などをはさまないように注意してください。

知 識

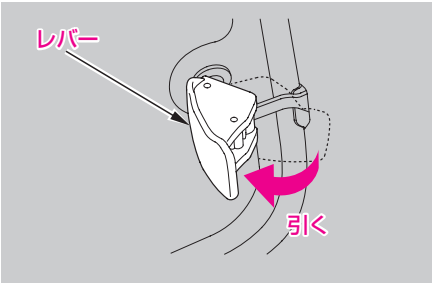
- 故障などではさみ込み防止機構が作動してしまい、ウィンドーを自動で閉めることができなくなったときは、スイッチを軽く引き上げ続けると閉めることができます。
- 環境や走行条件による衝撃などで、はさみ込み防止機構が作動することがあります。
- バッテリーやヒューズを交換した場合は、オート作動ができなくなります。
  その場合は、エンジンを始動しドアガラスを一番下まで下げてから、スイッチを引き上げ続け、ウィンドーを閉め切った状態で、約1秒間スイッチを保持すると機能が復帰します。

後席ウィンドー

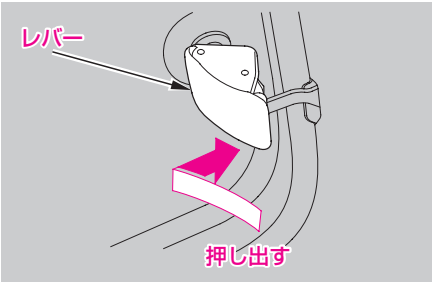
サードシートのウインドーを開けることができます。

開けかた

①レバーを手前に引きます。



②レバーを外に押し出して固定します。



閉めるときは逆の手順で行い、レバーを確実に戻します。

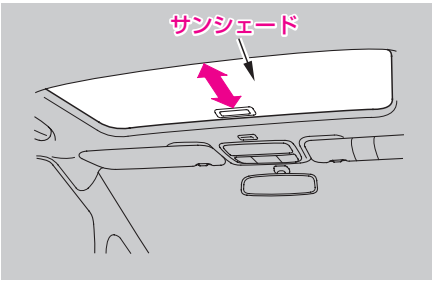
サンルーフ

タイプ別注文装備

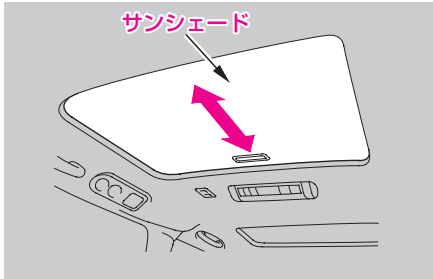
●サンシェード(遮光板)

サンシェードは手動で開閉します。
サンルーフを開けると同時に開きます。
サンルーフが開いた状態ではサンシェードは全閉できません。

前席用サンルーフ



後席用サンルーフ



知 識

- サンシェードは全開か全閉の位置で使ってください。途中で止めて使うと、走行中の振動で音が出ることがあります。

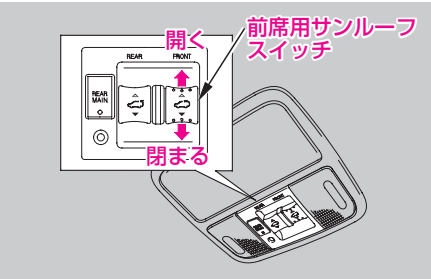
●開閉

エンジンスイッチが“II”のときサンルーフの開閉ができます。

▼

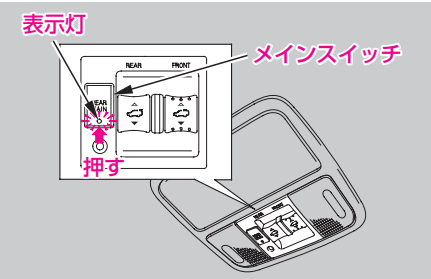
前席用サンルーフ

サンルーフスイッチを操作している間、サンルーフが作動します。



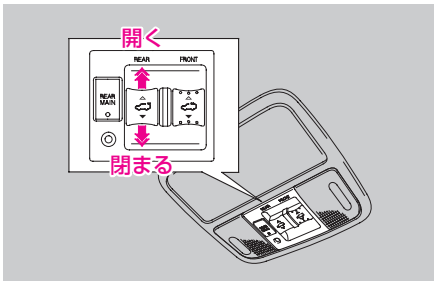
後席用サンルーフ

①後席用メインスイッチを押すと“ON”になり、表示灯が点灯します。

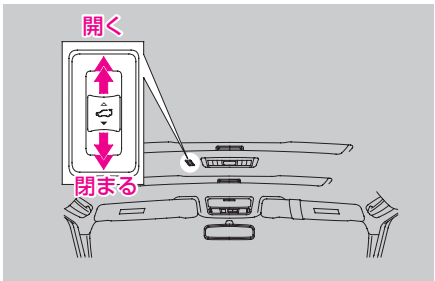


②サンルーフスイッチを軽く操作している間、サンルーフが作動します。
強く操作すると自動で全開(全閉)します。

・運転席スイッチ



・後席スイッチ



サンルーフが自動開閉中に、スイッチを軽く操作すると停止します。

⚠警告

- サンルーフを閉めるときは、手やくびなどをはさまないようにしてください。
  サンルーフにはさまれて重大な傷害を受けるおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

- 走行中または一時停止時にルーフ開口部から頭や手、物などを出さないでください。
  思わぬ障害物や急ブレーキをかけたときなどに事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- サンルーフやルーフ開口部の縁に腰をかけたり荷物を乗せるなどの大きな力を加えないでください。サンルーフが破損するおそれがあります。
- 降雪時、厳寒時などには凍結することがあります。このような場合は故障の原因となるので作動させないでください。

知 識

- 車から離れるときや洗車のときは、サンルーフが完全に閉まっていることを確かめてください。
- 降雨後や洗車後はルーフ上の水を除去してから開けてください。また、積雪時にはルーフ上の雪を除去してから開けてください。室内に水や雪が入るおそれがあります。
- **後席用サンルーフ**
  サンルーフを全開にして走行すると、風切音が大きくなる場合があります。
- **後席用サンルーフ**
  小さなお子さまが同乗しているときは、お子さまが誤って操作しないよう、後席用メインスイッチを“OFF”にしておきましょう。

●キーオフオペレーション（後席用サンルーフのみ）

エンジンスイッチを“II”から“ I ”または“ 0 ”にしてから約45秒間は、後席用サンルーフの操作ができます。
ただし、エンジンスイッチを“II”から“ I ”または“ 0 ”にしてから約45秒以内に、運転席ドアを開けてから閉めると、後席用サンルーフの操作はできなくなります。

●はさみ込み防止機構（後席用サンルーフのみ）

後席用サンルーフを閉じているときに、枠とサンルーフガラスの間に異物のはさみ込みを検知するとはさみ込み防止機構が作動し、サンルーフの前進が停止して自動で後退します。

⚠注意

- サンルーフを確実に閉めるため、閉めきる直前の部分では、はさみ込みを検知できない領域があります。指などをはさまないように注意してください。

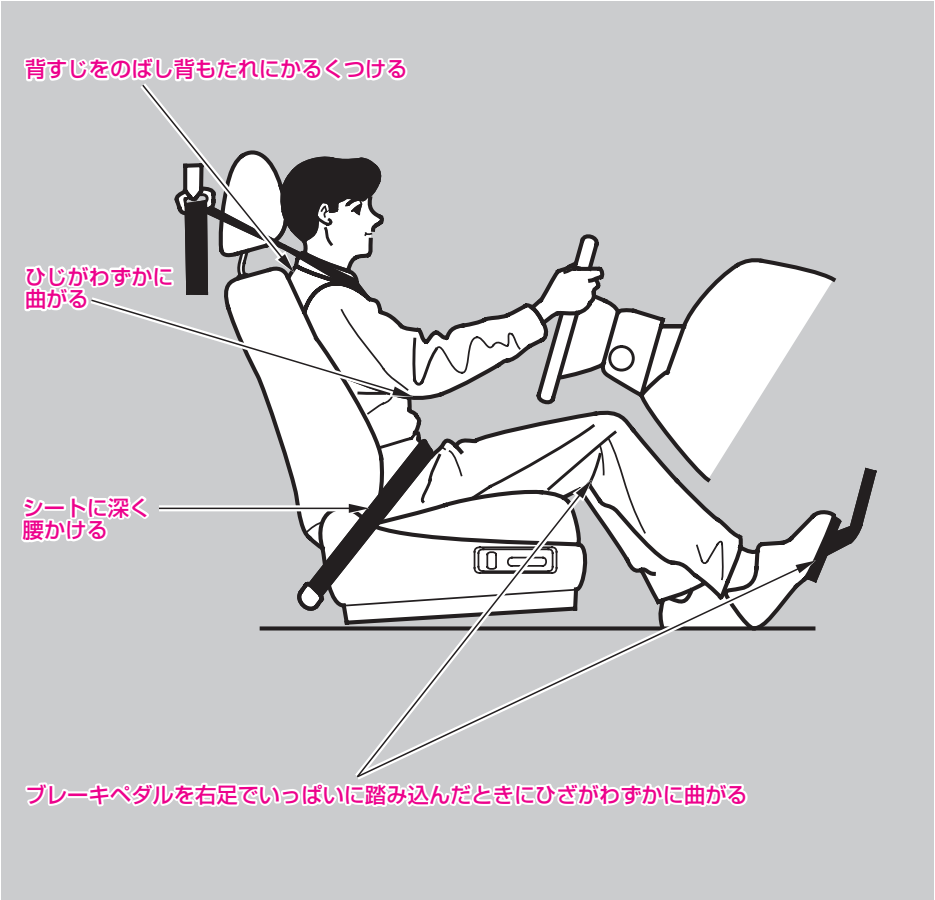
知 識

- 環境や走行条件による衝撃などで、はさみ込み防止機構が作動することがあります。
- 故障などではさみ込み防止機構が作動してしまい、サンルーフを閉めることができなくなったときは、応急処置としてスイッチを軽く閉方向に約15秒間押し続けると、はさみ込み防止機構が解除され、断続的にサンルーフを閉めることができます。
  サンルーフが完全に閉まるまで、そのままスイッチを押し続けてください。
  応急処置後はHonda販売店で点検を受けてください。

シートの調節

正しい運転姿勢

運転者は正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。
正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドルが楽に操作できる姿勢をいいます。



同乗者も、シートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。
助手席同乗者はインストルメントパネルに顔や胸が必要以上に近づかないように、シートを後ろに下げます。

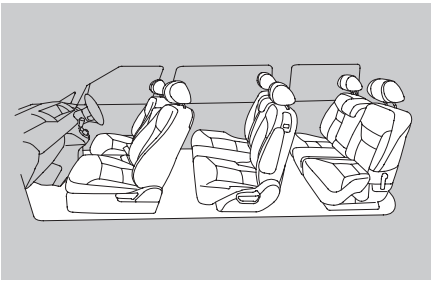
⚠警告

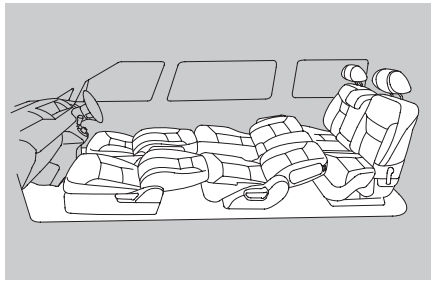
- シートに深く腰かけてください。
  また、背もたれは必要以上に倒さないでください。
  寝そべった姿勢では、衝突したときなどにシートベルトの下に滑り込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- SRSエアバッグに必要以上に近づくと、SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け、重大な傷害を受けるおそれがあります。
  - ・運転者は正しい運転姿勢がとれる範囲で、シートを後ろに下げてください。
  - ・助手席同乗者はインストルメントパネルに近づかないように、シートを後ろに下げてください。

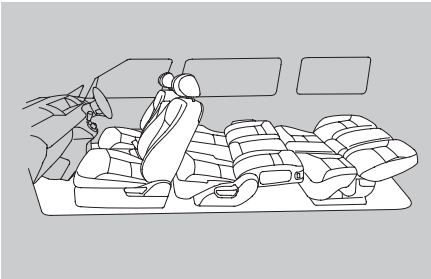
⚠注意

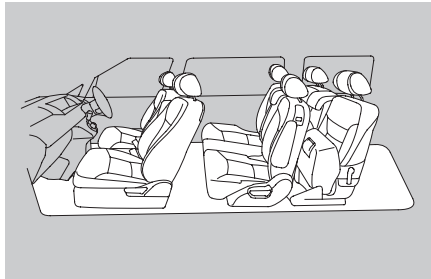
- 走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  調節は走行する前に行い、シートを前後にゆすって確実に固定されていることを確認してください。
- 背もたれと背中の間にクッションなどをいれないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、シートベルトなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- シートを操作するときは、操作する人やまわりの人の手や足などをはさまないように十分注意してください。
- セカンドシートのシートアンダートレイ(回転対座シート装備車)以外のシートの下に物を置かないでください。
  物がはさまってシートが固定されず思わぬ事故につながるおそれがあります。

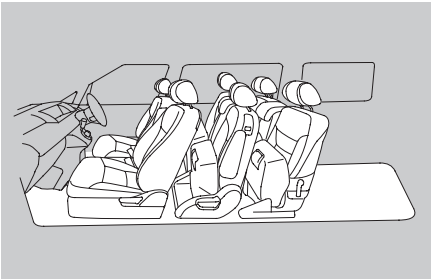
シートアレンジインデックス



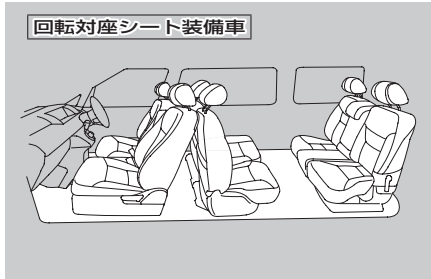








回転対座シート装備車



●フロントパワーシート……96
●フロントマニュアルシート……99

●セカンドシート……102
サードシートへの乗り降り……105
座面をはね上げて固定するとき…106
対座にするとき……108

●サードシート……110
座面をはね上げて固定するとき…113

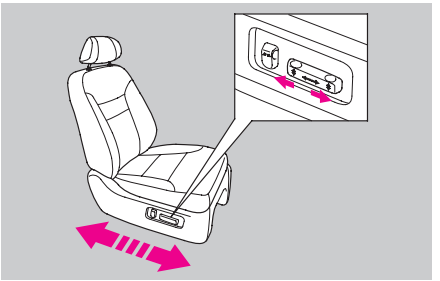
●フラットシート
（フロント・セカンドシート）
（セカンド・サードシート）……115

●カーゴスペースの作りかた……119

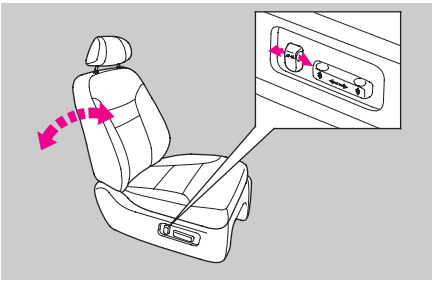
フロントパワーシート（運転席のみ）

タイプ別装備

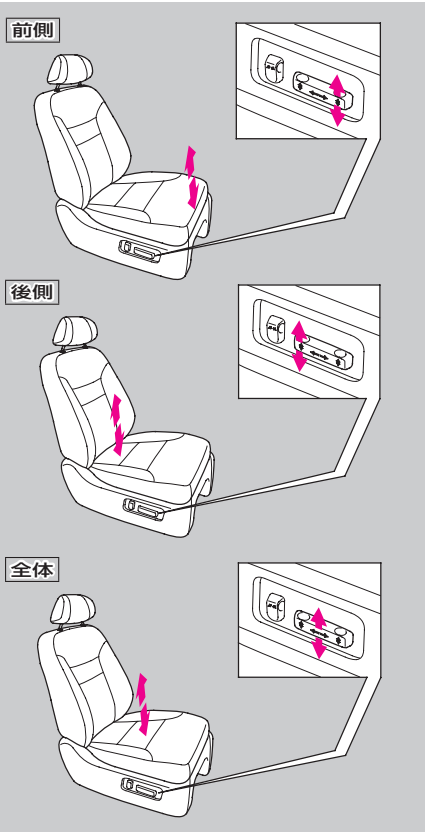
●前後位置の調節



●背もたれの調節



●高さの調節

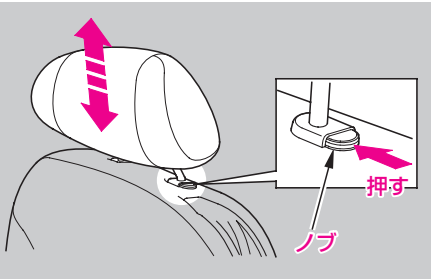


●ヘッドレストの調節

走行する前に耳とヘッドレストの中心が同じ高さになるように調節し、確実に固定します。
背が高い人は、固定できる範囲で一番高い位置にしてお使いください。

▼

高くするときは、ヘッドレストを持ち上げます。
低くするときはノブを押しながらヘッドレストを下げます。

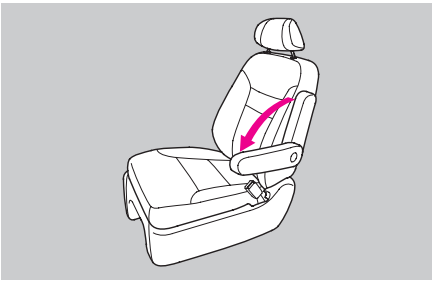


⚠警告

●ヘッドレストを外した状態で走行しないでください。また、固定できる高さを越えて使わないでください。
衝突のときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。
走行前に必ず正しい位置に調節してください。

●アームレスト

前に倒して使います。



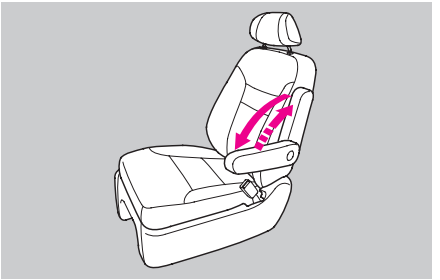
角度調節のしかた

シートの背もたれの角度に合わせて、アームレストの角度を調節することができます。

▼

高くするときは、アームレストを引き上げます

低くするときは、アームレストを一旦引き上げてから下げます。



角度は無段階に調節できます。

⚠注意

●シートベルト着用時にアームレストに引っかけると、万一のときシートベルトの機能が発揮できないことがあります。
シートベルトは正しく着用してください。

アドバイス

●アームレストに腰をかけたり荷物をのせるなどの大きな力を加えないでください。アームレストが破損するおそれがあります。

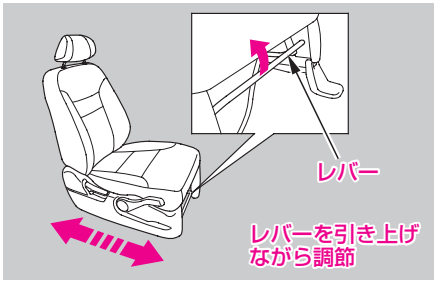
知 識

●アームレストの角度を調節するときは、手をはさまないようにゆっくりと操作してください。

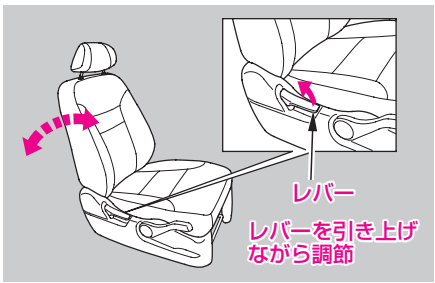
フロントマニュアルシート

タイプ別装備

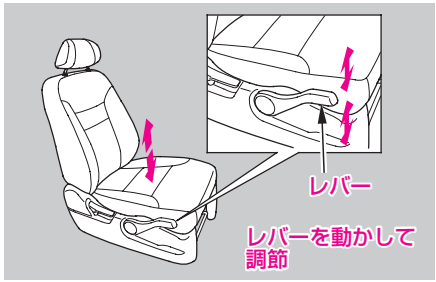
●前後位置の調節



●背もたれの調節



●高さの調節（運転席のみ）



上へ動かす…
　中間位置より上にレバーを動かします。
下へ動かす…
　中間位置より下にレバーを動かします。

レバーを動かすたびに高さを調節できます。
レバーを動かしたら一旦中間の位置に戻して、もう一度動かすようにして調節します。

知　識

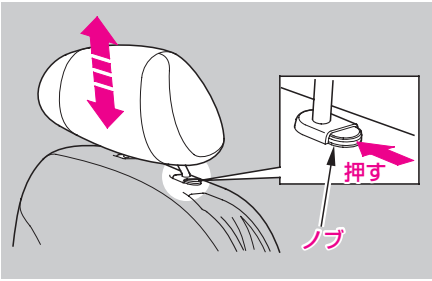
- レバーを最上段または最下段にすると、レバーが動かなくなります。

●ヘッドレストの調節

走行する前に耳とヘッドレストの中心が同じ高さになるように調節し、確実に固定します。
背が高い人は、固定できる範囲で一番高い位置にしてお使いください。

▼

高くするときは、ヘッドレストを持ち上げます。
低くするときはノブを押しながらヘッドレストを下げます。



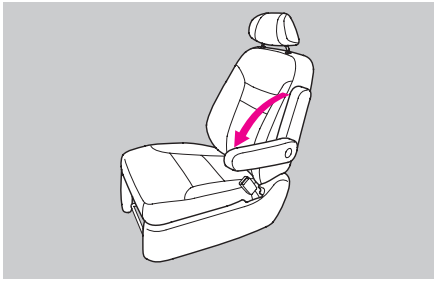
⚠警告

●ヘッドレストを外した状態で走行しないでください。また、固定できる高さを越えて使わないでください。
衝突のときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。
走行前に必ず正しい位置に調節してください。

●アームレスト

助手席側：タイプ別装備

前に倒して使います。



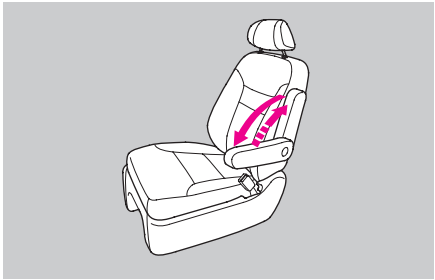
角度調節のしかた

シートの背もたれの角度に合わせて、アームレストの角度を調節することができます。

▼

高くするときは、アームレストを引き上げます

低くするときは、アームレストを一旦引き上げてから下げます。



角度は無段階に調節できます。

⚠注意

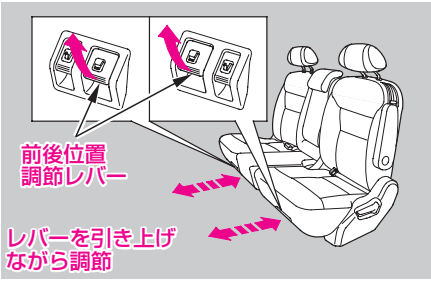
●シートベルト着用時にアームレストに引っかけると、万一のときシートベルトの機能が発揮できないことがあります。
シートベルトは正しく着用してください。

アドバイス

●アームレストに腰をかけたり荷物をのせるなどの大きな力を加えないでください。アームレストが破損するおそれがあります。

セカンドシート

●前後位置の調節

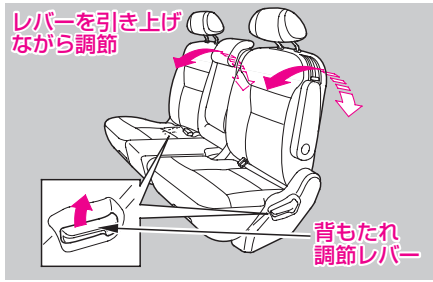


片側ずつ独立して行えます。

知 識

●シートを前後に調節するときは、二点式シートベルトがシートにはさまれないようにしてください。

●背もたれの調節



片側ずつ独立して行えます。

知 識

●調節するときは、背もたれを前に倒しすぎないようにしてください。背もたれを一定角度以上前に倒すと、同時に座面もはね上がります。

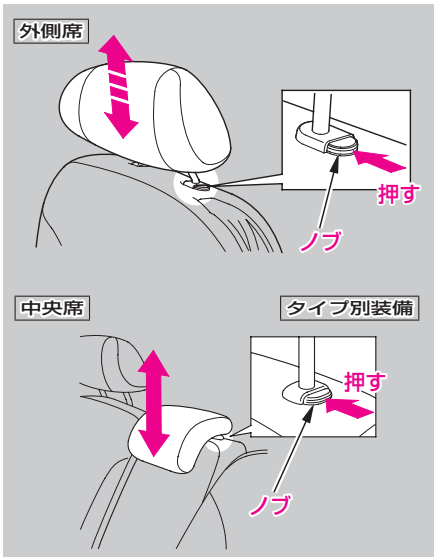
ウォークイン機構　→105ページ

●ヘッドレストの調節

走行する前に耳とヘッドレストの中心が同じ高さになるように調節し、確実に固定します。
背が高い人は、固定できる範囲で一番高い位置にしてお使いください。

▼

高くするときは、ヘッドレストを持ち上げます。
低くするときはノブを押しながらヘッドレストを下げます。

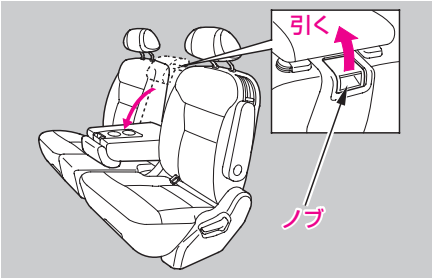


⚠警告

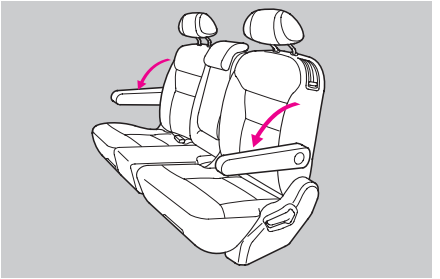
●ヘッドレストを外した状態で走行しないでください。また、固定できる高さを越えて使わないでください。
衝突のときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。
走行前に必ず正しい位置に調節してください。

●アームレスト

センターアームレスト
ノブを引いて前に倒して使います。



サイドアームレスト タイプ別装備
前に倒して使います。



⚠注意

●シートベルト着用時にアームレストに引っかけると、万一のときシートベルトの機能が発揮できないことがあります。
シートベルトは正しく着用してください。

アドバイス

●アームレストに腰をかけたり荷物をのせるなどの大きな力を加えないでください。アームレストが破損するおそれがあります。

●サードシートへの乗り降り

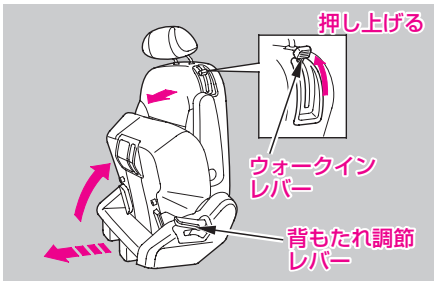
左右どちらからでも乗り降りできます。

ウォークイン機構

背もたれを前に倒し座面をはね上げ、セカンドシート全体を前へ移動します。

▼

ウォークインレバーを押し上げるか、背もたれ調節レバーを引き上げると、背もたれが前に倒れ、座面がはね上がります。そのままシートを前に押すと移動します。片側ずつ独立して行えます。



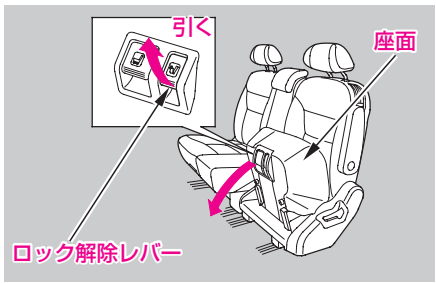
走行する前にシートの前後位置を調節し、背もたれを起こしてシートを固定してください。

戻しかた

①シートを後方へ押して、前後位置を調節します。

②背もたれを起こしてシートを固定します。

③ロック解除レバーを引き上げながら、座面を倒して固定します。

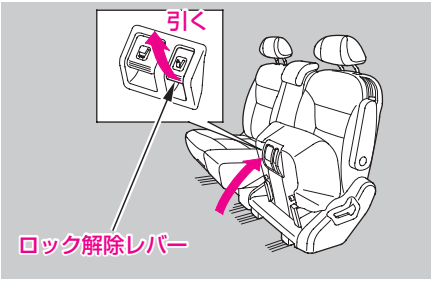


⚠注意

- 操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意してください。

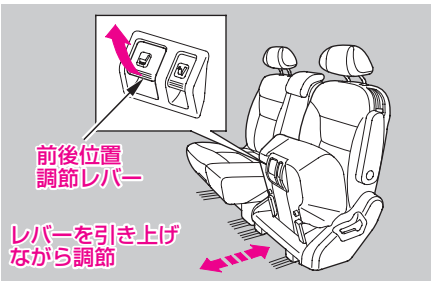
●座面をはね上げて固定するとき

ロック解除レバーを引き上げながら、座面を起こして固定します。



片側ずつ独立して行えます。
元に戻すときは、ロック解除レバーを引きながら座面を倒します。

座面をはね上げた状態で前後に動かすとき



片側ずつ独立して行えます。

⚠注意

- 走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートを操作するときは、操作する人やまわりの人の手や足などをはさまないように十分注意してください。
- シートアンダートレイ（回転対座シート装備車）以外のシートの下に物を置かないでください。物がはさまってシートが固定されず思わぬ事故につながるおそれがあります。

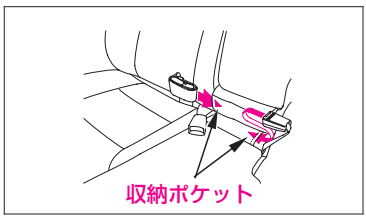
知 識

- 座面に物を置いたまま操作しないでください。物をはさみ込むと、座面を固定することができなくなります。
- シートを動かしたときは、シートを前後にゆすって確実に固定されていることを確認してください。
- 前寄りの位置では、ロック解除レバーを引いても、座面が降りないようにロックをかけている箇所があります。
  座面が降りないときは、無理に降ろさず、シートをもう一度後方へ動かしてから降ろしてください。
- シートアンダートレイ（回転対座シート装備車）に大きいもの（高さのあるもの）を置くと、座面を元に戻したときに、確実に固定されません。
  シートアンダートレイ

→378ページ

知 識

- 座面が確実に固定されない状態で、上に乗ったり無理な力を加えないでください。
  破損や変形の原因になります。
- シートを操作するときは、あらかじめ二点式シートベルトを収納してください。

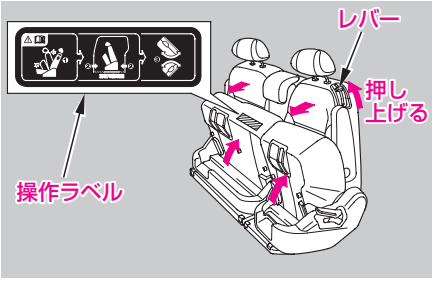


●対座にするとき

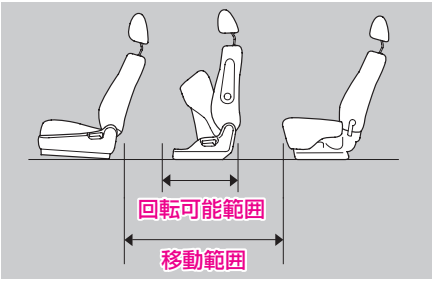
回転対座シート装備車

①レバーを押し上げると、背もたれが前に倒れ、座面がはね上がります。

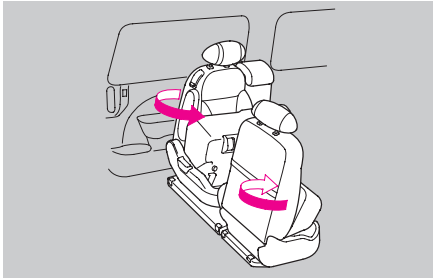
ウォークイン機構　→105ページ



②回転可能範囲内にシートを動かします。



③シートを車両の内側まわりに180°回転させます。

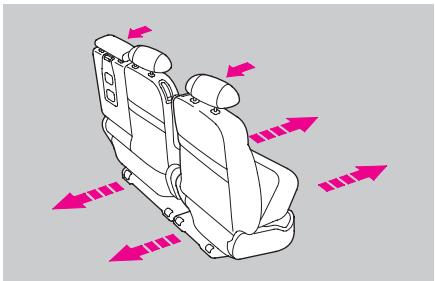


知　識

●前寄りと後寄りの位置では、回転しないようにロックをかけている箇所があります。シートが回転しないときは、無理に回さず、シートの移動範囲の中央付近へ移動してから回転させてください。

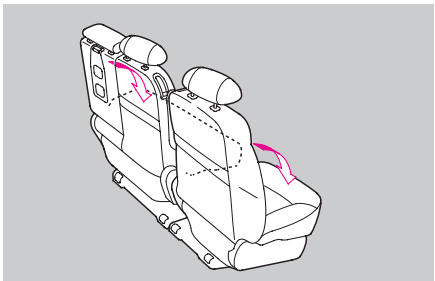
④左右のシート前後位置を調節し、背もたれを起こしてシートを固定します。

前後位置の調節　→102ページ



⑤座面を倒して固定します。

座面の戻しかた　→105ページ



元に戻すときは同じ手順で行います。

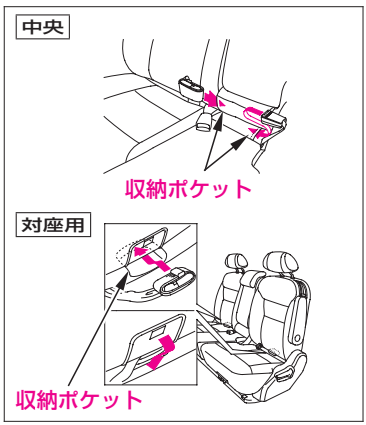
⚠注意

- 走行中に操作するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートを操作するときは、操作する人やまわりの人の手や足などをはさまないように十分注意してください。

知 識

- シートを操作したときは、シートをゆすって確実に固定されていることを確認してください。
- シートを操作するときは、あらかじめ二点式シートベルトを収納してください。

対座用シートベルト　→131ページ

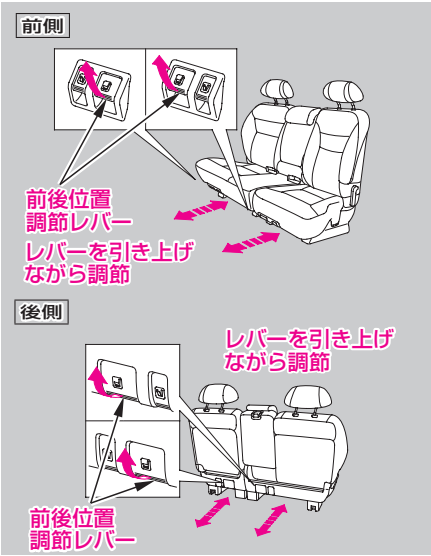


- 対座の状態(後ろ向き)では、チャイルドシートを固定できません。

チャイルドシート固定装置
→136ページ

サードシート

●前後位置の調節

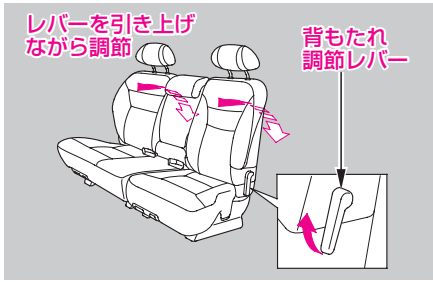


片側ずつ独立して行えます。

知 識

- シートを前後に調節するときは、中央の二点式シートベルトがシートにはさまれないようにしてください。

●背もたれの調節



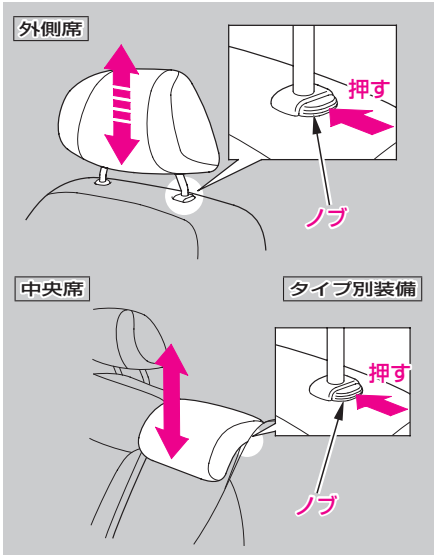
片側ずつ独立して行えます。

●ヘッドレストの調節

走行する前に耳とヘッドレストの中心が同じ高さになるように調節し、確実に固定します。
背が高い人は、固定できる範囲で一番高い位置にしてお使いください。

▼

高くするときは、ヘッドレストを持ち上げます。
低くするときはノブを押しながらヘッドレストを下げます。

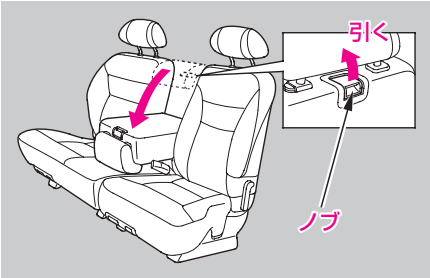


⚠警告

●ヘッドレストを外した状態で走行しないでください。また、固定できる高さを越えて使わないでください。
衝突のときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。
走行前に必ず正しい位置に調節してください。

●アームレスト

ノブを引いて前に倒して使います。



⚠注意

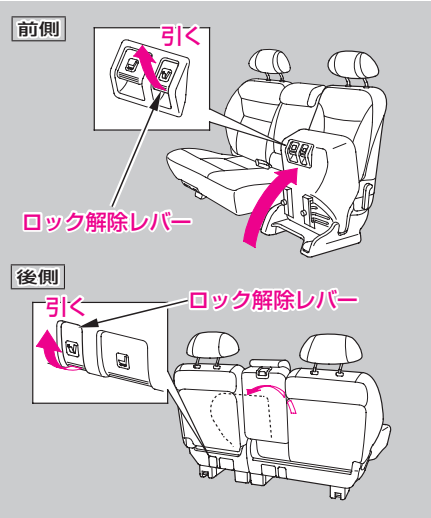
●シートベルト着用時にアームレストに引っかけると、万一のときシートベルトの機能が発揮できないことがあります。
シートベルトは正しく着用してください。

アドバイス

●アームレストに腰をかけたり荷物をのせるなどの大きな力を加えないでください。アームレストが破損するおそれがあります。

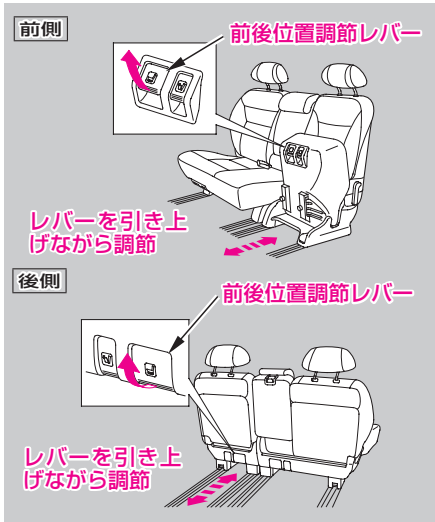
●座面をはね上げて固定するとき

前側、または後側のロック解除レバーを引き上げながら、座面を起こして固定します。



片側ずつ独立して行えます。
元に戻すときは、ロック解除レバーを引きながら座面を倒します。

座面をはね上げた状態で前後に動かすとき



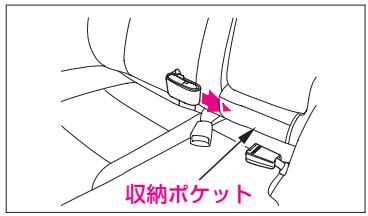
片側ずつ独立して行えます。

⚠注意

- 走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートを操作するときは、操作する人やまわりの人の手や足などをはさまないように十分注意してください。

知 識

- 座面に物を置いたまま操作しないでください。物をはさみ込むと、座面を固定することができなくなります。
- シートを動かしたときは、シートを前後にゆすって確実に固定されていることを確認してください。
- 前寄りの位置では、ロック解除レバーを引いても、座面が降りないようにロックをかけている箇所があります。
  座面が降りないときは、無理に降ろさず、シートをもう一度後方へ動かしてから降ろしてください。
- 座面が確実に固定されない状態で、上に乗ったり無理な力を加えないでください。
  破損や変形の原因になります。
- シートを元に戻したときは、シートを前後にゆすって確実に固定されていることを確認してください。
- シートをはね上げるときは、あらかじめ中央の二点式シートベルトを収納してください。



フラットシート（フロント・セカンドシート）（セカンド・サードシート）

⚠注意

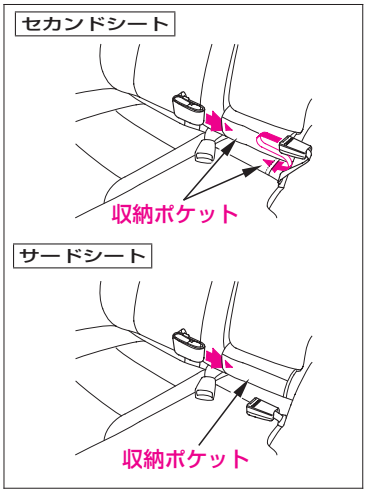
- フラットな状態で、人や荷物などを乗せたまま走行しないでください。
  ブレーキをかけたときなどに、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- フラットな状態で、シートの上を走り回らないでください。
  また、シートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくりと移動してください。
  シートの端を踏むと足を踏み外すおそれがあります。
- アームレストは収納してください。つまずいたり、足を踏み外すおそれがあります。
- フラットの状態で、室内からテールゲートを閉めないでください。手などをはさまれて、けがをするおそれがあります。
- 操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意してください。
- 背もたれが急に戻り、顔などにけがをするおそれがあります。背もたれを起こすときは、必ず背もたれに手を添えて操作してください。

知 識

- フラットにしたときや元に戻したときは、シートを前後にゆすって確実に固定されていることを確認してください。
- フラットにしたときに、サードシートのヘッドレストを付けた状態でテールゲートを閉めないでください。テールゲートがヘッドレストに当たり、破損や変形などの原因となります。

知 識

●フラット使用時にバックルやタングプレートを収納ポケットに入れておくと快適に使用できます。



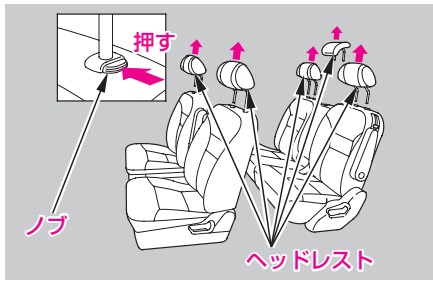
●フロント・セカンドシート

フロントシートをフラットにできます。

①前後位置調節レバーを引き上げながら、セカンドシートとサードシートを後方いっぱいに動かします。

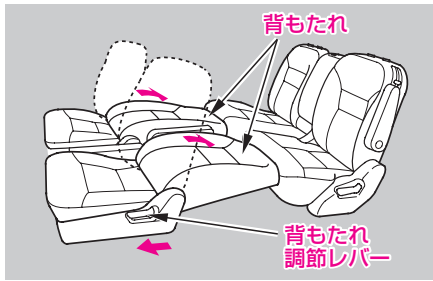
セカンドシート、サードシートの前後位置の調節 →102、110ページ

②ノブを押して、フロントシートとセカンドシートのヘッドレストを外します。



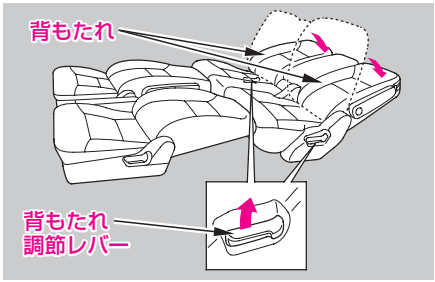
③フロントシートを前方にいっぱいに動かし、背もたれを後ろへ倒して固定します。

フロントシートの前後位置の調節 →96、99ページ
フロントシートの背もたれの調節 →96、99ページ



④セカンドシートにあたるまで、フロントシートを後方へ動かし固定します。
フロントシートの前後位置の調節
→96、99ページ

⑤背もたれ調節レバーを引き上げながら、セカンドシートの背もたれを後ろに倒し固定します。



元に戻すときは逆の手順で行います。

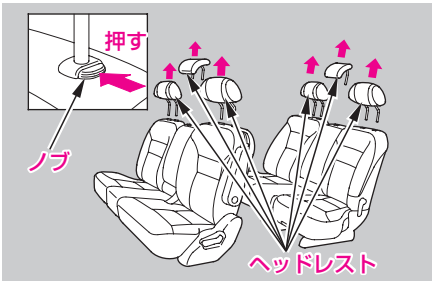
知　識

- セカンドシートの背もたれの裏面がサードシートの座面にあたるため、セカンドシートは完全にフラットにはできません。

●セカンド・サードシート

セカンド・サードシートをフラットにできます。

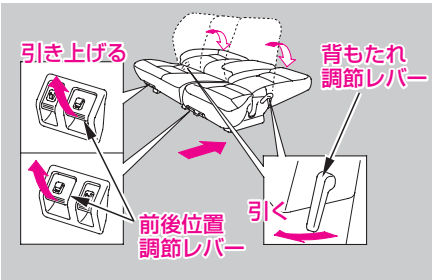
①ノブを押して、セカンドシートとサードシートのヘッドレストを外します。



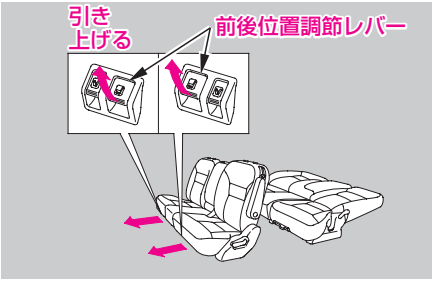
②前後位置調節レバーを引き上げながら、サードシートを前方いっぱいに動かします。
サードシートの前後位置の調節
→110ページ

③背もたれ調節レバーを引き上げながら、サードシートの背もたれを後ろへ倒し固定します。

④前後位置調節レバーを引き上げながら、背もたれがライニングにあたるまでサードシートを後方に動かします。

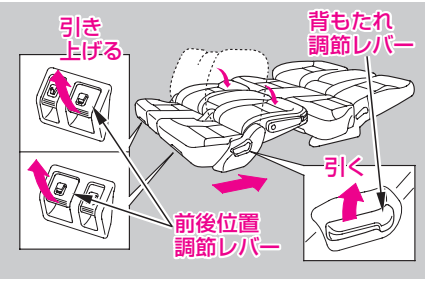


⑤前後位置調節レバーを引き上げながら、セカンドシートを前方いっぱいに動かします。



⑥背もたれ調節レバーを引き上げながら、セカンドシートの背もたれを後ろに倒し固定します。

⑦セカンドシートの前後位置調節レバーを引き上げながら、サードシートにあたるまで、セカンドシートを後方へ動かし固定します。



元に戻すときは逆の手順で行います。

カーゴスペースの作りかた

セカンドシート、サードシートの座面をはね上げて前に移動するとカーゴスペースを広くすることができます。

⚠注意

- カーゴスペース内には人を乗せないでください。
  ブレーキや加速、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。
- 操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意してください。

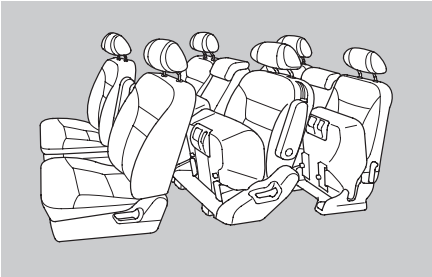
知 識

- 走行中動きやすい物を床にそのまま置かないでください。

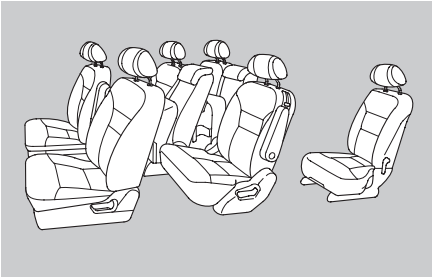
①セカンドシート、サードシートの座面をはね上げて固定します。
座面のはね上げかた →106、113ページ

②セカンドシートを前方いっぱいに動かし固定します。
セカンドシートの前後位置の調節 →102ページ

③サードシートを前方いっぱいに動かし固定します。
サードシートの前後位置の調節 →110ページ



必要に応じて、サードシートのみや、片側ずつ独立してカーゴスペースをつくることができます。



知 識

- シートを元に戻したときは、シートを前後にゆすって確実に固定されていることを確認してください。

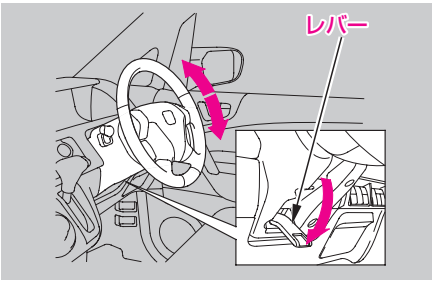
ハンドル・バックミラーの調節

チルトステアリング

ハンドルの高さを適切な位置に変えることができます。

▼

レバーを押し下げ、ハンドルの高さを適切な位置にして、レバーを元の位置まで確実に引き上げて固定します。



⚠注意

- 走行中に調節するとハンドルが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行する前に行い、ハンドルに上下方向の力を加え固定されていることを確認してください。

ルームミラー

知 識

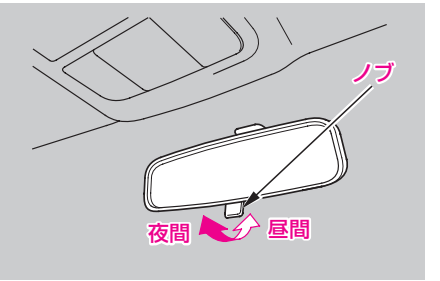
- 走行中はミラーの調節を行わないでください。

●防眩式ルームミラー

夜間走行時、後続車のライトがまぶしいときにライトの反射を弱くできます。

▼

ノブを動かして切り換えます。



角度調節はノブを昼間の位置にして行ってください。

ドアミラー

知 識

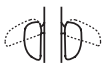
- ミラーを格納したまま走行しないでください。また、走行中はミラーの調節を行わないでください。
- ミラーを格納するときは、周囲の人の手などをはさまないようにしてください。

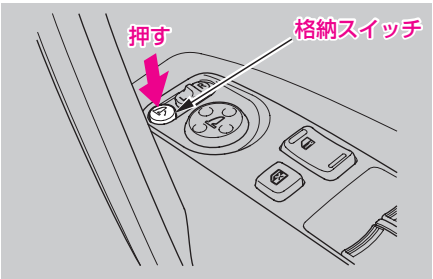
●格納のしかた

エンジンスイッチが“II”のとき、スイッチで左右のミラーをたたむことができます。

▼

格納スイッチを押すごとに“ON”↔“OFF”が切り換わります。

	格納スイッチの状態	ミラーの状態
ON		
OFF		



エンジンスイッチが“0”または“I”のときは手動で操作ができます。

知 識

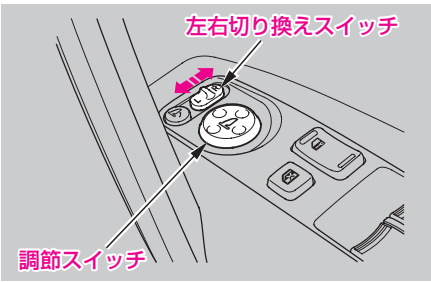
- 次の場合は手動で操作しても、ミラーは自動的に格納スイッチの状態に戻ります。
  - ・手動で操作したあとにエンジンスイッチを“II”にしたとき

●角度調節のしかた

エンジンスイッチが“II”のとき調節スイッチを操作すると、ミラーの角度調節ができます。

▼

①左右切り換えスイッチを調節したい方に動かします。
②調節スイッチで角度を調節します。

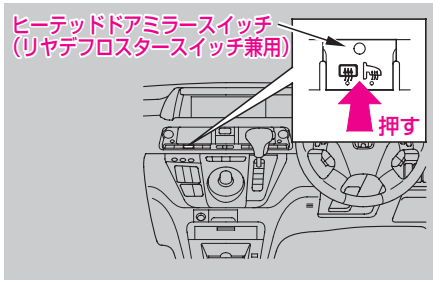


直接手で鏡面を動かして角度を調節することもできます。

●ヒーテッドドアミラー

タイプ別装備

ヒーテッドドアミラースイッチ（リヤデフロスタースイッチ兼用）を押すとミラーが暖められ曇りが取れます。



エンジンスイッチが“II”のとき、スイッチを押すと“ON”になり、同時に作動表示灯が点灯します。もう一度スイッチを押すと“OFF”になり、作動表示灯は消灯します。

知 識

- ヒーテッドドアミラースイッチを押すと、リヤガラスの曇り取りも同時に機能します。
  リヤデフロスター →193ページ
- この装置は消費電力が大きいので曇りが取れたら“OFF”にしてください。また、エンジンの回転が低いとき長時間使わないでください。バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

●アクアクリーンミラー（親水ミラー）

タイプ別装備

ミラー表面には、付着した雨滴を膜のように広げる親水効果を持つコーティングをほどこしており、雨天時などにおける後方視認性を向上させます。

ミラー表面に汚れなどが付着して親水効果が低くなったときは、水道水をかけて洗い流し、太陽光を当てることにより効果が回復します。

親水効果を早く回復させたいとき
→472ページ

アドバイス

- フロントドアガラスに撥水剤やボディにワックスを塗布するときは、ミラー表面に撥水剤やワックスが付着しないようにドアミラーを布などで覆ってください。
  ミラー表面にこれらの物が付着すると親水効果を失います。
- ミラー表面が凍結しているときは、ヒーテッドドアミラースイッチを“ON”にするか、温水や水道水を使って溶かしてください。解氷剤を使ったり、プラスチックの板を使って削り落とすと、ミラー表面に傷が付き、親水効果を失います。
- 砂の付いた布や油膜取り剤（コンパウンドなど）でミラー表面をこすらないでください。
  ミラー表面に傷が付き、親水効果を失います。

知識

- 汚れや水滴を拭き取るときは、きれいな布で拭き取ってください。
- 水洗いでミラーの汚れが落ちない場合は、家庭用中性洗剤を使って柔らかい布でミラー表面を拭き取ることで回復できます。
- 次のようなときは、一時的に親水効果が低下しますが異常ではありません。親水効果は数日間の日射で回復します。
  - 素手でミラーに触れたり油のついた布などでミラー表面を拭き取ったとき
  - 自動洗車機のワックスがミラー表面に付着したとき
  - 長期間、地下駐車場など日の当たらないところに駐車したとき

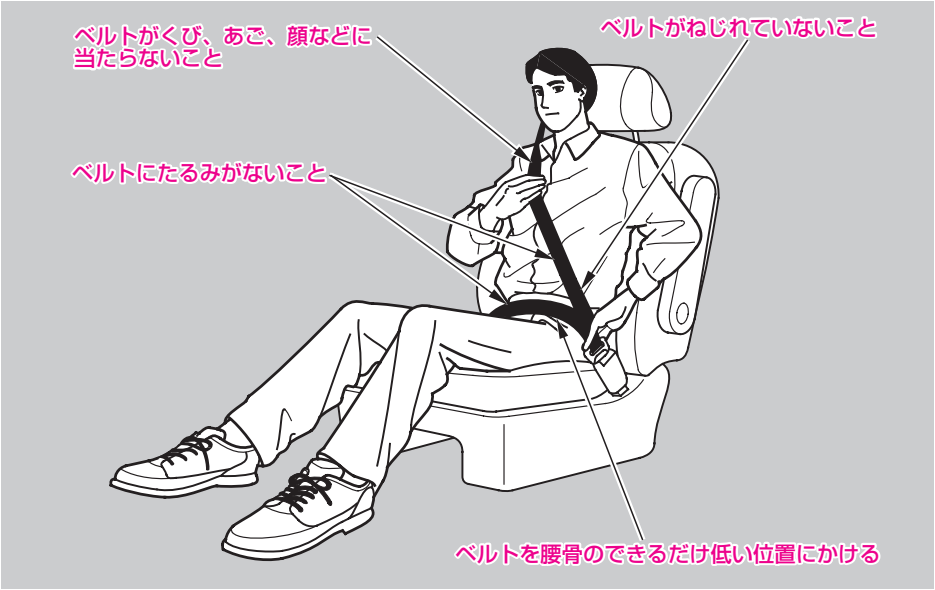
  親水効果を早く回復させたいとき　→472ページ
- 自動洗車機で洗車するときは、ミラー表面に洗剤やワックスが付着しないようドアミラーを格納してください。

  格納のしかた　→121ページ

シートベルト

シートベルト

シートベルトは、車を運転するまえに運転者は正しい運転姿勢で着用し、同乗者にも必ず着用させてください。



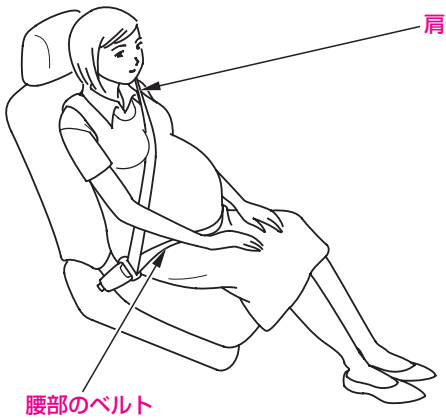
⚠警告

- シートベルトは全員が着用してください。
  着用しないと、衝突したときなどに重大な傷害を受けたり死亡することがあります。
- シートに深く腰かけてください。また、背もたれは必要以上に倒さないでください。
  寝そべった姿勢では、衝突したときなどにシートベルトの下に滑り込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- お子さまにもシートベルトを着用させるか、チャイルドシートをお使いください。
  お子さまを抱いていても、衝突したときなどに支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けたり死亡するおそれがあります。

⚠注意

●シートベルトを正しく着用していないと本来の機能をはたさず、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。
- 腰部のベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にぴったり着用してください。
  ベルトが腰骨からずれていると腹部などに強い圧迫を受けます。
- ベルトはねじれがないように着用してください。
  ねじれがあるとベルトの幅が狭くなり、局部的に強い力がかかります。
- ベルトがくび、あご、顔などに当たらないように着用してください。
- 一本のベルトを二人以上で使用しないでください。
- 三点式シートベルトは腕の下に通して着用しないでください。
  ベルトが肩に十分かかっていないと前方に投げ出されるおそれがあります。
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけないでください。

●妊娠中のかたや疾患のあるかたもシートベルトを着用してください。
ただし、万一のとき腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがありますので、医師に確認してください。
- 妊娠中のかたは、三点式シートベルトを使用してください。
- 妊娠中のかたは、ベルトを着用するときは、腰部のベルトを腹部からさけて腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにして身体に密着させてください。
  また、肩部のベルトは腹部からさけて胸部にかかるようにしてください。



●シートベルトの種類

シート			シートベルトの種類
フロントシート			ELR付三点式シートベルト
セカンドシート（ベンチシート）		左右	ELR･ALR付三点式シートベルト
		中央	マニュアル二点式シートベルト
セカンドシート（回転対座シート）	前向き	左右	ELR･ALR付三点式シートベルト
		中央	マニュアル二点式シートベルト
	後向き		マニュアル二点式シートベルト
サードシート		左右	ELR･ALR付三点式シートベルト
		中央	マニュアル二点式シートベルト

ELR付三点式シートベルト：
体の動きにあわせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。

ELR･ALR付三点式シートベルト：
通常はELRシートベルトとして機能します。
ALRはチャイルドシートを固定する機構です。

チャイルドシート固定機構付きシートベルト　→136ページ

●三点式シートベルト

シートベルトリマインダー(非着用警報装置)

エンジンスイッチを“II”にすると、運転席シートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点灯し続けます。
また、エンジンスイッチを“II”にしたときや走行したときは、運転席シートベルトを着用するまで、ブザーが鳴ります。(ブザーが鳴っている間は、警告灯が点滅します。)

知 識

- 運転席シートベルトを着用していない場合でも、停車すると、ブザーは止まります。また、走行しているときでも、一定回数を超えるとブザーは止まります。
- セレクトレバーをRに入れたときは、後退位置警報装置のチャイムが鳴り、シートベルト警告ブザーは鳴りません。

チャイルドシート固定機構付きシートベルト(セカンドシート外側2座席、サードシート外側2座席)

→136ページ

知 識

- 後席シートベルトを着用した状態で上体を大きく動かしたときに、シートベルトがすべて引き出されてチャイルドシート固定機構が作動することがあります。
  このときは、チャイルドシート固定機構を解除してから再度シートベルトを着用してください。
  解除のしかた　→138ページ

シートベルトプリテンショナー(前席のみ)

→274ページ

E-プリテンショナー(前席のみ)

IHCC装備車

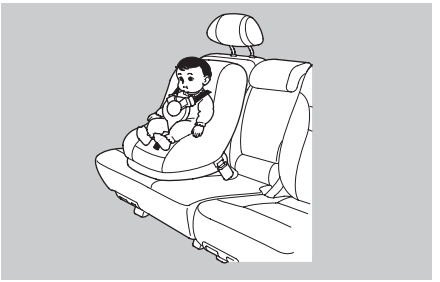
→278ページ

●二点式シートベルト

体にあわせてベルトの長さを調節します。

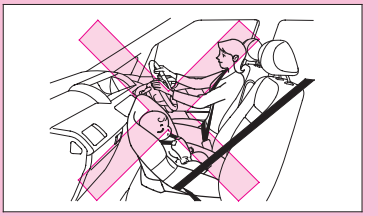
●お子さまを乗せるときは

お子さまは、後席に乗せシートベルトを着用させてください。
ただし、装備されているシートベルトは大人用ですので、ベルトがくびやあごに当たる場合や腰骨にかからない場合は、幼児用シートや学童用シートを使用してください。シートベルトをそのまま使うと、衝突のときに腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
また、ひとりですわることのできない小さなお子さまは乳児用シートを使用してください。
お子さまを後席に乗せることができなく、やむをえず助手席に乗せるときは、一番大きなお子さまを乗せてください。



⚠警告

●助手席には乳児用シートを取り付けないでください。また、幼児用シートを後ろ向きに取り付けないでください。SRSエアバッグが膨らむ際、乳児用シートや、幼児用シートの背面に強い衝撃を受け、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。
また、やむをえず幼児用シートを前向きに取り付ける場合は、SRSエアバッグから遠ざけるため、シートを一番後ろに下げてください。



知 識

●乳児用シート、幼児用シート、学童用シートは、お子さまの体重や身長によりお使いになれるタイプや取り付け方法が異なります。

・ISO FIX対応以外のチャイルドシートは、シート形状などにより、チャイルドシートを正しく取り付けできない席があります。このようなときは、他の席で試してください。または、この車に合ったチャイルドシートを使用してください。

・ISO FIXテザータイプのチャイルドシートは、専用バーとテザーアンカーを用いて固定します。チャイルドシートを前向きに取り付けるときは、このバーとテザーアンカーを用いて固定します。
後ろ向きに取り付けるときは、テザーアンカーは使用しません。
チャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。
セカンドシートのテザーアンカーにテザーストラップを結合することにより、チャイルドシートを確実に固定することができます。

ISO FIXテザータイプチャイルドシート固定装置　→139ページ

・Honda純正品をご用意しています。ご購入、ご使用に際してはHonda販売店にご相談ください。

知 識

《選択の目安》

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

ISO FIXタイプを除く

	体重(kg)	参考身長(cm)	参考年令
乳児用(ベビー)シート	～10	～75	～12か月
幼児用(チャイルド)シート	9～18	70～100	9か月～4才
学童用(ジュニア)シート	15～32	100～135	4才～10才

ISO FIXテザータイプ

	体重(kg)	参考身長(cm)	参考年令
乳児用(ベビー)シート	～9	～70	～9か月
幼児用(チャイルド)シート	9～18	70～100	9か月～4才

●シートベルトの取り扱い、手入れ

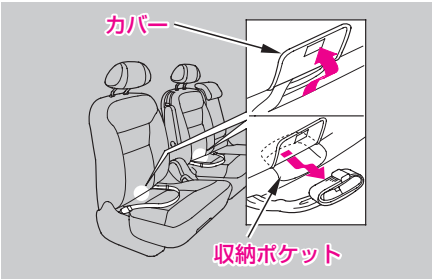
・ベルトを着用した状態で万一、事故にあった場合は機能を損なっている可能性があるため、ベルト一式を交換してください。
　また、ベルトにほつれ、すりきれ、破れなどができたときも交換してください。
・シートベルトを十分に機能させるために、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。
・ベルトが汚れた場合は、中性洗剤を溶かしたぬるま湯に布をひたしてふき取り乾かしてください。薬剤を使ったり漂白や染色は絶対しないでください。ベルトを弱めます。

●対座にしたときのシートベルトの使いかた

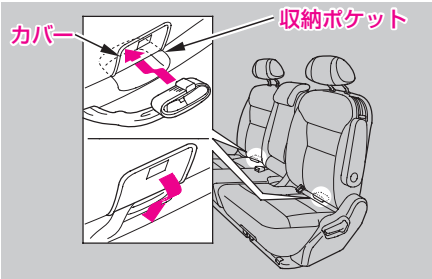
回転対座シート装備車

助手席側と中央は、収納ポケットのカバーをめくって、対座用二点式シートベルトを取り出して使います。運転席側は、前向き時の中央二点式シートベルトを使います。

二点式シートベルト　→134ページ



シートベルトを使わないときや、シートを前向きにしたときは、収納ポケットに戻し、カバーをシートクッションと背もたれの間にしまいます。



着用のしかた

●三点式シートベルト

①正しい運転姿勢でシートにすわります。
(→92ページ)

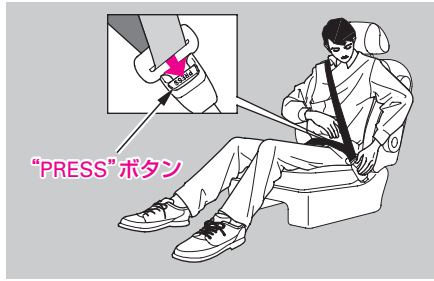
②タングプレートをつかみ、ゆっくり引き出します。

③ベルトにねじれがないようにし、タングプレートをバックルの中へ“カチリ”と音がするまで差し込みます。

④ベルトがねじれたり、引っかかったりしていないかを確認します。

⑤ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかかるように引き、たるみがないように身体に密着させます。

⑥外すときはバックルの“PRESS”ボタンを押します。
ベルトが自動的に収納されますので、ひっかかったり、ねじれたりしていないかを確認します。

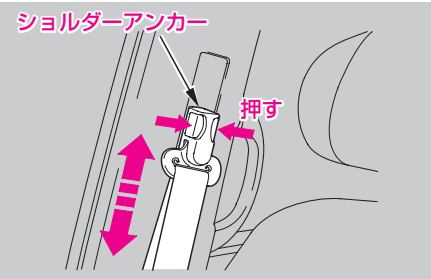


ショルダーアンカーの高さ調節（前席のみ）

座高に合わせて、ショルダーアンカーの高さを調節できます。

▼

通常はベルトが肩から外れないように最上段で使いますが、ベルトがくびに当たるときは、一段ずつ下げて調節してください。

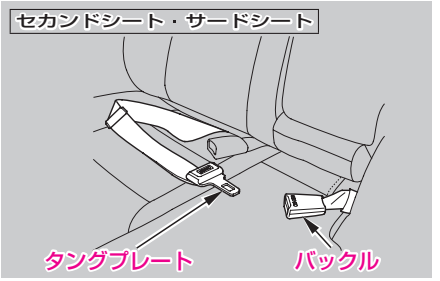


⚠注意

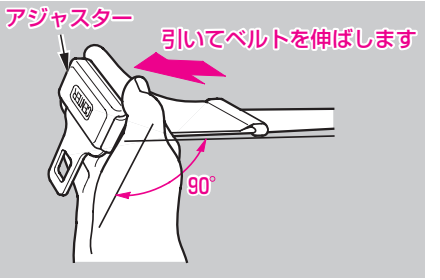
- 調節後は、ショルダーアンカーが確実に固定されていることを確認してください。

●二点式シートベルト

タングプレートは差し込む相手を間違えないようにしてください。中央座席のタングプレートとバックルに“CENTER”（センター）の表示があります。



①アジャスターを図のようにし、ベルトを引いて必要な長さより少し長めにします。



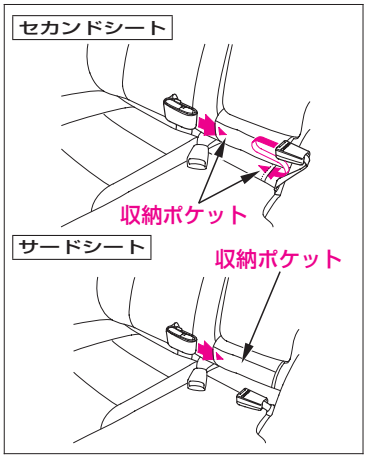
②ベルトにねじれがないようにし、タングプレートをバックルの中へ“カチリ”と音がするまで差し込みます。

③腰骨にかかるようにベルトを図のように引き、腰部に密着させます。

④外すときはバックルの“PRESS”ボタンを押します。
外したベルトはタングプレートとバックルを結合しておきます。

知 識

- シートベルトを使わないときは、タングプレートとバックルを図のように収納できます。



チャイルドシート固定装置

チャイルドシート固定機構付きシートベルト（セカンドシート外側 2 座席）（サードシート外側 2 座席）

セカンドシート外側 2 座席とサードシート外側 2 座席の三点式シートベルトには、チャイルドシート固定機構がついています。
シートベルトを引き出し方向に動かないようにできるため、チャイルドシートを固定することができます。
取り付けかたは、チャイルドシートの形状、取り付け方法によって異なります。チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付けてください。

⚠警告

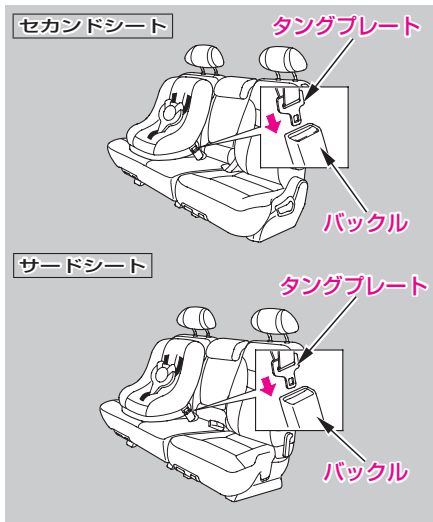
- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。
  固定機構が作動するとベルトがゆるまなくなり、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあります。
  万一ベルトをゆるめることができなくなった場合は、はさみなどでベルトを切断してください。
- **回転対座シート装備車**
  セカンドシートを対座（後ろ向き）にした場合にはチャイルドシートは使用できません。セカンドシートを前向きにするか、サードシート外側席に取り付けてください。

知 識

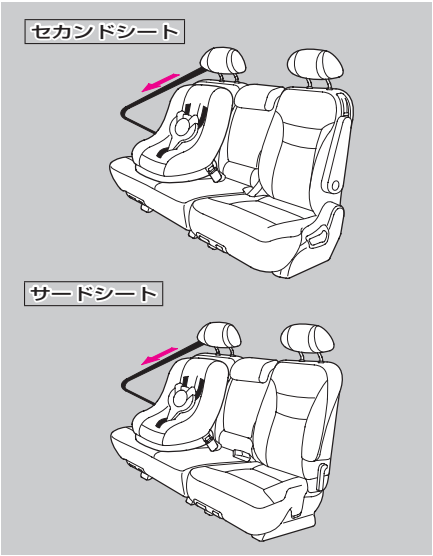
- ISO FIX対応のチャイルドシートを取り付けるとき
  ISO FIXテザータイプ
  チャイルドシート固定装置
  →139ページ

●チャイルドシートを取り付けるとき

①チャイルドシートをリヤシートに置きます。
②ベルトにねじれがないことを確認し、タングプレートをバックルの中へ“カチリ”と音がするまで差し込みます。



③ベルトをゆっくりと引き出します。すべて引き出すと、チャイルドシート固定機構が作動します。

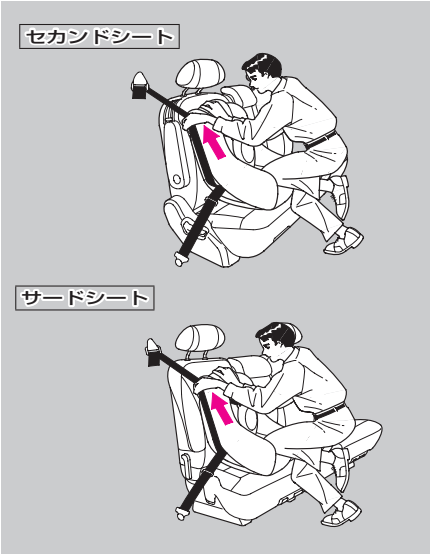


④ベルトを少し巻き取らせます。その後、ベルトをゆっくりと引き、ベルトが引き出し方向に動かないことを確認します。ベルトが引き出し方向に動く場合は、再度ベルトをすべて引き出してください。

⚠注意

- 必ずベルトが引き出し方向に動かないことを確認してください。
  ベルトが引き出し方向に動く状態では、チャイルドシート固定機構が作動していないので、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートがとび出し傷害を受けるおそれがあります。

⑤チャイルドシートに体重をかけてリヤシートに押しつけながら、ベルトを巻き取らせ、しっかりと固定します。



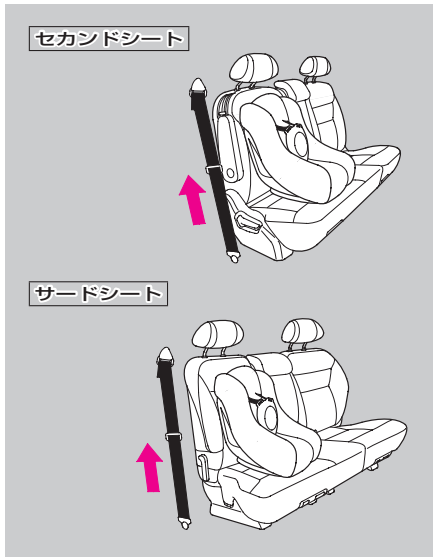
⚠注意

- チャイルドシートを前後左右にゆすって確実に固定されていることを確認してください。
  確実に固定されていないとブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートがとび出し傷害を受けるおそれがあります。

●解除のしかた

①チャイルドシートからベルトを外します。

②ベルトをいっぱいまで巻き取らせると、チャイルドシート固定機構は解除されます。



ISO FIXテザータイプ チャイルドシート固定装置（セカンドシート外側2座席）

セカンドシート外側の2座席には、ISO FIXテザータイプのチャイルドシートを固定するための専用バーとテザーアンカーが装備されています。

この車用に認可を取得したチャイルドシートのみ固定し、使用することができます。
チャイルドシートを前向きに取り付けるときは、このバーとテザーアンカーを用いて固定します。
後ろ向きに取り付けるときは、テザーアンカーは使用しません。チャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。
Honda純正品をご用意しています。
ご購入、ご使用に際してはHonda販売店にご相談ください。

知 識

- チャイルドシート固定機構付きシートベルトを使って取り付けるとき

チャイルドシート固定機構付きシートベルト　→136ページ

●チャイルドシートを取り付けるとき

⚠注意

- チャイルドシートを取り付けるときは、専用バー周辺に異物がないこと、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。異物やシートベルトなどをかみ込むとチャイルドシートが確実に固定されず、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートがとび出し傷害を受けるおそれがあります。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって確実に固定されていることを確認してください。
  確実に固定されていないとブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートがとび出し傷害を受けるおそれがあります。
- **回転対座シート装備車**
  セカンドシートを対座（後ろ向き）にした場合にはチャイルドシートは使用できません。セカンドシートを前向きにするか、サードシート外側席に取り付けてください。

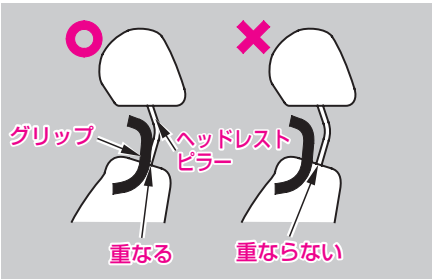
前向きに取り付けるとき

①チャイルドシートを取り付ける側のセカンドシートを一番後ろに下げます。

セカンドシート前後位置の調節
→102ページ

②チャイルドシートを取り付ける側のフロントシートのヘッドレストピラー根元が、グリップと重なる位置よりも前になるように、背もたれの角度、シートの前後位置を調節します。

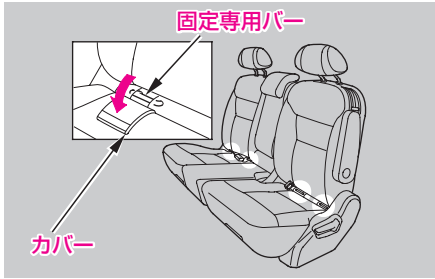
フロントシート前後位置の調節
→96、99ページ
フロントシートの背もたれの調節
→96、99ページ



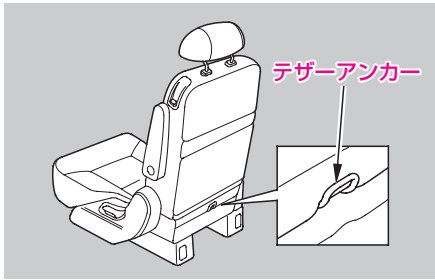
⚠注意

- お子さまを安全に乗せるためにフロントシートの位置を調節してください。
  運転者が正しい運転姿勢を取れない場合には、助手席側のセカンドシートにチャイルドシートを取り付けてください。

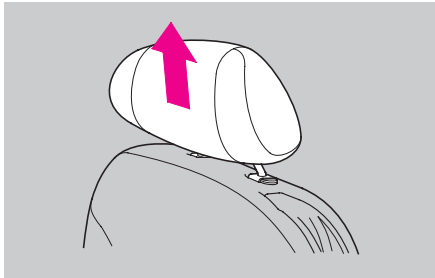
③シートクッションと背もたれのすき間にあるカバーをめくって、専用バーの位置を確認します。



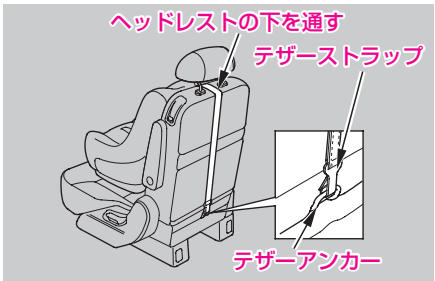
④シートクッション後部にあるテザーアンカーの位置を確認します。



⑤セカンドシートのヘッドレストを持ち上げて最上段で固定し、テザーストラップはヘッドレストの下を通します。

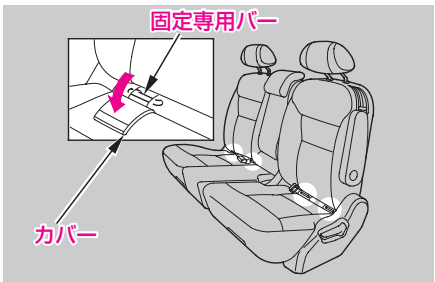


⑥チャイルドシートとテザーストラップをチャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付けます。



後ろ向きに取り付けるとき

①シートクッションと背もたれのすき間にあるカバーをめくって、専用バーの位置を確認します。

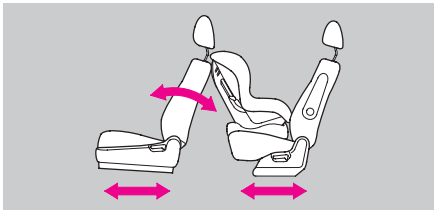


②チャイルドシートをチャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付けます。

③チャイルドシートの上部がフロントシートの背もたれに接するように、シートの前後位置や、フロントシートの背もたれの角度を調節します。

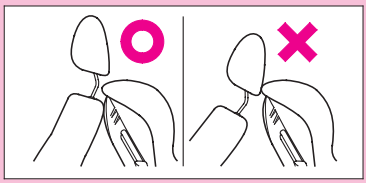
フロントシート　→96、99ページ

セカンドシート前後位置の調節　→102ページ



⚠注意

- 運転者が正しい運転姿勢を取れない場合には、助手席側のセカンドシートにチャイルドシートを取り付けてください。
- チャイルドシートは必ずフロントシートの背もたれに接するようにして、ヘッドレストでは支えないでください。



●取り外すとき

チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り外します。

2

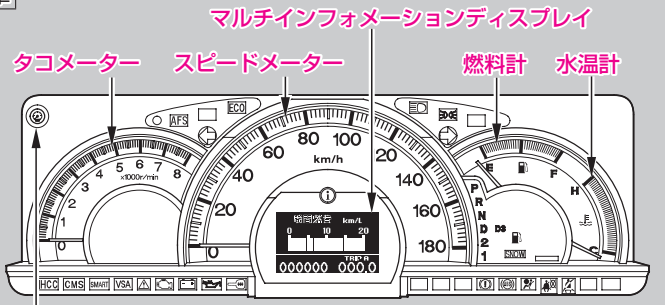
車を運転するときに

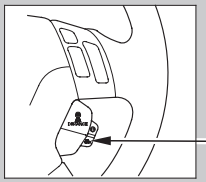
●メーター……144
イルミネーションコントロール‥150
●マルチインフォメーション ディスプレイ……152
表示について……153
警告表示について……154
●表示灯……160
●警告灯……168
セーフティインジケーター‥178
警告灯の電球切れの点検……179
●スイッチの使いかた
エンジンスイッチ……180
ライトスイッチ……182
方向指示器(ウィンカー) スイッチ……187
ワイパー／ウォッシャー スイッチ……188
フロントガラス熱線 スイッチ……192
リヤデフロスタースイッチ‥193
非常点滅表示灯(ハザード) スイッチ……194
ホーンスイッチ……194
●運転のしかた
エンジンのかけかた……196
パーキングブレーキ……199
セレクトレバーの 操作……202
オートマチック車の運転の しかた……207
クルーズコントロール……216
●Hondaスマートカードキー システム
Hondaスマートカードキー システムとは……222
キー……223
Hondaスマートカードキー システムの作動範囲 について……227
ドア、テールゲートの 施錠･解錠……230
エンジンスイッチノブ……235
エンジンのかけかた……239
カードキーの電池交換……242
警告表示について……243

メーター

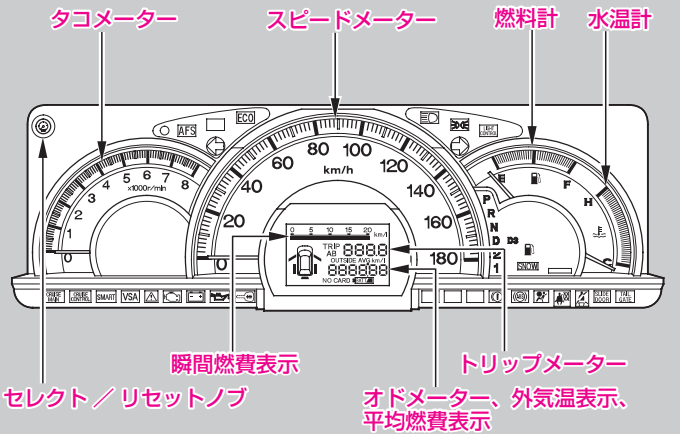
イラストは代表例を掲載しています。

IHCC装備車





IHCC非装備車



スピードメーター
走行速度をkm/hで示します。

タコメーター
1分間あたりのエンジン回転数を示します。

アドバイス
- エンジン故障の原因となりますので、限界回転数以上(レッドゾーン)に入らないように運転してください。特に高速走行時、変速(シフトダウン)するときには注意してください。
  限界回転数 ‥‥‥ 6,500 rpm
- 停車中の空ぶかしは、エンジン回転数が下表の回転数になると燃料供給が停止されます。

タイプ	限界回転数（rpm）
VZ、VX、VG	5,000
X、G、M	4,000

オド／トリップメーター、外気温表示、平均燃費表示

エンジンスイッチを“II”にするとオドメーター、トリップメーター、平均燃費または外気温が表示されます。

▼

表示の切り換え

IHCC非装備車

セレクト／リセットノブを押すごとに「･･･“オドメーター／TRIP A”→“AVG km/l（平均燃費表示）／TRIP A”→“AVG km/l（平均燃費表示）／TRIP B”→“OUTSIDE（外気温表示）／TRIP A”→“オドメーター／TRIP A”→･･･」の順に表示が切り換わります。

IHCC装備車

表示の切り換え　→153ページ

オドメーター

走行距離の累計をkmで示します。

トリップメーター

リセットしてからの走行距離をkmで示します。“TRIP A”と“TRIP B”でそれぞれ別の走行距離を知ることができます。

IHCC非装備車

①セレクト／リセットノブを押して“TRIP A”または“TRIP B”を選びます。

②セレクト／リセットノブをメーター表示が“0”になるまで押し続けて、リセットされたらノブを離します。

IHCC装備車

表示の切り換え　→153ページ

知　識

- 走行距離が999.9kmを超えると0kmに戻ります。
- IHCC装備車

  “TRIP A”を給油と連動させて、給油時に自動的にリセットさせることができます。

  カスタマイズ機能　→386ページ

  “TRIP A”給油連動時

  “TRIP A”は給油と連動して自動的にリセットされます。給油量が少ないと、自動的にリセットされないことがあります。
- “TRIP A”または“TRIP B”をリセットすると、それぞれの平均燃費もリセットされます。

  平均燃費表示　→148ページ

外気温表示

外気温を測定し表示します。
外気温が下がってきて 3 °C以下になったとき、外気温を点滅して表示します。
このとき表示がオドメーターまたは平均燃費であれば、自動的に外気温を表示し、約 1 分後に元の表示に戻ります。

IHCC装備車

外気温が下がってきて 3 °C以下になったとき、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み表示します。

マルチインフォメーションディスプレイ →152ページ

知 識

- フロントバンパー付近の外気温を測定しているため、エンジンルームや路面の熱の影響を受けやすい停車中や渋滞中など（約30km/h以下）は正しい外気温を表示しないことがあります。
- エンジンスイッチを“II”にしたとき、すでに外気温が 3 °C以下の場合は、点滅表示、マルチインフォメーションディスプレイの割り込み表示および外気温表示への切り換えは作動しません。
- 点滅表示、マルチインフォメーションディスプレイの割り込み表示および外気温表示への切り換えは、エンジンスイッチを“II”にしてから最初に 3 °C以下に下がったときにのみ作動します。
- 外気温の設定を補正して表示することが出来ます。

外気温補正の設定　→148ページ

外気温補正の設定

外気温表示の表示温度に補正をかけることができます。

＋3℃から－3℃の間で設定できます。

IHCC非装備車

①セレクト／リセットノブを押して外気温を表示させます。

②セレクト／リセットノブを押し続けると(約10秒)、外気温の補正表示に切り換わります。数字は約1秒毎に“0→1→2→3→－3→－2→－1→0”の順に切り換わります。

③補正をかけたい温度の数字が表示されたらセレクト／リセットノブを離します。

IHCC装備車

マルチインフォメーションディスプレイを使って、外気温補正の設定を変更することができます。

カスタマイズ機能　→386ページ

平均燃費表示

トリップメーター(“TRIP A”、“TRIP B”)と連動し、それぞれの平均燃費を約10秒間ごとに更新して、km/lで表示します。

・リセット

給油時に自動的に“TRIP A”の燃費計算をリセットします。また、“TRIP A”または“TRIP B”がリセットされると、それぞれの平均燃費もリセットされます。

トリップメーター　→146ページ

知 識

- 停車時または低速走行中にリセットしたときは、走行を始めてから燃費の計算を開始します。
- 表示される平均燃費は、実際に走行した燃費と異なる場合があります。
- 給油量が少ないと自動的にリセットされないことがあります。
- **IHCC装備車**
  “TRIP A”を給油と連動させて、給油時に自動的にリセットさせることができます。

カスタマイズ機能　→386ページ

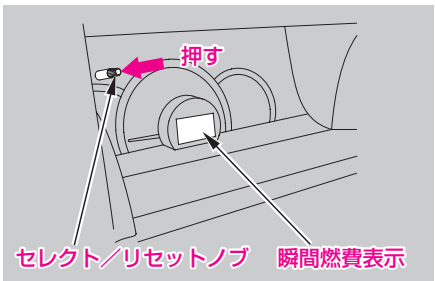
瞬間燃費表示

エンジンスイッチが“II”のとき、瞬間燃費をバーグラフにkm/lで表示します。

瞬間燃費表示を消したいとき

IHCC非装備車

平均燃費を表示中にセレクト／リセットノブを押したままにし(約5秒間保持)、瞬間燃費表示が消えたらセレクト／リセットノブを離します。



再度表示させるときは同じ操作を繰り返します。

知　識

- セレクト／リセットノブを押し、瞬間燃費表示が消える前にノブを放すとTRIP Aがリセットされます。

IHCC装備車

表示の切り換え　→153ページ

燃料計

エンジンスイッチが“II”のとき、燃料の残量を示します。

“E”に近づいたら早めに補給してください。

燃料補給について　→79ページ

水温計

エンジンスイッチが“II”のとき、エンジン冷却水の温度を示します。

走行中は“H”の目盛より下側をさすのが正常です。

アドバイス

- 針が“H”の目盛に入った場合はオーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停めてエンジンを冷やしてください。
  そのまま走行を続けるとエンジン故障の原因となります。
  オーバーヒートしたとき
  →438ページ

イルミネーション コントロール

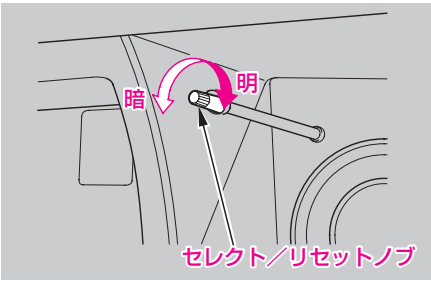
セレクト／リセットノブを回すと、メーター表示の明るさが、車幅灯点灯時と消灯時にそれぞれ別々に調節できます。

エンジンスイッチが“II”のときノブを回して明るさを調節します。

明るくするとき…
ノブを右に回します。明るさが最大になると“ピッ”という電子音がなります。

暗くするとき…
ノブを左に回します。明るさが最小になると“ピッ”という電子音がなります。

車外の明るさに応じてお好みで調節してください。

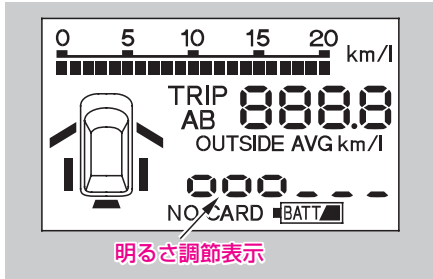


明るさ調節表示

ノブを回して明るさを調節すると、オドメーターが明るさ調節表示に切り換わります。

IHCC非装備車

○ が右に増えて行くほどメーターが明るく表示されます。



IHCC装備車

が右に増えて行くほど、メーターが明るく表示されます。

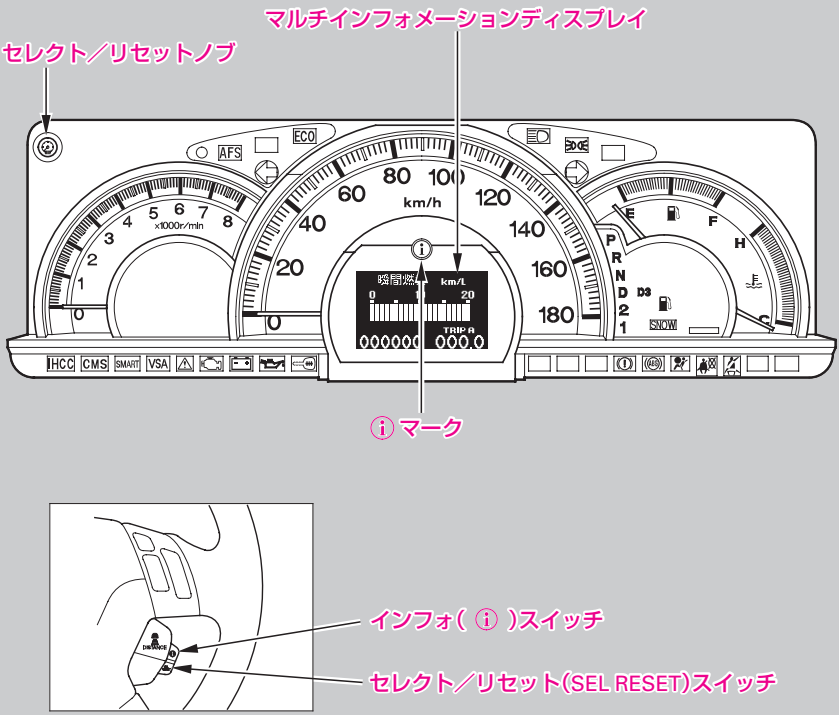
知 識

- 次の動作をしたときは、元の表示に切り換わります。
  - ・調節後約 5 秒すぎたとき
  - ・セレクト／リセットノブを押したとき
- 車幅灯点灯時に、ノブを右にいっぱい(明るさ最大)まで回すと、車幅灯点灯時の減光が解除されます。
- 運転席ドアを開けると、メーターが減光した状態で点灯します。(ウェルカムメーター照明)
- 次のようなとき、メーターの照明は消灯します。
  - ・運転席ドアを開けてから、何もせずに約 3 分経過したとき
  - ・運転席ドアを閉めてから、何もせずに約30秒経過したとき
  - ・エンジンスイッチが“ I ”または“ 0 ”のまま約10秒経過したとき

マルチインフォメーション ディスプレイ

IHCC装備車

イラストは代表例を掲載しています。



知 識

- 運転席ドアを開けるとメーターの目盛りが点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに“Welcome”のメッセージが表示されます。(ウェルカムメーター照明)
  この“Welcome”のスクロール速度の設定を変更することができます。
  カスタマイズ機能　→386ページ
- エンジンスイッチを“II”から“ I ”にすると、マルチインフォメーションディスプレイに“Good bye”が表示されます。

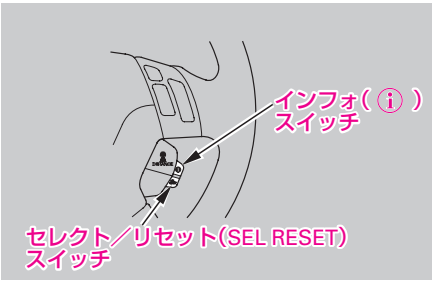
表示について

異常を検知すると、警告表示が割り込み表示され、約5秒後に通常表示に戻ります。また、ディスプレイの上部に ⓘ マークが点灯します。

警告の表示について　→154ページ

表示の切り換え

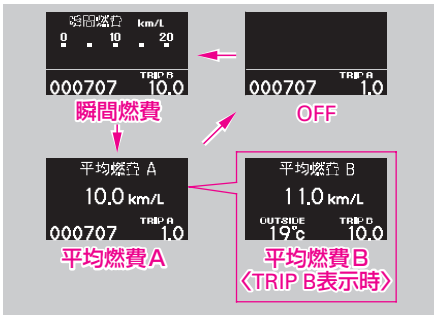
インフォ(ⓘ)スイッチまたはセレクト／リセット(SEL RESET)スイッチを押すごとに、マルチインフォメーションディスプレイの画面表示が切り換わります。



・インフォ(ⓘ)スイッチ

スイッチを押すごとに画面表示が次のように切り換わります。

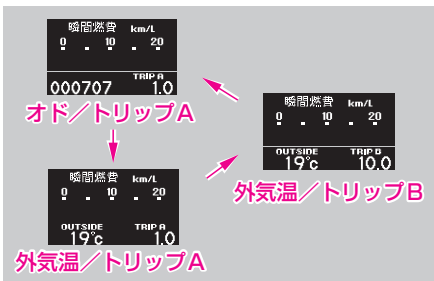
“平均燃費B”を表示させるには、セレクト／リセット(SEL RESET)スイッチで“TRIP B”を表示させてください。



・セレクト／リセット(SEL RESET)スイッチ

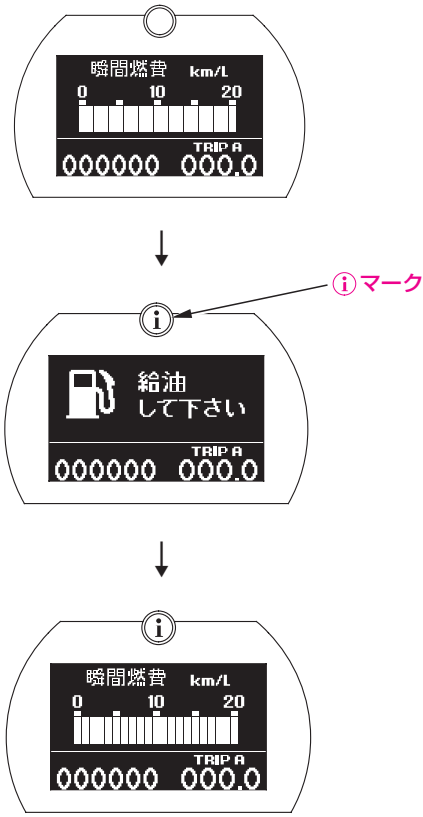
スイッチを押すごとに画面表示が次のように切り換わります。

トリップメーターをリセットする場合は、“TRIP A”または“TRIP B”を表示中にセレクト／リセット(SEL RESET)スイッチを、トリップメーターが0になるまで押し続けます。



警告表示について

異常を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告表示が割り込まれます。



通常表示

割り込み表示

通常表示

警告表示がマルチインフォメーションディスプレイに表示されたときは、表示灯、警告灯の該当ページを参照して、必要な処置を行ってください。

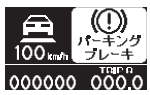
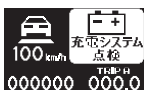
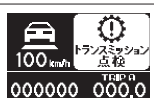
ⓘ マークが点灯しているときにインフォ(ⓘ)スイッチを押すと、警告表示を再表示させる事ができます。

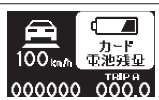
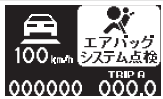
●表示一覧

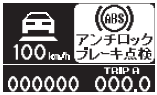
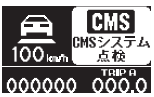
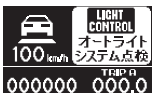
マルチインフォメーションディスプレイに表示される警告表示の一覧です。
表示灯、警告灯の該当ページを参照して、必要な処置を行ってください。

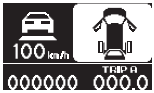
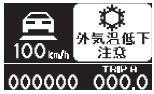
表示について

表示①は、車の異常を検知すると表示されます。IHCCスイッチがONのときはIHCC作動時の表示になります。
また、通常表示に戻ったあとも、インフォ(ⓘ)スイッチを押すと表示されます。
表示②は停車中に、表示①を表示したあとに表示されます。

表示 ①	IHCC作動時	表示 ②	処置(参照先)
		—	ブレーキ警告灯 →171ページ
		—	
			油圧警告灯 →172ページ
			PGM-FI警告灯 →172ページ
			充電警告灯 →173ページ
			トランスミッション警告灯 →173ページ

表示 ①	IHCC作動時	表示 ②	処置(参照先)
		—	シートベルト非着用警告灯 →173ページ
		—	燃料残量警告灯 →174ページ
		—	Hondaスマートカードキーシステム(SMART)警告灯 →174ページ
			カードキー持ち去り警告 →243ページ
			カードキーの電池が消耗したとき →246ページ
		—	インテリジェントハイウェイクルーズコントロール(IHCC)警告灯 →174ページ
		—	SRSエアバッグシステム警告灯 →175ページ

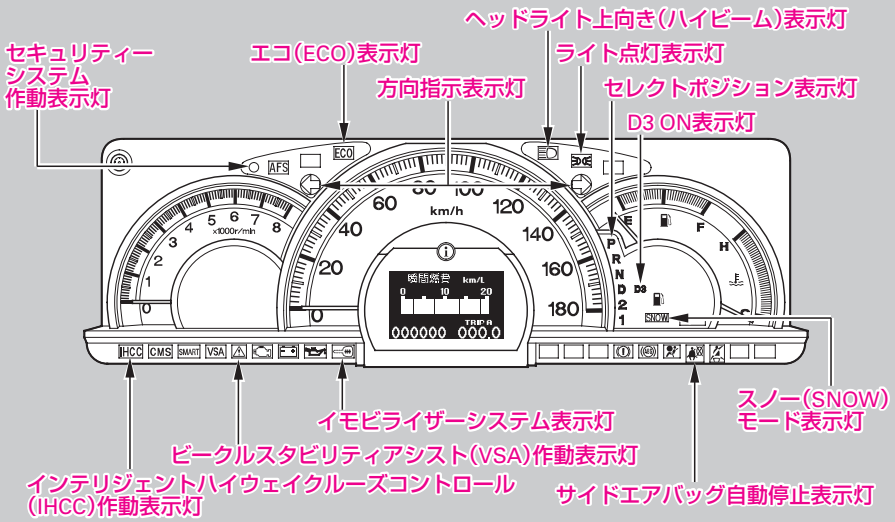
表示 ①	IHCC作動時	表示 ②	処置(参照先)
			サイドエアバッグ自動停止表示灯 →164ページ
		—	アンチロックブレーキ(ABS)システム警告灯 →174ページ
		—	ビークルスタビリティアシスト(VSA：車両挙動安定化制御システム)警告灯 →175ページ
		—	追突軽減ブレーキ(CMS)警告灯 →176ページ
			追突軽減ブレーキ(CMS)レーダー汚れ表示 →288ページ
		—	アダプティブフロントライティングシステム(AFS)警告灯 →176ページ
		—	オートライトコントロール警告灯 →177ページ

表示 ①	IHCC作動時	表示 ②	処置(参照先)
		—	パワースライドドア →177ページ
		—	パワーテールゲート →177ページ
		—	セーフティインジケーター →178ページ
		—	外気温低下表示 →147ページ

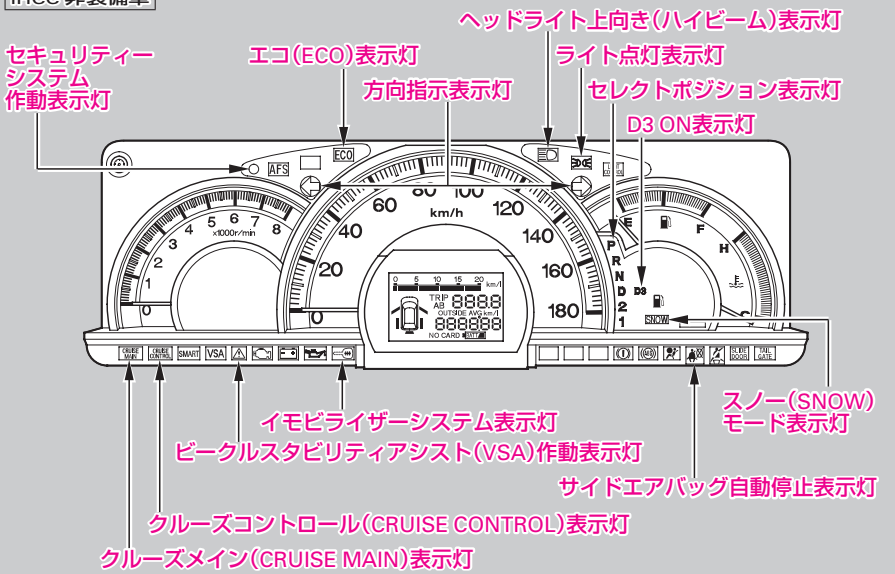
表示灯

イラストは代表例を掲載しています。

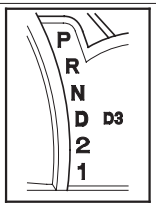
IHCC 装備車



IHCC 非装備車



表示灯はタイプ等により、装備の有無があります。下表の装備一覧をご覧ください。

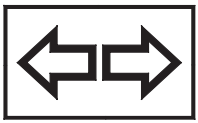
表示灯	タイプ					
	VZ	VX	VG	X	G	M
方向指示器表示灯	○	○	○	○	○	○
ヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯	○	○	○	○	○	○
ライト点灯表示灯	○	○	○	○	○	○
 セレクトポジション表示灯	○	○	○	○	○	○
イモビライザーシステム表示灯	○	○	○	○	○	○
サイドエアバッグ自動停止表示灯	△	△	△	△	△	△
D3 ON表示灯	○	○	○	○	○	○
クルーズメイン（CRUISE MAIN）表示灯	–	○	○	–	–	–
クルーズコントロール（CRUISE CONTROL）表示灯	–	○	○	–	–	–

○：標準装備
△：注文装備

表示灯はタイプ等により、装備の有無があります。下表の装備一覧をご覧ください。

表示灯		タイプ					
		VZ	VX	VG	X	G	M
IHCC	インテリジェントハイウェイクルーズコントロール(IHCC)作動表示灯(グリーン)	○	−	−	−	−	−
	ビークルスタビリティアシスト(VSA)作動表示灯	○	△	△	−	−	−
ECO	エコ(ECO)表示灯	○	○	○	−	−	−
SNOW	スノー(SNOW)モード表示灯	○	○	○	−	−	−
	セキュリティーシステム作動表示灯	○	○	○	○	○	○

○：標準装備
△：注文装備



方向指示器表示灯
方向指示器のランプの点滅状態を表示します。

知 識

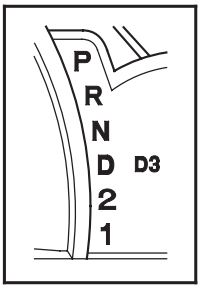
- 電球が切れたときや、ワット(W)数の違ったものを使ったときは、表示灯の点滅周期が異常になります。

  電球(バルブ)の交換
  →454、456ページ

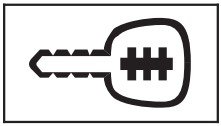
  電球(バルブ)のワット数
  →505ページ

ヘッドライト上向き(ハイビーム)表示灯
ヘッドライトが上向きのときに点灯します。

ライト点灯表示灯
ライトスイッチが“OFF”以外のとき(ただし、“AUTO”のときは車幅灯やヘッドライトが点灯しているときのみ)点灯します。



セレクトポジション表示灯(トランスミッション警告灯兼用)
使用中のセレクトレバー位置が表示されます。
トランスミッションが異常のときには、Dが点滅します。
→173ページ



イモビライザーシステム表示灯

エンジンスイッチを“II”にすると、数秒間点灯してから消灯します。消灯したらエンジンを始動することができます。
点滅したときは、エンジンを始動することができません。

エンジンスイッチを次のようにしたときも、数回点滅します。

- キーを使ってエンジンスイッチを“II”から“I”または“0”にしたとき
- Hondaスマートカードキーシステム装備車で、カードキーを使ってエンジンスイッチノブを“0”（プッシュオフ）にしたとき

イモビライザーシステム　→41ページ

サイドエアバッグ自動停止表示灯

注文装備

乗員姿勢検知システムにより、助手席用サイドエアバッグの作動を自動停止しているときに点灯します。

▼

点灯したときは

上体を起こして座ってください。また、小さなお子さまの場合は、後席に乗せてください。

乗員姿勢検知システム　→266ページ

D3 ON表示灯

D3スイッチがONのとき点灯します。エンジンスイッチを“II”にしたときに点灯し、数秒後に消灯するのが正常です。

D3 スイッチ　→204ページ

クルーズメイン(CRUISE MAIN)表示灯

タイプ別装備

CRUISEスイッチを押して“ON”にすると点灯します。

クルーズコントロール　→216ページ

クルーズコントロール(CRUISE CONTROL)表示灯

タイプ別装備

自動定速走行しているときに点灯します。

クルーズコントロール　→216ページ

インテリジェントハイウェイクルーズコントロール(IHCC)作動表示灯

タイプ別装備

IHCCスイッチを押して“ON”にすると点灯します。

詳細については、別冊のIHCC取扱説明書をご覧ください。

ビークルスタビリティアシスト(VSA：車両挙動安定化制御システム)作動表示灯

タイプ別装備

VSAが作動中に点滅します。
VSAを"OFF"にしたときと、VSAに異常があるときに点灯します。

→284ページ

知 識

- VSA警告灯が点灯するとVSA作動表示灯も同時に点灯します。

VSA警告灯　→175ページ

エコ(ECO)表示灯

VZ、VX、VG

定速走行時や減速運転時のエンジンの燃費の状態が良いときに点灯し、経済運転をしていることをお知らせします。

知 識

- セレクトレバーがD以外の位置では、点灯しません。
- 停車中や低車速での走行時も点灯しません。

スノー(SNOW)モード表示灯

VZ、VX、VG

SNOWモードのときに点灯します。

スノー(SNOW)モード　→204ページ

セキュリティーシステム作動表示灯

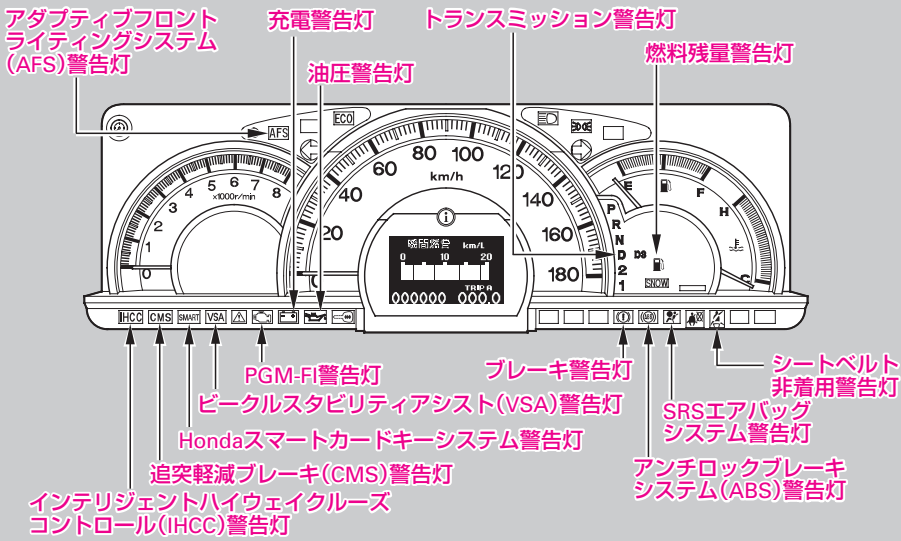
セキュリティーシステムがセットされているときに点滅します。

セキュリティーシステムについて
→410ページ

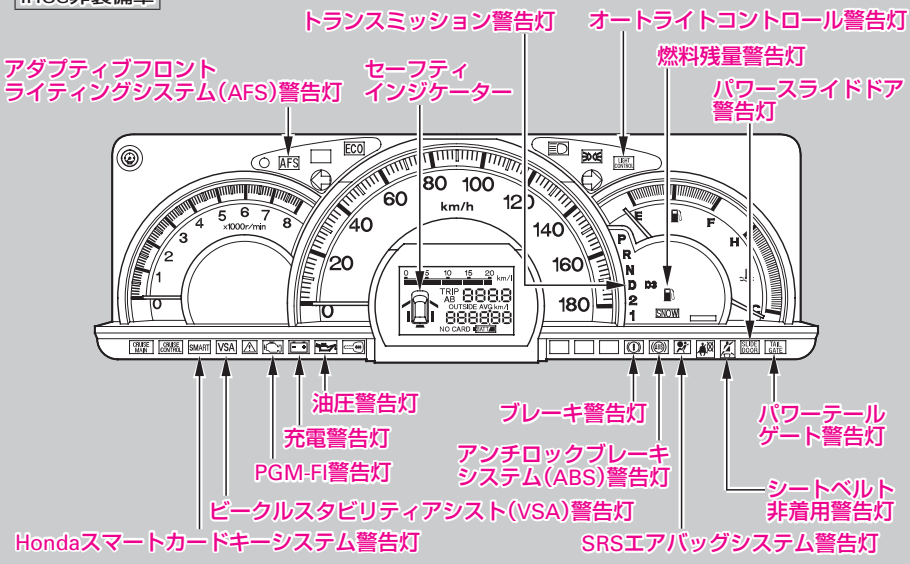
警告灯

イラストは代表例を掲載しています。

IHCC装備車



IHCC非装備車



警告灯は下表の装備一覧をご覧ください。

警告灯	タイプ					
	VZ	VX	VG	X	G	M
ブレーキ警告灯	○	○	○	○	○	○
油圧警告灯	○	○	○	○	○	○
PGM-FI警告灯	○	○	○	○	○	○
充電警告灯	○	○	○	○	○	○
トランスミッション警告灯 （セレクトポジション表示灯兼用）	○	○	○	○	○	○
シートベルト非着用警告灯	○	○	○	○	○	○
燃料残量警告灯	○	○	○	○	○	○
Hondaスマートカードキー システム警告灯	○	○	△	△	△	−
インテリジェントハイウェイ クルーズコントロール（IHCC） 警告灯（オレンジ）	○	−	−	−	−	−
アンチロックブレーキ システム（ABS）警告灯	○	○	○	○	○	○
SRSエアバッグシステム 警告灯	○	○	○	○	○	○

○：標準装備
△：注文装備

警告灯はタイプ等により、装備の有無があります。下表の装備一覧をご覧ください。

警告灯		タイプ					
		VZ	VX	VG	X	G	M
VSA	ビークルスタビリティアシスト(VSA)警告灯	○	△	△	−	−	−
CMS	追突軽減ブレーキ(CMS)警告灯	○	−	−	−	−	−
AFS	アダプティブフロントライティングシステム(AFS)警告灯	○	△	△	−	−	−
SLIDE DOOR	パワースライドドア警告灯	−	○	○	○	○	−
TAIL GATE	パワーテールゲート警告灯	−	△	−	△	−	−
LIGHT CONTROL	オートライトコントロール警告灯	−	○	○	○	○	−

○：標準装備
△：注文装備

ブレーキ警告灯

パーキングブレーキが完全に解除されていないときやブレーキ液量がいちじるしく減少しているときに点灯します。また、ABSが異常のときABS警告灯と同時に点灯することがあります。
マルチインフォメーションディスプレイ（IHCC装備車）にも警告が表示されます。

▼

ブレーキ液量点検

走行中点灯したときやパーキングブレーキを解除しても消灯しないときは、
①ブレーキ液量を点検します。
②下限より下がっていたらただちにHonda販売店へご連絡ください。
ブレーキ液量が下限以下になっていないのに点灯するときや、パーキングブレーキをかけても点灯しないときは、お早めにHonda販売店で点検を受けてください。

ブレーキシステム点検

ブレーキ液量が正常で、アンチロックブレーキシステム（ABS）警告灯と同時に点灯したときは、アンチロックブレーキシステム（ABS）の異常が考えられます。高速走行や急ブレーキを避けて、ただちにHonda販売店で点検を受けて下さい。

パーキングブレーキ解除

パーキングブレーキが完全に解除されていない状態で走行（車速約 7 km/h以上）するとブザーが鳴り、パーキングブレーキの戻し忘れを知らせます。パーキングブレーキを完全に解除するとブザーは止まります。
パーキングブレーキを解除するときは、一旦停車してから操作してください。

知　識

- 停車（車速約 3 km/h以下）するとブザーによる警告は一旦止まります。

油圧警告灯

エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯します。
マルチインフォメーションディスプレイ(IHCC装備車)にも警告が表示されます。

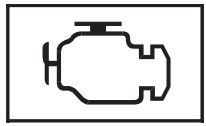
▼

点灯したときは

エンジン回転中に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車してエンジンを止め、エンジンオイル量を点検してください。
エンジンオイルが減っていないのに点灯しているときや、エンジンオイルを補給しても点灯するときは、ただちにHonda販売店へご連絡ください。

アドバイス

- 点灯したまま走行しないでください。エンジンが破損するおそれがあります。



PGM-FI警告灯

エンジン制御システムが異常のときに点灯します。
触媒装置が異常のときには点滅します。
マルチインフォメーションディスプレイ(IHCC装備車)にも警告が表示されます。

▼

点灯したときは

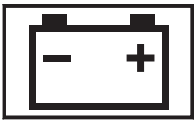
運転中に点灯した場合は、高速走行を避けて、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

点滅したときは

①走行中に点滅した場合は、枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10分間以上エンジンを止めて、冷えるまでお待ちください。
②エンジン再始動後、警告灯が消灯しないときや再び点滅するときは、触媒装置保護のため、急加速、急減速などの無理な運転を避け、50km/h以下の速度で、最寄りのHonda販売店まで走行し点検を受けてください。

アドバイス

- エンジン各気筒の失火状態を検知し、警告灯を点滅させる機能を持っています。警告灯が点滅した状態で運転は続けないでください。触媒装置を焼損することがあります。



充電警告灯

充電系統が異常のときに点灯します。
マルチインフォメーションディスプレイ（IHCC装備車）にも警告が表示されます。

▼

点灯したときは

運転中に点灯した場合は、電気の消費を減らすため、エアコンスイッチ、リヤデフロスタースイッチを“OFF”にして、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

トランスミッション警告灯（セレクトポジション表示灯兼用）

トランスミッションが異常のときに点滅します。
マルチインフォメーションディスプレイ（IHCC装備車）にも警告が表示されます。

▼

点滅したときは

運転中に点滅した場合は、急発進、急加速を避けて、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

シートベルト非着用警告灯

エンジンスイッチを“II”にすると、運転席シートベルトを着用するまでシートベルトリマインダー（非着用警報装置）が作動し、点灯し続けます。
また、エンジンスイッチを“II”にしたときや走行したときは、運転席シートベルトを着用するまでブザーが鳴ります。
（ブザーが鳴っている間は、警告灯が点滅します。）
マルチインフォメーションディスプレイ（IHCC装備車）にも警告が表示されます。

知　識

- 運転席シートベルトを着用していない場合でも、停車すると、ブザーは止まります。また、走行しているときでも一定回数を超えると、ブザーは止まります。
- セレクトレバーをRに入れたときは、後退位置警報装置のチャイムが鳴り、シートベルト非着用警告ブザーは鳴りません。

燃料残量警告灯

燃料タンク内のガソリン残量が11ℓ（2WD車）、10ℓ（4WD車）前後になったときに点灯します。

マルチインフォメーションディスプレイ（IHCC装備車）にも警告が表示されます。

燃料の補給　→79ページ

Hondaスマートカードキーシステム警告灯

タイプ別装備

Hondaスマートカードキーシステムが異常のときに点灯します。

マルチインフォメーションディスプレイ（IHCC装備車）にも警告が表示されます。

→247ページ

インテリジェントハイウェイクルーズコントロール（IHCC）警告灯（インテリジェントハイウェイクルーズコントロール（IHCC）表示灯兼用）

タイプ別装備

IHCCが異常のときオレンジ色で点灯します。

マルチインフォメーションディスプレイにも警告が表示されます。

詳細については、別冊のIHCC取扱説明書をご覧ください。

アンチロックブレーキシステム（ABS）警告灯

ABSが異常のときに点灯します。

マルチインフォメーションディスプレイ（IHCC装備車）にも警告が表示されます。

→281ページ

SRSエアバッグシステム警告灯(エアバッグシステムとシートベルトシステム警告灯兼用)

次のシステムの異常を検出すると点灯します。
マルチインフォメーションディスプレイ(IHCC装備車)にも警告が表示されます。

SRS エアバッグシステム　→257ページ
サイドエアバッグシステム／
サイドカーテンエアバッグシステム
→258ページ
シートベルトプリテンショナー
→274ページ
E-プリテンショナー　→278ページ

ビークルスタビリティアシスト(VSA：車両挙動安定化制御システム)警告灯

タイプ別装備

VSAが異常のときに点灯します。
マルチインフォメーションディスプレイ(IHCC装備車)にも警告が表示されます。

→287ページ

知 識

- ABS警告灯が点灯するとVSA警告灯も同時に点灯します。
- ブレーキアシストの装置に異常があるとVSA警告灯が点灯します。
- VSA警告灯が点灯したときはブレーキアシストは作動しません。

CMS

追突軽減ブレーキ(CMS)警告灯

IHCC装備車

追突軽減ブレーキ(CMS)が異常のとき、またはOFFのときに点灯します。
マルチインフォメーションディスプレイにも警告が表示されます。
レーダーセンサーカバーの汚れなどで前方の車両を検知できず、システム停止したときも点灯します。

CMSの停止について →294ページ
CMSの自動停止について →294ページ

AFS

アダプティブフロントライティングシステム(AFS)警告灯

タイプ別装備

AFSが異常のときに点滅します。
マルチインフォメーションディスプレイ(IHCC装備車)にも警告が表示されます。
運転中にAFS警告灯が点滅したときは、安全な場所に停車しエンジンスイッチを“I”または“0”に回してから、エンジンを再始動してください。そのとき警告灯が消灯すれば正常です。
消灯しないときや再び点滅したときは、通常走行に支障はありませんがお早めにHonda販売店で点検を受けてください。

アダプティブフロントライティングシステム(AFS) →184ページ

また、ヘッドライト点灯時にAFS OFFスイッチを押してAFSを作動停止状態にすると点灯します。

知 識

- ヘッドライトが点灯していないときは警告灯は消灯します。

SLIDE DOOR

パワースライドドア警告灯

タイプ別装備

パワースライドドアシステムが異常のときに点灯します。
IHCC装備車はマルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されます。

▼

点灯したときは

点灯した場合は、メインスイッチを“OFF”にして手動でドアを開閉し、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

メインスイッチ　→49ページ

TAIL GATE

パワーテールゲート警告灯

タイプ別注文装備

パワーテールゲートが異常のときに点灯します。
IHCC装備車はマルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されます。

→69ページ

LIGHT CONTROL

オートライトコントロール警告灯

タイプ別装備

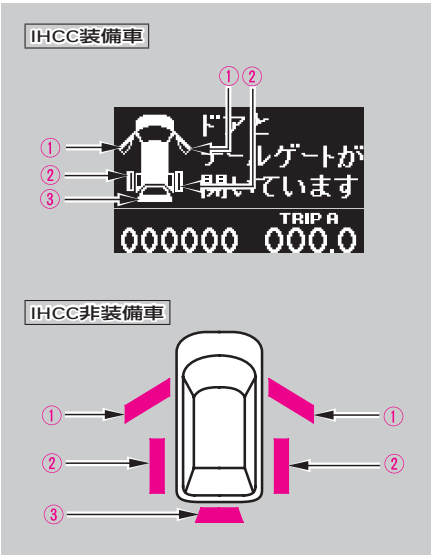
オートライトコントロールが異常のとき点灯します。
IHCC装備車はマルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されます。

知　識

- 運転中に点灯した場合は、ライトの点灯や消灯は手動で行い、Honda販売店で点検を受けてください。

オートライトコントロール
→182ページ

セーフティインジケーター



①フロントドア開閉警告灯
ドアが完全に閉まっていないときに点灯します。

▼

ドアを完全に閉めてください。

②スライドドア開閉警告灯
スライドドアが完全に閉まっていないときに点灯します。

▼

スライドドアを完全に閉めてください。

③テールゲート開閉警告灯
テールゲートが完全に閉まっていないときに点灯します。

▼

テールゲートを完全に閉めてください。

知 識

- IHCC装備車はマルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されます。

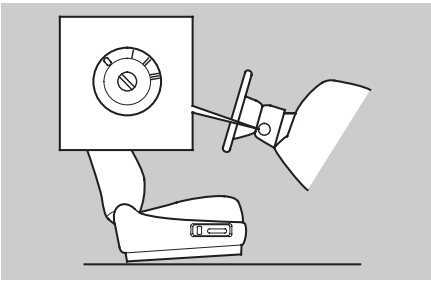
警告灯の電球切れの点検

エンジンスイッチを“II”にしたとき、下記の警告灯類が点灯するのが正常です。点灯しないときは、Honda販売店へご連絡ください。

- **ブレーキ警告灯**
  （パーキングブレーキが解除されているときは数秒後消灯）
  （パーキングブレーキをかけているときは完全に解除すると消灯）
- **油圧警告灯**
  （エンジン始動後消灯）
- **PGM-FI警告灯**
  （数秒後消灯）
- **充電警告灯**
  （エンジン始動後消灯）
- **トランスミッション警告灯**
  （数秒後消灯）
- **Hondaスマートカードキーシステム警告灯**
  （数秒後消灯）
- **インテリジェントハイウェイクルーズコントロール(IHCC)警告灯**
  （数秒後消灯）
- **アンチロックブレーキシステム(ABS)警告灯**
  （数秒後消灯）
- **SRSエアバッグシステム警告灯**
  （約 6 秒後消灯）
- **ビークルスタビリティアシスト(VSA：車両挙動安定化制御システム)警告灯**
  （数秒後消灯）
- **追突軽減ブレーキ(CMS)警告灯**
  （数秒後消灯）
- **アダプティブフロントライティングシステム(AFS)警告灯**
  （数秒後消灯）
- **パワースライドドア警告灯**
  （数秒後消灯）
- **パワーテールゲート警告灯**
  （数秒後消灯）
- **オートライトコントロール警告灯**
  （数秒後消灯）

スイッチの使いかた

エンジンスイッチ

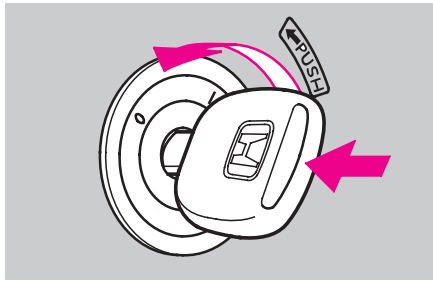


0	キーを抜き差しする位置です。
I	エンジンをかけずにラジオなどのアクセサリーを使用するときの位置です。
II	運転するときの位置です。
III	エンジン始動位置です。始動したら、キーから手を離してください。自動的に“II”に戻ります。

キーを抜くとき

・セレクトレバーを🄿に入れます。

・“ I ”でキーを押し込んで“ 0 ”まで回してキーを抜きます。



知 識

- キーを抜くとハンドルがロックされます。
- セレクトレバーが🄿以外のときは、エンジンスイッチが“ 0 ”まで回らないので、キーを抜くことができません。
- **Hondaスマートカードキーシステム装備車**

  カードキーを使ったエンジンスイッチの操作

→235ページ

“ 0 ”から“ I ”にキーが回らないとき（ハンドルロックの解除）

ハンドルを左右に回しながらキーを回せば容易に回ります。

知 識

- エンジンを止めた状態で“Ⅰ”または“Ⅱ”のまま、長時間放置しないでください。
  バッテリー容量が低下し、エンジンがかからなくなることがあります。
- 車から離れるときは、バッテリー保護のため必ず“0”にしてください。

●キー抜き忘れ警告ブザー

エンジンスイッチが“Ⅰ”または“0”でキーを差し込んだまま車を離れようとしたとき(運転席ドアを開けたとき)、ブザーが鳴りキーの抜き忘れを知らせます。

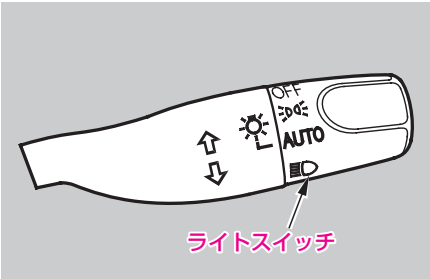
ライトスイッチ

●ライトの点灯・消灯

自動で使うとき（オートライトコントロール）

タイプ別装備

エンジンスイッチが“II”のとき使えます。ライトスイッチを“AUTO”の位置にすると、車外の明るさによってヘッドライトや車幅灯などが自動的に点灯・消灯します。



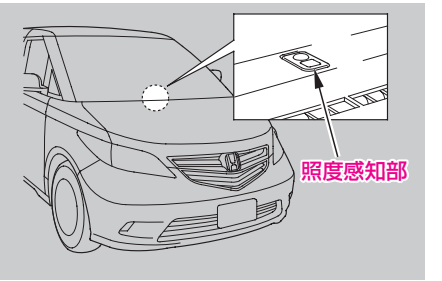
車外が暗くなると、まず車幅灯、尾灯、番号灯が自動的に点灯します。さらに暗くなるとヘッドライトが点灯します。
車外が明るくなると、逆の順に消灯します。
ライト類が点灯すると、メーター内の表示灯が点灯します。

ライト点灯表示灯　→163ページ

知 識

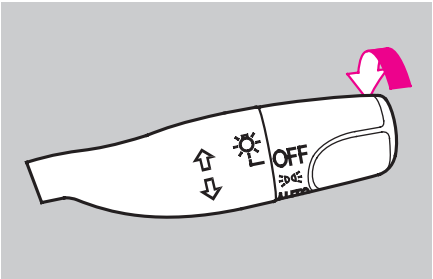
- 昼間、濃い霧などにより視界が悪いときには、自動では点灯しません。手動で点灯してください。
- IHCC非装備車
  オートライトコントロール警告灯が点灯したときには、手動位置に切り換えてお使いください。
- IHCC装備車
  マルチインフォメーションディスプレイに“オートライトシステム点検”と表示されたときには、手動位置に切り換えてお使いください。

照度感知部は図の位置にあります。感知部の上に物を置かないでください。



手動で使うとき

エンジンスイッチの位置に関係なく次のように点灯、消灯します。



スイッチの位置	≡D	≡D
ヘッドライト	—	点灯
車幅灯・尾灯 番号灯	点灯	点灯

ライト類が点灯すると、メーター内の表示灯が点灯します。

ライト点灯表示灯　→163ページ

知　識

- エンジンが止まっている状態で、ライト類を点灯したままにしないでください。バッテリーあがりの原因となります。

●ライト消し忘れ警告ブザー

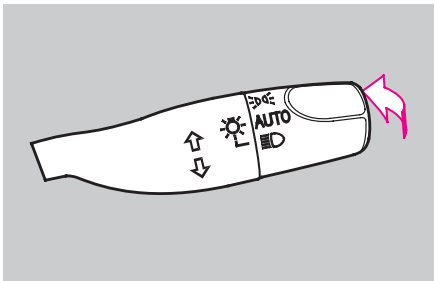
ライトを点灯したままエンジンスイッチからキーを抜いて、車を離れようとしたとき(運転席ドアを開けたとき)、ブザーが鳴りライトの消し忘れを知らせます。

●ヘッドライトの上向き(ハイビーム)と下向き(ロービーム)の切り換え

レバーを前方へ押すと上向きになります。戻すと下向きになります。

上向きのときは、メーター内の表示灯が点灯します。

ヘッドライトの上向き(ハイビーム)表示灯　→163ページ

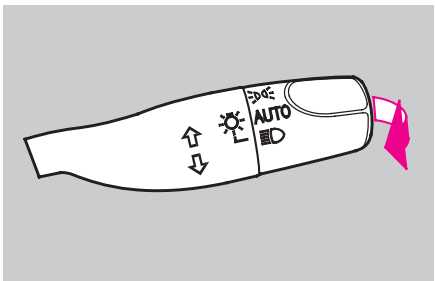


知　識

- 対向車のあるときや市街地走行など、上向きが不適切なときは下向きにします。

●追越合図(パッシング)

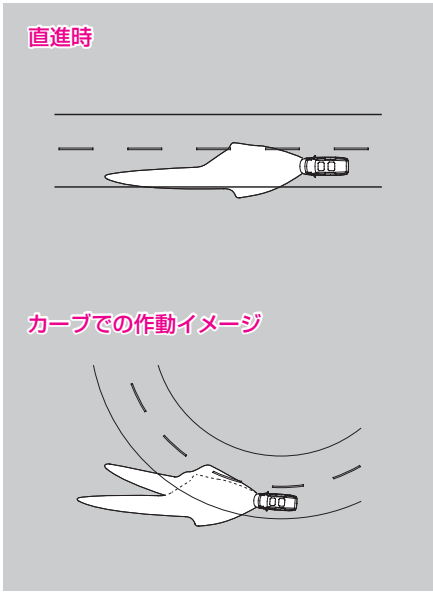
レバーを手前に引いている間、上向きが点灯します。



●アダプティブフロントライティングシステム(AFS)

タイプ別装備

アダプティブフロントライティングシステム(AFS)は、カーブ走行時および交差点での右左折において、旋回方向側のヘッドライト(ロービーム側)の配光をハンドルの操作角に応じて進行方向に振り分ける機能で、夜間走行時の視認性を向上させることができます。

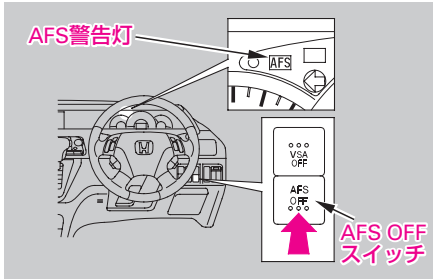


作動について

AFS機能はエンジンを始動すると自動的に“ON”になります。ヘッドライトを点灯させるとAFSが作動します。

AFS機能を作動させたくないとき

ライト類が点灯しているとき、“AFS OFF”スイッチを押すとAFS機能が“OFF”になり、メーター内のAFS警告灯が点灯します。スイッチを押すたびに“OFF”、“ON”を繰り返します。

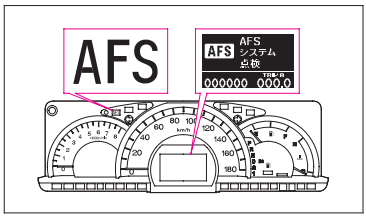


知 識

- エンジンスイッチを“0”または“I”から“II”にした直後は、ヘッドライトを点灯させてもAFSは作動しません。そのまま20km/h以上でしばらく走行するとAFSの作動が始まります。
  また、しばらく走行後ヘッドライトを点灯した場合は車速が約10km/h以上になると作動が始まり、約5 km/h以下になると作動が停止します。
- セレクトレバーがRの位置のときは、AFS機能は作動しません。
- 滑りやすい路面などでタイヤが空転したときはAFS警告灯が点滅しAFSの制御を停止することがあります。

知 識

- 運転中にAFS警告灯が点滅したときは、安全な場所に停車しエンジンスイッチを“I”または“0”に回してから、エンジンを再始動してください。そのとき警告灯が消灯すれば正常です。
  消灯しないときや再び点滅したときは、通常走行に支障はありませんがお早めにHonda販売店で点検を受けてください。
  また、マルチインフォメーションディスプレイ（IHCC装備車）にも“AFSシステム点検”が表示されます。



知 識

- エンジンスイッチを“0”または“I”から“II”にすると、作動確認のために一度ヘッドライト(ロービーム側)が動きます。
- 応急用スペアタイヤを装着したときは、AFS機能が正常に作動しなくなる場合がありますので、“AFS OFF”スイッチを押して“OFF”にしてください。また、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
- 雪の斜面などにヘッドライトが反射して運転のさまたげになるときは、“AFS OFF”スイッチを押して“OFF”にしてください。

オートレベリング機能

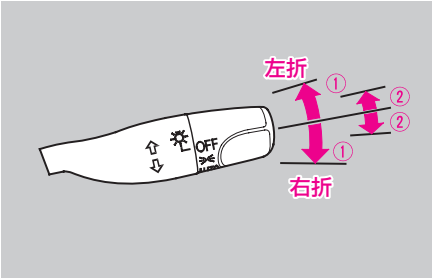
AFS付のヘッドライト(ロービーム側)には、積載時などの車両の姿勢の変化に応じて光軸の上下方向を自動的に調節するオートレベリング機能が装備されています。

知 識

- ヘッドライト光軸の上下方向に異常を感じたときはHonda販売店で点検を受けてください。

方向指示器(ウィンカー)スイッチ

エンジンスイッチが“II”のとき使えます。
ふだんは①の位置で使います。
この位置ではハンドルの切り角が小さいときには戻らない場合もあります。戻らないときは手で戻してください。
車線変更などでは②の位置に軽く手で押さえながら使います。



ワイパー／ウォッシャースイッチ

⚠注意

- 寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射しないでください。
  ウォッシャー液が凍りついて視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知 識

- 空ぶきをしないでください。ガラス面に傷をつけたり、ブレード（ゴム部）を傷めたりします。
- ウォッシャー液が出ないときはウォッシャースイッチを切ってください。
  ウォッシャー液がないままで動かすとポンプの故障の原因となります。
- 寒冷時、ブレード（ゴム部）がガラス面に張りつくことがありますので、ヒーターまたはフロントガラス熱線（タイプ別装備）でフロントガラスを暖めてください。
  凍りついたまま動かすとブレード（ゴム部）を傷めたり、ワイパーモーターの故障の原因となります。

フロントガラス熱線 →192ページ
デフロスター →310ページ

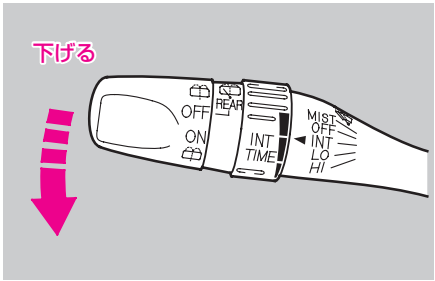
知 識

- ワイパーを作動中にガラスに雪などがたまりワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してワイパースイッチを“OFF”、エンジンスイッチを“0”または“I”にしてワイパーが作動できるように雪などの障害物を取り除いてください。
- フロントワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。
  モーターの負荷が大きい状態が続いたときなどには、ブレーカーが作動し、一時的にモーターが止まることがあります。
  数分ほどすると、ブレーカーが復帰して通常通り使用できるようになります。

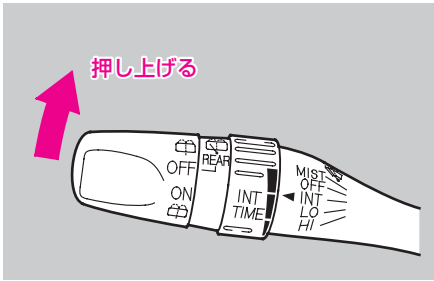
エンジンスイッチが“II”のとき使えます。

●フロントガラス

ワイパースイッチ



OFF ····· 停止
INT(間欠) ····· 雨量の少ないとき
LO(低速) ····· 普通雨量のとき
HI(高速) ····· 雨量の多いとき



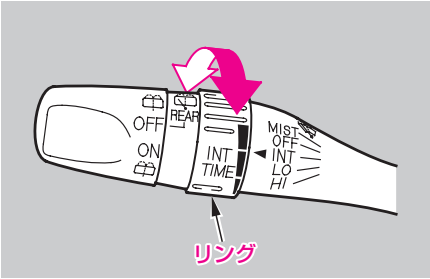
MIST ·····
レバーを押し上げている間、高速で作動します。
霧や小雨のときなどに使うと便利です。

間欠時間の調節

ワイパーの間欠作動の間隔を調節できます。

▼

間隔のセットはリングを回して行います。



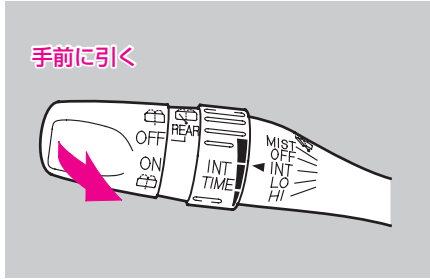
知 識

- 間欠作動中は、車速が速くなると間隔が停止時より約 4 秒短くなります。
  また、発進時にワイパーが 1 回作動します。
- リングを間欠時間の短い方へいっぱいに回しているときに、車速が速くなるとワイパーが間欠から低速作動になります。
- 間欠作動中の車速との連動や発進時の作動を解除することができます。

カスタマイズ機能　→386ページ

ウォッシャースイッチ

レバーを手前に引くとウォッシャー液が噴射します。レバーを引いている間はワイパーが作動し、レバーを離した後さらに 2 ～ 3 回作動します。

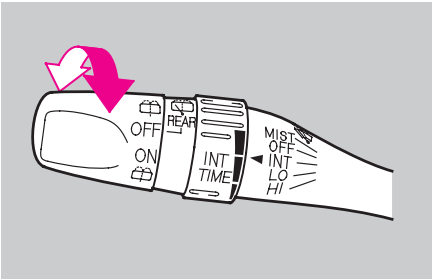


知 識

- ウォッシャースイッチとワイパー作動の連動を解除することができます。

カスタマイズ機能　→386ページ

●リヤガラス



OFF ····· 停止
ON ····· ワイパーが作動します。スイッチを“ON”にすると、数回ワイパーが作動し、その後間欠作動に切り換わります。
⛲ ····· スイッチを回している間、ウォッシャー液が噴射します。スイッチを回している間はワイパーが作動し、スイッチを離した後さらに2～3回作動します。

知 識

- リヤワイパーの間欠作動を、連続作動に切り換えることや、ウォッシャースイッチとリヤワイパー作動の連動を解除することができます。
  カスタマイズ機能　→386ページ

リバース連動モード

フロントワイパーが作動しているときに、セレクトレバーを[R]に入れると、リヤワイパースイッチが“OFF”でもリヤワイパーが連続作動します。

知 識

- リヤワイパースイッチが“ON”のときに、セレクトレバーを[R]に入れると、リヤワイパーが間欠作動から連続作動に切り換わります。
- リヤワイパーのリバース連動モードを解除することができます。
  カスタマイズ機能　→386ページ

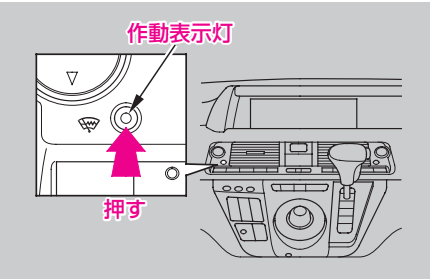
フロントガラス熱線スイッチ

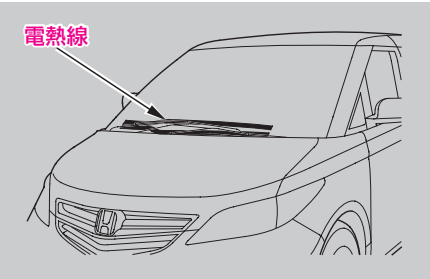
タイプ別装備

フロントガラスの下端を暖め、凍結によるワイパーブレードラバーの損傷、雪や氷などの固着を防ぐことができます。また、固着した雪や氷の除去を容易にします。

▼

エンジンスイッチが“II”のときスイッチを押すと“ON”になり、同時に作動表示灯が点灯します。もう一度スイッチを押すと“OFF”になり、作動表示灯は消灯します。





知 識

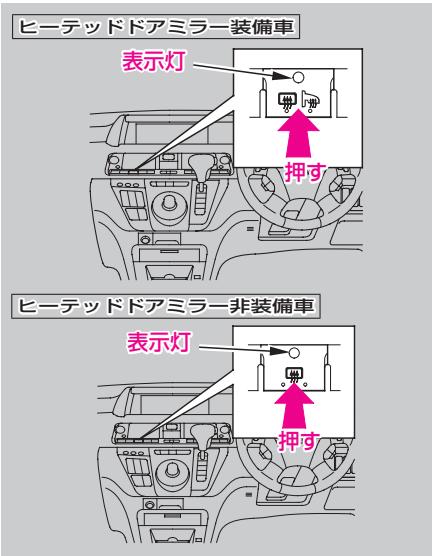
- この装置は消費電力が大きいので長時間使わないでください。“ON”のままであっても、約15分経過後自動的に“OFF”になります。ただし、この装置は消費電力が大きいので長時間にわたる連続使用は行わないでください。また、エンジンの回転が低いときも長時間使わないでください。バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

リヤデフロスタースイッチ

リヤガラスを暖め、曇りを取ることができます。

▼

エンジンスイッチが“II”のときスイッチを押すと“ON”になり、同時に作動表示灯が点灯します。もう一度スイッチを押すと“OFF”になり、作動表示灯は消灯します。

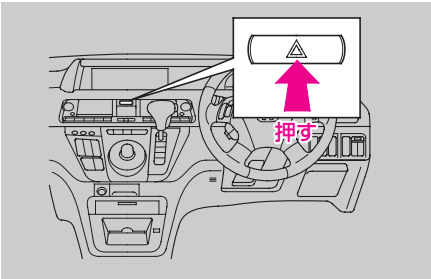


知 識

- この装置は消費電力が大きいので曇りが取れたら“OFF”にしてください。また、エンジンの回転が低いとき長時間使わないでください。バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。
- リヤガラスの内側に電熱線が装着されています。電熱線は傷つきやすいので清掃のときは電熱線に沿ってやわらかい布でふいてください。また、手荷物などで傷つけないようにしてください。
- **ヒーテッドドアミラー装備車**
  リヤデフロスタースイッチを押すと、ドアミラーの曇り取りも同時に機能します。
  ヒーテッドドアミラー
  →122ページ

非常点滅表示灯(ハザード)スイッチ

スイッチを押すとすべての方向指示器のランプが点滅します。
故障でやむをえず路上駐車するとき使います。

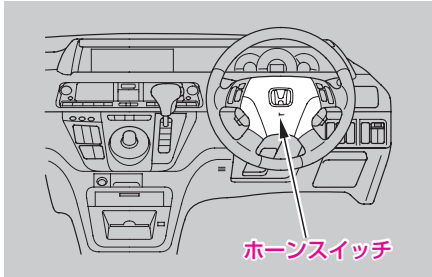


知 識

- 非常時にのみお使いください。
  完全充電の新しいバッテリーでも約 2 時間以上使うとバッテリー容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。

ホーンスイッチ

ハンドルのパッドを押すとホーンが鳴ります。



運転のしかた

エンジンのかけかた

⚠警告

- バッテリー液が不足しているときは、エンジンの始動をしないでください。
  バッテリーが破裂するおそれがあります。
- 車庫や屋内などの換気の悪いところでは、エンジンをかけたままにしないでください。
  車内や屋内などに排気ガスが充満し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。

⚠注意

- エンジンを始動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

アドバイス

- 排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えない場合は、排気系や燃料系の異常が考えられますので、必ずHonda販売店で点検を受けてください。

知 識

- **Hondaスマートカードキーシステム装備車**

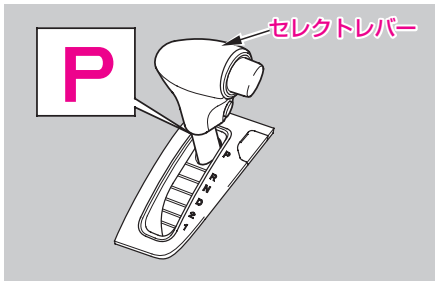
  カードキーを使ったエンジンのかけかた →239ページ

①パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

パーキングブレーキ　→195ページ

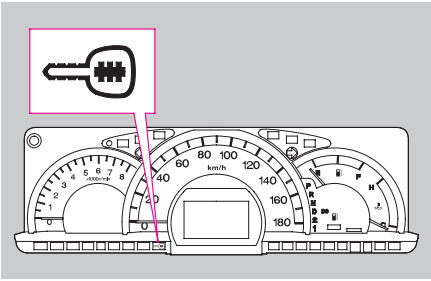
②セレクトレバーがPの位置にあることを確認してください。

セレクトレバーの操作　→202ページ



③ブレーキペダルをしっかりと踏みます。
④エンジンスイッチを“II”に回してから、メーター内のイモビライザーシステム表示灯が消灯するのを確認します。

イモビライザーシステム　→41ページ
イモビライザーシステム表示灯
→164ページ



⑤アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスターターを回してください。

知 識

- 消費電力の大きいライト類、エアコン、フロントガラス熱線、リヤデフロスターのスイッチは“OFF”にした方が始動は容易になります。
- バッテリーあがりを防ぐため、スターターは連続して15秒以上回さないでください。15秒回してもエンジンが始動しなかったときは、一度キーを“ I ”に戻して10秒以上待ってから再始動してください。
- エンジンがあたたまっていると始動に時間がかかることがあります。アクセルペダルを半分程度踏み込んだまま、スターターを回してください。エンジンが始動したらアクセルペダルを徐々に戻してください。
- エンジン始動後は、エンジン制御システムの働きによりエンジン回転が高くなりますが、自動的に適正回転に下がります。

パーキングブレーキ

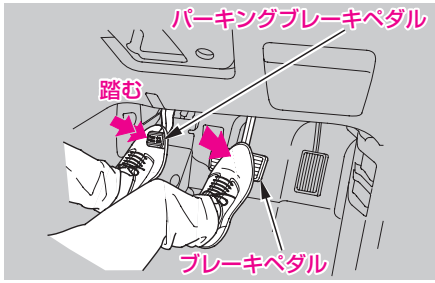
かけるとき

左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいに踏み込みます。

後輪ブレーキがききます。

解除するとき

右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルを“カチッ”と音がするまで踏み、ゆっくりと離します。



⚠注意

- パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。
  ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

知 識

- パーキングブレーキをかけたあとに再度かけなおしたいときは、一度解除してからもう一度踏み込んでください。
- 駐車するときは、車が動き出さないように必ずパーキングブレーキをかけてください。
  寒冷時のパーキングブレーキの取り扱い →490ページ
- パーキングブレーキが完全に解除されていない状態で走行すると、警告灯が点灯し、ブザーが鳴ります。
  ブレーキ警告灯 →171ページ

パーキングブレーキ戻し忘れ警告ブザー

パーキングブレーキが完全に解除されていない状態で走行(車速約 7 km/h以上)するとブザーが鳴り、パーキングブレーキの戻し忘れを知らせます。パーキングブレーキを完全に解除するとブザーは止まります。

知 識

- 停車(車速約 3 km/h以下)するとブザーによる警告は一旦止まります。

セレクトレバーの操作

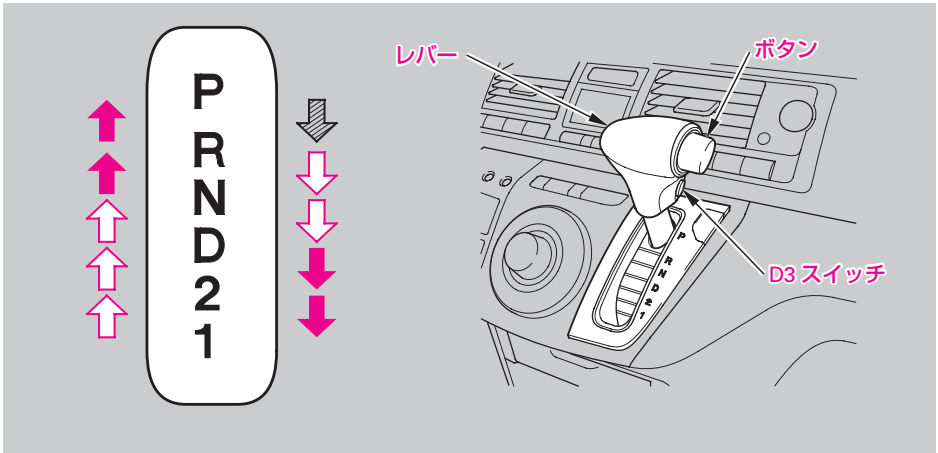
●それぞれの位置のはたらき

P	パーキング	駐車およびエンジンを始動する位置。 キーを抜く位置。
R	リバース	車を後退(バック)させる位置。 チャイムが鳴り、セレクトレバーがRに入っていることを運転者に知らせます。
N	ニュートラル	中立位置。 (エンジン始動できますが、安全のためPで行ってください。)
D	ドライブ	通常の走行をする位置。 1速から5速まで自動的に変速されます。 D3スイッチをONにすると、1速から3速まで自動的に変速されます。
2	セカンド	エンジンブレーキが必要なときや、雪道などの滑りやすい路面での発進に使う位置。 (2速のままで変速されません。)
1	ロー	強力なエンジンブレーキが必要なときに使う位置。 (1速のままで変速されません。)

知 識

- セレクトレバーがP以外のときは、エンジンスイッチが“0”まで回らないので、キーを抜くことができません。

●セレクトレバーの動かしかた



ブレーキペダルを踏んだまま、ボタンを押してレバーを操作します。

ボタンを押さずにレバーを操作します。

ボタンを押してレバーを操作します。

知 識

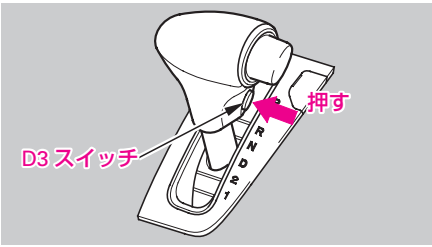
- セレクトレバーの操作は誤操作防止のため各位置ごとに節度をつけ、確実に行ってください。
- Pのときは、ボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。
- エンジンスイッチが“I”または“0”のときは、ブレーキペダルを踏んでもPから他の位置に切り換えられません。
- いつもボタンを押して操作すると意に反してPR21に入れてしまうおそれがあります。
  ⇧⇩の操作は、ボタンを押さずに動かす習慣をつけてください。

●D3スイッチ

スイッチを“ON”にしておくと、Dの位置で走行中ギヤが1速から3速まで自動変速し、ゆるい坂道走行などに適します。

・スイッチを押すごとにONとOFFに切り換わります。
・ONのときD3 ON表示灯が点灯します。

（→164ページ参照）



スイッチがONのとき

ゆるい坂道走行などに適します。
速度によりギヤが1速から3速まで自動変速します。
下り坂では軽いエンジンブレーキが得られます。
上り坂では変速回数の少ないなめらかな走行ができます。

スイッチがOFFのとき

通常走行に適します。
速度によりギヤが1速から5速に自動変速します。

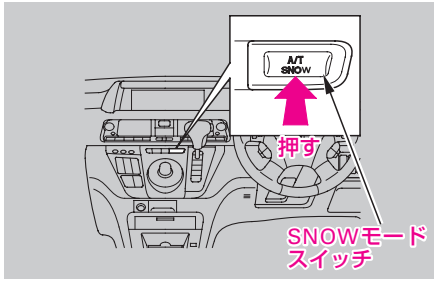
知 識

●エンジンスイッチを“I”または“0”にするとD3はOFFの状態に戻ります。

●スノー(SNOW)モード

VZ、VX、VG

SNOWモードスイッチを押してSNOWモードにセットすると、セレクトレバーがDのときに2速発進となり雪道などの滑りやすい路面での発進がしやすくなります。



SNOWモードがセットされると、セレクトレバーがDの位置にあるときにメーター内にある表示灯が点灯します。
スイッチをもう一度押すとSNOWモードは解除され、表示灯は消灯します。

スノー(SNOW)モード表示灯

→166ページ

●速度範囲

エンジンを過回転させないために、下表の各セレクトレバー位置での速度範囲内で切り換えを行ってください。

セレクトレバーの位置		速　度　範　囲	変　速　範　囲
D	D3 スイッチOFF	0 km/h～	1↔2↔3↔4↔5 速
	D3 スイッチON	0 ～150km/h	1↔2↔3 速
	スノー(SNOW)モード	0 km/h～	2↔3↔4↔5 速
2		0 ～95km/h	2 速固定
1		0 ～50km/h	1 速固定

＊：急激なエンジンブレーキによるショックを避けるため45km/h以上で1へ切り換えた場合は、一旦 2 速に入ります。

⚠注意

- 滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。
  シフトダウンする際の車速には十分注意してください。

知 識

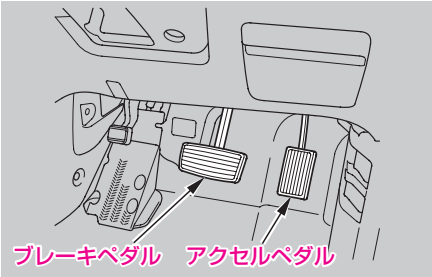
- 法定速度を守って走行してください。
- 1,000km走行するまではエンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け控えめな運転をしてください。
- エンジンの回転をあやまって限界回転数以上(レッドゾーン)で運転した場合、エンジン保護装置により、燃料供給が停止されます。そのとき、軽い衝撃を感じることがありますが、異常ではありません。

オートマチック車の運転のしかた

オートマチック車は、クラッチ操作とギヤの切り換えを自動化したもので、その分、操作の負担が軽くなり、運転が楽になりますが、運転の基本を十分理解し、正しく操作する習慣をつけてください。

エンジンをかける前に

正しい運転姿勢をとり、右足でアクセルペダルとブレーキペダルが確実に踏めるか確認します。



知 識

- ペダルの踏みまちがいを防ぐため、ペダルの位置を実際に踏んでみて足におぼえさせておくことが重要です。
  また、不慣れな左足では、適切なブレーキ操作ができません。
- 車を少し移動させるときにもペダルが確実に踏めるように、正しい運転姿勢をとりましょう。

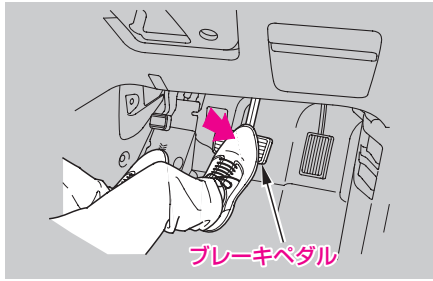
エンジン始動

①パーキングブレーキがかかっていることを確認。
②セレクトレバーがPに入っていることを確認。

知 識

- Nでも始動できますが、安全のため駆動輪が固定されるPで行ってください。

③ブレーキペダルを右足で踏んで始動。

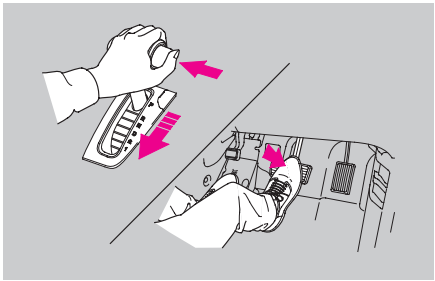


知 識

- イモビライザーシステム表示灯が点滅しているときはエンジンを始動することができません。
  イモビライザーシステム
  →41ページ
  イモビライザーシステム表示灯
  →164ページ
- 始動時にアクセルペダル操作が必要な場合は、始動後、右足でブレーキペダルを踏んでください。

発進

①右足でブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを前進はD、後退はRに入れる。



⚠注意

- アクセルペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作しないでください。急発進して思わぬ事故の原因になります。

②レバーの位置を目で再確認。
③パーキングブレーキを解除する。
④ブレーキ警告灯が消灯したことを確認。
（→171ページ）
⑤ブレーキペダルを徐々に離して、アクセルペダルをゆっくりと踏む。

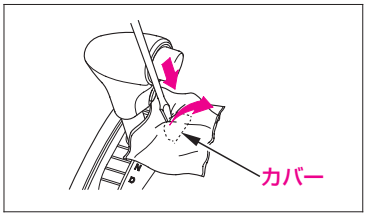
知識

- セレクトレバーをPN以外に入れると、クリープ現象により、アクセルペダルを踏まなくても車が動き出します。ブレーキペダルを踏んでいてください。
- エンジン始動直後は、自動的にエンジンの回転が上がり、クリープ現象が強くなりますので、ブレーキペダルはしっかり踏んでいてください。
- セレクトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。

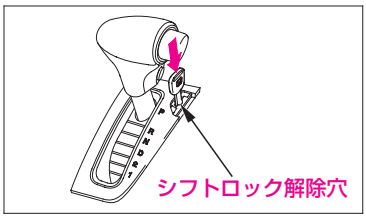
知 識

- オートマチック車は、発進時の速度をアクセル操作のみで調節するので、アクセル操作は慎重に行ってください。
- 万一、ブレーキペダルを踏んでもPから他の位置に切り換えられないときは、

①ドライバーの先端に布等をまいてシフトロック解除穴のカバーを外します。



②シフトロック解除穴にキーを差し込み、押しながらレバーを操作してください。



急な坂道での発進

セレクトレバーの位置を目で確認し、

- パーキングブレーキをかけたままブレーキペダルから足を離し、
- アクセルペダルをゆっくり踏んで、
- 車が動き出す感触を確認しながら、
- パーキングブレーキをもどして発進。

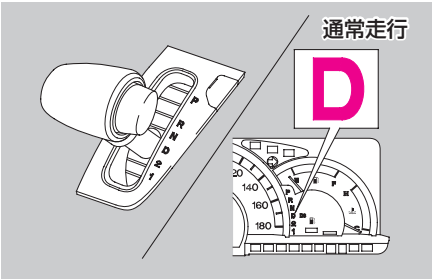
走行

走行中はセレクトレバーをⓃにしないでください。

知 識

- Ⓝにするとエンジンブレーキが全くきかなくなるため思わぬ事故の原因になります。
  またⓃにしても燃費の差はほとんどありません。

通常走行



セレクトレバーをⒹにして走行します。
アクセルペダルの踏み加減と走行速度により、１速から５速まで自動的に変速されます。

急加速したいとき

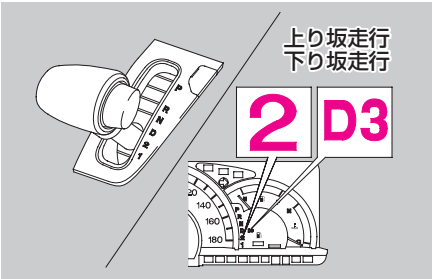
アクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、キックダウンして急加速します。

上り坂走行

坂の勾配に応じ、セレクトレバーを[D]（D3スイッチON）または[2]にしておくと、エンジン回転数の変化が少ない、なめらかな走行ができます。

下り坂走行

下り坂を[D]のまま走行すると、エンジンブレーキのききが弱く、速度が出すぎてしまうことがあります。このようなときには、D3スイッチONまたはセレクトレバーを[2]にします。さらに強力なエンジンブレーキが必要なときには、[1]にします。



⚠注意

- フットブレーキを使いすぎると、ブレーキが過熱してききが悪くなるおそれがあります。長い下り坂や急な下り坂では、必ずエンジンブレーキを併用してください。

エンジンブレーキ　→22ページ

停車

①Dのままブレーキペダルをしっかりと踏んでおく。
必要に応じてパーキングブレーキをかける。

アドバイス

- アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でPN以外に入れた状態で、アクセルをふかしながら車を停止させたりしないでください。
トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

知 識

- 急な上り坂での停車はクリープ現象で前へ進もうとする力よりも車が後退しようとする力の方が大きくなり、車が後退することがあります。ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。
- セレクトレバーがPN以外でエアコンスイッチが入っている場合などは、エンジン回転数が断続的に高くなりクリープ現象が強まります。ブレーキペダルを特にしっかりと踏み込んでください。

②停車時間が長くなるときはセレクトレバーをNに入れる。

⚠注意

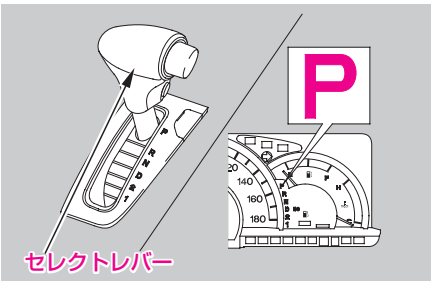
- 停車中、空ぶかしをしないでください。
万一、セレクトレバーがPN以外のとき、思わぬ急発進の原因になります。

知 識

- 停車後、再発進するときは、思い違いのないようセレクトレバーがDにあることを確認してください。
- セレクトレバーがNでもエンジンが冷えているときは、トランスミッションオイルの粘性により車がわずかに動き出すことがありますので、ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

駐車

①車を完全に止める。
②ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかける。
③セレクトレバーをPに入れる。



知 識

●駐車の際は、セレクトレバーが必ずPに入っていることを確認してください。セレクトレバーがPのときは、駆動輪が固定されるため、車が動き出す心配がなく安全です。

④エンジンを止める。

⚠注意

●エンジンをかけたままにしておくと、万一、セレクトレバーがPN以外に入っていたとき、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、乗り込むときに誤ってアクセルペダルを踏み急発進するおそれがあります。

アドバイス

●車が完全に止まらないうちにPに入れないでください。トランスミッション破損の原因となります。

知 識

●環境保護のため駐車時にはエンジンを止めましょう。

ほかに気をつけたいこと

⚠注意

- セレクトレバーは正しい位置で使用してください。
  坂道などで、前進(D、2、1)の位置にしたまま惰性で後退したり、後退(R)の位置にしたまま前進したりすると、エンジンが停止してブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなり、思わぬ事故の原因となるおそれがあります。

車を少し移動させるとき

このような場合でも、正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

車を後退させるとき

この場合、体をうしろにひねった姿勢になり、ペダルの操作がしにくくなります。ブレーキペダルは確実に踏めるよう注意してください。

クルーズコントロール

タイプ別装備

高速道路または加速、減速の繰り返しの少ない自動車道などを定速で運転するとき、アクセルペダルを踏まなくても車速を一定に保つ装置です。
車速は、Dのとき約30～100km/hの範囲で希望値に設定できます。
また、アクセルペダルを踏まずに車速を上げ下げしたり、一時的な減速後、もとの車速に自動的に戻すことができます。

⚠警告

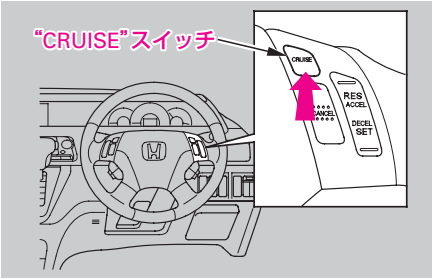
- クルーズコントロールはつぎのような道路では使用しないでください。
  道路状況によっては、思わぬ事故につながります。
  - ・混んでいて車間距離が十分とれない道路、急カーブのある道路（道路状況にあった速度で走行できません。）
  - ・急な下り坂のある道路（エンジンブレーキが十分効かず、セットした速度を超えてしまうことがあります。）
  - ・凍結や積雪などで滑りやすい道路（タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。）

知 識

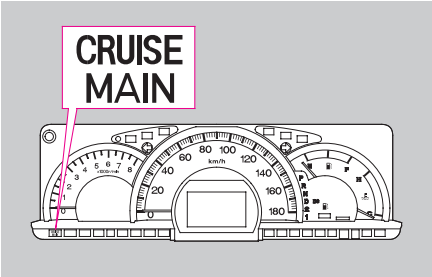
- 上り坂や下り坂では、条件により、一定車速を保てない場合があります。

●希望車速をセットし、定速走行をしたいときの操作

①“CRUISE”（クルーズ）スイッチを押して、クルーズコントロールを“ON”にします。



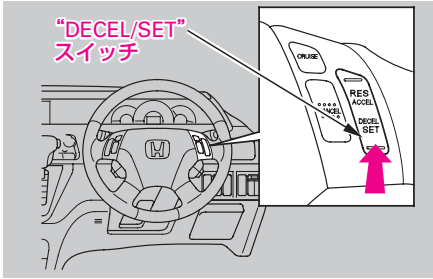
“ON”のとき、メーター内の“CRUISE MAIN”表示灯が点灯します。



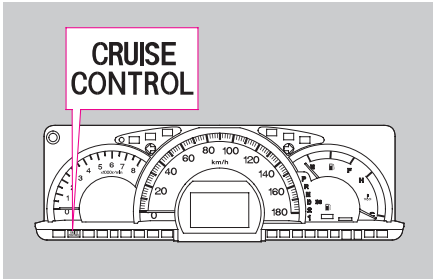
知 識

●エンジンスイッチを“Ⅰ”または“0”にすると“CRUISE”スイッチは自動的に“OFF”になります。

②アクセルペダルを加減して希望の車速になったら“DECEL/SET”スイッチを押して離します。
（スイッチを離したときの車速にセットされます。）



車速がセットされ自動定速走行になると、メーター内の“CRUISE CONTROL”表示灯が点灯します。



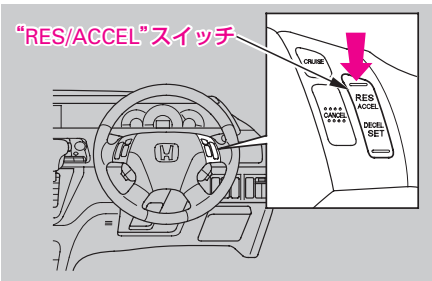
知 識

●自動定速走行をしないときは、安全のため“CRUISE”スイッチを押して“OFF”にしておいてください。

●設定車速を上げたいとき

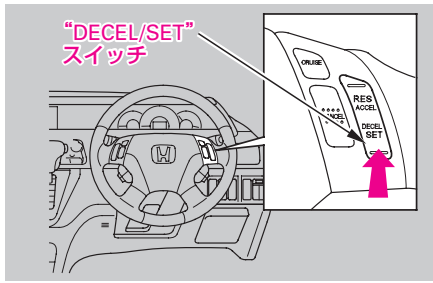
“RES/ACCEL”スイッチで車速を上げる場合

・スイッチを１回ずつ押す
…１回押すごとに約1.5km/hずつ車速が上がります。
・スイッチを押し続ける
…押し続けた分だけ車速が上がります。
（スイッチを離したときの車速にセットされます。）



アクセルペダルで車速を上げる場合

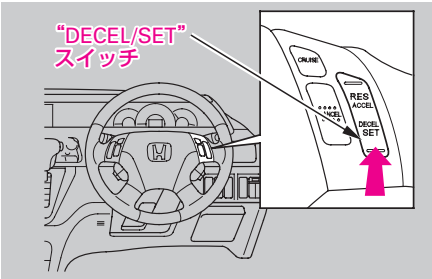
アクセルペダルを踏んで加速し、希望車速になったとき“DECEL/SET”スイッチを一度押して離します。
（スイッチを離したときの車速がセットされます。）



●設定車速を下げたいとき

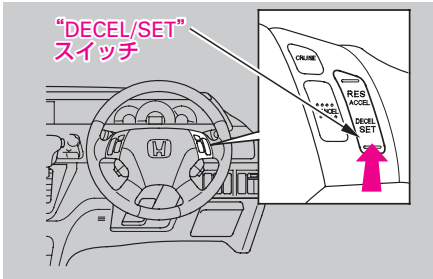
“DECEL/SET”スイッチで車速を下げる場合

・スイッチを１回ずつ押す
　…１回押すごとに約1.5km/hずつ車速が下がります。
・スイッチを押し続ける
　…押し続けた分だけエンジンブレーキで減速をし、車速が下がります。（スイッチを離したときの車速にセットされます。）



ブレーキペダルで車速を下げる場合

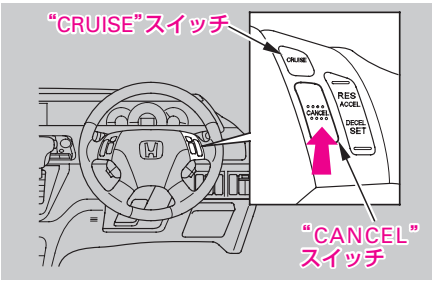
ブレーキペダルを踏んで減速し希望の車速になったときに、ブレーキペダルから足を離し、“DECEL/SET”スイッチを押して離します。
（スイッチを離したときの車速がセットされます。）



●解除するとき

次の操作をすると、自動定速走行が解除されます。

- “CANCEL”（キャンセル）スイッチを押したとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- “CRUISE”スイッチを押したとき
- セレクトレバーをⓃにしたとき

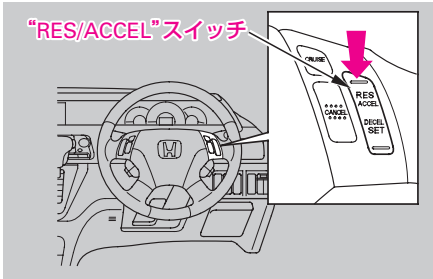


知 識

- 自動定速走行が解除されると、メーター内の“CRUISE CONTROL”表示灯が消灯します。
- 車速が約25km/h以下になると、自動定速走行が自動で解除されます。

●解除前の設定車速に戻したいとき

自動定速走行を解除した後、車速が約30km/h以上になっている場合は、“RES/ACCEL”スイッチを押すと、解除前に設定した車速まで戻り、再び自動定速走行ができます。



知 識

- 次の操作をして自動定速走行を解除したときは、“RES/ACCEL”スイッチを押しても車速の復帰はできません。
  もう一度、車速を設定し直してください。
  - “CRUISE”スイッチを押したとき
  - 車速が約25km/h以下になったとき

Hondaスマートカードキーシステム

タイプ別装備

Hondaスマートカードキーシステムとは

Hondaスマートカードキーシステムは、カードキーを携帯することで、ドア、テールゲートの施錠・解錠やエンジンの始動ができるシステムです。

⚠注意

- 心臓ペースメーカーなどの医療機器を使用している方は、医師や医療機器製造者などへ影響を確認してからご使用ください。

カードキーは運転者が携帯してください。車内にカードキーを残したまま、降車しないでください。

カードキーは、周囲の環境や電波状態などにより正常に作動しないことがあります。また、電池が消耗したときや故障したときなどを考慮して、キーまたはキーレスエントリー一体キーも一緒に携帯してください。

知 識

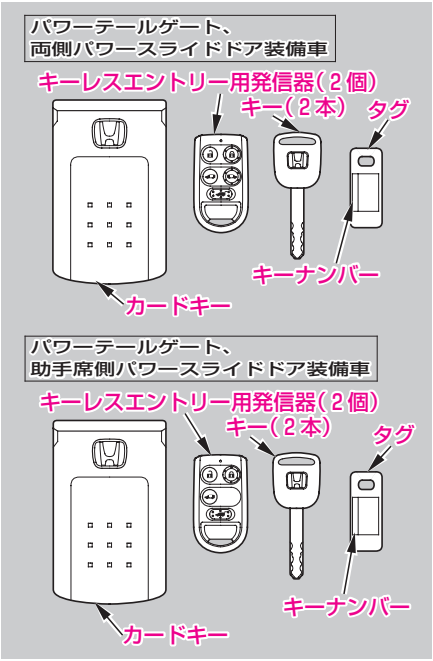
- Hondaスマートカードキーシステムは、車両とカードキーとの電子照合を行うときに微弱な電波を使用しています。
  次のような場合、正常に作動しなかったり、不安定な動作となることがあり、ドアやテールゲートの施錠・解錠ができなかったり、不用意なドアロック動作をしたり、エンジンスイッチノブの操作ができず、エンジンが始動できないことがあります。
  - 近くに強い電波を発する設備があるとき
  - 携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンなどと一緒に携帯しているとき
  - カードキーが金属物に触れていたり覆われているとき
  - 近くでキーレスエントリーを使用しているとき

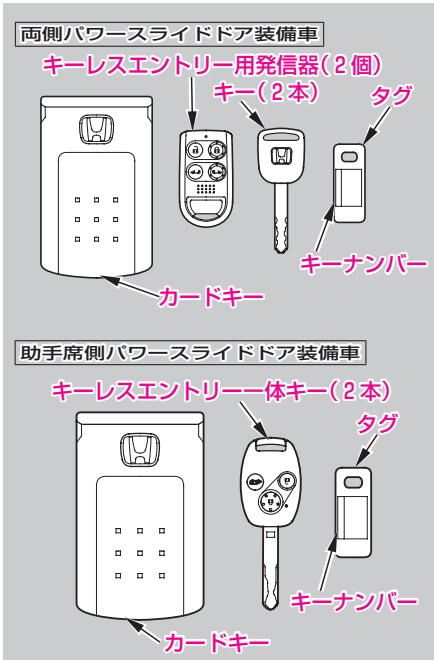
  このようなときは、キーやキーレスエントリー一体キーを使用してください。

キー

Hondaスマートカードキーシステム装備車には以下のキーが付いてきます。
全てのキーには、イモビライザー機能(車両盗難防止装置)が付いています。

イモビライザーシステム →41ページ





●キー（イモビライザー機能付き）

タイプ別装備

キーはエンジンの始動、停止のほかに、すべてのドアとテールゲートの施錠・解錠に使えます。

●キーレスエントリー一体キー（イモビライザー機能付き）

タイプ別装備

キーレスエントリー用発信器がついています。キーはエンジンの始動、停止のほかに、すべてのドアとテールゲートの施錠・解錠に使えます。

キーレスエントリー用発信器はすべてのドアとテールゲートの施錠・解錠が発信器のボタンで行えます。

キーレスエントリー　→73ページ

●キーレスエントリー用発信器

タイプ別装備

キーレスエントリー用発信器はすべてのドアとパワーテールゲートの施錠・解錠が発信器のボタンで行えます。

キーレスエントリー　→73ページ

●カードキー（イモビライザー機能付き）

カードキーを携帯すると、すべてのドアとテールゲートの施錠・解錠およびエンジンの始動がキーを使わずにできます。

Hondaスマートカードキーシステム
→222ページ

知 識

- キーまたはキーレスエントリー一体キーおよびカードキーには、信号を発信するための精密な電子部品が組み込まれています。
  電子部品の故障を防ぐため、次のことをお守りください。
  - ・直射日光のあたるところ、高温、多湿になるところには置かないでください。
  - ・衝撃を与えないでください。
  - ・水にぬらさないでください。
  - ・分解しないでください。
  - ・火であぶったりしないでください。
  - ・カードキーを無理に曲げたり、無理な力が加わらないようにしてください。
  - ・磁気を帯びたキーホルダーなどを付けないでください。
  - ・テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置かないでください。
  - ・超音波洗浄器などで洗浄しないでください。

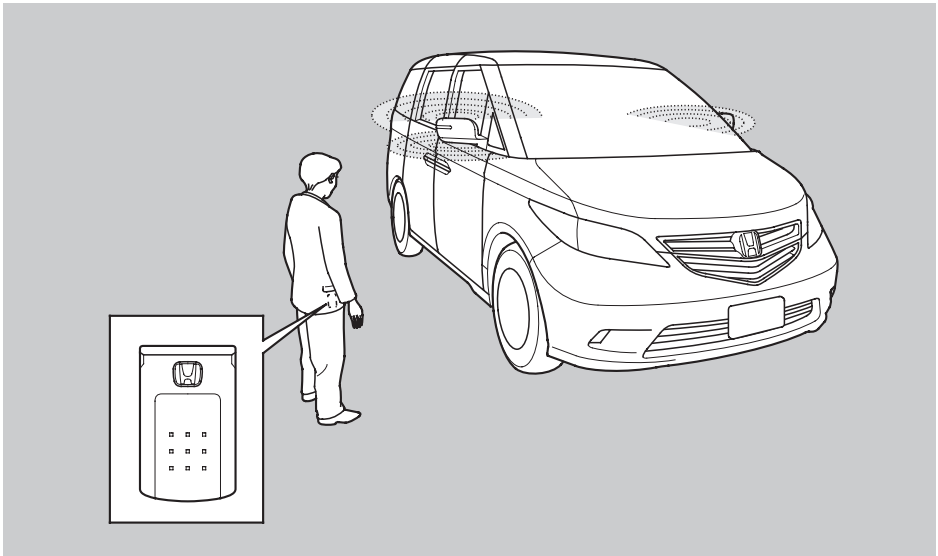
  電子部品が故障すると、スマートカードキーシステムおよびイモビライザーシステムがキーの信号を正しく受信できないためドアやテールゲートの施錠・解錠ができなくなったり、不用意なドアロック動作をしたり、エンジンの始動ができなくなります。
  ドアやテールゲートの施錠・解錠およびエンジンの始動ができないときは、Honda販売店にご連絡ください。
- カードキーは常に電波を受信しているため、強い電波を受信し続けた場合は、電池を著しく消耗することがあります。
  テレビやパソコンなどの電化製品の近くには置かないでください。

知 識

- カードキーは、車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。
  電池寿命は、使用状況によりますが約1年です。
  IHCC装備車
  マルチインフォメーションディスプレイに“カード電池残量”に続いて、停車中に“カード電池を交換してください”が表示された場合は、新しい電池に交換してください。
  IHCC非装備車
  メーター内の“CARD BATT”表示が点滅した場合は、新しい電池に交換してください。
  カードキーの電池が消耗したとき →246ページ
- タグにはキーナンバー(カードキーを除く)が表示してあります。紛失しないように、キーとは別に車両以外の場所に大切に保管してください。キーを紛失したときは、キーナンバーをHonda販売店へご連絡ください。
  キーおよびカードキーを紛失したときは、盗難などを防ぐため、Honda販売店へご連絡ください。
- キーを追加するときは、Honda販売店にご相談ください。
  キーは6本まで(但しキーレスエントリー一体キーは3本まで)、カードキーは6枚まで登録できます。

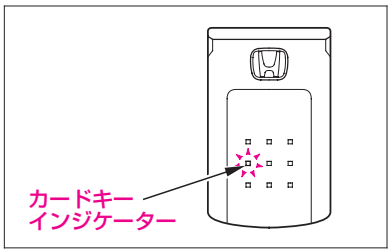
Hondaスマートカードキーシステムの作動範囲について

ドアハンドル、テールゲートハンドル、エンジンスイッチノブの操作時に、ID認証(車とカードキーが相互認証を行い、登録されたカードキーであることを確認する)が取れると、操作が可能になります。



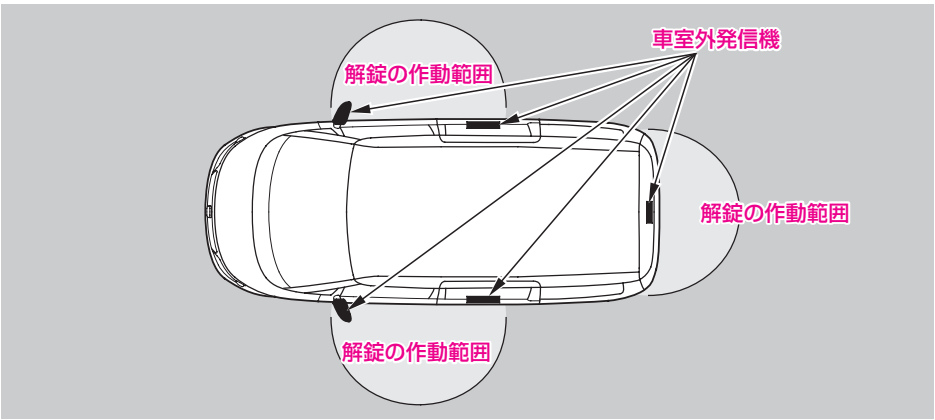
知 識

- 施錠・解錠およびエンジンの始動時にID認証が実行されると、カードキーにあるインジケーターが点灯後すぐ消灯します。



●ドア、テールゲート施錠・解錠の作動範囲

ドアやテールゲートの解錠が作動する範囲は、運転席または助手席ドアハンドルおよびテールゲートハンドルから周囲約80cmの範囲です。
降車して、全てのドアとテールゲートを閉め、カードキー携帯者が解錠の作動範囲外に出ると施錠します。
周囲の状況により作動範囲は変化することがあります。



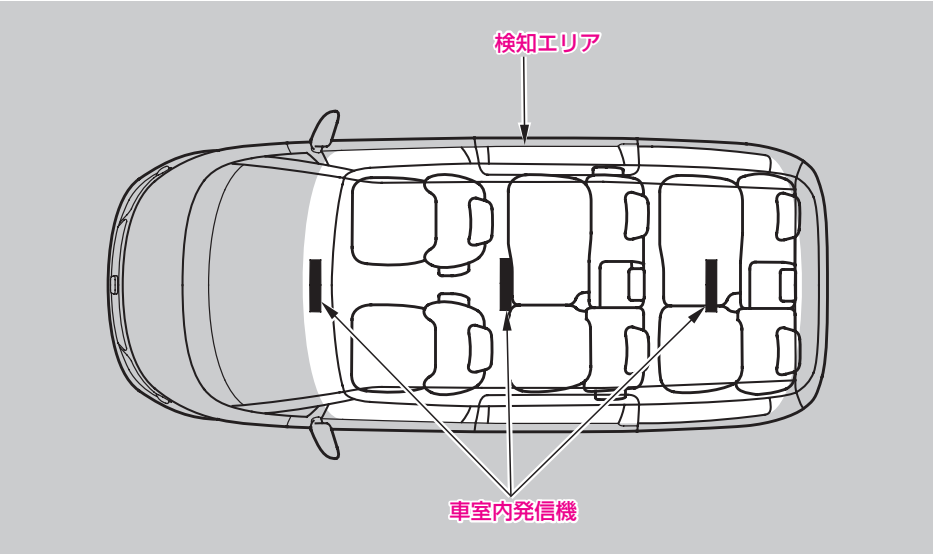
カードキーは運転者が携帯してください。車内にカードキーを残したまま降車しないでください。

知 識

- カードキーの電池が消耗しているときや、強い電波、ノイズのある場所などでは、作動範囲が狭くなったり、作動が不安定になることがあります。
- ドアやドアガラス、テールゲートに近づきすぎている場合などは、作動しないことがあります。
- カードキーが作動範囲内にあると、カードキーを携帯していない人でも、運転席または助手席ドアハンドルを握ったり、テールゲートハンドルの内側に触れると、すべてのドアとテールゲートの解錠ができます。
- ドアハンドルおよびテールゲートハンドルより約80cm以内の距離でも、カードキーが地面の近くや高い位置にある場合は、作動しないことがあります。
- 車内にカードキーを残したまま、降車しないでください。
- 運転席ドアが施錠されているときに、テールゲートを閉めると、テールゲートも施錠されます。

●エンジン始動の作動範囲

エンジン始動の機能が作動する範囲は、インストルメントパネル上やグローブボックス、ドアポケットなどの各種小物入れやカーゴルームの収納スペースを除く車内です。



知 識

- カードキーの電池が消耗しているときや、強い電波、ノイズのある場所などでは、作動範囲が狭くなったり、作動が不安定になることがあります。
- 次のような場合、システムがカードキーを認識できず、エンジンスイッチノブの操作ができず、エンジンが始動できなかったり、不用意なドアロック動作をすることがあります。
  - ・インストルメントパネル上やカーゴルーム、グローブボックスや各種小物入れなどにカードキーを置いたとき。
  - ・カードキーを入れているもの(バッグやポケット)の中に、携帯端末などの電波を発する物やノイズを発するものがあるとき
- 車外にカードキーがあっても、ドアやドアガラスに近づき過ぎている場合は、エンジンの始動ができることがあります。

ドア、テールゲートの施錠・解錠

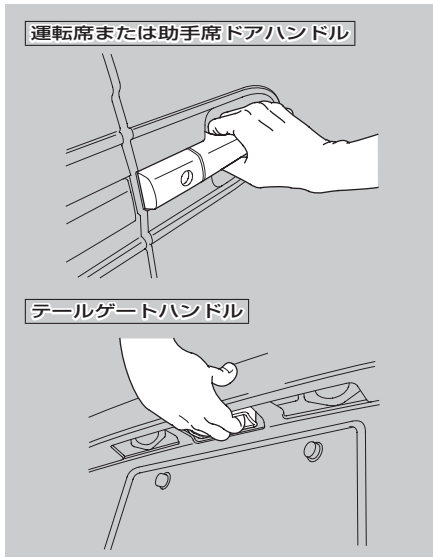
知 識

- カードキーの電池が消耗などして作動不良を起こしているときは、キーまたはキーレスエントリー一体キーでドアの施錠・解錠を行ってください。
- 施錠・解錠時のブザー（アンサーバックブザー）の音量を変えることや、ブザーを鳴らないようにすることができます。
  カスタマイズ機能　→386ページ
- オートロック起動時のブザー（オートロック起動ブザー）やオートロック時のブザー（オートロックアンサーバックブザー）を鳴らないようにすることができます。
  カスタマイズ機能　→386ページ

●ドア、テールゲートの解錠

運転席または助手席ドアハンドルを握るかテールゲートハンドルの内側に触れると、全てのドアとテールゲートが解錠されます。

このとき、ドアハンドル操作アンサーバックブザーが“ピッ”と鳴り、非常点滅表示灯が 2 回点滅します。



知 識

- 解錠してから約30秒以内にドア、テールゲートを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。
- カードキーを持っている人が作動範囲内にいないときは、運転席または助手席ドアハンドルを握るか、テールゲートハンドルの内側に触れても解錠されません。

作動範囲について →228ページ

- カードキーを持っている人が作動範囲内にいるとき、カードキーを持っていない人が運転席または助手席ドアハンドルを握るか、テールゲートハンドルの内側に触れると解錠されます。
- 解錠するときのブザー(ドア、テールゲートハンドル操作アンサーバックブザー)を鳴らさないようにすることができます。

カスタマイズ機能 →386ページ

- 革製やスキー用の手袋などをつけてドアハンドルを握った場合やテールゲートハンドルの内側に触れた場合などは、解錠が遅れたり、解錠されないことがあります。
- ドアハンドルを握った直後や、テールゲートハンドルの内側に触れた直後にドアハンドルまたはテールゲートハンドルを引くと、解錠はされますが、ドアまたはテールゲートが開かないことがあります。ドアハンドルまたはテールゲートハンドルを戻してからもう一度ドアハンドルを握るか、テールゲートハンドルの内側に触れて、解錠されていることを確認してからドアハンドルまたはテールゲートハンドルを引いてください。
- カードキーが、ドアとテールゲートの施錠・解錠の作動範囲内にある場合、大雨や洗車などでドアハンドルやテールゲートに多量の水がかかると、すべてのドアとテールゲートが解錠されることがありますが、解錠してから30秒以内に開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。

●ドア、テールゲートの施錠(オートロック)

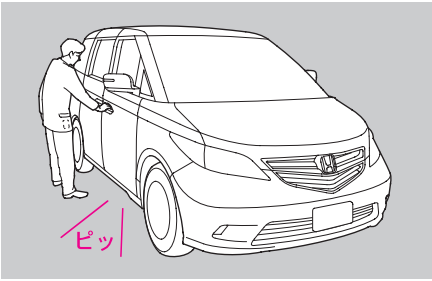
カードキーは運転者が携帯し、車内にカードキーを残したまま降車しないでください。カードキーが車内にあっても、携帯状態や位置、周囲の環境、電波状態などにより、作動が不安定になり、ドアが施錠されることがあります。

降車して、車から離れると(ドア、テールゲートの解錠の作動範囲外)、自動で施錠します。

ドア、テールゲート施錠・解錠の作動範囲 →228ページ

▼

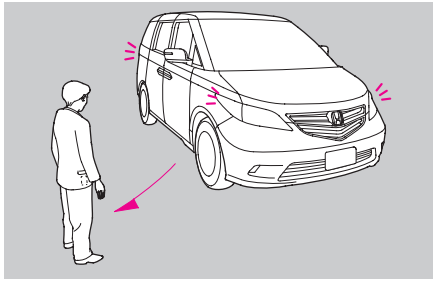
①全てのドアとテールゲートが閉まっているのを確認します。
ドアを閉めたときに、オートロック起動ブザーが“ピッ”と鳴るのを確認します。
(オートロック起動)



知 識

●オートロック起動後に、窓からカードキーを車内に入れたり、車に近づきすぎた場合は、“ピピピピピ”と約3秒間オートロック作動中止警告ブザーが鳴り、オートロックの作動を中止します。
オートロック作動中止警告ブザーが鳴ったときは、車から離れても自動で施錠されません。
カードキーを携帯しているのを確認して、再度ドア、テールゲートを開閉してください。

②カードキー携帯者が車から離れる(作動範囲の外に出る)と、全てのドアとテールゲートが自動で施錠されます。
このとき、オートロックアンサーバックブザーが“ピピッ”と鳴り、非常点滅表示灯が3回点滅しますので確認してください。



知 識

- オートロック起動ブザーが鳴ってから、車から離れずに作動範囲内にいた場合は、約30秒後に自動で施錠されます。
- 車内に人が乗っている状態でもカードキー携帯者が車両から離れると自動で施錠され、約15秒後にセキュリティーシステムもセットされます。警報装置の思わぬ作動を防ぐためにオートロックを一回だけ解除することができます。

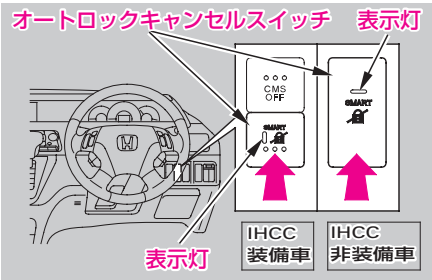
セキュリティーシステム →410ページ
オートロックの解除 →234ページ

- 運転席ドアを開けたあと、ドアのハンドルを引いたままノブを施錠方向に動かすか、スイッチを施錠方向に動かして、ドアを閉めると施錠されます。
- オートロック起動ブザーが鳴ってからドアを開けた場合、オートロックは中断されますが、再度ドアを閉めるとオートロックは再開されます。
- オートロック起動ブザーが鳴ってから、テールゲートハンドルの内側に触れるとオートロック機能は中止され、ハンドルに触れたときから30秒後に自動的に施錠されます。
- 次のような場合は、オートロックは作動しません。
  - カードキーが車内に置いてあるとき（ただし、カードキーの携帯状態や周囲の環境、電波状態などによっては、オートロックが作動することがあります。）
  - ドア、テールゲートが完全に閉まっていないとき
  - エンジンスイッチノブが“0”以外のとき
  - エンジンスイッチにキーが挿入されているとき
  - 降車時すでにカードキーが作動範囲内にないとき 作動範囲 →228ページ
  - オートロックキャンセルスイッチや、運転席ドアのノブかスイッチを使ってオートロック機能を解除しているとき オートロックの解除 →234ページ
- ドア、テールゲートを閉めたときに、オートロック起動ブザーが“ピッ”と鳴らなかったときは、カードキー携帯者が車両から離れても、自動で施錠されません。
- ドア、テールゲートを施錠後、約2秒間はドアハンドルを握ったり、テールゲートハンドルの内側に触れても、ドア、テールゲートが解錠しないようになっています。（アンロックセンサー禁止時間）
- アンロックセンサー禁止時間を変えることができます。
  詳しくはHonda販売店にご相談ください。
- ドア、テールゲートを閉めたときのブザー（オートロック起動ブザー）や、自動で施錠されるときのブザー（オートロックアンサーバックブザー）を鳴らさないようにすることができます。 カスタマイズ機能 →386ページ

●オートロックの解除

オートロックキャンセルスイッチを使うとき

降車時にオートロックキャンセルスイッチを押すと、オートロックを一回だけ作動しないようにすることができます。表示灯が点灯している間は、オートロックは作動しません。

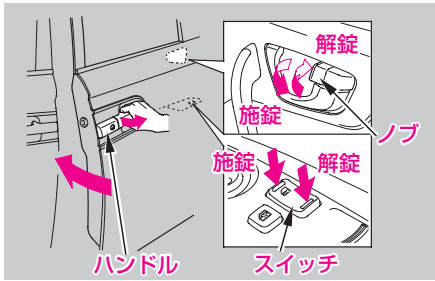


知 識

- カードキー携帯者が、車室外作動範囲から離れると、表示灯が消灯し、再度ドアを閉めたときにはオートロック機能が復帰します。
  また次の場合にも復帰します。
  - 表示灯が点灯中に、再度オートロックキャンセルスイッチを押したとき
  - 降車後、カードキー携帯者が約30秒以上車室外作動範囲の中にいるとき
  - エンジンスイッチノブを“0”以外にしたとき
  - 運転席ドアのノブまたはスイッチ、キーまたはキーレスエントリーで施錠したとき

運転席ドアのドアロックノブを使うとき

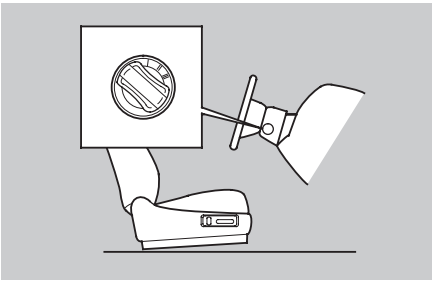
運転席ドアを開けたあと、ドアのハンドルを引いたまま、ノブかスイッチで一度施錠してから解錠すると、オートロック機能が解除されます。



知 識

- オートロック機能を復帰させるには、カードキー携帯者が作動範囲の中でドア、テールゲートの開閉を行います。

エンジンスイッチノブ



0
（プッシュオフ）
エンジンスイッチノブがロックされる位置です。

0
（プッシュオン）
ノブを押して、ID認証が取れると、ロックが解除されエンジンスイッチノブを回すことができます。

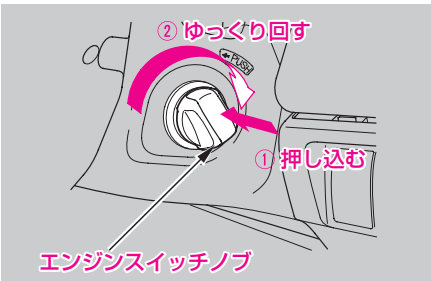
I
エンジンをかけずにラジオなどのアクセサリーを使用するときの位置です。

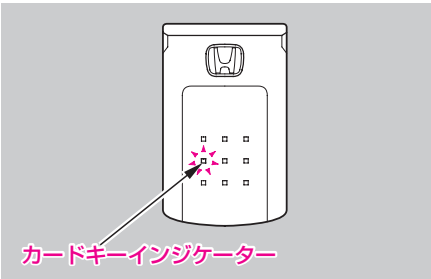
II
運転するときの位置です。

III
エンジン始動位置です。
始動したら、ノブから手を離してください。自動的に“II”に戻ります。

エンジンスイッチノブを“0”から“I”へ回すとき

エンジンスイッチノブを押し込みます。このとき、ID認証を行います。（カードキーのインジケーターが点灯後すぐ消灯）





ID認証が取れると“ピッ”というブザーが鳴り、エンジンスイッチノブを“I”へ回すことができます。

知 識

- エンジンスイッチノブは、“ピッ”というブザーが鳴ってから、ゆっくりと回してください。

エンジンスイッチノブが“0”から“I”に回らないとき（ハンドルロックの解除）

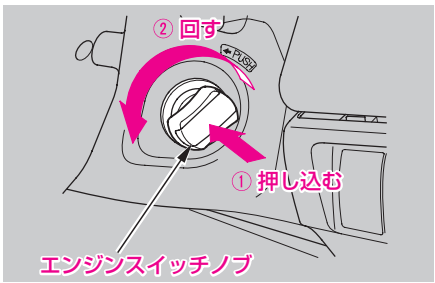
ハンドルを左右に回しながらエンジンスイッチノブを回せば容易に回ります。

もし、エンジンスイッチノブが回らない場合は、もう一度エンジンスイッチノブを押し直してゆっくりと回してください。

カードキーの作動不良などにより、ID認証が取れずに、エンジンスイッチノブが回せない場合は、いったんエンジンスイッチノブを戻して、キーまたはキーレスエントリー一体キーを挿入してからエンジンスイッチノブを回してください。

エンジンスイッチノブを“0”に回すとき

・セレクトレバーをPにします。
・“I”でエンジンスイッチノブを押し込んで“0”まで回します。



車から離れるときは、エンジンスイッチノブを“0”にしてから離れるようにしてください。

知 識

- エンジンスイッチが“0”以外では、オートロックは作動しません。
  車から降りてドアを閉めたときに警告ブザー(ピピピピピピ)が鳴ったときは、車の状態を確認してください。
- エンジンスイッチノブを“0”にするとハンドルがロックされます。
- エンジンを止めた状態で“I”または“II”のまま、長時間放置しないでください。
  バッテリー容量が低下し、エンジンがかからなくなることがあります。
  エンジンスイッチを“0”にするときは、途中の位置で止めずに“0”まで回してください。
- セレクトレバーがP以外のときは、エンジンスイッチノブが“0”まで回りません。

●エンジンスイッチノブ警告ブザー

エンジンスイッチノブが“ I ”で、車を離れようとしたとき(運転席ドアを開けたとき)、ブザーが鳴りエンジンスイッチノブを“ 0 ”にしていないことを知らせます。

知 識

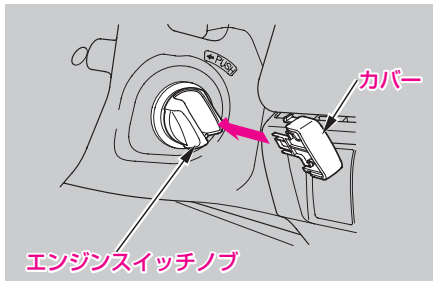
- エンジンスイッチノブが“ 0 ”の位置で、ノブを押し込んでいるときに、運転席ドアを開けたときにもブザーが鳴ります。

●エンジンスイッチノブカバー

エンジンスイッチのかぎ穴へ、ほこりなどの侵入を防いだりするときに、エンジンスイッチノブカバーを取り付けます。

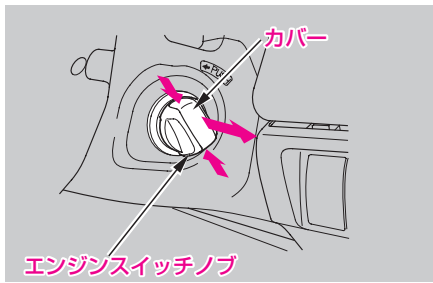
取り付けるとき

カバーをエンジンスイッチノブに差し込みます。



取り外すとき

カバーの両端を押しながらカバーを引き抜きます。



エンジンのかけかた

⚠警告

- バッテリー液が不足しているときは、エンジンの始動をしないでください。
  バッテリーが破裂するおそれがあります。
- 車庫や屋内などの換気の悪いところでは、エンジンをかけたままにしないでください。
  車内や屋内などに排気ガスが充満し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。

⚠注意

- エンジンを始動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

アドバイス

- 排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えない場合は、排気系や燃料系の異常が考えられますので、必ずHonda販売店で点検を受けてください。

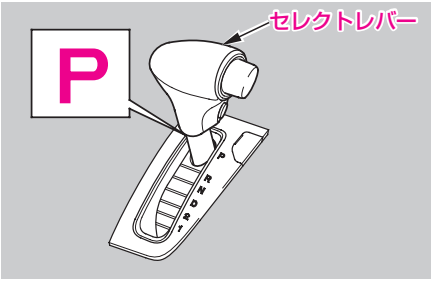
カードキーは運転者が携帯してください。車内にカードキーを残したまま、降車しないでください。
また、電池の消耗などでカードキーが正常に作動しないときは、キーまたはキーレスエントリー一体キーをつかってエンジンを始動してください。

キーを使ったエンジンのかけかた
→198ページ

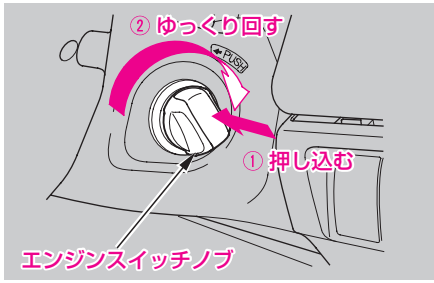
①パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
パーキングブレーキ →195ページ

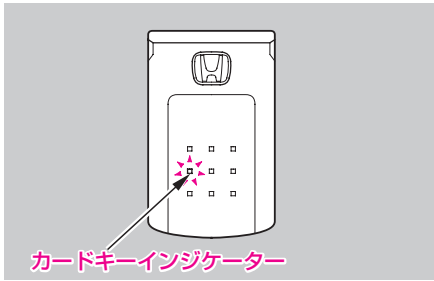
②セレクトレバーがPの位置にあること
を確認してください。

セレクトレバーの操作　→202ページ



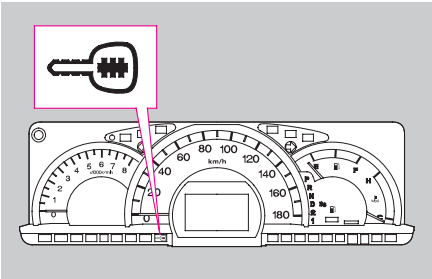
③ブレーキペダルをしっかりと踏みます。
④エンジンスイッチノブを押し込みます。
このとき、ID認証が取れると、カード
キーのインジケーターが点灯後すぐ消
灯します。





⑤エンジンスイッチノブを“II”に回してから、メーター内のイモビライザーシステム表示灯が消灯するのを確認します。

イモビライザーシステム　→41ページ
イモビライザーシステム表示灯
→164ページ



⑥アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスターターを回してください。

知 識

- 消費電力の大きいライト類、エアコン、フロントガラス熱線、リヤデフロスターのスイッチは“OFF”にした方が始動は容易になります。
- バッテリーあがりを防ぐため、スターターは連続して15秒以上回さないでください。15秒回してもエンジンが始動しなかったときは、一度エンジンスイッチノブを“ I ”に戻して10秒以上待ってから再始動してください。
- エンジンがあたたまっていると始動に時間がかかることがあります。アクセルペダルを半分程度踏み込んだまま、スターターを回してください。エンジンが始動したらアクセルペダルを徐々に戻してください。
- エンジン始動後は、エンジン制御システムの働きによりエンジン回転が高くなりますが、自動的に適正回転に下がります。

カードキーの電池交換

マルチインフォメーションディスプレイ（IHCC装備車）またはメーター内に電池残量を示すアイコンが表示された場合や作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられますので、早めに電池を交換してください。

カードキーの電池が消耗したとき

→246ページ

使用電池 ・・・・・・・・ ボタン電池CR2012（2個）

交換の際、破損などのおそれがあるため、Honda販売店での交換をおすすめします。

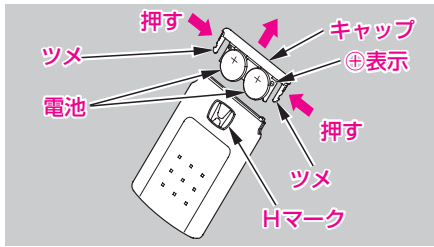
お客様自身で電池を交換する場合は、「電池の交換のしかた」にしたがって交換してください。

電池の交換のしかた

①ツメを押しながらキャップを引き抜きます。

②古い電池を取り出し、新しい電池の⊕極側を上（キャップの⊕表示と同じ向き）にして、キャップの形に合わせて置きます。

③キャップの⊕表示とカードキー本体のHマーク側が同じ向きになるようにして、キャップを押し込みます。



知 識

- 液漏れなどを防ぐため、電池の⊕極と⊖極は正しく取り付けてください。
- 新しい電池と使いかけの電池との併用はしないでください。
  電池を交換するときは、2つとも新しいものと交換してください。
- 電池交換の際は、キャップの防水シール部分の傷付きやゴミの混入にご注意ください。
  耐水性能の低下や故障の原因となります。
- 電池交換の際は、カードキーに無理な力を加えないでください。
- 電池交換後はキャップを確実に取り付けてください。確実に取り付けられていないと、作動不良などの原因となります。
- 車内で電池交換を行わないでください。電池を外したままドアを閉めると、施錠されることがあります。
- 電池はHonda販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

警告表示について

Hondaスマートカードキーシステムでは、誤操作や車両盗難防止のために警告音を鳴らしたり、メーター内およびマルチインフォメーションディスプレイ(IHCC装備車)に警告を表示します。
警告音が鳴ったり、警告表示が出た場合は、必ず車両およびカードキーの確認を行ってください。

●警告ブザーの種類

警告ブザーは、車内警告ブザーと車外警告ブザーの2種類があります。

車内警告ブザー

“ピーッピーッピーッピーッピーッピーッ”と6回鳴ります。

車外警告ブザー

カードキー持ち去り警告が作動すると、“ピピピピピピ”と6回鳴ります。
オートロック作動中止警告が作動すると、“ピピピピピピ”と約3秒間鳴ります。

●カードキー持ち去り警告

カードキーをエンジン始動の作動範囲外に持ち出してドアを閉めると、カードキー持ち去り警告が作動します。

エンジン始動の作動範囲　→229ページ

知 識

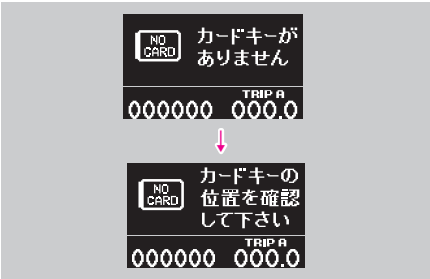
- カードキーを持ち出した状態で、エンジンスイッチノブを“0”(プッシュオフ)にすると、エンジンスイッチノブの操作ができなくなります。
  エンジンスイッチノブを操作するときは、カードキー、キーまたはキーレスエントリー一体キーを持っていることを確認してください。
- 窓からの受け渡しでは、カードキーの持ち去りを検知せず、警告は作動しません。
- エンジン始動範囲内にカードキーがあってもカードキーの携帯状態や周囲の環境により、カードキーの位置を認識できないときも、警告が行われます。
  故障ではありませんが、カードキーを携帯していることを確認してください。

Hondaスマートカードキーシステムとは　→222ページ

エンジンスイッチが“II”のとき

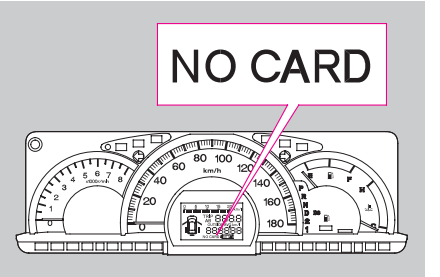
IHCC装備車

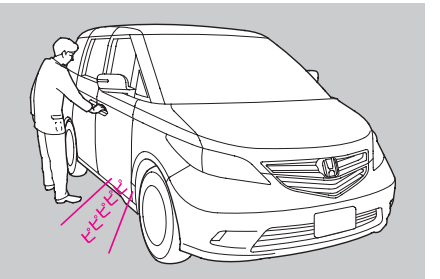
マルチインフォメーションディスプレイに“スマートカードキーがありません”“カードキー位置を確認して下さい”と表示され、車内警告ブザーと車外警告ブザーが鳴ります。



IHCC非装備車

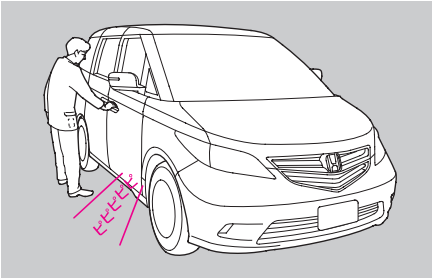
メーター内の“NO CARD”表示が点滅し、車内警告ブザーと車外警告ブザーが鳴ります。





エンジンスイッチが“I”または“0”(プッシュオン)のとき

車外警告ブザー(カードキー持ち去り警告)が鳴ります。



カードキー持ち去り警告が出たときは

エンジン始動の作動範囲内にカードキーを戻して、次のいずれかの操作を行うと警告が解除されます。

・ドアを閉める

・パーキングブレーキを操作する

エンジン始動範囲内であってもカードキーの位置や状態、周囲の環境や電波状態などにより、警告が解除されず、再度カードキー持ち去り警告が行われることがあります。故障ではありませんが、カードキーを携帯していることを確認してください。

警告状態が続く場合は、カードキーの携帯位置を変更することをお勧めします。

●オートロック作動中止警告ブザー

オートロック起動後、窓からカードキーを車内に入れたり、車に近づきすぎた場合は、“ピピピピピピ”と約3秒間オートロック作動中止警告ブザーが鳴ります。

オートロック作動中止警告が出たときは

車から離れても自動で施錠されません。カードキーを携帯していることを確認して、再度、ドアまたはテールゲートを開閉して、オートロック起動ブザーが“ピッ”と鳴るのを確認します。(オートロック起動)

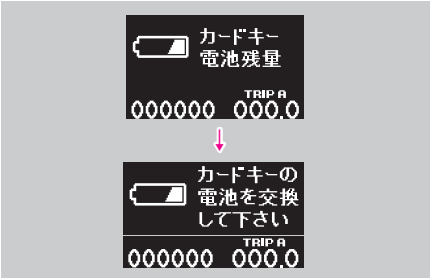
車に近づきすぎている場合は、車から離れてください。

ドア、テールゲートの施錠　→230ページ

●カードキーの電池が消耗したとき

IHCC装備車

マルチインフォメーションディスプレイに警告表示が表示され、車内警告ブザーが鳴ります。

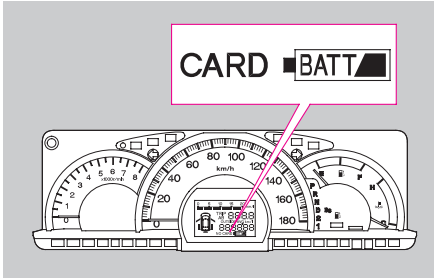


上記のアイコンが表示されたときは、早めにカードキーの電池を交換してください。

カードキーの電池交換のしかた
→242ページ

IHCC非装備車

メーター内に“CARD BATT”表示が点滅し、車内警告ブザーが鳴ります。

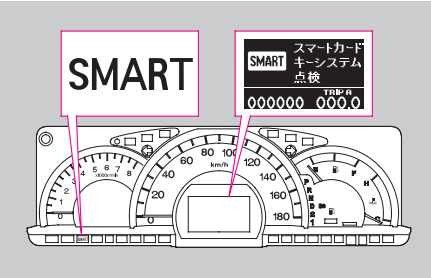


“CARD BATT”表示が点滅したときは、早めにカードキーの電池を交換してください。

カードキーの電池交換のしかた
→242ページ

●Hondaスマートカードキーシステム(SMART)警告灯

メーター内に組み込まれており、Hondaスマートカードキーシステムが異常のときに点灯します。
また、マルチインフォメーションディスプレイ(IHCC装備車)に“スマートカードキーシステム点検”のメッセージが表示されます。



エンジンスイッチノブを“II”にしたとき点灯し、数秒後に消灯するのが正常です。

アドバイス

●警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
・運転中に点灯したとき
・エンジンスイッチノブを“II”にしても点灯しないとき、あるいは数秒経過しても消灯しないとき
・エンジンスイッチノブが“0”のときに数秒間点灯したとき
警告灯が点灯した場合は、カードキーを使わずに、キーまたはキーレスエントリー一体キーを使ってください。

安全装備

3

●SRSエアバッグシステム
SRSエアバッグシステムの
しくみ ……250
作動するとき ……252
作動しないとき ……253
SRSエアバッグシステムの
効果を十分に発揮させる
ために ……254
お子さまを乗せるときは ……255
取り扱いについて ……256
●サイドエアバッグシステム／サイドカーテンエアバッグシステム
サイドエアバッグシステムおよび
サイドカーテンエアバッグ
システムのしくみ ……258
作動するとき ……262
作動しないとき ……263
サイドエアバッグシステムおよび
サイドカーテンエアバッグ
システムの効果を十分に
発揮させるために ……264
乗員姿勢検知システム
（助手席のみ）……266
お子さまを乗せるときは ……269
取り扱いについて ……270
●シートベルトプリテンショナー
シートベルトプリテンショナーの
しくみ ……274
取り扱いについて ……276
●E-プリテンショナー
E-プリテンショナーの
しくみ ……278
取り扱いについて ……279
●アンチロックブレーキシステム（ABS）
ABSのしくみ ……280
運転のしかた ……280
取り扱いについて ……281
●ブレーキアシスト
ブレーキアシストのしくみ …282
取り扱いについて ……282
●ビークルスタビリティアシスト（VSA）
VSAのしくみ ……284
運転のしかた ……285
取り扱いについて ……286
●追突軽減ブレーキ（CMS）
CMSのしくみ……288
追突警報について ……292
CMSの停止について……294
CMSの自動停止について……294
取り扱いについて ……295
●四輪駆動機構（4WD）
運転するときは ……298
取り扱いについて ……298
●その他の安全装備 ……299

SRSエアバッグシステム（運転席／助手席用シートベルト補助乗員保護装置）

SRSエアバッグシステムのしくみ

●SRSエアバッグシステムとは

前方向からの衝突により、SRSエアバッグが膨らんで運転者および助手席同乗者の顔面への衝撃を緩和する装置です。

SRSエアバッグシステムはシートベルトに代わるものではありません。必ず、シートベルトを着用してください。

⚠警告

- SRSエアバッグシステム装備車であっても、必ずシートベルトを着用してください。
  シートベルトを正しく着用し、正しい乗車姿勢をとらないと衝突などのときSRSエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

*SRS：サプリメンタルレストレイントシステム（Supplemental Restraint System）の略でシートベルトの補助拘束装置の意味

●どのように作動するか

エンジンスイッチが“II”のとき、前方向からの衝突により、センサーが一定以上の衝撃（正しくシートベルトを着用していてもハンドルに顔面があたり、けがをするような場合）を感知するとシステムが作動し、SRSエアバッグが膨らんで運転者および助手席同乗者の顔面への衝撃を緩和します。
また、衝突状況とシートベルト着用の状況により、運転席側と助手席側のSRSエアバッグとシートベルトプリテンショナーの作動を独立制御します。
そのため、シートベルトプリテンショナーのみ作動したり、運転席または助手席のSRSエアバッグが片側のみ作動することがあります。

⚠注意

- SRSエアバッグが膨らんだ直後は、SRSエアバッグ構成部品に触れないでください。
  構成部品が熱くなっているため、やけどなど思わぬけがをすることがあります。

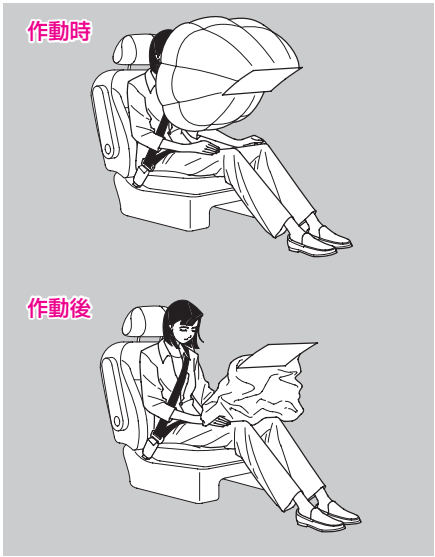
知 識

- 車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。
- SRSエアバッグは非常に速い速度で膨らむため、SRSエアバッグとの接触によりすり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。
- 膨らんだSRSエアバッグはすぐにしぼみます。視界をさまたげません。
- SRSエアバッグが膨らむと白煙が出ますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。ただし、残留物(カスなど)が目や皮膚などに付着したときには、できるだけ早く水で洗い流してください。
  皮膚の弱いかたなどは、まれに皮膚を刺激することがあります。
- SRSエアバッグは一度膨らむと再使用できません。
  Honda販売店で交換してください。

運転席用SRSエアバッグシステム

助手席用SRSエアバッグシステム

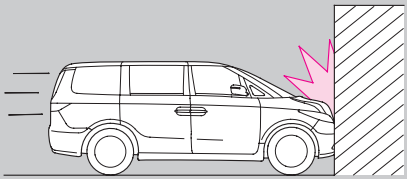
助手席用SRSエアバッグシステムは、同乗者がいなくても作動します。



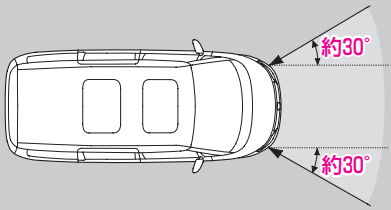
作動するとき

次のような場合に作動します。

20～30km/h以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき



車両の前方左右約30度以内の方向から強い衝撃を受けたとき

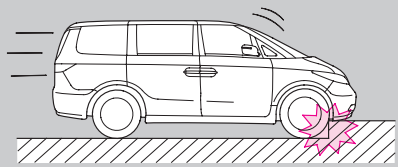


知 識

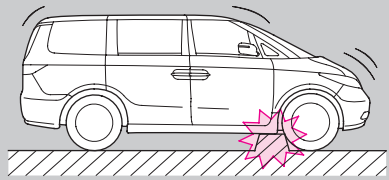
- 衝撃を吸収できるもの（車やガードレールのように変形するもの）に衝突した場合、SRSエアバッグが作動するときの速度（車速）は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受けたとき作動することがあります。車両に衝撃を受けないように十分に速度を落とし障害物をさけて走行してください。

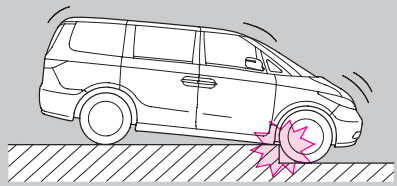
縁石などに衝突したとき



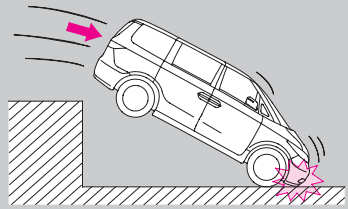
突起物などに衝突したとき



深い穴や溝などに落ちたとき

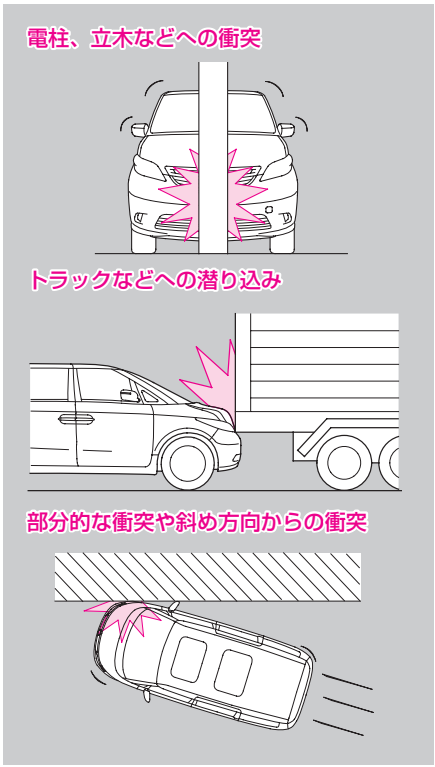


高いところから落ちたとき



作動しないとき

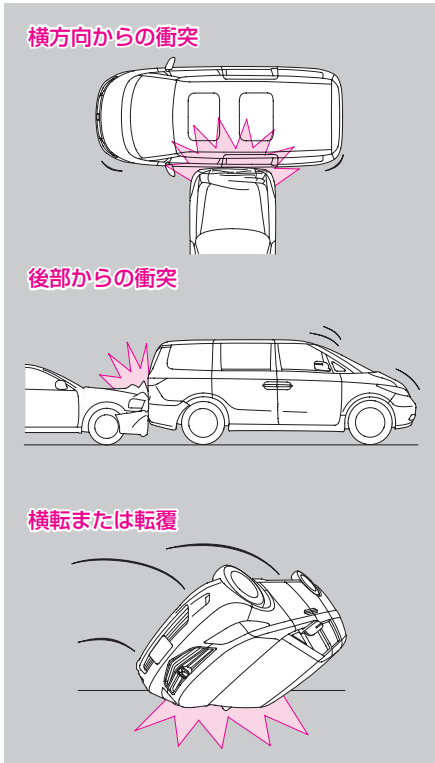
衝突の位置、衝撃の度合い、角度によって、作動しないことがあります。



知 識

- 車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小とSRSエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。



知 識

- 事故の状況、形態によっては、SRSエアバッグが作動することがあります。

SRSエアバッグシステムの効果を十分に発揮させるために

●正しい乗車姿勢で

運転席

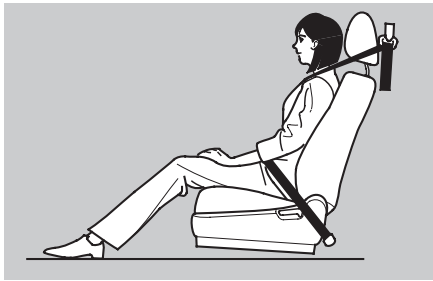
正しい運転姿勢（シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドルが楽に操作できる状態）がとれる範囲で、シートを後ろに下げます。

⚠警告

- ハンドルに顔や胸などを近づけていると、SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け、重大な傷害を受けるおそれがあります。

助手席

シートを後ろに下げて深く腰かけ、背中を背もたれから離さないようにします。



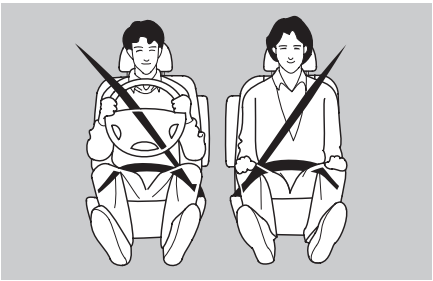
⚠警告

- インストルメントパネルに顔や胸などが近づかないようにシートを後ろに下げてください。また、インストルメントパネルに手や足などを置かないでください。
  SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け、重大な傷害を受けるおそれがあります。

お子さまを乗せるときは

●シートベルトは必ず着用

このシステムは、シートベルトと併用することでその効果を発揮します。
必ず、シートベルトを着用してください。

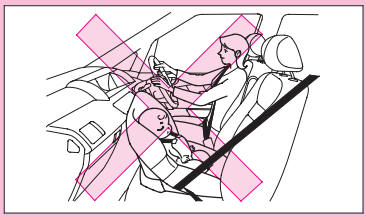


お子さまは、後席に乗せ必ずシートベルトを着用させてください。
正しく着用できない小さなお子さまは、体格に合わせてチャイルドシートをお使いください。

●チャイルドシートの取り付けについて

⚠警告

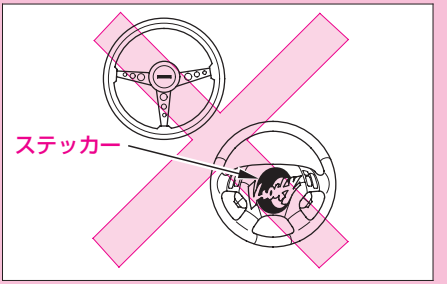
- 助手席には乳児用シートを取り付けないでください。また、幼児用シートを後ろ向きに取り付けないでください。SRSエアバッグが膨らむ際、乳児用シートや、幼児用シートの背面に強い衝撃を受け、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。
  また、やむをえず幼児用シートを前向きに取り付ける場合は、SRSエアバッグから遠ざけるため、シートを一番後ろに下げてください。



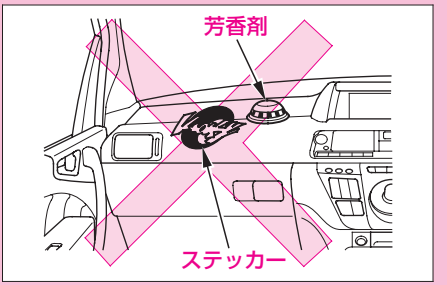
取り扱いについて

⚠注意

- SRSエアバッグの取り外し、分解などはしないでください。
  不適切に扱うと誤って作動したり、正常に機能しなくなります。
- ハンドルを交換したり、パッドにステッカー類を貼ったりすると正常に機能しなくなります。



- インストルメントパネル上面にステッカー類を貼ったり、アクセサリーや芳香剤など物を置かないでください。
  フロントガラスにアクセサリーなどを取り付けたり、ルームミラーにワイドミラーを取り付けたりしないでください。
  また、SRSエアバッグと乗員との間にテレビなどの用品を取り付けたり、物を置いたりしないでください。
  正常に機能しなくなったり、作動時にこれらの物が飛ぶことがあります。

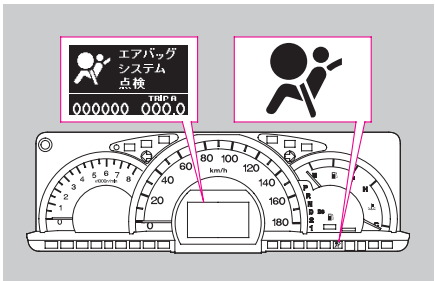


知 識

- ハンドルまわり、インストルメントパネルまわりやセンターコンソール付近の修理、オーディオ等用品の取り付けおよびダッシュボード周辺の板金塗装および修理をする場合は、SRSエアバッグシステムに影響を及ぼすおそれがありますので、必ずHonda販売店にご相談ください。
- SRSエアバッグシステム装備車を廃棄するときは必ずHonda販売店にご相談ください。正しく取り扱わないとSRSエアバッグシステムが思いがけなく作動することがあります。
- サスペンションの改造をしないでください。車高やサスペンションの硬さが変わるとSRSエアバッグの誤作動につながります。（Honda純正品を除く）

●SRSエアバッグシステム警告灯

メーター内に組み込まれており、SRSユニットがシステムの異常を検出すると点灯します。
また、マルチインフォメーションディスプレイ（IHCC装備車）に“エアバッグシステム点検”が表示されます。



エンジンスイッチを“II”にしたときに約6秒間点灯して消えるのが正常です。

アドバイス

- 警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
  - ・運転中に点灯したとき
  - ・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは約6秒経過しても消灯しないとき

必要なときにSRSエアバッグが膨らまないおそれがあります。

サイドエアバッグシステム／サイドカーテンエアバッグシステム

注文装備

サイドエアバッグシステムおよびサイドカーテンエアバッグシステムのしくみ

●サイドエアバッグシステムおよびサイドカーテンエアバッグシステムとは

側面からの衝突により、サイドエアバッグ（運転者または助手席同乗者）およびサイドカーテンエアバッグが膨らんで乗員と車両側面の間に入り込むことにより、車両側面と乗員の頭部や胸部などが衝突するときの衝撃を緩和する装置です。

サイドエアバッグシステムおよびサイドカーテンエアバッグシステムはシートベルトに代わるものではありません。必ず、シートベルトを着用してください。

⚠警告

- サイドエアバッグシステムおよびサイドカーテンエアバッグシステム装備車であっても、必ずシートベルトを着用してください。
  シートベルトを正しく着用し、正しい乗車姿勢をとらないと衝突などのときエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

●どのように作動するか

エンジンスイッチが“II”のとき、側面からの衝突により、センサーが一定以上の衝撃（頭部や胸部に重傷を及ぼすような場合）を感知するとシステムが作動し、衝撃を受けた側のサイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグが膨らんで乗員と車両側面の間に入り込むことにより、車両側面と乗員の頭部や胸部などが衝突するときの衝撃を緩和します。
助手席側は乗員姿勢検知システムが乗車姿勢を不適切であると判断した場合は、サイドエアバッグの作動を自動停止します。

乗員姿勢検知システム　→266ページ

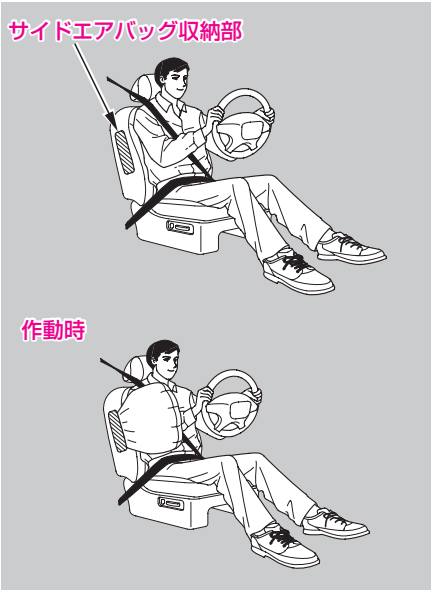
⚠注意

- サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグが膨らんだ直後は、エアバッグ構成部品に触れないでください。
  構成部品が熱くなっているため、やけどなど思わぬけがをすることがあります。

知 識

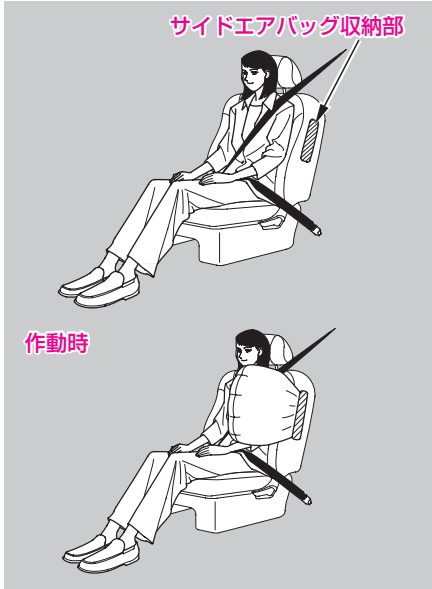
- サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグは非常に速い速度で膨らむため、サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグとの接触によりすり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。
- サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグは膨らんだあとにしぼみます。
- サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグが膨らむと白煙が出ますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。ただし、残留物（カスなど）が目などに付着したときには、できるだけ早く水で洗い流してください。
- サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグは一度膨らむと再使用できません。
  Honda販売店で交換してください。

運転席サイドエアバッグシステム



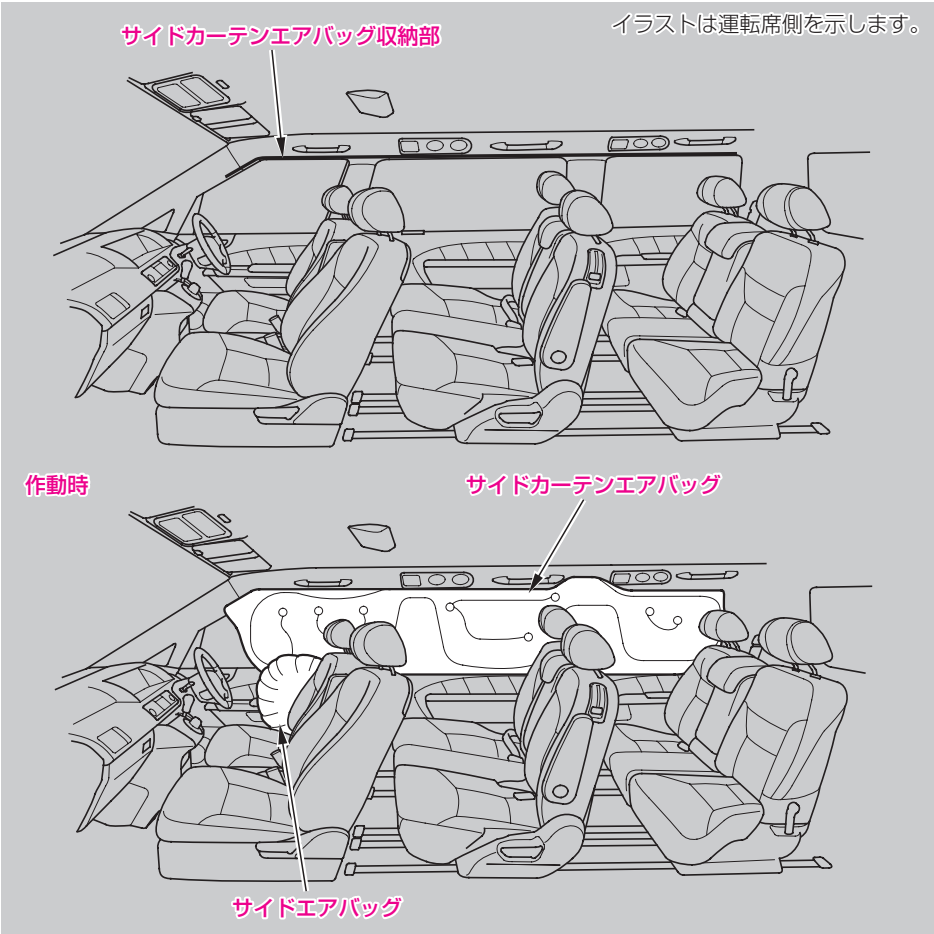
助手席サイドエアバッグシステム

助手席用サイドエアバッグシステムは、同乗者がいなくても作動します。



サイドカーテンエアバッグシステム

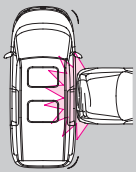
助手席側にもサイドカーテンエアバッグが収納されています。
助手席側サイドカーテンエアバッグシステムは、同乗者がいなくても作動します。



作動するとき

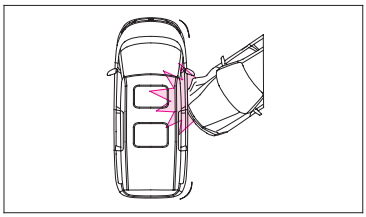
次のような場合に作動します。

約25km/h以上の速度で自車と同等の車が真横から側面衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき



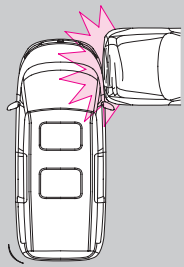
知 識

- 側面に斜めから衝突された場合、サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグが作動するときの速度(車速)は高くなります。

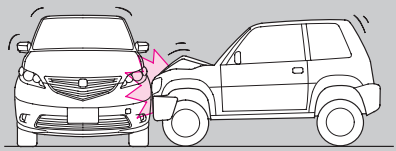


次のような場合、作動しないことがあります。

乗員付近以外の側面に衝突されたとき



車高の高い車に側面衝突されたとき



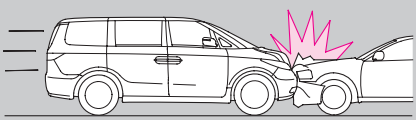
知 識

- サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグは乗員の受ける衝撃の大きさによって作動するようになってますので車両の損傷状態の大小とサイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

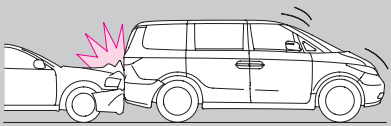
作動しないとき

低い速度での衝突や次のような場合、サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグが膨らんでも乗員保護の効果がないので作動しません。ただし、状況によっては、サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグが作動することがあります。

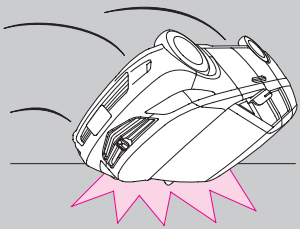
正面衝突



後部からの衝突



横転または転覆



知 識

- 事故の状況と、形態によっては、サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグが作動することがあります。

助手席側は、乗員姿勢検知システムが乗車姿勢を不適切であると判断した場合は、サイドエアバッグの作動を自動停止します。

乗員姿勢検知システム　→266ページ

サイドエアバッグシステムおよびサイドカーテンエアバッグシステムの効果を十分に発揮させるために

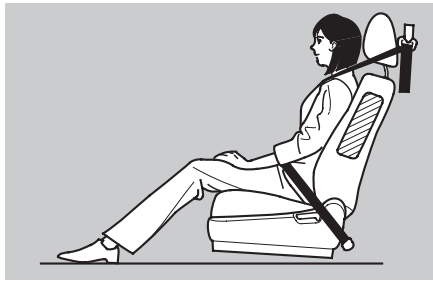
●正しい乗車姿勢で

運転席

正しい運転姿勢（シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドルが楽に操作できる状態）がとれる範囲で、シートを後ろに下げます。

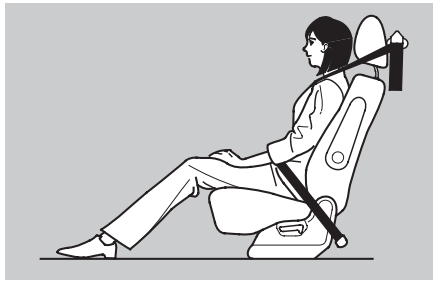
助手席

シートを後ろに下げて深く腰かけ、背中を背もたれから離さないようにします。



後席（外側）

シートに深く腰かけ、背中を背もたれから離さないようにします。



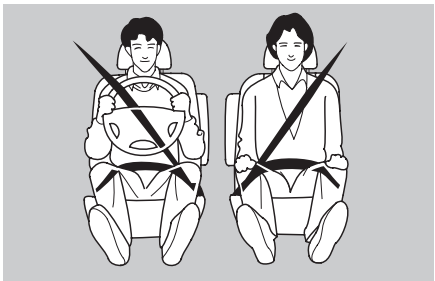
⚠注意

- ドアに寄りかからないようにしてください。サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け、傷害を受けるおそれがあります。

- サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグの各格納部に手や顔などを必要以上に近づけないでください。また、後席同乗者は前席の背もたれを抱えないでください。
  サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け、傷害を受けるおそれがあります。

●シートベルトは必ず着用

このシステムは、シートベルトと併用することでその効果を発揮します。
必ず、シートベルトを着用してください。



乗員姿勢検知システム(助手席のみ)

●乗員姿勢検知システムとは

乗車時の姿勢が不適切な場合、サイドエアバッグが膨らむことにより重大な傷害を受けるおそれがあるため、助手席乗員の姿勢を検知し、サイドエアバッグの作動を自動的に停止する装置です。

知 識

- シート表皮の裏にセンサーが取り付けられているため、次のような場合には、乗員姿勢検知システムが正常に機能しないおそれがあります。
  - ・シートの背もたれがぬれているとき
  - ・金属など電気を通す物が接しているとき
  - ・シートにクッションなどを装着しているとき
  - ・ダウンジャケット等の厚い上着を着ているとき
  - ・水分を含んだ物を助手席に置いているとき

●サイドエアバッグの作動を自動停止するとき

次のような場合、サイドエアバッグの作動を自動停止します。このときメーター内のサイドエアバッグ自動停止表示灯が点灯します。

サイドエアバック自動停止表示灯

→164ページ

また、マルチインフォメーションディスプレイ（IHCC装備車）に“助手席サイドエアバッグ停止中”“正しい乗車姿勢を取って下さい”が表示されます。

小さなお子様がドアに寄りかかって、サイドエアバッグがとび出す付近に頭があるようなとき

知 識

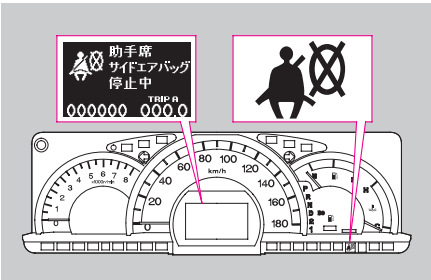
●次のような場合でも、サイドエアバッグの作動を自動停止することがあります。

・小柄な大人の方が左のイラストと同じような姿勢をとったとき

・大人の方が前かがみになるまたは、寝そべっていて、ドア側に寄りかかっているとき

●サイドエアバッグ自動停止表示灯

メーター内に組み込まれており、乗員姿勢検知システムが乗車姿勢を不適切であると判断し、サイドエアバッグの作動を自動停止しているときに点灯します。
また、マルチインフォメーションディスプレイ（IHCC装備車）に“助手席サイドエアバッグ停止中”“正しい乗車姿勢を取って下さい”が表示されます。
表示灯が点灯したときは、上体を起こして座ってください。また、小さなお子さまの場合は、後席に乗せてください。



エンジンスイッチを“II”にしたときに約5秒間点灯して消えるのが正常です。

アドバイス

- 表示灯が次のような状態になったときは、乗員姿勢検知システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
  - ・正しい乗車姿勢をとっても消灯しないとき、あるいは助手席に乗員がいないのに消灯しないとき
  - ・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは約5秒経過しても消灯しないとき

お子さまを乗せるときは

お子さまは、後席に乗せ必ずシートベルトを着用させてください。
正しく着用できない小さなお子さまは、体格に合わせてチャイルドシートをお使いください。

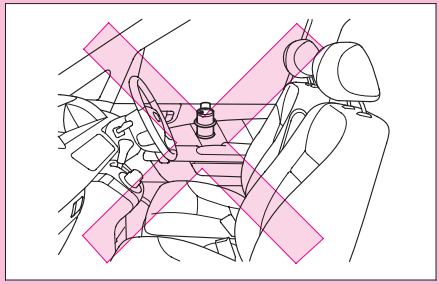
知 識

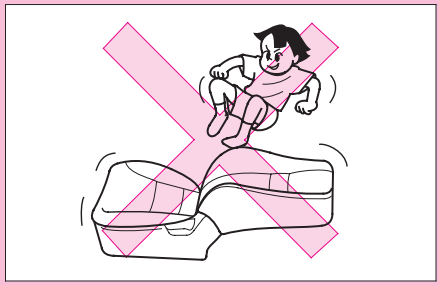
- 次のような場合は、表示灯が点灯することがあります。表示灯が点灯しているときは、サイドエアバッグの作動を自動停止します。
  - ・シートの背もたれがぬれているとき
  - ・金属など電気を通す物が接しているとき
  - ・水分を含んだ物を助手席に置いているとき

取り扱いについて

⚠注意

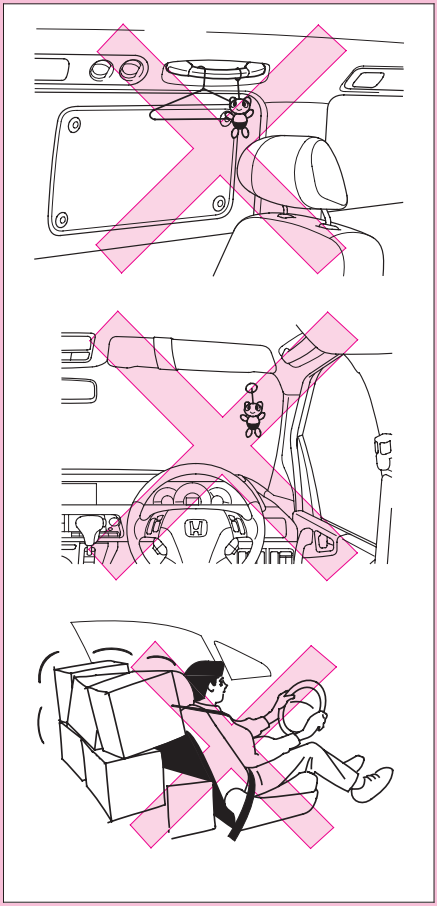
- サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグの取り外し、分解などはしないでください。
  不適切に扱うと誤って作動したり、正常に機能しなくなります。
- ドアやその周辺にカップホルダーなどを取り付けないでください。
  また、シートとドアの間付近に傘などの物を置かないでください。
  サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグはドアに沿って膨らむため、正常に機能しなくなったり、作動時にこれらの物が飛ぶことがあります。
- フロントシートにこの車専用のHonda純正用品（シートカバーなど）以外を取り付けないでください。サイドエアバッグはシートの背もたれ外側に収納されていて、シート表皮のぬい目を破って膨らむため、正常に機能しなくなるおそれがあります。
- フロントシートの背もたれを倒した状態でとびはねるなど、サイドエアバッグ収納部に無理な力を加えないでください。





⚠注意

- グラブレールにものをかけないでください。
  フロントガラス、ドアガラス、サードシートサイドガラスに物やアクセサリーなどを取り付けないでください。フロント、センター、クォーター、リヤの各ピラーまわりにこの車専用のHonda純正用品（ハンズフリー通信キットなど）以外を取り付けないでください。
  サイドカーテンエアバッグが正常に機能しなくなったり、作動時にこれらの物が飛ぶことがあります。
- フロント、センター、クォーター、リヤの各ピラーやルーフなど、サイドカーテンエアバッグ収納部に衝撃を加えたりしないでください。
- エアバッグが収納されているルーフサイド、フロント、センター、クォーター、リヤの各ピラーやルーフに傷がついていたり、ひび割れがある時は、そのまま使用せずにHonda販売店で交換してください。
- カーゴスペースや座席に荷物を載せるときは、サイドウィンドー下端部の高さを越えないようにしてください。サイドカーテンエアバッグが正常に機能しなくなったり、作動時に荷物が飛ぶことがあります。

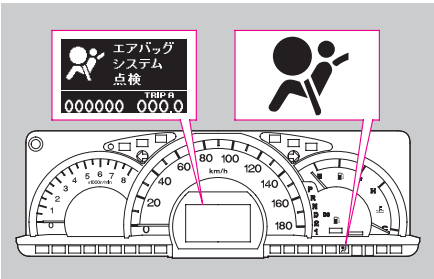


知 識

- フロントシートまわり、フロント、センター、クォーター、リヤの各ピラーまわりやセンターコンソール付近の修理、オーディオ等用品を取り付ける場合は、サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグに影響を及ぼすおそれがありますので、必ずHonda販売店にご相談ください。
- サイドエアバッグシステムおよびサイドカーテンエアバッグシステム装備車を廃棄するときは必ずHonda販売店にご相談ください。正しく取り扱わないとサイドエアバッグシステムおよびサイドカーテンエアバッグシステムが思いがけなく作動することがあります。

●SRSエアバッグシステム警告灯（エアバッグシステムとシートベルトシステム警告灯兼用）

メーター内に組み込まれており、サイドエアバッグユニットまたはサイドカーテンエアバッグユニットがシステムの異常を検出すると点灯します。
また、マルチインフォメーションディスプレイ（IHCC装備車）に“エアバッグシステム点検”が表示されます。



エンジンスイッチを“II”にしたときに約6秒間点灯して消えるのが正常です。

アドバイス

●警告灯が次のような状態になったときは、サイドエアバッグシステム、サイドカーテンエアバッグシステムまたは、乗員姿勢検知システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
・運転中に点灯したとき
・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは約6秒経過しても消灯しないとき
必要なときにサイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグが膨らまないおそれがあります。

シートベルトプリテンショナー

シートベルトプリテンショナーのしくみ

●シートベルト プリテンショナーとは

前方向からの衝突により、前席シートベルトを瞬間的に引き込み、シートベルトの拘束効果をいっそう高める装置です。シートベルトを着用している状態のSRSエアバッグシステムと同じ条件で作動します。

SRSエアバッグシステム　→250ページ

●どのように作動するか

エンジンスイッチが“II”のとき、前方向からの衝突により、センサーが一定以上の衝撃を感知するとシステムが作動し、前席シートベルトを瞬間的に引き込み、シートベルトの拘束効果をいっそう高めます。

⚠注意

- シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。守らないとプリテンショナーが十分に効果を発揮しません。
  - シートベルトを正しく着用してください。
    シートベルト　→124ページ
  - 正しい運転(乗車)姿勢をとってください。
    正しい運転姿勢　→92ページ

知 識

- シートベルトプリテンショナーは一度作動すると、再使用できません。作動すると、シートベルトを引き出すことも巻き取ることもできなくなります。Honda販売店で交換してください。

取り扱いについて

⚠注意

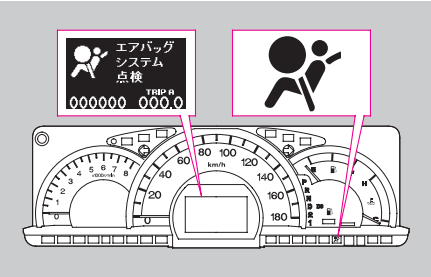
- シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしないでください。
  不適切に扱うと誤って作動したり、正常に機能しなくなります。

知 識

- シートベルト引き込み装置やセンターコンソール付近の修理、オーディオ等用品の取り付けおよび修理をする場合は、プリテンショナーに影響を及ぼすおそれがありますので、必ずHonda販売店にご相談ください。
- シートベルトプリテンショナー装備車を廃棄するときは、必ずHonda販売店にご相談ください。
  正しく取り扱わないとプリテンショナーとSRSエアバッグシステムが思いがけなく作動することがあります。

●SRSエアバッグシステム警告灯（エアバッグシステムとシートベルトシステム警告灯兼用）

メーター内に組み込まれており、SRSユニットがシステムの異常を検出すると点灯します。
また、マルチインフォメーションディスプレイ（IHCC装備車）に“エアバッグシステム点検”が表示されます。



エンジンスイッチを“II”にしたときに約6秒間点灯して消えるのが正常です。

アドバイス

●警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
・運転中に点灯したとき
・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは約6秒経過しても消灯しないとき
必要なときにシートベルトが引き込まれないおそれがあります。

E-プリテンショナー

IHCC装備車

E-プリテンショナーのしくみ

●E-プリテンショナーとは

衝突するおそれがあるときなどに、運転席と助手席のシートベルトを衝突前に巻き取ることで、シートベルトの拘束効果を高める装置です。

●どのように作動するか

前方の車両に追突するおそれがあるときに、追突軽減ブレーキ（CMS）と連動して作動し、シートベルトを巻き取ります。また、ブレーキアシストとも連動して作動します。

作動後は、巻き取ったシートベルトをもとの状態に戻します。

CMSについて →288ページ
ブレーキアシストについて →282ページ

⚠注意

●シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。守らないとE-プリテンショナーが十分に効果を発揮しません。

・シートベルトを正しく着用してください。

シートベルト →124ページ

・正しい運転姿勢をとってください。

正しい運転姿勢 →92ページ

知 識

●E-プリテンショナーは、シートベルトを着用していないと作動しません。

●衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動した場合は、シートベルトを引き出せなくなります。Honda販売店で交換してください。

●E-プリテンショナーのみが作動したときは、交換する必要はありません。

●VSA警告灯が点灯しているときは、E-プリテンショナーは作動しません。

取り扱いについて

⚠注意

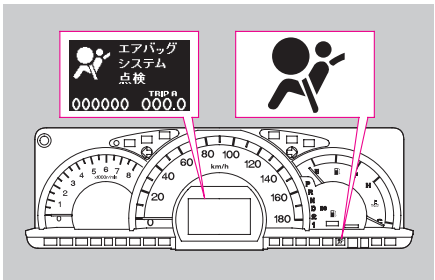
●シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしないでください。
不適切に扱うと誤って作動したり、正常に機能しなくなります。

知 識

●シートベルト引き込み装置付近の修理をする場合は、E-プリテンショナーに影響を及ぼすおそれがありますので、必ずHonda販売店にご相談ください。

●SRSエアバッグシステム警告灯（エアバッグシステム警告灯とシートベルトシステム警告灯兼用）

メーター内に組み込まれており、E-プリテンショナーユニットがシステムの異常を検出すると点灯します。
また、マルチインフォメーションディスプレイに“エアバッグシステム点検”が表示されます。



エンジンスイッチを“II”にしたときに約6秒間点灯して消えるのが正常です。

アドバイス

●警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
・運転中に点灯したとき
・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは約6秒経過しても消灯しないとき
必要なときにE-プリテンショナーが作動しないおそれがあります。

アンチロックブレーキシステム（ABS）

ABSのしくみ

●ABSとは

急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとする装置です。

●作動について

・ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。これはABSが作動しているときの現象で異常ではありません。そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。

・低速（約10km/h以下）ではABSは作動せず、普通のブレーキと同じ作動になります。

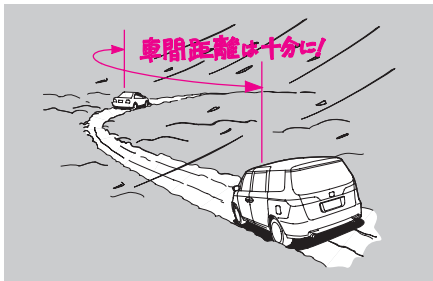
知 識

●エンジン始動後、最初の発進時に、エンジンルームからモーター音等が聞こえることがありますが、これはシステムの動作チェックをしている音で異常ではありません。

運転のしかた

・この装置は制動距離を短くするためのものではありません。ABSを装備していない車両と同様に、路面が滑りやすくなるほど長い制動距離が必要になります。
また、ABSが作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、ハイドロプレーニング現象が起こりやすい雨天時の高速走行などにおいても過信せず、安全運転に心がけてください。

・悪路、砂利道、深い新雪などの路面では、ABSの装備されていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。
このような道路条件では速度は控えめにして車間距離を十分にとって運転してください。



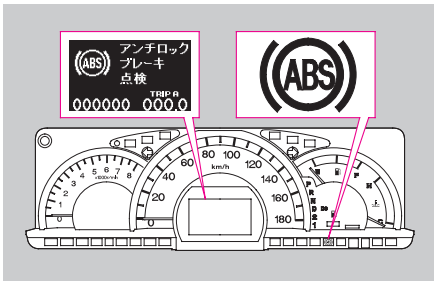
取り扱いについて

知 識

- タイヤは必ず四輪とも同一指定サイズのものをお使いください。サイズ(外径)の異なるタイヤを混用すると、ABSが正常に機能しなくなることがあります。

●アンチロックブレーキシステム(ABS)警告灯

メーター内に組み込まれており、ABSが異常のときに点灯します。
また、マルチインフォメーションディスプレイ(IHCC装備車)に“アンチロックブレーキ点検”が表示されます。



エンジンスイッチを“II”にしたとき点灯し、数秒後に消灯するのが正常です。
また、運転中に数秒間点灯してもすぐ消灯し、その後走行中に点灯しなければ正常です。

アドバイス

- 警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
  - ・運転中に点灯したとき
  - ・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは数秒経過しても消灯しないとき

  なお、この場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています。(ABSとしての作動はしません)
- 警告灯がブレーキ警告灯と同時に点灯したときは、ブレーキ力の配分機能も作動しないため、急ブレーキ時に車両が不安定になる可能性があります。高速走行や急ブレーキを避けて、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

ブレーキアシスト

ブレーキアシスト のしくみ

●ブレーキアシストとは

緊急制動時に、より大きい制動力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。

●作動について

・ブレーキペダルを強く踏み込んだときに、ブレーキがより強く効くようになります。
・VSA装備車は、ブレーキアシストが作動すると、ペダルが小刻みに動いたり作動音が聞こえることがあります。これはブレーキアシストが作動しているときの現象で異常ではありません。そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。
・E-プリテンショナー装備車は、ブレーキアシストの作動と同時に運転席と助手席のシートベルトが引き込まれます。

E-プリテンショナー　→278ページ

取り扱いについて

知 識

●VSA装備車は、VSA警告灯が点灯しているときは、ブレーキアシストは作動しません。なお、この場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています。

ビークルスタビリティアシスト(VSA)(車両挙動安定化制御システム)

タイプ別装備

VSAのしくみ

●VSAとは

ABS機能、TCS機能および横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。

ABS(アンチロックブレーキシステム)機能

急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとする機能です。

TCS(トラクションコントロールシステム)機能

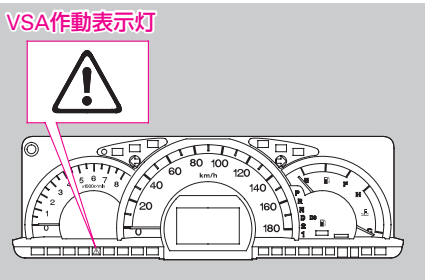
滑りやすい路面などでの駆動輪の無駄な空転を防止し、駆動力・操舵能力を確保しようとする機能です。

横滑り抑制機能

急激なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制することで車両の安定性を確保しようとする機能です。

●作動について

TCS機能と横滑り抑制機能は、エンジンを始動すれば自動的に“ON”になります。TCS機能または横滑り抑制機能が作動中は、メーター内のVSA作動表示灯が点滅します。

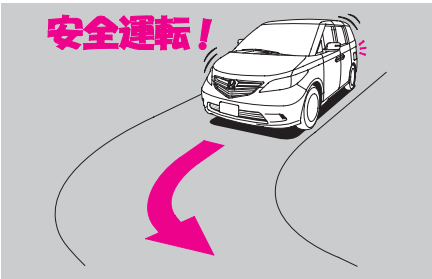


VSA作動表示灯は、エンジンスイッチを“II”にしたときに点灯し、数秒後に消灯するのが正常です。

運転のしかた

VSAが作動した状態でも車両の安定性の確保には限界がありますので、無理な運転はしないでください。

・カーブの手前では十分に速度を落としてください。
・雪道、凍結路を走るときは、冬用タイヤまたはタイヤチェーンを装着し、ひかえめな速度で運転してください。



アドバイス

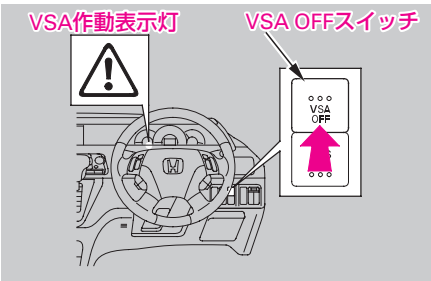
●表示灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
・運転中にVSA警告灯と同時に点灯したとき
・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは数秒経過しても消灯しないとき
なお、この場合でも通常走行には支障はありません。

知 識

●発進時等にエンジンルームからモーター音等が聞こえることがありますが、これはシステムの動作チェックをしている音で異常ではありません。
●VSA警告灯が点灯するとVSA作動表示灯も同時に点灯します。

TCS機能と横滑り抑制機能を作動させたくないとき

エンジン始動後に、“VSA OFF”スイッチを押すとTCS機能と横滑り抑制機能が“OFF”になりメーター内のVSA作動表示灯が点灯します。



スイッチを押すごとに“OFF”と“ON”をくり返します。

知 識

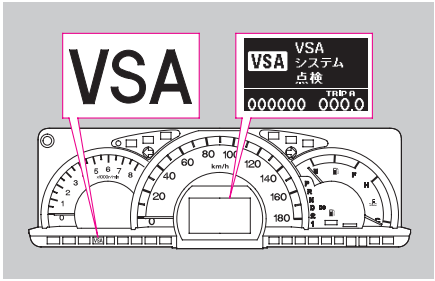
- TCS機能または横滑り抑制機能が作動中には、スイッチを押しても“OFF”にすることはできません。

アドバイス

- VSA装備車は四輪とも、同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤを指定空気圧にてお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを混用したり、指定空気圧でない場合、VSAが正常に機能しなくなることがあります。また、応急用スペアタイヤを装着した場合も、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。

●ビークルスタビリティアシスト（VSA）警告灯

メーター内に組み込まれており、VSAが異常のときに点灯します。
また、マルチインフォメーションディスプレイ（IHCC装備車）に“VSAシステム点検”が表示されます。



エンジンスイッチを“II”にしたとき点灯し、数秒後に消灯するのが正常です。また、運転中に数秒間点灯してもすぐ消灯し、その後走行中に点灯しなければ正常です。

アドバイス

- 警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
  - ・運転中に点灯したとき
  - ・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは数秒経過しても消灯しないとき

なお、この場合でも通常走行には支障はありません。

知 識

- けん引されたときやけん引したときは、警告灯が点灯することがあります。この場合はエンジンを再始動させて警告灯が消灯すればVSAは正常です。
- ABS警告灯が点灯するとVSA警告灯も同時に点灯します。
- VSA装備車は、ブレーキアシストの装置に異常があると、VSA警告灯が点灯します。

ブレーキアシスト →282ページ

追突軽減ブレーキ(CMS)

IHCC装備車

CMSのしくみ

●CMSとは

自車が前方の車両にほぼ真後ろから追突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、追突するときの衝撃を軽減する装置です。

CMSは、追突を自動で回避したり、自動で車を停止させるシステムではありません。

CMSの機能には限界がありますので、運転するときはシステムを過信せず、常に前方および周囲の状況に気をつけて、安全運転を心がけてください。

⚠警告

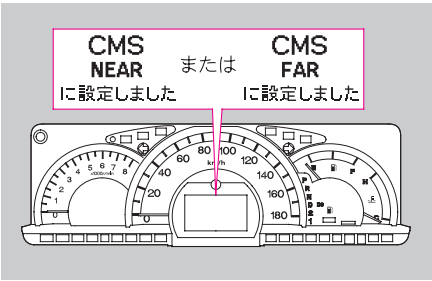
- CMS装備車であっても、正しく運転しないと追突など思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。
  運転するときは、前方および周囲の状況に応じて、常に適切なブレーキ操作およびハンドル操作をしてください。
- 悪天候(雨、霧、雪など)のときは、前方の車両を正しく検知することができず、CMSが作動しないことがあります。

CMSは、フロントグリルの奥に取り付けられているレーダーセンサーから発信した電波で前方にある車両を検知します。

レーダーセンサーについて　→295ページ

●作動について

エンジンスイッチを“II”にすると、CMSはONになり、追突警報の設定(CMS FARまたはCMS NEAR)がマルチインフォメーションディスプレイに約5秒間表示されます。



追突警報の設定について　→292ページ
マルチインフォメーションディスプレイ　→152ページ

CMSを停止するとき

CMSの作動をOFFにすることができます。

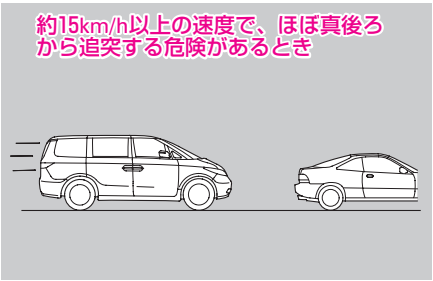
CMSの停止について　→294ページ

知識

- CMSをOFFにしていたときは、エンジンスイッチを“II”にしてもCMSはOFFのままです。このときはマルチインフォメーションディスプレイに“CMS OFF”が表示され、CMS警告灯も点灯します。再度CMSをONにするときは、“OFF”スイッチを約1秒以上押します。
- エンジン始動時、またはエンジンスイッチを“II”にするときは、車を静止した状態で行ってください。また、駐車場のターンテーブルなどで車の向きを変える場合は、エンジンスイッチを“0”にしてください。
  車両が動いているときにエンジンスイッチを“II”にすると、ヨーレートセンサーが正しく作動しなくなり、走行中に前方の車両を正しく検知できないことがあります。

約15km/h以上の速度で走行しているときに、自車の前方に追突する危険がある車両を検知すると作動し、追突警報（警告ブザーと警告表示）と弱いブレーキで運転者に注意をうながします。続いて追突するときの衝撃を軽減するためのブレーキが作動します。

追突警報について　→292ページ



知　識

- 前方の車両と自車との速度差が、約15km/h以下の場合は、CMSによるブレーキは作動しません。
- 運転者が追突を回避するために、ブレーキ操作やハンドル操作を行うと、運転者の操作を優先してCMSは作動しないことがあります。
- CMSによるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。

CMSによるブレーキが作動するときは、E-プリテンショナーも作動して、運転席と助手席のシートベルトを巻き取り、拘束効果を高めます。

E-プリテンショナー　→278ページ

知　識

- CMSによる弱いブレーキが作動するときは、運転者に前方の車両への注意をうながすため、運転席のE-プリテンショナーも作動してシートベルトを2～3回軽く引き込みます。
  ただし、状況によっては、シートベルトの軽い引き込みをしない場合があります。

●作動しないとき

前方にある車両の検知には限界があるため、次のような場合には、CMSは作動しません。

・前方にある車両との車間距離がいちじるしく短いとき
・交差点などで、自車の前方に車が飛び出したとき

知 識

●次のような場合には、前方にある車両を正しく検知することができず、CMSが作動しない場合があります。
  ・自車の前方に車両が割り込み、急な減速を行ったとき
  ・急加速を行って前方の車両に接近しているとき
  ・悪天候のとき(雨、霧、雪のときなど)
  ・フロントグリルのレーダーセンサーカバーが汚れているとき
●前方の車両との部分的な衝突や接触のおそれがあっても、CMSが作動しない場合があります。
●道路状況(カーブなど)、自車の状況(ハンドルの操作や車線内の位置)および前方の車両の状況(車の向き)によっては、前方の車両を正しく検知できず、CMSが作動しない場合があります。

知 識

●自転車や2輪車に対しては、CMSが作動しない場合があります。
●歩行者や動物に対しては、CMSは作動しません。

●追突以外での作動について

次のような場合には、CMSが作動することがあります。車間距離を確保し、適切な速度で走行してください。

・追い越しや交差点などで、前方の車両や対向車に接近して走行するとき
・低いゲートや狭いゲートなどを規制速度を超えるような速度で通過しようとするとき

知 識

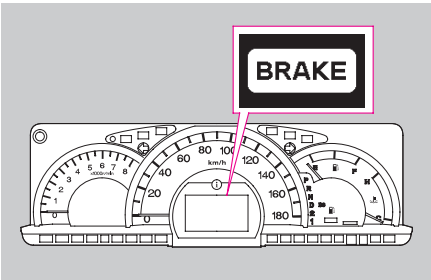
●道路状況(カーブなど)や自車の状況(ハンドルの操作や車線内の位置)によっては、一時的にとなりの車線の車や周囲の物(電柱や標識など)を検知して、CMSが作動する場合があります。
●道路の段差や落下物に対して、CMSが作動する場合があります。

追突警報について

前方の車両に追突するおそれがある場合に、警告ブザーと警告表示で前方への注意を運転者にうながします。
この場合は、ブレーキペダルを踏むなど、適切な操作を行ってください。

警告ブザー
ブザー(ピッピッピッ…)が鳴ります。

警告表示
マルチインフォメーションディスプレイに“BRAKE”がオレンジ色で点滅します。



追突警報の設定について
追突するおそれがある車両に対して、追突警報が作動する距離を2段階に調節することができます。
NEAR… 距離が近くなります。
FAR… 距離が遠くなります。
工場出荷時は、NEARに設定されています。

①インフォ(ⓘ)スイッチを約3秒以上押すと、マルチインフォメーションディスプレイが“カスタマイズエントリー”画面に切り換わります。

知 識
- インフォ(ⓘ)スイッチを押すごとに、画面上の項目の選択ができ、セレクト／リセット(SEL RESET)スイッチを押して決定します。
- 選択されている項目は、背景が白くなります。

②“CMS”を選択し、決定すると、“CMS設定”画面に切り換わります。

知 識

●走行中、またはセレクトレバーがP以外のときにインフォ(ⓘ)スイッチを約3秒以上押すと、“CMS設定”画面に切り換わります。
“CMS設定”画面に切り換わってから約10秒間操作をしないと自動的に通常表示に戻ります。

③“NEAR”か“FAR”を選択し、決定します。

④“CMS FAR(NEAR)に設定しました”が約5秒間表示された後、“カスタマイズエントリー”画面に戻ります。

知 識

●走行中、またはセレクトレバーがP以外のときは通常表示に戻ります。

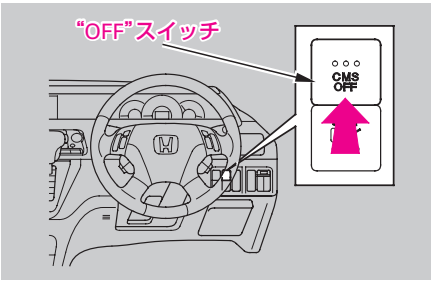
⑤“戻る”を選択すると通常表示に切り換わります。

知 識

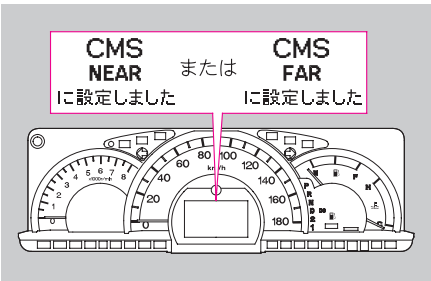
●設定をCMS NEARにすると追突警報の開始が遅くなり、CMS FARにすると追突警報の開始が早くなります。道路状況に合わせてお使いください。
なお、ブレーキの作動開始は変わりません。

CMSの停止について

CMSを使用しないときは、“OFF”スイッチを約1秒以上押します。CMSをOFFにするとCMS警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに“CMS OFF”が表示されます。このときブザー(ピー)も同時に鳴ります。



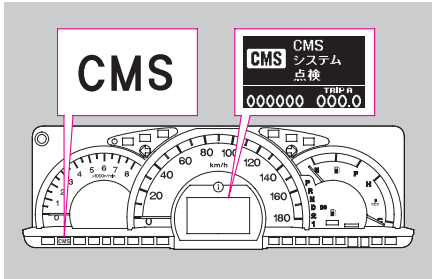
CMSを使用するときは、再度“OFF”スイッチを約1秒以上押します。CMSをONにするとCMS警告灯が消灯し、マルチインフォメーションディスプレイに“CMS FAR”または“CMS NEAR”が表示されます。このときブザー(ピー)も同時に鳴ります。



CMSの自動停止について

次の場合には、CMSが自動で停止され、メーター内のCMS警告灯が点灯します。また、マルチインフォメーションディスプレイに“CMSシステム点検”が約5秒間表示されます。

- タイヤの異常を検出したとき
- 山岳路や悪路などを長時間走行したとき
- パーキングブレーキをかけたまま走行したとき



CMSが作動できる状態になると、CMSは自動で復帰します。

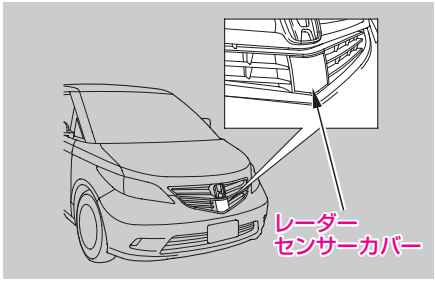
知 識

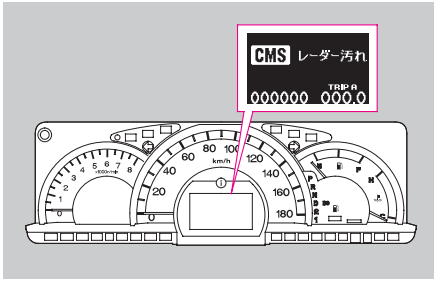
- 次のような場合にも、CMSは自動で停止します。
  - 悪天候のとき(雨、霧、雪のときなど)
  - フロントグリルのレーダーセンサーカバーに汚れが付いたとき

レーダーセンサーカバーが汚れたとき →295ページ

取り扱いについて

CMSのレーダーセンサーは、フロントグリルのレーダーセンサーカバーの奥に取り付けられています。
レーダーセンサーカバーが汚れて、前方の車両を検知できなくなると、CMSが自動で停止し、メーター内のCMS警告灯が点灯します。また、マルチインフォメーションディスプレイに“レーダー汚れ”、“レーダーを拭いて下さい”が約5秒間表示されます。
この場合は、レーダーセンサーカバーの汚れをやわらかい布などできれいに拭き取ってください。



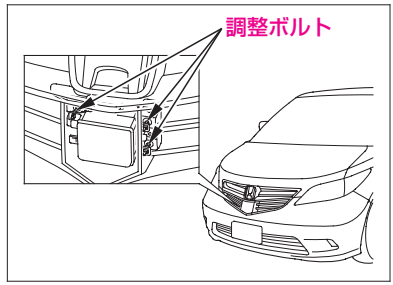


知 識

- 交通量が少なく、レーダーセンサーから発信した電波を反射する物が少ない道路を走行すると、マルチインフォメーションディスプレイに“レーダー汚れ”が一時的に表示されることがあります。

知 識

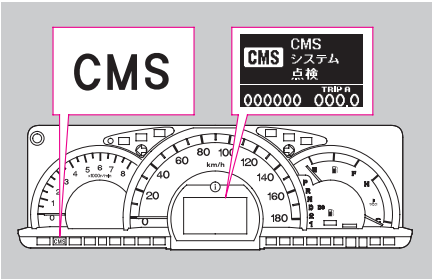
- システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。
  - レーダーセンサーカバーは常にきれいな状態にしてください。
  - レーダーセンサーカバーの汚れがひどいときは、水や中性洗剤などで汚れを拭き取ってください。レーダーセンサーカバーを損傷する原因となりますので、ベンジン、シンナー類およびクレンザーなどの磨き粉類は使わないでください。
  - レーダーセンサーカバーにステッカーなどを貼ったり、フロントグリルを交換しないでください。レーダーの電波がさえぎられます。
  - レーダーセンサー本体の横にある調整ボルトは回さないでください。
  - レーダーセンサー本体やその周辺部に強い衝撃や力を加えないでください。
    万一、衝撃が加わった場合は、“OFF”スイッチを約1秒以上押してCMSをOFFにし、Honda販売店にご相談ください。
  - フロントグリル周辺の修理を行う際は、Honda販売店にご相談ください。



- CMSのレーダーセンサーはIHCCのレーダーセンサーと共用しています。
- 次のようなときは、システムが正常に作動しないおそれがあります。
  - カーゴスペースやリヤシートなどに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
  - タイヤの空気圧が指定空気圧に調整されていないとき
- サスペンションの改造はしないでください。車の傾きなどでシステムが正常に作動しないおそれがあります。
- 四輪とも同一サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを混用すると、システムが正常に作動しないおそれがあります。

●追突軽減ブレーキ(CMS)警告灯

メーター内に組み込まれており、CMSが異常のときに点灯します。また、マルチインフォメーションディスプレイに“CMSシステム点検”が表示されます。



エンジンスイッチを“II”にしたときに数秒間点灯して消えるのが正常です。

アドバイス

●警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
- 運転中に点灯したとき
- エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは数秒経過しても消灯しないとき

警告灯が点灯しているときは、CMSは作動しません。

知 識

●次の場合にもCMS警告灯が点灯します。
- CMSをOFFにしているとき
- CMSが自動で停止したとき
- 悪天候のとき(雨、霧、雪のときなど)
- フロントグリルのレーダーセンサーカバーに汚れが付いたとき

●VSA警告灯が点灯するとCMS警告灯も同時に点灯します。

四輪駆動機構(4WD)

タイプ別装備

運転するときは

四輪駆動車(4WD車)は積雪地、砂地、ぬかるみ、急坂路など滑りやすい路面において二輪駆動車(2WD車)に比べて走破性にすぐれていますが、万能ではありません。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行い、常に安全運転を心がけてください。

4WD車は、オフロードやラリー走行を目的とした車ではありません。必ず、次のことをお守りください。

- 砂地、ぬかるみ等、前輪が空転しやすいところでの連続走行はしないでください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。
- ブレーキ性能は2WD車と比べてほとんど差がないので、滑りやすい路面での走行には十分車間距離をとってください。

知 識

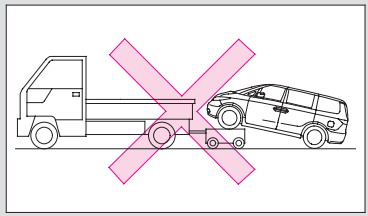
- 4WDの状態で走行中に車輪の空転が続いてシステム内の油温が上昇すると、システム保護のため4WDから2WDに切り換わることがあります。
  しばらくして油温が下がると、4WDに復帰します。

取り扱いについて

アドバイス

- 四輪とも、同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを混用すると動力伝達装置に悪影響をあたえます。
- けん引される場合、前輪または後輪を台車に載せた(車輪が回転できない)状態でのけん引は、絶対に行わないでください。
  駆動装置が破損したり、車輪が台車からとび出すおそれがあります。

けん引 →420ページ



その他の安全装備

ほかに、次のような安全装備を採用しています。

●シフトロック装置
セレクトレバーの誤操作防止を助けます。
（→27ページ）

●ハイマウントストップランプ
ストップランプを高い位置にも設置し、後方から見えやすくしています。

●後席三点式シートベルト
上半身も拘束する三点式シートベルトをセカンドシート（外側 2 座席）・サードシート（外側 2 座席）にも採用しています。
（→132ページ）

●シートベルトリマインダー（非着用警報装置）
シートベルトの未着用をランプとブザーで知らせ、ベルトの着用を促します。
（→127ページ）

●ドアビーム
側面から外力が加わったときに、ドアの変形を抑える効果があります。

●ロールオーバーバルブ
車が転倒したとき、燃料タンクからの燃料流出を防止します。

●難燃性材料使用の内装
フロアカーペットやシートなどには、燃え広がりにくい素材を採用しています。

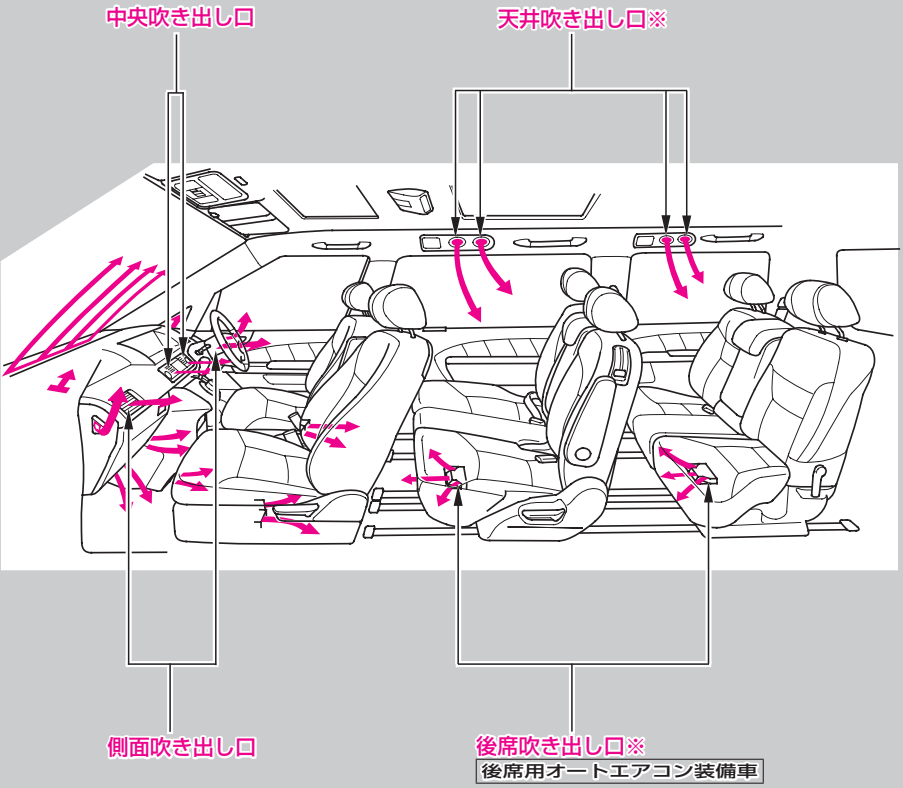
●リヤワイパー
雨天時の後方視界の確保に効果があります。
（→191ページ）

ドライブを快適にする装備

4

●エアコン
吹き出し風の調節 ……303
エアコンインデックス ……304
オートエアコン ……306
後席用オートエアコン ……318
後席用クーラー ……328
エアクリーンフィルター ……332
シートヒーター ……335
●オーディオ
上手な使いかた ……338
アンテナ ……340
オーディオインデックス ……341
AM/FMラジオ一体式
　CDステレオ ……342
オーディオリモート
　コントロールスイッチ ……359
●リヤカメラシステム
リヤカメラシステムに
　ついて ……360
画面に表示される映像の
　範囲 ……361
ガイド線の消しかた ……362
●室内照明
室内灯 ……365
マップランプ ……368
カーゴスペース照明灯 ……369
ドア開閉灯 ……369
エンジンスイッチ照明灯 ……370
●室内装備品
シガレットライター ……372
灰皿 ……373
サンバイザー ……374
チケットホルダー ……374
サングラスホルダー ……375
携帯電話接続キット ……376
小物入れ ……376
コンビニフック ……379
センターテーブル ……380
カップホルダー ……380
ボトルホルダー ……382
アクセサリーソケット ……382
AC100V電源ソケット ……383
AV入力端子／音量調節
　機能付きヘッドホン端子 …385
AV入力端子 ……385
●カスタマイズ機能
カスタマイズ機能について …386
マルチインフォメーション
　ディスプレイを使った
　　カスタマイズ ……389
工場出荷時設定のしかた ……408
●セキュリティーシステム
警報装置について ……410
セットのしかた ……411

エアコン

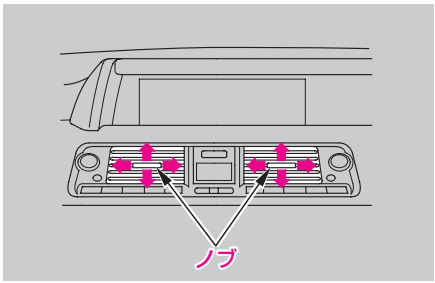


※：後席エアコン、クーラー作動時のみ風が吹き出します。

吹き出し風の調節

ノブを上下または左右に動かして、吹き出し風の向きを調節します。

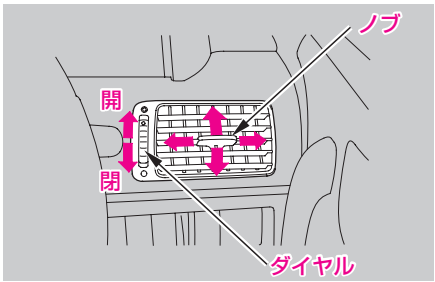
中央吹き出し口



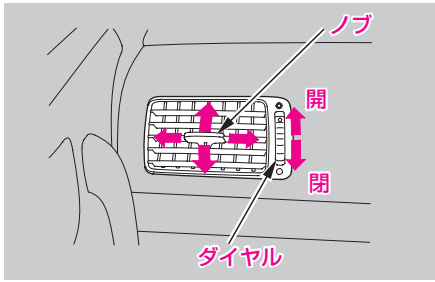
側面吹き出し口

ダイヤルで開閉できます。
送風が必要なときは、ダイヤルを“開”のほうに回します。

・運転席側



・助手席側



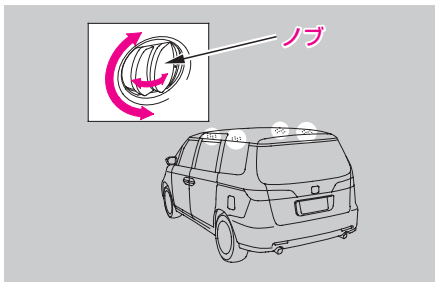
◎・・・・・・・・・・・・吹き出し口が開きます。
○・・・・・・・・・・・・吹き出し口が閉じます。

知　識

- 側面ガラスが曇ったときは、吹き出し風がガラスに直接当たるよう両側の吹き出し口の向きを調節すれば、より早く曇りを取ることができます。

天井吹き出し口

ノブを動かして、吹き出し口の向きを調節します。



エアコンインデックス

オートエアコン

- オートエアコンを使うとき ……306
- マニュアルで使うとき ……308
- 前面／側面ガラスの霜や曇りを取りたいとき（デフロスター）……310
- 設定温度を運転席側と助手席側で別々に調節するとき ……312
- 音声でエアコンを調節するとき ……314
- エアコンを常用しないとき ……316
- 温度感知装置 ……316

後席用オートエアコン

タイプ別装備

- 前席エアコン操作部で操作するとき ‥318
- 後席エアコン操作部で操作するとき ‥324
- 温度感知装置 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥327

後席用クーラー

タイプ別装備

- 前席エアコン操作部で操作するとき ‥328
- 後席クーラー操作部で操作するとき ‥330

オートエアコン

●オートエアコンを使うとき

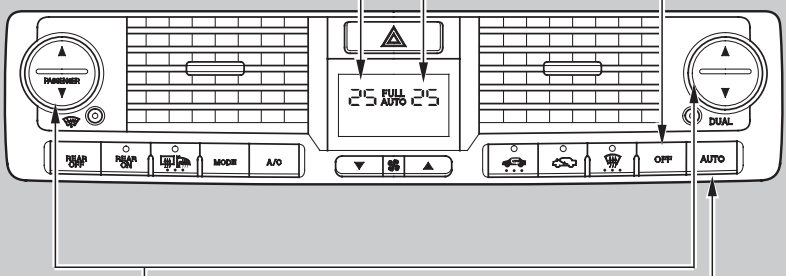
エンジンをかけた状態で使います。

温度表示

運転席側および助手席側の設定温度を表示します。表示温度は室温設定時の目安となります。

OFFスイッチ

スイッチを押すとエアコン、ファンの作動が停止します。



温度調節スイッチ

スイッチの上側または下側を押して温度を調節します。

助手席側のスイッチを操作すると、独立作動モードになります。

別々に調節するとき　→312ページ

▲：設定温度を上げる

▼：設定温度を下げる

AUTOスイッチ

スイッチを押すと、オートエアコンが作動します。（表示灯“FULL AUTO”が点灯）

風量、吹き出し口や内外気の切り換え、エアコンの“ON/OFF”などが自動制御されます。

通常の使いかた

①AUTOスイッチを押します。
②運転席側温度調節スイッチで室内の温度を設定します。

停止するときは“OFF”スイッチを押します。

知 識

- 設定温度表示で“Lo”は最大冷房を“Hi”は最大暖房を示します。
- 次のようにすると室内を急速に冷房または暖房することができます。
  ①前席エアコン、後席エアコンをオート作動にします。前席エアコンは運転席、助手席の連動モードにします。
  ② **冷房**
  前席エアコンの設定温度を“Lo”(最大冷房)にすると、後席エアコンの設定温度が自動的に“Lo”(最大冷房)になり、室内を急速に冷房することができます。
  暖房
  前席エアコンの設定温度を“Hi”(最大暖房)にすると、後席エアコンの設定温度が自動的に“Hi”(最大暖房)になり、室内を急速に暖房することができます。
  ③後席エアコンの設定温度を元に戻すときは、前席エアコンの設定温度を“Lo”(最大冷房)または“Hi”(最大暖房)以外にします。
- 外気温によっては、冷風の吹き出しを防ぐため、オートエアコン作動後一定時間ファンが回転しないことがあります。
- 希望温度に設定したら、温度調節スイッチをむやみに動かさないでください。設定温度への到達時間が長くなることがあります。
- 両側が連動で作動しているときに助手席側温度調節スイッチを押すか、DUALスイッチを押すと独立作動モード(表示灯点灯)になり、設定温度を運転席側と助手席側で別々に調節することができます。

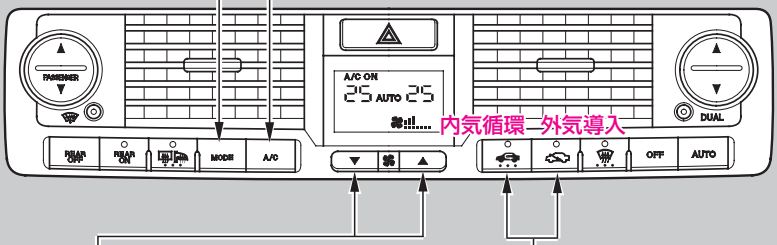
別々に調節するとき →312ページ

- 長時間、冷風を直接体に当てないでください。冷やしすぎは健康上良くありません。
- 炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

●マニュアルで使うとき

MODEスイッチ
スイッチを押すたびに吹き出し口が切り換わり（右ページ参照）、それぞれの表示灯が点灯します。

エアコンスイッチ
スイッチを押すたびにエアコンの“ON”“OFF”が切り換わります。
表示部に、“A/C ON”“A/C OFF”が表示されます。
冷房や除湿暖房をするときは“ON”にします。



ファンスピード切り換えスイッチ
スイッチを押してファンスピードを切り換えます。

位置	
風量	弱 ◄――► 最強

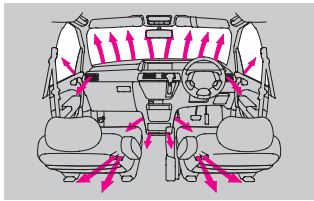
▲ ：強
▼ ：弱

内外気切り換えスイッチ
スイッチを押して外気導入と内気循環を切り換えます。（それぞれの表示灯が点灯）
トンネルや渋滞地域などで汚れている外気を室内に入れたくないときは、内気循環にします。

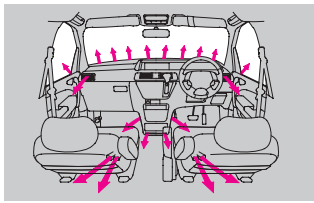
各スイッチを組み合わせて使うことができます。
“FULL AUTO”（自動）で使用中でも押したスイッチの機能が優先されます。このとき“FULL”の作動表示灯は消えますが、押したスイッチの機能以外は自動制御されます。
“FULL AUTO”（自動）に戻すときは、AUTOスイッチを押します。

MODEスイッチ

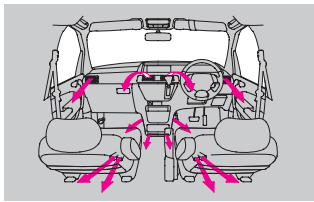
足元への送風と窓ガラスの曇りを取りたいとき



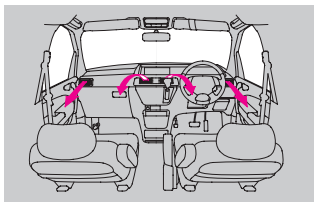
足元に送風したいとき



上半身、足元に送風したいとき



上半身に送風したいとき

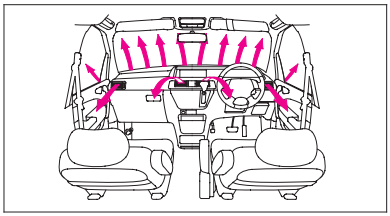


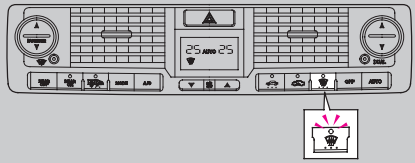
●前面／側面ガラスの霜や曇りを取りたいとき（デフロスター）

デフロスタースイッチを押します。

デフロスタースイッチ

ガラスの曇り取りなどに使用します。スイッチを押すと自動的にエアコンが作動し、外気導入に切り換わります。また、吹き出し口が前面および側面ガラスに切り換わります。

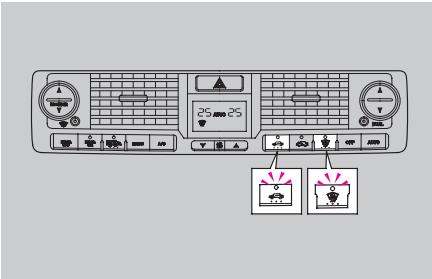




知 識

- デフロスタースイッチを入れているときは、設定温度を最大冷房付近にしないでください。冷風が前面ガラスにあたるとガラスの外側が曇ることがあり、視界のさまたげになります。
- デフロスター作動中はDUALスイッチまたは助手席側温度調節スイッチを押しても独立作動モードにはなりません。

急速に霜を取りたいとき



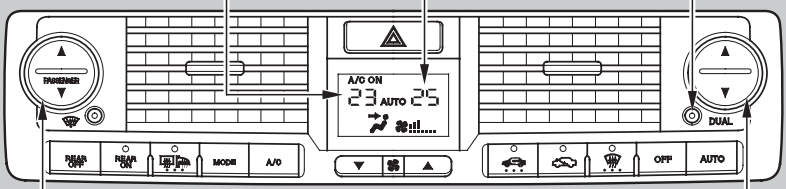
知 識

- 内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界のさまたげになります。一度霜を取った後は外気導入で使ってください。

●設定温度を運転席側と助手席側で別々に調節するとき

設定温度表示
運転席側および助手席側の設定温度を表示します。表示温度は室内温度設定時の目安となります。

DUALスイッチ
スイッチを押すと独立作動モードになります。（表示灯点灯）
運転席側と助手席側の設定温度を別々に調節できます。



温度調節スイッチ（助手席側）
スイッチを押して助手席側の温度を調節します。また、両側が連動で作動しているときにスイッチを押すと、独立作動モードに切り換わります。
▲ ：設定温度を上げる
▼ ：設定温度を下げる

温度調節スイッチ（運転席側）
スイッチを押して運転席側の温度を調節します。
▲ ：設定温度を上げる
▼ ：設定温度を下げる

使いかた

①両側が連動で作動しているときに、DUALスイッチまたは助手席側の温度調節スイッチを押して、独立作動モードに切り換えます。（DUALスイッチの表示灯点灯）
②運転席側または助手席側の温度調節スイッチを押して温度を設定します。

連動モードに戻すときは、DUALスイッチを押します。（表示灯消灯）

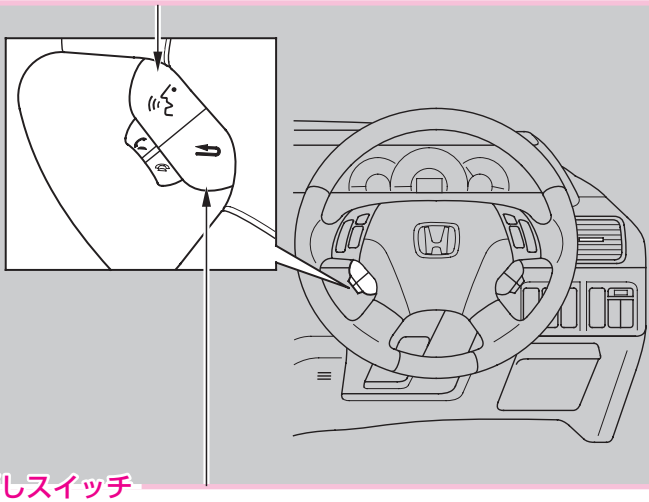
知 識

- デフロスターを作動させると、連動モードに切り換わります。（DUALスイッチの表示灯が消灯します。）
- 助手席側の設定温度が運転席側と異なる状態で連動モードに戻すと、運転席側の設定温度に切り換わります。

●音声でエアコンを調節するとき

ナビゲーションシステム装備車

発話スイッチ
スイッチを押すと、音声でエアコンを操作できます。



取り消しスイッチ
操作を取り消したいときに押します。

使いかた

①発話スイッチを押します。
②“ピッ”と音が鳴ってから、目的の操作を言います。
　例)エアコンを作動させるとき…「エアコンオン」と言います。

ナビゲーションシステムが音声を認識すると、「エアコンをオンします…」と言ってエアコンを作動します。
音声を認識できずに操作ができなかったときは、もう一度発話スイッチを押して操作します。

音声を誤認識して別の操作をしてしまったとき

取り消しスイッチを押してから、もう一度発話スイッチを押して、目的の操作を言い直します。

音声操作の一例

発した言葉	応答
えあこんおん(エアコンオン)	エアコンをオンします
えあこんおふ(エアコンオフ)	エアコンをオフします
あつい	設定温度を1度下げます
さむい	設定温度を1度上げます
ないき(内気)	“内気循環”にします
がいき(外気)	“外気導入”にします
でゅあるもーどおん (デュアルモードオン)	設定温度を左右独立にします
でゅあるもーどおふ (デュアルモードオフ)	左右の設定温度を同じにします
にじゅうごど	設定温度を“25”度にします (操作を受け付ける温度は18°C～32°Cの間です。)

知 識

- デュアルモードが“ON”のときに温度の操作をすると、運転席側のみ温度が切り換わります。

音声操作の詳細については、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書 音声操作編をご覧ください。

●エアコンを常用しないとき

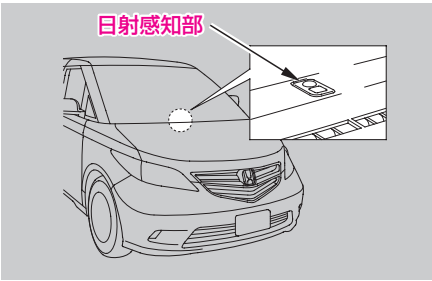
装置各部のオイルをきらさないために、ときどきエンジンを低回転させた状態で数分間冷房または除湿暖房をしてください。

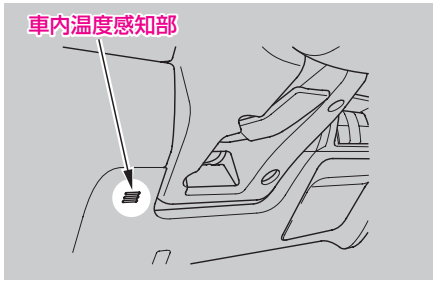
知 識

- 室内の温度が低い場合は、エアコンが作動しないことがあります。このような場合には、内気循環で室内を暖めてからエアコンスイッチを入れると作動します。

●温度感知装置

オートエアコンには、温度感知装置などのセンサーがついています。日射感知部や車内温度感知部の上に物を置いたり、水をかけたりしないでください。車内温度が設定温度とずれることがあります。





後席用オートエアコン

タイプ別装備

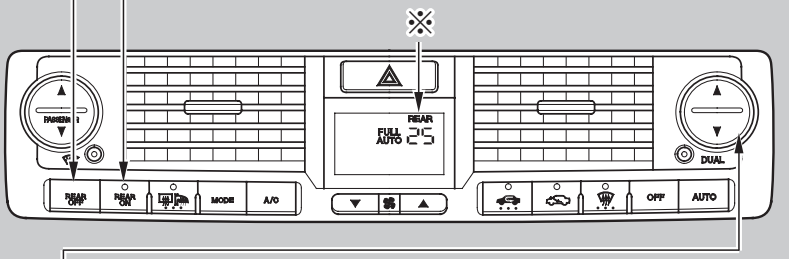
エンジンをかけた状態で使います。
前席エアコン、後席エアコンの調節が、別々にできます。

●前席エアコン操作部で操作するとき

オートエアコンを使うとき

後席エアコンOFFスイッチ
スイッチを押すと、後席エアコン、ファンの作動が停止します。

後席エアコンONスイッチ
スイッチを押すと、後席用オートエアコンが作動します。（表示灯点灯）
風量、吹き出し口の切り換えなどが自動制御されます。
また、前席エアコン表示部に後席エアコン設定画面が表示されます。
（表示灯“REAR”が点灯）



温度調節スイッチ
スイッチの上側または下側を押して温度を調節します。
表示温度は室内温度設定時のめやすとなります。
▲：設定温度を上げる
▼：設定温度を下げる

※：後席エアコン設定画面が表示されているときは、表示灯“REAR”が点灯します。

・通常の使いかた

①後席エアコンONスイッチを押します。

②運転席側の温度調節スイッチで室内の温度を設定します。

停止するときは後席エアコンOFFスイッチを押します。

知 識

- 前席エアコンがOFFのときは、後席エアコンONスイッチや後席エアコン操作部のAUTOスイッチを押すと、ヒーター機能のみ自動となります。（表示灯“AUTO”が点灯）
- 後席エアコン設定画面は、後席エアコンONスイッチをもう一度押すか、約7秒間操作しないと自動的に元の画面に戻ります。再度、後席エアコン設定画面を表示するときは、後席エアコンONスイッチを押します。
- 後席エアコン操作画面表示中は後席エアコン、デフロスタースイッチ、リヤデフロスタースイッチおよび内外気切り換えスイッチのみ操作することができます。
- 設定温度表示で“Lo”は最大冷房を“Hi”は最大暖房を示します。
- 次のようにすると室内を急速に冷房または暖房することができます。

  ①前席エアコン、後席エアコンをオート作動にします。前席エアコンは運転席、助手席の連動モードにします。

  ② **冷房**

  前席エアコンの設定温度を“Lo”（最大冷房）にすると、後席エアコンの設定温度が自動的に“Lo”（最大冷房）になり、室内を急速に冷房することができます。

  暖房

  前席エアコンの設定温度を“Hi”（最大暖房）にすると、後席エアコンの設定温度が自動的に“Hi”（最大暖房）になり、室内を急速に暖房することができます。

  ③後席エアコンの設定温度を元に戻すときは、前席エアコンの設定温度を“Lo”（最大冷房）または“Hi”（最大暖房）以外にします。

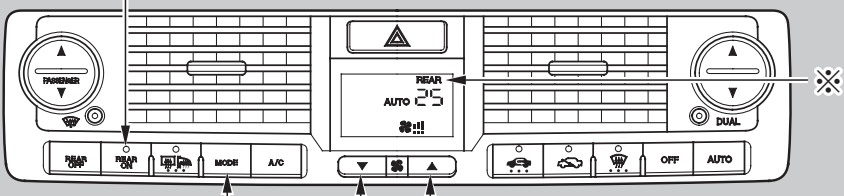
知 識

- 外気温によっては、冷風の吹き出しを防ぐため、オートエアコン作動後一定時間ファンが回転しないことがあります。
- 希望温度に設定したら、温度調節スイッチをむやみに動かさないでください。設定温度への到達時間が長くなることがあります。
- 長時間、冷風を直接体に当てないでください。冷やしすぎは健康上良くありません。
- 炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

マニュアルで使うとき

後席エアコンONスイッチ

スイッチを押すと、後席用オートエアコンが作動します。（表示灯点灯）
風量、吹き出し口の切り換えなどが自動制御されます。
また、前席エアコン表示部に後席エアコン設定画面が表示されます。（表示灯“REAR”が点灯）



MODEスイッチ

スイッチを押すたびに吹き出し口が切り換わり（次ページ参照）、それぞれの表示灯が点灯します。

ファンスピード切り換えスイッチ

スイッチを押してファンスピードを切り換えます。

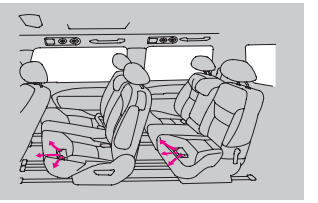
表示灯					
風量	微	弱	中	強	最強

▲：強
▼：弱

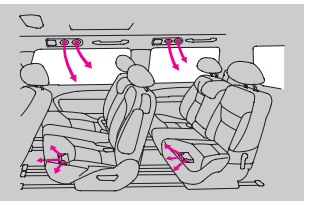
※：後席エアコン設定画面が表示されているときは、表示灯“REAR”が点灯します。

MODEスイッチ

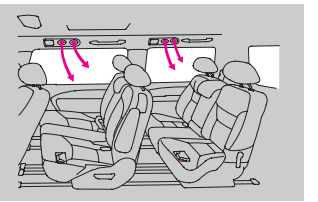
足元に送風したいとき



上半身、足元に送風したいとき



上半身に送風したいとき



・使いかた

①後席エアコンONスイッチを押します。
②ファンスピード切り換えスイッチでファンスピードの設定をします。
③MODEスイッチで吹き出し口の設定をします。

停止するときは後席エアコンOFFスイッチを押します。

“FULL AUTO”（自動）で使用中でも押したスイッチの機能が優先されます。このとき“FULL”の表示は消えますが、押したスイッチの機能以外は自動制御されます。
“FULL AUTO”（自動）に戻すときは、AUTOスイッチを押します。

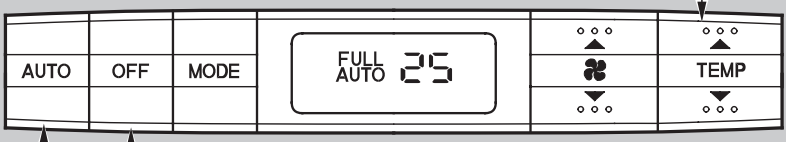
知 識

- 前席エアコンがOFFのときは、後席エアコンONスイッチや後席エアコン操作部のAUTOスイッチを押すと、ヒーター機能のみ自動となります。（表示灯“AUTO”が点灯）
- 後席エアコン設定画面は、後席エアコンONスイッチをもう一度押すか、約7秒間操作しないと自動的に元の画面に戻ります。再度、後席エアコン設定画面を表示するときは、後席エアコンONスイッチを押します。
- 後席エアコン操作画面表示中は後席エアコン、デフロスタースイッチ、リヤデフロスタースイッチおよび内外気切り換えスイッチのみ操作することができます。
- 長時間、冷風を直接体に当てないでください。冷やしすぎは健康上良くありません。
- 炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

●後席エアコン操作部で操作するとき

オートエアコンを使うとき

温度調節スイッチ
スイッチを押して温度を設定します。
表示温度は室内温度設定時のめやすとなります。
▲ ：設定温度を上げる
▼ ：設定温度を下げる



AUTOスイッチ
スイッチを押すと、オートエアコンが作動します。（表示灯“FULL AUTO”が点灯）
風量、吹き出し口の切り換えなどが自動制御されます。

OFFスイッチ
スイッチを押すとエアコン、ファンの作動が停止します。

・通常の使いかた

①AUTOスイッチを押します。

②温度調節スイッチで室内の温度を設定します。

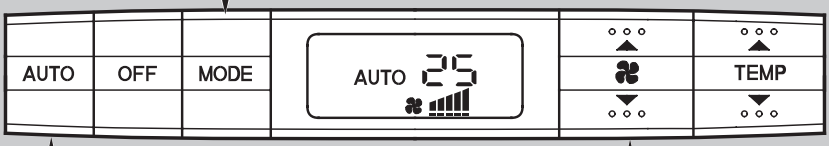
停止するときは“OFF”スイッチを押します。

知 識

- 前席エアコンがOFFまたは独立作動モードのときは、AUTOスイッチを押すと、ヒーター機能のみ自動となります。(表示灯“AUTO”が点灯)
- 設定温度表示で“Lo”は最大冷房を“Hi”は最大暖房を示します。
- 次のようにすると室内を急速に冷房または暖房することができます。
  ①前席エアコン、後席エアコンをオート作動にします。
  ② **冷房**
  前席エアコンの設定温度を“Lo”(最大冷房)にすると、後席エアコンの設定温度が自動的に“Lo”(最大冷房)になり、室内を急速に冷房することができます。
  暖房
  前席エアコンの設定温度を“Hi”(最大暖房)にすると、後席エアコンの設定温度が自動的に“Hi”(最大暖房)になり、室内を急速に暖房することができます。
  ③後席エアコンの設定温度を元に戻すときは、前席エアコンの設定温度を“Lo”(最大冷房)または“Hi”(最大暖房)以外にします。
- 外気温によっては、冷風の吹き出しを防ぐため、オートエアコン作動後一定時間ファンが回転しないことがあります。
- 希望温度に設定したら、温度調節スイッチをむやみに動かさないでください。設定温度への到達時間が長くなることがあります。
- 長時間、冷風を直接体に当てないでください。冷やしすぎは健康上良くありません。
- 炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

マニュアルで使うとき

MODEスイッチ
スイッチを押すたびに吹き出し口が切り換わり（322ページ参照）それぞれの表示灯が点灯します。



AUTOスイッチ
スイッチを押すと、オートエアコンが作動します。（表示灯“AUTO”が点灯）
風量、吹き出し口の切り換えなどが自動制御されます。

ファンスピード切り換えスイッチ
スイッチを押すたびに切り換わり、それぞれの表示灯が点灯します。

表示灯					
風量	微	弱	中	強	最強

▲：強
▼：弱

・使いかた
①AUTOスイッチを押します。
②ファンスピード切り換えスイッチでファンスピードの設定をします。
③MODEスイッチで吹き出し口の設定をします。
停止するときは“OFF”スイッチを押します。

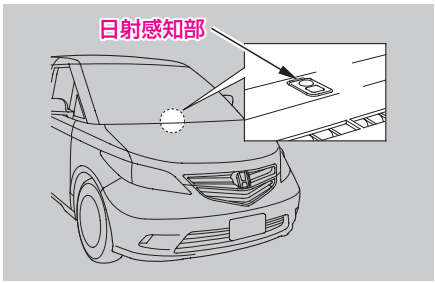
“FULL AUTO”（自動）で使用中でも押したスイッチの機能が優先されます。このとき“FULL”の表示は消えますが、押したスイッチの機能以外は自動制御されます。
“FULL AUTO”（自動）に戻すときは、AUTOスイッチを押します。

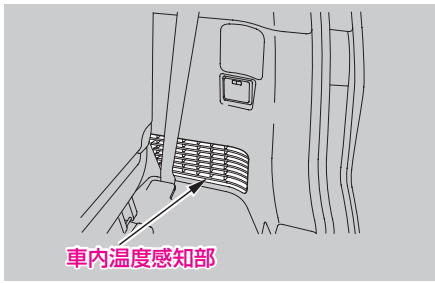
知 識

- 前席エアコンがOFFまたは独立作動モードのときは、AUTOスイッチを押すと、ヒーター機能のみ自動となります。（表示灯“AUTO”が点灯）
- 長時間、冷風を直接体に当てないでください。冷やしすぎは健康上良くありません。
- 炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

●温度感知装置

オートエアコンには、温度感知装置などのセンサーがついています。日射感知部や車内温度感知部の上に物を置いたり、水をかけたりしないでください。車内温度が設定温度とずれることがあります。





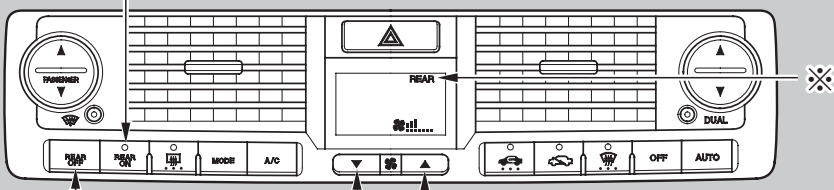
後席用クーラー

タイプ別装備

エンジンをかけた状態で使います。

●前席エアコン操作部で操作するとき

後席クーラーONスイッチ
スイッチを押すと、後席ファンが作動し、前席エアコン表示部に後席クーラー設定画面が表示されます。（表示灯“REAR”が点灯）



後席クーラーOFFスイッチ
スイッチを押すと、後席ファンの作動が停止します。

ファンスピード切り換えスイッチ
スイッチを押してファンスピードを切り換えます。

表示灯					
風量	微	弱	中	強	最強

▲：強
▼：弱

※：後席クーラー設定画面が表示されているときは、表示灯“REAR”が点灯します。

使いかた

前席用のエアコンがONのとき、後席用はクーラーとして作動します。

①後席クーラーONスイッチを押します。
②ファンスピード切り換えスイッチで風量を調節します。

停止するときは後席クーラーOFFスイッチを押します。

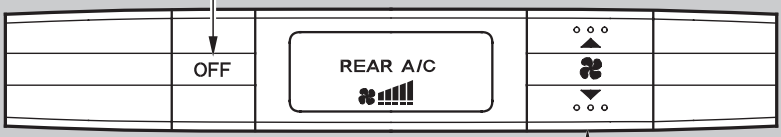
知 識

- 前席用エアコンがOFFのときは、後席用は送風のみとなります。
- 後席クーラー設定画面は、後席クーラーONスイッチをもう一度押すか、約7秒間操作しないと自動的に元の画面に戻ります。再度、後席クーラー設定画面を表示するときは、後席クーラーONスイッチを押します。
- 後席クーラー操作画面表示中は後席クーラー、デフロスタースイッチ、リヤデフロスタースイッチおよび内外気切り換えスイッチのみ操作することができます。
- 長時間、冷風を直接体に当てないでください。冷やしすぎは健康上良くありません。
- 炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

●後席クーラー操作部で操作するとき

OFFスイッチ

スイッチを押すと、後席ファンの作動が停止します。



ファンスピード切り換えスイッチ

後席用クーラーがOFFのとき△または▽スイッチを押すと、後席ファンが作動します。(表示灯“▁▂▃▄▅”が点灯)

後席用クーラー作動中はそれぞれのスイッチを押すたびにファンスピードが切り換わり、表示灯が点灯します。

表示灯					
風量	微	弱	中	強	最強

▲ : 強
▼ : 弱

使いかた

前席用のエアコンがONのとき、後席用はクーラーとして作動します。

ファンスピード切り換えスイッチを押して、後席用クーラーのONおよびファンスピードの切り換えができます。

知 識

- 前席用エアコンがOFFのときは、後席用は送風のみとなります。
- 後席用クーラーが“OFF”のとき△または▽スイッチを押すと、後席用クーラーが作動します。
- 長時間、冷風を直接体に当てないでください。冷やしすぎは健康上良くありません。
- 炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

エアクリーンフィルター

●高性能脱臭タイプ

後席用オートエアコン装備車

エアコンには、空気中の花粉・ちり・ほこり・粉じん等を集じんし、ディーゼル排ガス臭・タバコ臭などに脱臭効果のあるエアクリーンフィルターが取り付けられています。
エアクリーンフィルターの交換は、通常1年または15,000kmごとに行ってください。
ただし、使用条件により異なりますので粉じんの多い場所などでは、早めの交換をおすすめします。
また、芳香剤を使用すると脱臭効果が弱くなったり、脱臭寿命が短くなることがあります。

・エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときなどは、フィルターの目詰まりが考えられます。

交換のしかた　→333ページ

●ロングライフタイプ

後席用クーラー装備車

エアコンには、空気中の花粉・ちり・ほこり・粉じん等を集じんするエアクリーンフィルターが取り付けられています。
エアクリーンフィルターの交換は、通常2年または24,000kmごとに行ってください。
ただし、使用条件により異なりますので粉じんの多い場所などでは、早めの交換をおすすめします。

・エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときなどは、フィルターの目詰まりが考えられます。

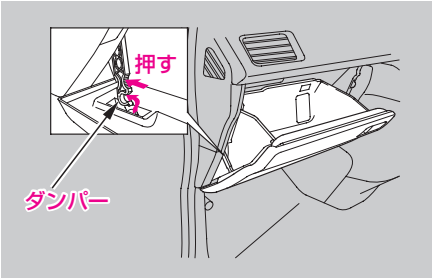
交換のしかた　→333ページ

知　識

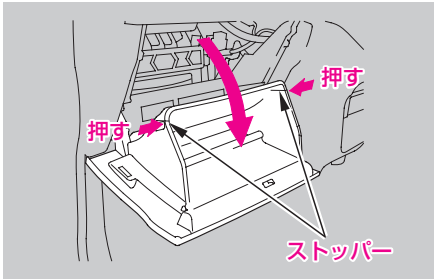
●グローブボックスの内側に交換時期が記載してあります。

●交換のしかた

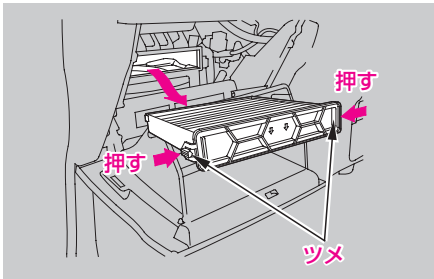
①前席助手席側ドアを開けます。
②グローブボックスを開けます。
③グローブボックスからダンパーを外します。



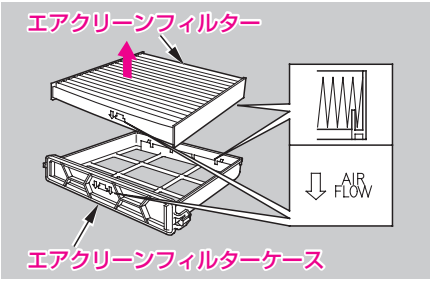
④グローブボックスの両側についているストッパーを内側に押し込んでグローブボックスを下ろします。



⑤左右にあるツメを押しながら、エアクリーンフィルターケースを引き出します。



⑥ケースからエアクリーンフィルターを取り出して新品と交換します。交換するときはケースとフィルターの“AIR FLOW”マークの矢印が同じ方向（下向き）になるように確実に取り付けてください。



知 識

- エアクリーンフィルターを交換するときは、取り付け方向に注意してください。フィルターの取り付け方向を間違えると、フィルターの効果を十分に発揮しません。

シートヒーター

タイプ別注文装備

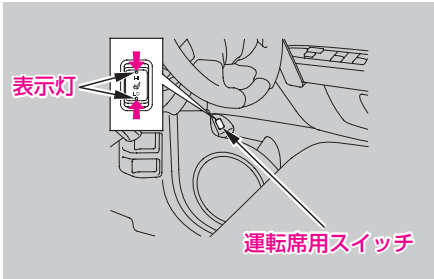
運転席、助手席のシートを暖めることができます。
エンジンスイッチが“II”のとき使えます。

▼

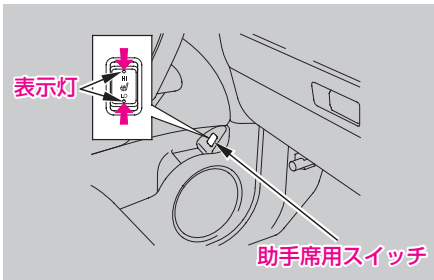
スイッチを“HI”側か“LO”側に押します。シートを早く暖めたいときは“HI”側を押します。暖まったら“LO”側にしてください。作動中、押している側の表示灯が点灯します。スイッチを切るときは、反対側を軽く押し、表示灯を消します。

スイッチの状態	シートヒーターの状態
HI　LO	HI
HI　LO	OFF
HI　LO	LO

運転席ドア



助手席ドア



⚠注意

- 次のようなかたは、熱すぎたり低温やけどをすることがありますので、ご使用になるときは十分注意してください。
  - ・乳幼児、お子さま、お年寄、病気のかた、体の不自由なかた
  - ・皮ふの弱いかた
  - ・疲労の激しいかた
  - ・深酒やねむけをさそう薬（睡眠薬、かぜ薬など）を使用されたかた

  また、毛布や座ぶとんなどの保温性の高いものをかけて使用すると、低温やけどをすることがあります。

知 識

- 凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針や釘など鋭利な物を突きさしたりしないでください。
- シートの手入れには、シンナー、ベンジン、アルコール、ガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。ヒーターおよびシート表面を損傷するおそれがあります。
- **サイドエアバッグシステム装備車**
  助手席の背もたれには、サイドエアバッグシステムの乗員姿勢検知システムのセンサーが装備されているため、ヒーター機能はありません。

オーディオ

上手な使いかた

知 識

- 運転中の音量は車外の音が聞こえる程度の音量でお使いください。車外の音が聞こえない状態では安全運転のさまたげとなります。
  また、運転中のオーディオ操作は、安全運転に支障がないようにしてください。
- 車内や車の近くで携帯電話や無線機を使うとオーディオに雑音が入ることがあります。

●ラジオについて

ラジオの受信については、車の走行にともない受信状態が刻々と変わったり、障害物や電車、信号機などの影響により最良な受信状態を維持することが困難な場合があります。

●CD/MDについて

ディスクの変形を避けるため、直射日光や高温多湿を避けてケースに入れ保管してください。
悪路走行などで激しく振動した場合、音とびすることがあります。
寒いときや雨降りのときは、プレーヤー内部に露(水滴)が生じ、正しく作動しなくなることがあります。その場合、ディスクを取り出し、換気または除湿をしてからお使いください。

CD

ディスクの信号面は直接手で触れないでください。指紋等の汚れが付くと、音とびなどをすることがあります。

下記マークのついていないディスクおよび円形以外のディスクは使えません。

知 識

- ディスクは必ず円形のものをお使いください。円形以外のディスクを使用すると故障の原因となります。

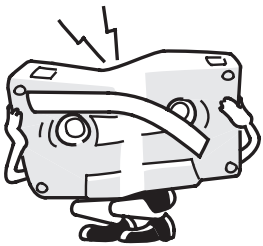
MD

シャッターを無理にあけないでください。こわれることがあります。
また、ディスクの信号面は直接手で触れないでください。指紋等の汚れが付くと、音とびなどをすることがあります。

●カセットについて

次のようなカセットテープは、故障の原因になりますので、ご使用はお避けください。

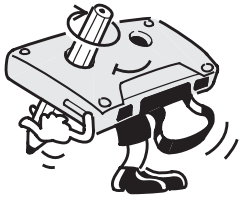
・ラベルがはがれかけていたり変形したカセットテープを使用すると、回転不良を起こしたりテープが取り出せなくなる場合があります。



・120分以上のテープは非常に薄いため、伸びたり、プレーヤーに巻き付いたりする場合があります。

カセットテープは、変形したり録音が消えてしまわないようにほこり、直射日光や磁気のあるものの近くを避けてケースに入れ保管してください。

カセットテープは、プレーヤーにテープが巻き込まれたりしないように鉛筆などでたるみをとってから差し込んでください。

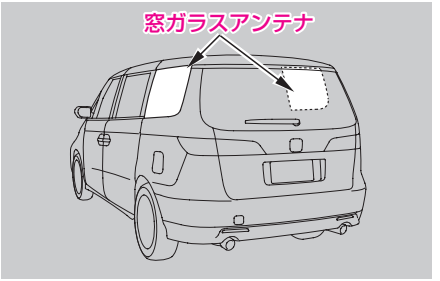


音が歪んだり高音が出にくくなった場合は、市販のクリーニングテープなどでプレーヤーの手入れをしてください。

アンテナ

●窓ガラスアンテナ

後部右側ウィンドー内側にラジオ用のアンテナ線が、後部両側ウィンドー内側にテレビ用のアンテナ線(ナビゲーションシステム装備車)があります。



知 識

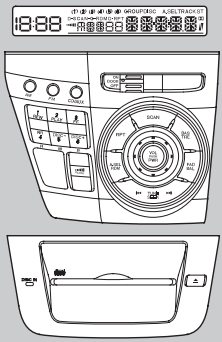
- アンテナ線は傷つきやすいので、清掃のときはアンテナ線に沿って柔らかい布でふいてください。また、手荷物などで傷つけないようにしてください。

オーディオインデックス

ナビゲーションシステム装備車のオーディオ・テレビ・DVD・ビデオ(VTR)の取り扱いについては、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をご覧ください。

AM/FMラジオ一体式CDステレオ

タイプ別装備



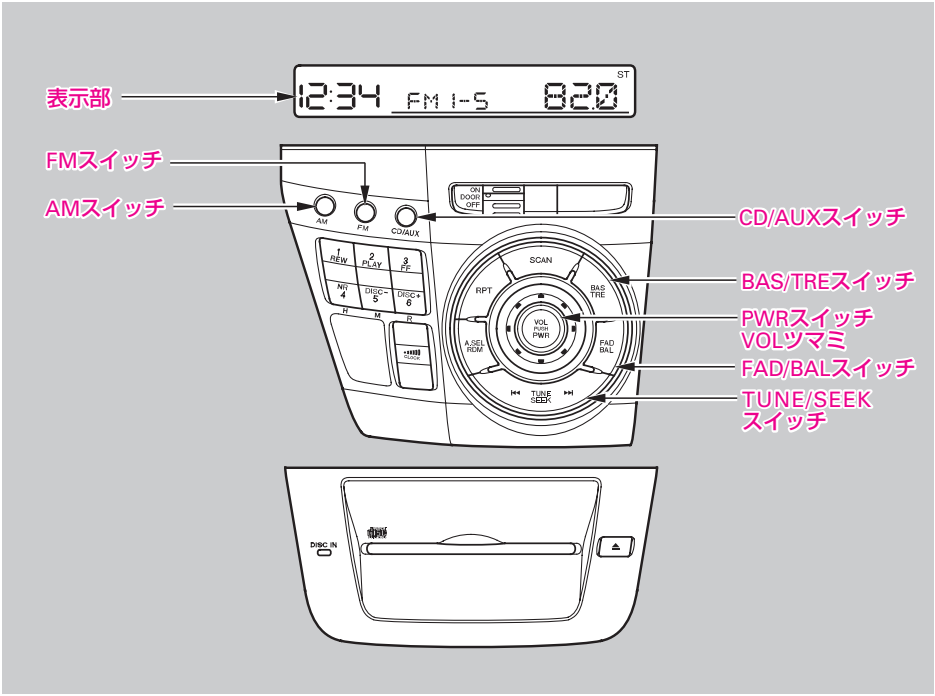
- 電源の入れかた ……342
- 音量調節のしかた ……342
- 音質調節のしかた ……343
- バランス調節のしかた ……343
- モードの切り換え ……343
- ラジオの使いかた ……344
- CDプレーヤーの使いかた……348
- CDチェンジャーコントローラー、MD／カセットプレーヤーの使いかた※ ……350
- AUX(オーディオ外部入力)端子の使いかた ……356
- エラーコードについて ……357
- 時計 ……358

※：Honda純正のオーディオを接続し、操作することができます。詳しくはHonda販売店にご相談ください。

AM/FMラジオ一体式CDステレオ

タイプ別装備

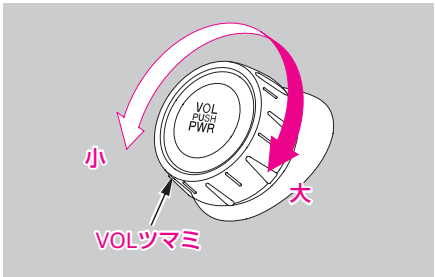
エンジンスイッチが“ I ”または“II”のときに使えます。



●電源の入れかた

PWRスイッチを押して、電源を入れます。押すたびに“ON”↔“OFF”になります。また、AMスイッチ、FMスイッチまたはCD/AUXスイッチを押して、電源を“ON”にすることもできます。

●音量調節のしかた



●音質調節のしかた

BAS/TREスイッチを押して切り換え、VOLツマミで調節します。

BAS/TREスイッチを押すたびに切り換わります。

知 識

- 調節後約5秒すぎると自動的に解除されます。
- 調節位置が中央のときに表示部に“C”(センター)を表示します。

●バランス調節のしかた

FAD/BALスイッチを押して切り換え、VOLツマミで調節します。

FAD/BALスイッチを押すたびに切り換わります。

知 識

- 調節後約5秒すぎると自動的に解除されます。
- 調節位置が中央のときに表示部に“C”(センター)を表示します。

●モードの切り換え

・AMスイッチ、FMスイッチ

ラジオに切り換わります。

・CD/AUXスイッチ

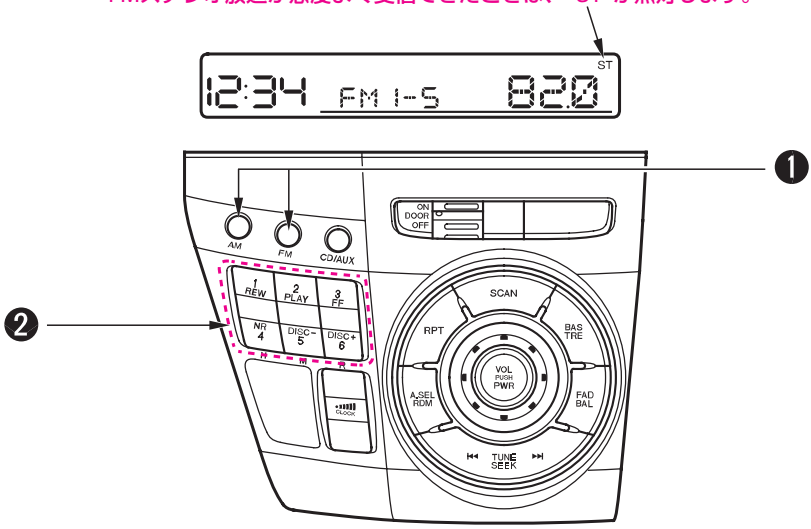
本体CDプレーヤーにディスクが入っているときに押すと、CD演奏に切り換わります。

Honda純正のオーディオを接続しているときに押すと、それらの演奏に切り換わります。

●ラジオの使いかた

ラジオ放送のききかた

FMステレオ放送が感度よく受信できたときは、“ST”が点灯します。



❶ラジオに切り換え、バンドを選ぶ(AMスイッチ、FMスイッチ)

スイッチを押して、FM1/FM2、AMを選びます。

❷選局する(ワンタッチ選局スイッチ)

あらかじめ放送局をセットしておくと、ワンタッチで選局できます。

FM12局(FM1、FM2それぞれ6局)、AM6局まで記憶できます。

ワンタッチ選局のセットのしかた

①AMスイッチでAMを、FMスイッチでFM1/FM2を選びます。
②TUNE/SEEKスイッチで選局します。

・短く押すと、押すたびに受信周波数が少しずつ変わります。(手動選局)
・“ピッ”という電子音がするまで押すと、自動選局になり放送を受信すると止まります。

知 識

●受信電波が弱いときは、自動選局できないことがあります。このようなときは手動で選局してください。

③ワンタッチ選局スイッチのいずれか一つを“ピッ”という電子音がするまで(約2秒間)押し続けます。

知 識

●一度電源が切れた場合(車両のバッテリーを外したとき、ヒューズが切れたときなど)、記憶が消去されます。そのときは再度記憶操作をしてください。

自動で放送局を記憶するには（オートセレクト）

放送局の違う地域へ出かけたときなど、セットされた放送局が聞けなくなった場合に操作します。

A.SELスイッチを押します。（“A.SEL”が点滅）

自動選局された電波の強い放送局が、周波数の低い順からワンタッチ選局スイッチにAM 6 局、FM12局まで自動的に記憶され“A.SEL”が点滅から点灯に変わります。

解除するときは、スイッチをもう一度押します。解除すると、ワンタッチ選局スイッチの記憶は、オートセレクトをする前の状態に戻ります。

知 識

- 放送局が 6 局または12局にみたない場合、残りのスイッチには何も記憶されません。記憶されていないスイッチを押すと、周波数が“ 0 ”と表示されます。
- オートセレクトされた放送局を個別に変更することもできます。

自動で放送局を数秒ずつ聞きたいときは（スキャン）

放送局でどんな番組を放送しているかを知りたいときに、操作します。

SCANスイッチを押します。（“SCAN”が点灯）

電波の強い放送局が周波数の低い順から選局され、約 5 秒間つぎつぎと受信します。

解除するときは、スイッチをもう一度押します。他のモードに切り換えたときも解除されます。

交通情報をきくとき

•ıllı スイッチを押すと、ワンタッチで交通情報を受信できます。(“ •ıllı ”が点灯)

周波数を切り換えるとき(1620kHz↔1629kHz)
…TUNE/SEEKスイッチで切り換えます。

解除するとき

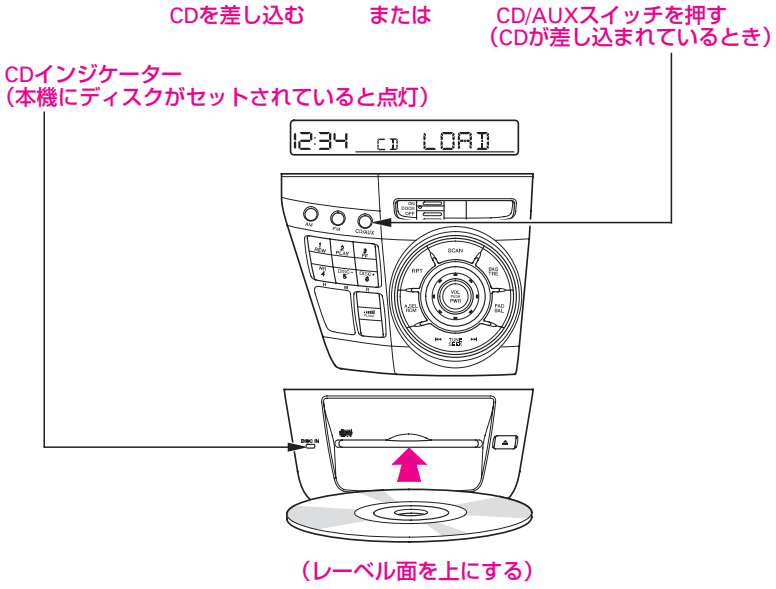
•ıllı スイッチをもう一度押します。他のモードに切り換えたときも解除されます。

知 識

- •ıllı スイッチにあらかじめセットされている受信周波数を変えることはできません。
- •ıllı スイッチを使って交通情報を聞いているときは、ワンタッチ選局スイッチによる選局はできません。

●CDプレーヤーの使いかた

CD演奏のききかた



知 識

- 8 cm CDを使用するときはアダプターを使用しないでください。故障の原因になることがあります。
- ディスクやプレーヤーをゴミやほこりから保護するため、ディスクが押し出されたままで約15秒経過すると、自動的に内部に引き込まれます。
- CD-R、CD-RWは録音状態により再生できない場合があります。

CDを取り出すとき

▲スイッチを押して、CDを取り出します。

CD演奏中にエンジンスイッチを“0”にした場合でも、▲スイッチを押せばCDを取り出すことができます。

早送り／早戻し、スキップ／リプレイをするとき

|◀◀ ／ ▶▶| スイッチを押します。

早戻し
リプレイ

早送り
スキップ

・押し続けると、早送り／早戻しになります。
・短く押すと、スキップ(先の曲の頭出し)／リプレイ(演奏中や前の曲の頭出し)になります。

ききたい曲を探すとき(スキャン)

SCANスイッチを押します。(“SCAN”が点灯し、トラックナンバーが点滅します。)

各トラックの曲の始めを約10秒間つぎつぎに演奏します。ききたい曲のところでスイッチをもう一度押すと、スキャン演奏の機能は解除されます。

知 識

●全ての曲をスキャン演奏し終ると、スキャン演奏を開始した曲から通常の演奏になります。

演奏中の曲を繰り返しきくとき(リピート)

RPTスイッチを押します。(“RPT”が点灯)
リピート機能を解除するときは、スイッチをもう一度押します。

1枚のディスクの曲順をランダムに演奏するとき

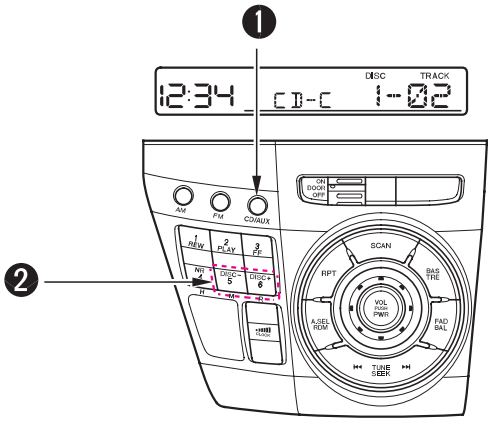
RDMスイッチを押します。(“RDM”が点灯)
ランダム演奏の機能を解除するには、スイッチをもう一度押します。

●CDチェンジャーコントローラー、MD／カセットプレーヤーの使いかた

Honda純正のCDチェンジャー、MD／カセットプレーヤー接続時

演奏のききかた

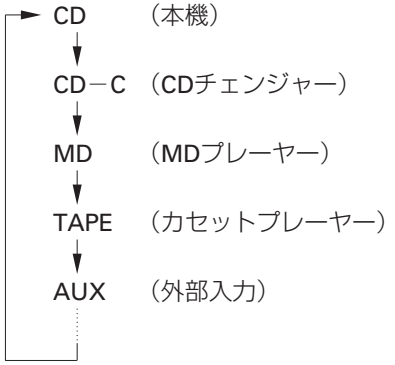
CDチェンジャー、MDプレーヤー接続時



カセットプレーヤー接続時

❶切り換える(CD/AUXスイッチ)

スイッチを押して、切り換えます。スイッチを押すたびに接続されているCDチェンジャー、本機のCDプレイヤーに切り換わります。



❷ディスクを選ぶ(DISC－/DISC＋スイッチ)　CDチェンジャー接続時

DISC－、DISC＋スイッチを押すごとに切り換わります。
DISC－、DISC＋スイッチに続けて ⏮ ／ ⏭ スイッチを短く押すと、トラックナンバーの指定もできます。

CDチェンジャー、MDプレーヤー接続時

早送り／早戻し、スキップ／リプレイをするとき

I◀◀ ／ ▶▶I スイッチを押します。

早戻し
リプレイ　　早送り
スキップ

・押し続けると、早送り／早戻しになります。
・短く押すと、スキップ（先の曲の頭出し）／リプレイ（演奏中や前の曲の頭出し）になります。

ききたい曲を探すとき（トラックスキャン、ディスクスキャン）

SCANスイッチを押します。

・短く押すとトラックスキャンになります。（“SCAN”が点灯し、トラックナンバーが点滅します）
演奏中のディスクの各トラックの曲の始めを約10秒間つぎつぎに演奏します。
機能を解除するには、スイッチをもう一度短く押します。
・“ピッ”という電子音がするまで押すとディスクスキャンになります。（“D-SCAN”が点灯し、ディスクナンバーが点滅します）ディスクチェンジャー内の全てのディスクの先頭の曲の始めを約10秒間つぎつぎに演奏します。
機能を解除するには、スイッチをもう一度“ピッ”という電子音がするまで押します。

演奏中の曲を繰り返しきくとき（リピート）

RPTスイッチを押します。

・短く押すとトラックリピートモードになります。（“RPT”が点灯）
演奏中の曲を繰り返し演奏します。
機能を解除するには、スイッチをもう一度短く押します。
・“ピッ”という電子音がするまで押すとディスクリピートモードになります。（“D-RPT”が点灯）
演奏中のディスクを繰り返し演奏します。
機能を解除するには、スイッチをもう一度“ピッ”という電子音がするまで押します。

ディスクの曲順をランダムに演奏するとき

RDMスイッチを押します。

・短く押すとトラックランダムモードになります。（“RDM”が点灯）
演奏中のディスクをランダムに演奏します。
機能を解除するには、スイッチをもう一度短く押します。

カセットプレーヤー接続時

早送り／巻戻し、頭出しをするとき

I◀◀ ／ ▶▶I スイッチを押します。

巻戻し
頭出し
（演奏中の曲）

早送り
頭出し
（次の曲）

- 押し続けると、早送り／巻戻しになり、“FF/REW”が点灯します。
- 短く押すと頭出し（次の曲の最初／演奏中の曲の最初）になり、“FF/REW”が点滅します。

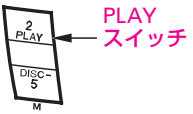
早送り／巻戻しを止めるときは、スイッチをもう一度押します。

知 識

- 曲間の無音部分が 4 秒以上ないときや雑音が入っているとき、曲の途中に無音部分があるときは、頭出し機能が働かないことがあります。

走行方向を切り換えるとき

PLAYスイッチを押します。



テープの片面が終了したときは、自動的に切り換わります。

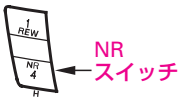
演奏中の曲を繰り返しきくとき（リピート）

RPTスイッチを押します。（“RPT”が点灯）

リピート演奏の機能を解除するときは、スイッチをもう一度押します。

ドルビーNRについて

ドルビーNR録音されたテープを再生すると、高域雑音の少ない演奏が楽しめます。



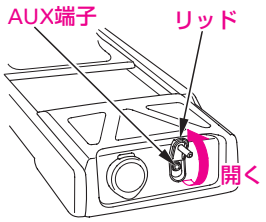
NRスイッチで、ドルビーNR再生およびその解除を行います。（ドルビーNR再生中は“DD”が点灯）

※ドルビーノイズリダクションシステムはドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。
ドルビー、DOLBY及びダブルD記号 DD はドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションの登録商標です。

●AUX(オーディオ外部入力)端子の使いかた

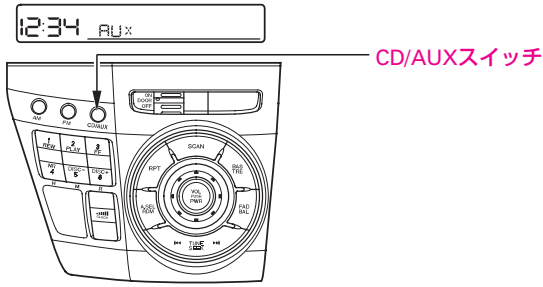
市販のポータブルオーディオなどを、センターテーブル後端にあるAUX端子に接続してきくことができます。

接続のしかた



ポータブルオーディオなどのヘッドホン端子から、市販の接続コード(抵抗なし)を使ってAUX端子に接続します。
AUX端子側はステレオミニプラグを使用してください。

モードの切り換え

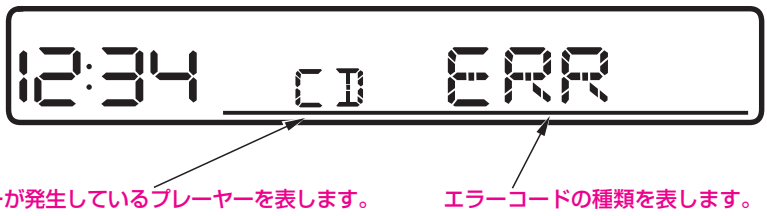


オーディオの電源が"ON"のときに接続コードをAUX端子に差し込むと自動的にAUXに切り換わります。("AUX"が表示)
他のモードに切り換えるときは、AMスイッチ、FMスイッチまたはCD/AUXスイッチを押します。
他のモードからCD/AUXスイッチを押すとAUXに切り換わります。

モードの切り換え　→351ページ

●エラーコードについて

表示部にエラーコードが表示されたときは、表示されているプレーヤーの取扱説明書をご覧になり、点検してください。



CD　（本機）
CD－C　（CDチェンジャー）

エラーコード	原　因
ERR	ディスクマガジンやディスクの挿入や取り外しができない等、機械的な不具合
HOT	プレーヤー内部の温度上昇による一時停止状態
DISC	ディスクが汚れている、または裏返しになっている ディスクマガジンにディスクが入っていない

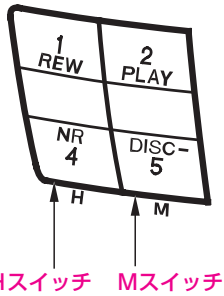
●時計

時計は、エンジンスイッチが“Ⅰ”または“Ⅱ”のときに表示されます。

表示の合わせかた

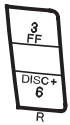
①•▮▮▮▮(CLOCK)スイッチを時計表示が点滅するまで押します。

②「時」の調整…4(H)スイッチを押します。
「分」の調整…5(M)スイッチを押します。



③•▮▮▮▮(CLOCK)スイッチをもう一度押します。

時報合わせ…時計表示が点滅しているときに、時報と同時に6(R)スイッチを押します。



(例)　1:01～1:29の場合…1:00
1:30～1:59の場合…2:00

オーディオリモートコントロールスイッチ

タイプ別装備

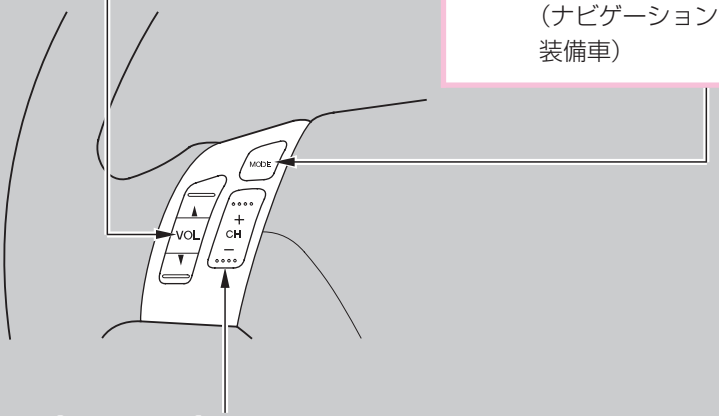
音量調節スイッチ

▲を押す…音量が大きくなります。
▼を押す…音量が小さくなります。

MODEスイッチ

FM1 → FM2 → AM → CD※1 → SC※2 → AUX※1 → FM1

スイッチを押すたびに切り換わります。
※1：CDが入っているときや、プレーヤーなどを接続しているときに切り換わります。
※2：SC（サウンドコンテナ）（ナビゲーションシステム装備車）



CH（チャンネル）スイッチ

ラジオを聞いているとき
＋を押す…プリセットされている次の放送局を選局します。
－を押す…プリセットされている前の放送局を選局します。
CDを聞いているとき
＋を押す…スキップ（先の曲の頭出し）します。
－を押す…リプレイ（演奏中、前の曲の頭出し）します。

リヤカメラシステム

ナビゲーションシステム装備車

リヤカメラシステムについて

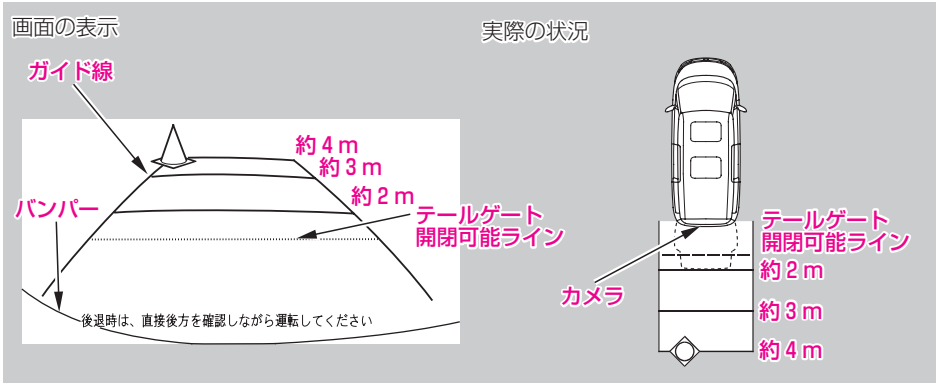
リヤカメラシステムは、エンジンスイッチが“II”のとき、セレクトレバーをRの位置に入れるとナビゲーションシステムの液晶画面に車両後方の映像を表示させるシステムです。リヤカメラシステムは、後退時に車両後方の障害物などを確認するための補助装置です。

⚠注意

- 後退時は、必ず目視やミラーなどで後方および周囲の安全を直接確認して運転してください。また画面を見るときは、必要最小限にしてください。
  画面に表示される映像の範囲には限度があるため、画面だけを見て後退すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

画面に表示される映像の範囲

車両後方約 4 mまで表示されます。



知 識

- リヤカメラシステムの映像は、ナビゲーション画面よりも優先して表示されます。
- エンジン始動直後は、セレクトレバーをRの位置に入れてもナビゲーションシステムが起動するまでリヤカメラシステムのガイド線は表示されません。
- リヤカメラシステムのカメラは特殊なレンズを使用しているため、画面に表示される映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
- 画面に表示される映像の範囲には限度があり、バンパーの両コーナー付近やバンパーの下にある物は表示されません。
- カメラのレンズが汚れていると、鮮明な映像が表示されません。
  レンズが汚れたときは、水や中性洗剤、ガラスクリーナーなどで汚れを拭き取ってください。（ベンジンやシンナー、クレンザーなどの磨き粉類は絶対に使わないでください。レンズが破損する原因となります。）
- 次の場合、映像が見えにくくなることがありますが、異常ではありません。
  - 夜間または暗い所
  - カメラのレンズに直接光が入ったとき（カメラに強い光が入ると、光源を中心に縦に白い光の線が出ます）
  - カメラの温度が高いとき
  - カメラのレンズに水滴が付いたとき

ガイド線の消しかた

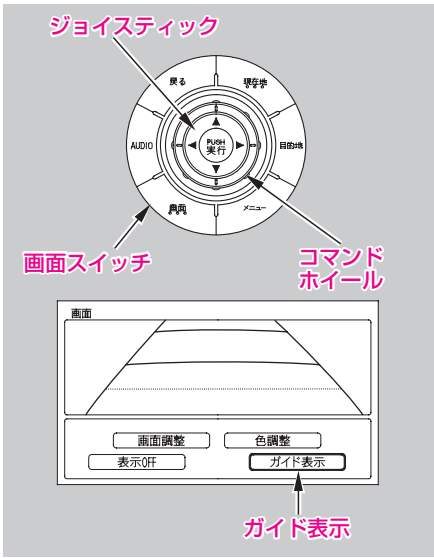
画面に表示しているガイド線を消すことができます。

①パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

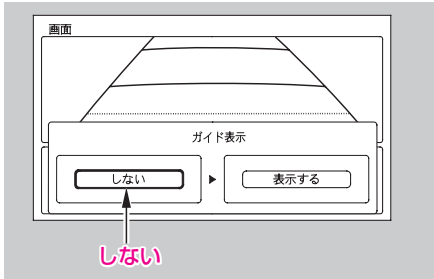
②エンジンスイッチを“II”にして、セレクトレバーをRにします。

③画面スイッチを押します。

④コマンドホイールを回してガイド表示を選び、ジョイスティックを押します。



⑤ジョイスティックを左方向に倒してしないを選び、ジョイスティックを押します。

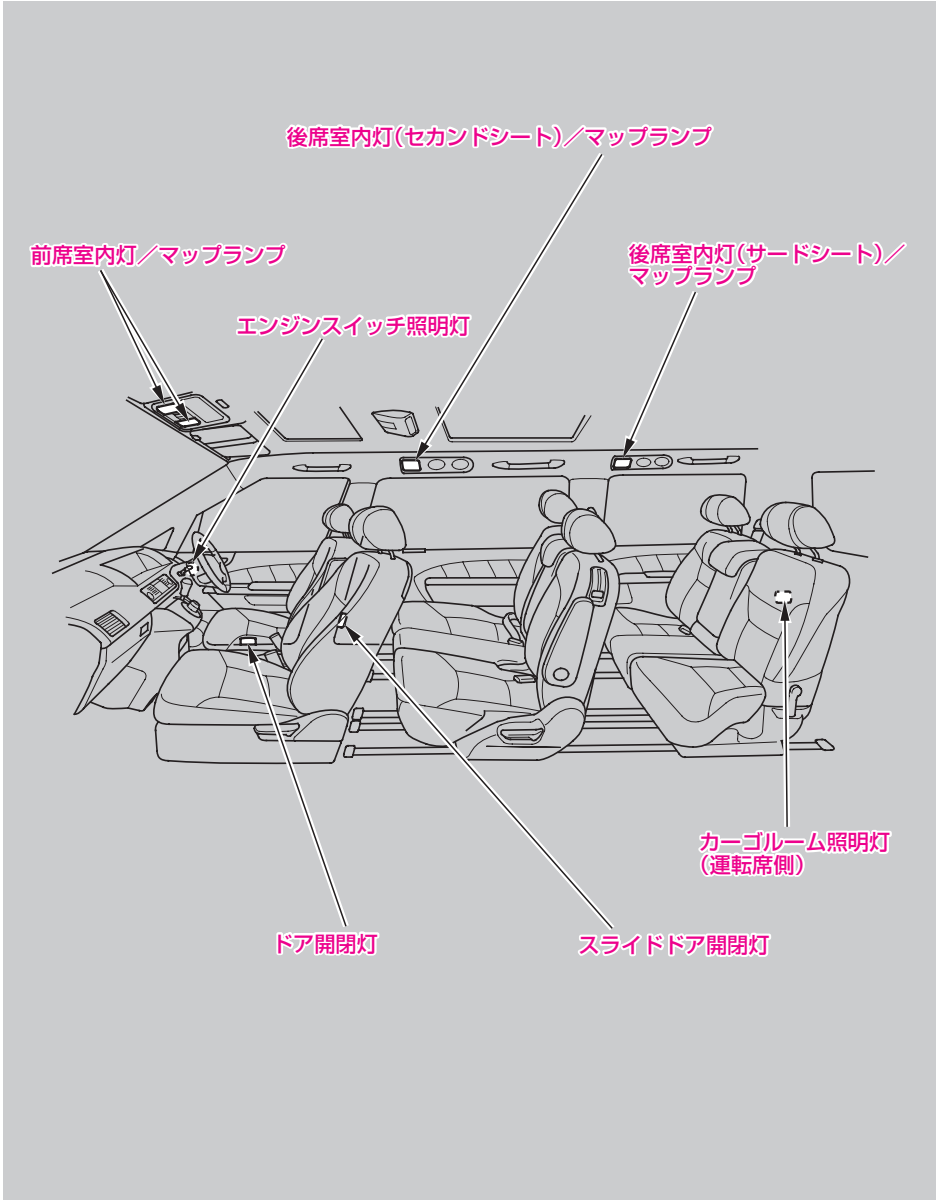


もう一度ガイド線を表示するときは、①～④の操作を繰り返し、ジョイスティックを右側に倒して表示するを選び、ジョイスティックを押します。

知 識

- 安全のためにエンジンを停止した状態で操作を行ってください。

室内照明


後席室内灯(セカンドシート)／マップランプ
前席室内灯／マップランプ
後席室内灯(サードシート)／
マップランプ
エンジンスイッチ照明灯
カーゴルーム照明灯
(運転席側)
ドア開閉灯
スライドドア開閉灯

室内灯

●室内灯スイッチ

室内灯スイッチで、前席室内灯、後席室内灯（セカンドシート、サードシート）の各室内灯を次のように点灯、消灯することができます。

▼

室内灯スイッチが“ON”の位置

各室内灯はドアの開閉に関係なく点灯します。

室内灯スイッチが“DOOR”の位置

各室内灯はドアを開けると点灯し、閉めると減光しながら消灯します。

次の場合にも点灯し、その後消灯します。

・運転席ドアを解錠したとき
（ウェルカムライト機能）
・エンジンスイッチからキーを抜いたとき
・Hondaスマートカードキーシステム装備車は、エンジンスイッチを“0”にしたとき

知 識

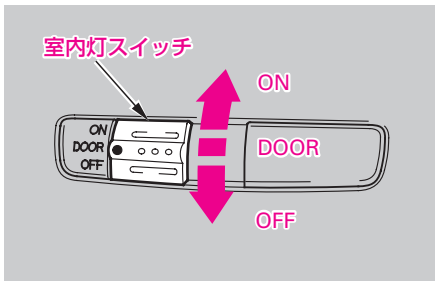
●前席室内灯および後席室内灯（セカンドシート、サードシート）のスイッチを操作して点灯しているときは、室内灯はドアを閉めても消灯しません。

室内灯スイッチが“OFF”の位置

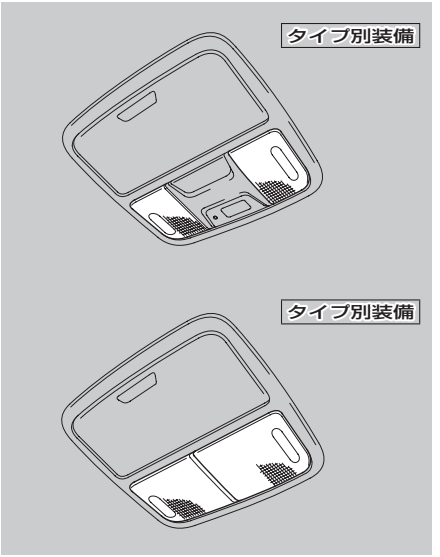
各室内灯はドアの開閉に関係なく消灯します。

知 識

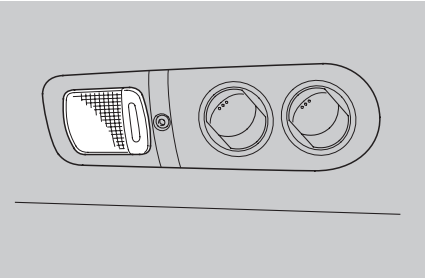
●前席室内灯は、マップランプのスイッチを操作して点灯しているときは消灯しません。



前席室内灯



後席室内灯
（セカンドシート、サードシート）



知 識

- 次の操作を行ったときは、室内照明は減光せずにすぐに消灯します。
  - ・運転席ドアを施錠したとき
  - ・エンジンスイッチにキーが差し込まれた状態で運転席ドアを閉めたとき
- 室内照明の点灯時間を変更することができます。
  （工場出荷時は、30秒に設定されています。）
  カスタマイズ機能　→386ページ
- エンジンスイッチにキーが差し込まれているときは、運転席ドアを解錠しても室内灯は点灯しません。

知 識

- 室内灯スイッチが“DOOR”位置のときに、エンジンスイッチが“0”でキーを差し込んでいないときは、バッテリー保護のためドアを開けたままにしていると、約3分後に減光しながら消灯します。
  但し、次のような状態のときは各照明灯は消灯しません。
  - ・前席室内灯、後席室内灯（セカンドシート、サードシート）は、マップランプのスイッチを押してマップランプが点灯している状態のとき

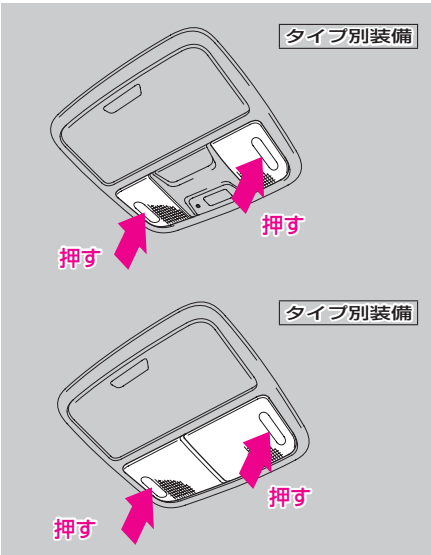
マップランプ

●前席用

室内灯スイッチが、“DOOR”または“OFF”のときに操作ができます。

▼

スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

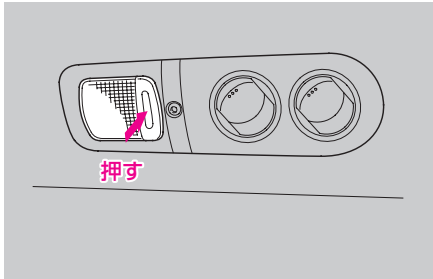


●後席用（セカンドシート、サードシート）

室内灯スイッチが、“DOOR”のときに操作ができます。

▼

スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。



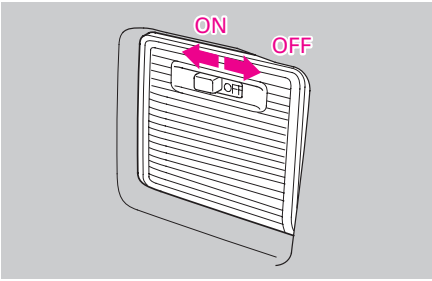
知 識

- 後席マップランプは、室内灯スイッチが“OFF”のときは、点灯しません。
- 次のときは、点灯中にスイッチを押しても消灯しません。
  - ・室内灯スイッチが“ON”のとき
  - ・室内灯スイッチが“DOOR”のときで、ドアが開いているとき

カーゴスペース照明灯

“ON”
テールゲートを開けると点灯し、閉めると消灯します。

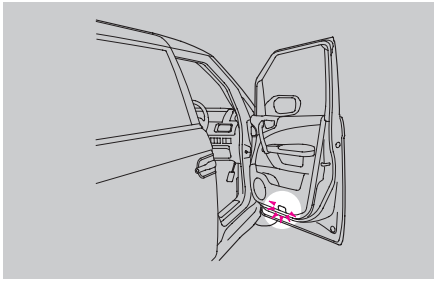
“OFF”
テールゲートの開閉に関係なく消灯します。



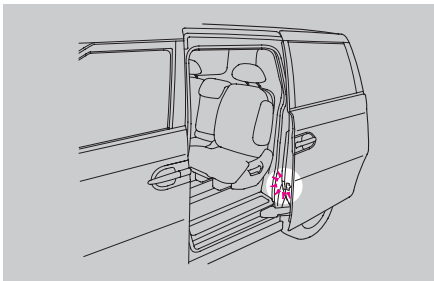
ドア開閉灯

ドアを開けると点灯します。
閉めると消灯します。

●フロントドア

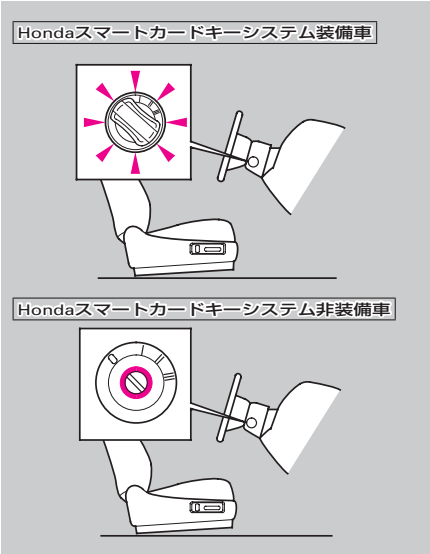


●スライドドア



エンジンスイッチ照明灯

ドアを開けると点灯し、閉めると約30秒後に消灯します。



知 識

- エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときや、プッシュオフ（カードキー使用時）したときは、バッテリー保護のためドアを開けたままにしていると、約３分後に消灯します。

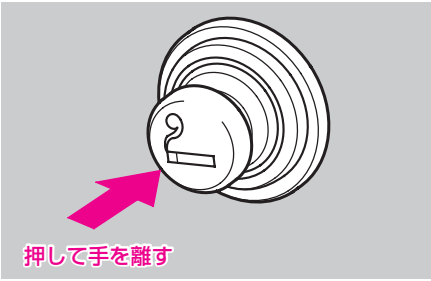
室内装備品

シガレットライター

エンジンスイッチが“ I ”または“II”のときだけ使えます。

▼

ライターを押し込んで、手を離し、元の位置に戻るまで待ちます。
ヒーター部が赤熱すると自動的に戻ります。



ライター使用後は灰皿で灰を落としてからすみやかに元に戻してください。

⚠注意

- シガレットライターの金属部分には触れないでください。
  やけどをするおそれがあります。

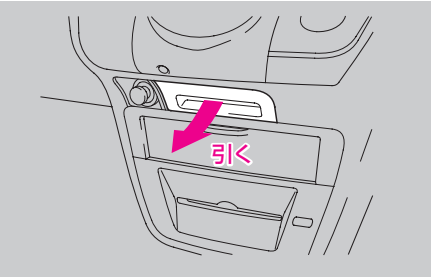
知 識

- シガレットライターの損傷を防ぐため、次のことをお守りください。
  - ・ライターを押し込んだあと、押さえ続けないでください。
  - ・ヒーター部に灰や異物が付着したまま使用しないでください。
  - ・ライターのさし込み口からは、Honda純正品以外の電気製品の電源を取り出さないでください。
- 他の車のライターを使ったり、自車のライターを修正したりしないでください。戻らなかったり、とび出したりするおそれがあります。
- ライターを押し込んでから、30秒以上たっても戻らないときは故障のおそれがありますので手で引き出し、Honda販売店で点検を受けてください。

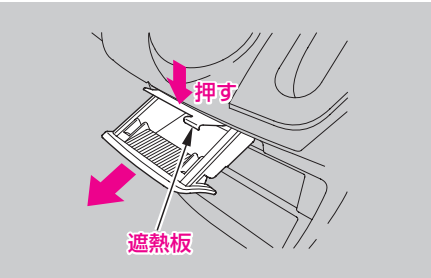
灰皿

●前席用

灰皿は引くと出ます。

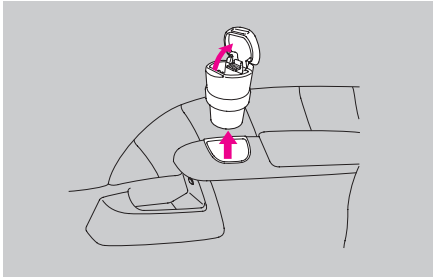


清掃するときは遮熱板を下に押さえながら外します。



●後席用(移動式)

カップホルダーに置いて使用することができます。
ツマミを引くと灰皿のフタが開きます。



知 識

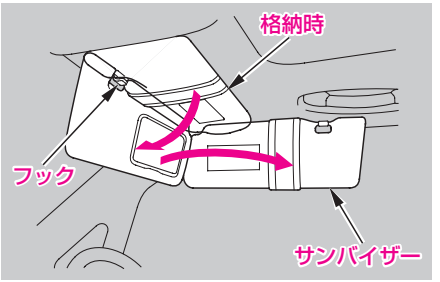
●お買い上げ時、灰皿はサードシート運転席側のカップホルダーに置いてあります。

⚠注意

●タバコ、マッチなどは確実に火を消してから灰皿に捨て、灰皿は必ず閉めてください。
また、吸いがらをためすぎたり、紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。
タバコなどの火が燃え広がるおそれがあります。

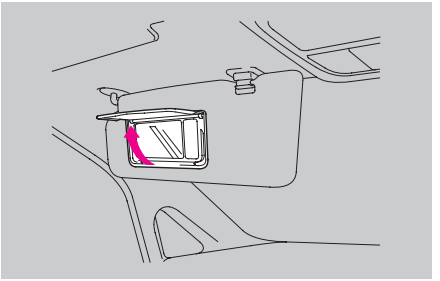
サンバイザー

サンバイザーを横にするときは、フックから外して行います。



●バニティミラー（化粧鏡）

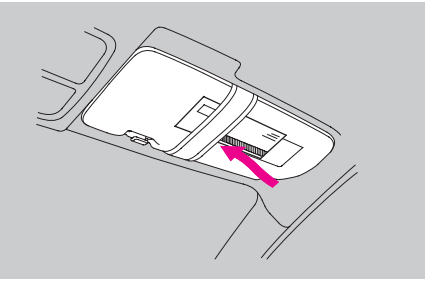
サンバイザーに鏡があります。
お化粧のときなどに便利です。



ふたを開けると照明灯が点灯します。

チケットホルダー

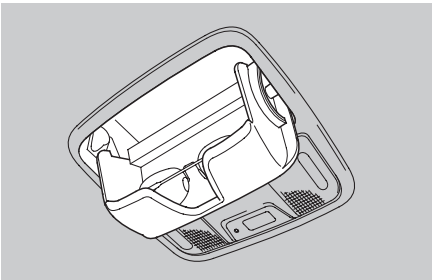
運転席側のサンバイザーにあります。



サングラスホルダー

矢印部を押すと開きます。もう一度押すと格納されます。

サングラスなどを入れることができます。



知 識

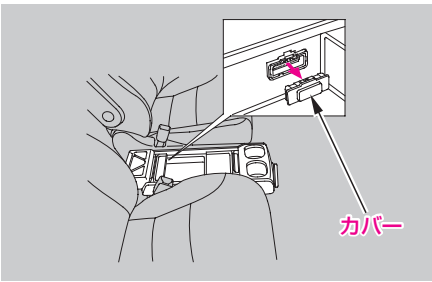
- 炎天下での駐車は高温になりますので、メガネなどを入れたままにしないでください。レンズやフレームが、変形やひび割れをおこすことがあります。
- 重い物や破損しやすい物、鋭利な物など入れないでください。
- 開閉は停車中に行い、走行中は必ず閉めておいてください。
- サングラスでも大きさ、形状により収納できないものがあります。

携帯電話接続キット

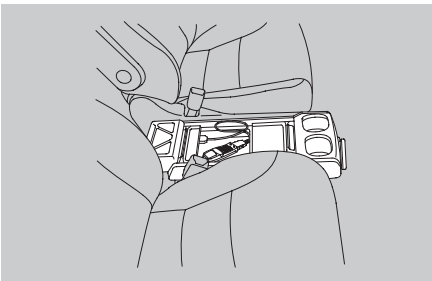
ナビゲーションシステム装備車

付属のケーブルを使って、携帯電話をセンターテーブルボックスの中にある端子と接続して使います。

接続するときは、カバーを取り外します。



ケーブルを携帯電話と接続します。
接続した携帯電話は、図のように置いておくことができます。



詳細に関しては、別冊のナビゲーションシステムの取扱説明書をご覧ください。

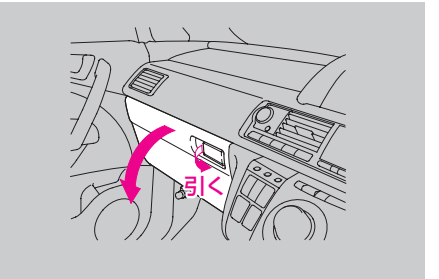
知 識

- お買い上げ時、ケーブルはグローブボックスに入っています。

小物入れ

●グローブボックス

ノブを引くと開きます。
ライトスイッチがOFF以外のときに照明灯が点灯します。

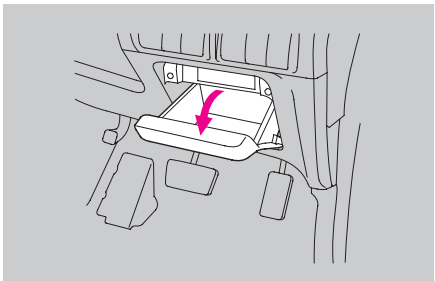


⚠警告

- 走行中は、グローブボックスのふたを必ず閉めてください。
  グローブボックスのふたが開いていると、衝突したときなどにふたにぶつかったり、内部の物がとび出したりして思わぬ事故につながります。

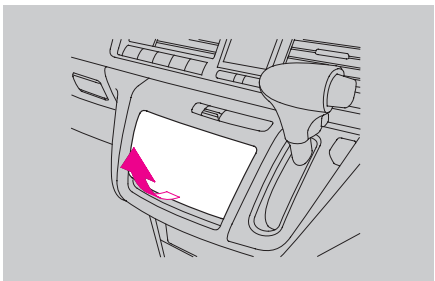
●コインポケット

ふたを下げると開きます。小銭を入れておくと有料道路の料金所などで便利です。



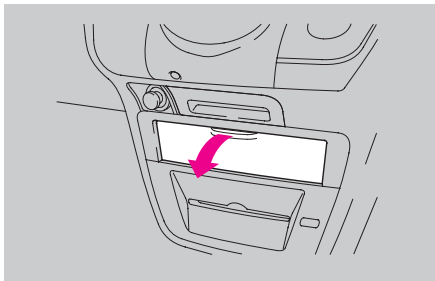
●センターアッパーボックス

オーディオ非装備車



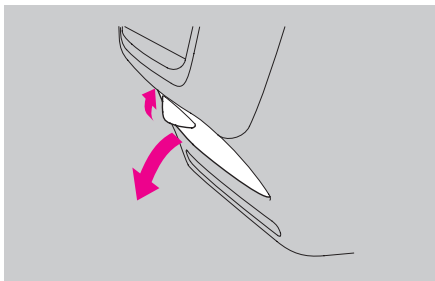
●ラジオポケット

リアエンターテインメントシステム非装備車



●センターロアボックス

ノブを引くと開きます。

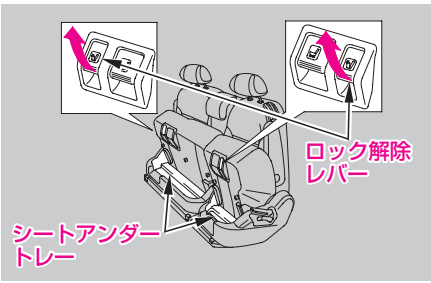


●シートアンダートレー（回転対座シート）

タイプ別注文装備

ロック解除レバーを引いて、座面を持ち上げます。

座面の上げ下げ　→106ページ



⚠注意

●シートアンダートレー以外のシートの下に物を置かないでください。物がはさまってシートが固定されず思わぬ事故につながるおそれがあります。

知 識

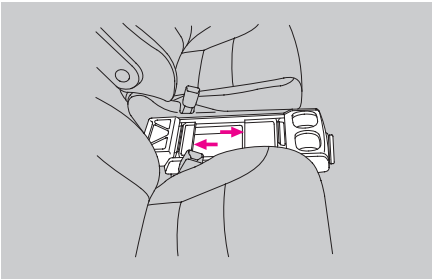
●トレーに大きいもの（高さのあるもの）を置くと、座面を元に戻したときに、確実に固定されません。

●座面が確実に固定されていない状態で、上に乗ったり無理な力をかけないでください。
破損や変形などの原因になります。

●センターテーブルボックス

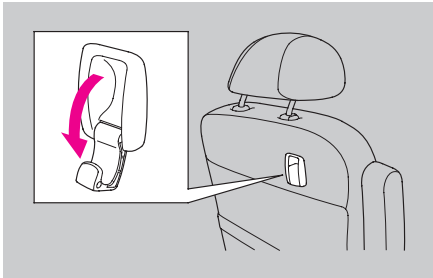
タイプ別装備

ふたをスライドさせて開きます。



コンビニフック

軽い荷物をかけておくのに便利です。
フックを手前に倒して使用します。
使用しないときは、フックを元に戻しておいてください。



知 識

- 重い物（約 3 kg以上）や大きな物をかけないでください。特に、重い物をかけるとフックが外れることがあります。

センターテーブル

知 識

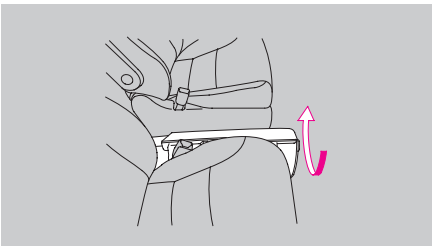
- テーブルの上に乗ったり、下にもぐったり、重い物を置くなど無理な力をかけないでください。破損や変形などの原因になります。
- 走行中にテーブルの上に物を置いておくと、落ちたり飛び出すことがあります。

●折りたたみ式センターテーブル

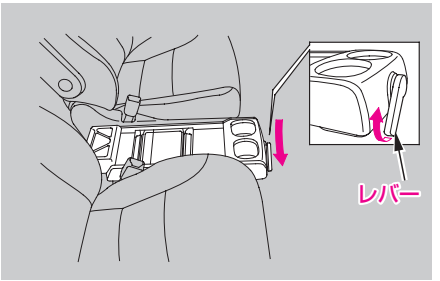
タイプ別装備

使いかた

上に引き起こして固定します。



元に戻すときは、レバーを引いてテーブルをおろし、押しつけて固定します。



カップホルダー

カップなどを置くときに使います。

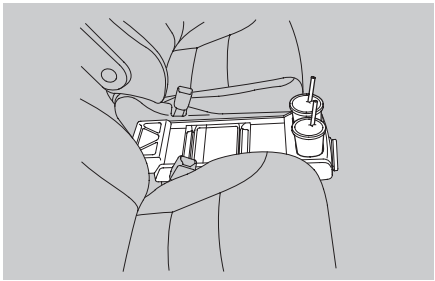
知 識

- ドアの開閉や走行中の振動、車の動きなどで飲み物がこぼれることがあります。
  熱い飲み物などはやけどのおそれがありますので注意してください。
- 飲み物がオーディオ等にかかると、故障の原因となりますので注意してください。

●フロントシート・セカンドシート用

フロントシート

タイプ別装備

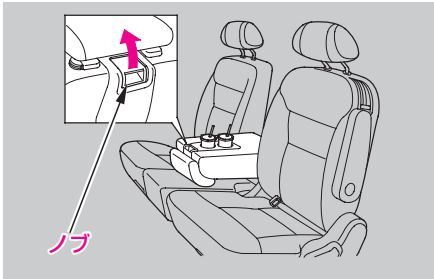


知 識

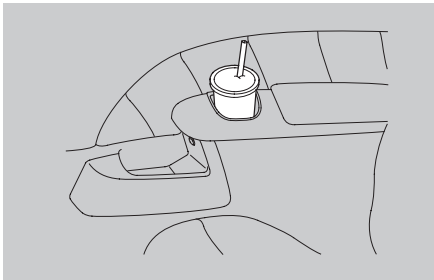
●飲み物が入っている状態でセンターテーブルをおろさないでください。

セカンドシート(アームレスト)

ノブを引いてアームレストを前に倒して使います。



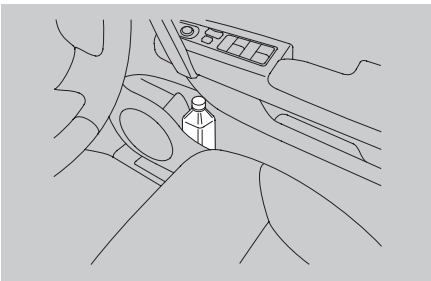
●サードシート用



ボトルホルダー

左右のスライドドアにあります。
ペットボトルなどを置くときに使います。

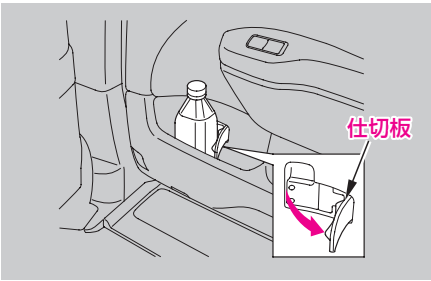
●フロントシート用



●セカンドシート用

スライドドアポケット

仕切板を手前に出して使います。



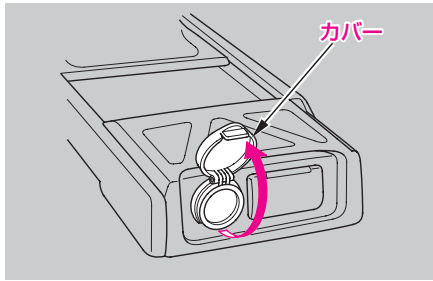
知 識

- 飲み物の入ったカップや栓をしていないペットボトルなどは、収納しないでください。

アクセサリーソケット

タイプ別装備

カバーを開けて使用します。
Honda純正の電気製品の電源を取り出すのに使用します。
（消費電力120W［12ボルト、10アンペア］まで使用できます。）



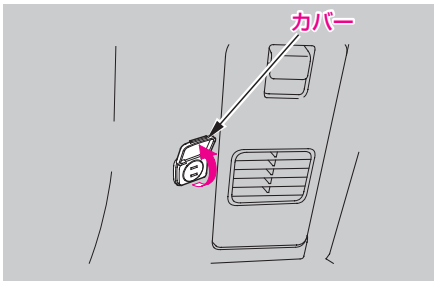
知 識

- Honda純正品以外の電気製品の電源を取り出さないでください。バッテリーあがりやアクセサリーソケットの損傷の原因となります。
- バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態でご使用ください。
- シガレットライターは差し込まないでください。発熱するおそれがあります。
- アクセサリーソケットを使わないときは、異物の侵入を防ぐためカバーを閉めてください。

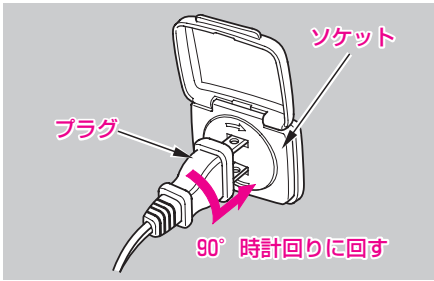
AC 100V電源ソケット

タイプ別装備

家電製品の電源（AC 100V）を取り出すのに使用します。
エンジンをかけているときに、消費電力100Wまで使用できます。
①カバーを開けます。



②プラグの先端を少し入れてから、時計回りに90°回して差し込みます。



使用しないときは、異物の侵入を防ぐためカバーを閉めてください。

⚠注意

- ソケットに水、ジュースなどがかからないようにしてください。感電するおそれがあります。

知 識

- ソケットに水、ジュースなどがかかると故障の原因となりますので、注意してください。
- バッテリー上がり防止のため、保護回路が働き、給電が停止することがあります。
- 消費電力が100Wを超える電気製品を使用しないでください。保護回路が働き、給電が停止します。
- 保護回路が働き、給電が停止した場合は、自動で復帰します。
- 給電が復帰しないときは、エンジンを再始動してください。
- 消費電力が100W以下であっても次のような機器は正常に作動しない場合があります。
  - ・起動時の消費電力が100Wを超える機器
    （ブラウン管テレビ、コンプレッサー式冷蔵庫、電気ポンプ、電動工具など）
  - ・電波周波数の切り換え（50／60 Hz）のある機器
    （時計、オーディオなど）
  - ・計測器など、精密なデータ処理をする機器
    （計量器など）

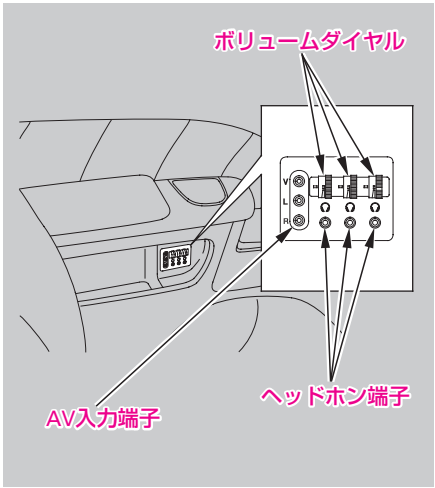
知 識

- 医療機器のご使用は、絶対に避けてください。
  （吸入器、コンタクトレンズ煮沸器、血圧計など）
- 使用する電気製品によっては、ラジオやテレビに雑音が入ることがあります。
- ACアダプターをコンセントに接続しないでください。振動などで落下するおそれがあります。

AV入力端子／音量調節機能付きヘッドホン端子

リアエンターテインメントシステム装備車

サードシート助手席側のライニングにリアエンターテインメントシステム用AV入力端子と音量調節機能付きヘッドホン端子（3個）があります。



詳しい操作については、別冊のリアエンターテインメントシステム取扱説明書および、ナビゲーションシステム取扱説明書をご覧ください。

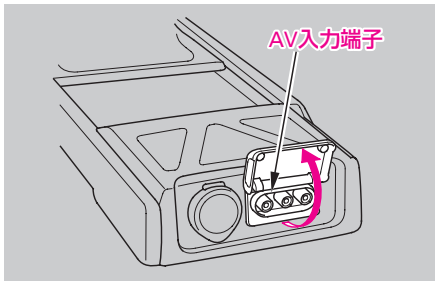
知　識

- 飲み物が入力端子内部に入ると、故障の原因になりますので注意してください。

AV入力端子

ナビゲーションシステム装備車

センターテーブルの後ろ側にAV入力端子があります。
使用するときは、カバーを開けて、入力端子にビデオ機器などの端子を差し込みます。



詳しい操作については、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をご覧ください。

知　識

- 飲み物が入力端子内部に入ると、故障の原因になりますので注意してください。

カスタマイズ機能

カスタマイズ機能について

下表の機能の設定を、必要に応じてカスタマイズ(設定変更)することができます。

IHCC装備車

マルチインフォメーションディスプレイを使って、各機能のカスタマイズが行えます。

マルチインフォメーションディスプレイを使ったカスタマイズ　→389ページ

IHCC非装備車

各機能のカスタマイズについては、Honda販売店にご相談ください。

カスタマイズメニュー一覧　　：工場出荷時の設定

カスタマイズ画面での表示			カスタマイズ(設定変更)の内容
カスタマイズグループ	カスタマイズメニュー	カスタマイズ	
CMS設定 IHCC装備車	CMS警報タイミング →288ページ	NEAR	追突警報を開始する距離を2段階で設定できます ・NEAR：警報開始の距離が近くなる ・FAR：警報開始の距離が遠くなる
		FAR	
メーター設定 →394ページ	外気温表示補正 →147ページ	0 ℃	外気温表示が＋3 ℃～－3 ℃の範囲で1 ℃ごとに補正できます
		＋3 ℃～－3 ℃	
IHCC装備車	トリップAの給油連動リセット →146ページ	連動	トリップメーターの"TRIP A"を給油時に自動的にリセットする、しないを設定できます ・連　動：給油すると自動的にリセットする ・非連動：自動的にリセットしない
		非連動	
	Welcomeスクロール時間 →152ページ	0.1秒	マルチインフォメーションディスプレイに表示される"Welcome"の表示速度を2段階で設定できます
		0.2秒	
スマートカードキーシステム設定 タイプ別装備 →396ページ	アンサーバックブザー音量	大	スマートカードキーを使って施錠、解錠したときのブザー音量を2段階で設定できます
		小	
ドア、テールゲートの施錠・解錠 →230ページ	ドアハンドル操作アンサーバックブザー	作動	スマートカードキーを使って解錠したときのブザーが鳴る、鳴らないを設定できます ・作　動：ブザーが鳴る ・非作動：ブザーが鳴らない
		非作動	
	オートロック起動ブザー	作動	オートロック起動時のブザーが鳴る、鳴らないを設定できます ・作　動：ブザーが鳴る ・非作動：ブザーが鳴らない
		非作動	
	オートロックアンサーバックブザー	作動	スマートカードキーを使って施錠したときのブザーが鳴る、鳴らないを設定できます ・作　動：ブザーが鳴る ・非作動：ブザーが鳴らない
		非作動	
ライティング設定 →398ページ	インテリアライト点灯時間 →367ページ	15秒	ドアを閉めてから室内灯が消灯するまでの時間を3段階で設定できます
		30秒	
		60秒	

カスタマイズ画面での表示			カスタマイズ(設定変更)の内容
カスタマイズグループ	カスタマイズメニュー	カスタマイズ	
ドア／ウィンドウ設定 →400ページ	自動ドアロック連動機能 →44ページ	車速連動	自動でドアを施錠する条件を設定できます ・車速連動：車速が約15km/h以上になると自動的に施錠する ・シフト連動：セレクトレバーをPから P以外にすると自動的に施錠する ・非連動：自動で施錠しない
		シフト連動	
		非連動	
	自動ドアアンロック連動機能 →44ページ	シフト連動	自動でドアを解錠する条件を設定できます ・シフト連動：セレクトレバーをP以外からPにすると解錠する ・IG OFF連動：エンジンスイッチを“II”から“I”または“0”にすると解錠する ・非連動：自動で解錠しない
		IG OFF連動	
		非連動	
	キーレスアンサーバック →74ページ	作動	キーレスエントリーで施錠、解錠したときに非常点滅表示灯が点滅する、しないを設定できます ・作　動：点滅する ・非作動：作動しない
		非作動	
	キーレスリロック時間 →75ページ	30秒	キーレスエントリーで解錠後、ドアやテールゲートを開けなかった場合に自動で再度施錠する時間を3段階で設定できます。
		60秒	
		90秒	
	セキュリティ機能 →410ページ	作動	施錠後セキュリティーシステムが作動する、しないを設定できます ・作　動：セキュリティシステムが作動する ・非作動：セキュリティシステムが作動しない
		非作動	
	パワーウィンドウキーシリンダー連動 タイプ別装備 →83ページ	連動	運転席ドアのキーシリンダーにキーを差し込んでパワーウィンドーの開閉操作ができる、できないを設定できます ・連　動：パワーウィンドーの開閉ができる ・非連動：パワーウィンドーの開閉ができない
		非連動	
	パワーウィンドウキーレス連動 タイプ別装備 →83ページ	連動	キーレスエントリー用発信器を使ってパワーウィンドーの開閉操作ができる、できないを設定できます ・連　動：パワーウィンドーの開閉ができる ・非連動：パワーウィンドーの開閉ができない
		非連動	
	パワーウィンドウキーオフタイマー時間 →86ページ	0秒	エンジンスイッチを“II”から“I”または“0”にしてから、パワーウィンドーの開閉操作ができる時間を3段階に設定できます ※1：G、M ※2：VZ、VX、VG、X
		45秒※1	
		10分※2	

カスタマイズ画面での表示			カスタマイズ(設定変更)の内容
カスタマイズグループ	カスタマイズメニュー	カスタマイズ	
ワイパー設定 →404ページ ワイパー／ウォッシャースイッチ →188ページ	フロントワイパー動作	車速連動	フロントワイパーを間欠作動させたとき、車速連動をする、しないが設定できます ・車速連動：車速に連動して任意の間隔で作動する ・間欠：ワイパースイッチのリングの設定で作動する
		間欠	
	フロントワイパーウォッシャー連動	連動	フロントウォッシャーを作動させたとき、フロントワイパーが作動する、しないを設定できます ・連　動：フロントワイパーも作動する ・非連動：フロントワイパーは作動しない
		非連動	
	フロントワイパー発進時動作	作動	フロントワイパーが間欠作動中に停車後、発進するさいにフロントワイパーが一回作動する、しないを設定できます ・作　動：発進時にフロントワイパーが作動する ・非作動：発進時にフロントワイパーが作動しない
		非作動	
	リヤワイパー動作	間欠	リヤワイパーの作動モードを設定できます ・間欠：リヤワイパーが間欠作動する ・連続：リヤワイパーが連続作動する
		連続	
	リヤワイパーウォッシャー連動	連動	リヤウォッシャーを作動させたとき、リヤワイパーが作動する、しないを設定できます ・連　動：リヤワイパーも作動する ・非連動：リヤワイパーは作動しない
		非連動	
	リヤワイパーリバース連動	連動	フロントワイパー作動時にセレクトレバーをRの位置にするとリヤワイパーが連続作動する、しないを設定できます ・連　動：リヤワイパーが作動する ・非連動：リヤワイパーが作動しない
		非連動	

知 識

●カスタマイズ(設定変更)したすべての設定を、一度に工場出荷時の設定に戻すことができます。また、キーレスエントリー用発信器を使用して、一時的にカスタマイズグループのライティング設定、ドア／ウインドウ設定、ワイパー設定を工場出荷時の設定に戻すこともできます。

工場出荷時設定のしかた　→408ページ

マルチインフォメーションディスプレイを使ったカスタマイズ

●スイッチの使いかたとカスタマイズ画面

スイッチ

インフォ(ⓘ)スイッチとセレクト／リセット(SEL RESET)スイッチを使ってカスタマイズを行うことができます。

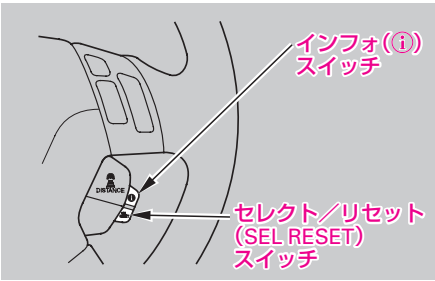
・インフォ(ⓘ)スイッチ

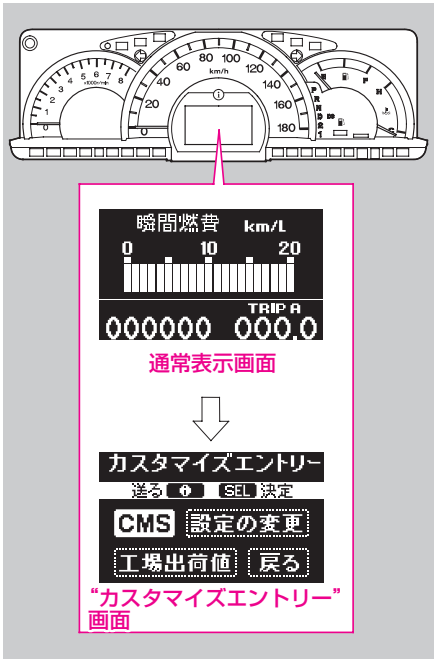
通常表示のとき：約 3 秒以上押し続けると、“カスタマイズエントリー”画面に切り換わります。

カスタマイズ画面のとき：一回押すごとに画面上の項目の選択ができます。選択されている項目は、背景が白くなります。

・セレクト／リセット(SEL RESET)スイッチ

一回押すごとに、インフォ(ⓘ)スイッチで選択した画面上の項目を決定します。





“カスタマイズエントリー”画面と項目

CMS ……追突軽減ブレーキ（CMS）の追突警報を開始する距離の設定を変更できます。

追突軽減ブレーキ（CMS） →288ページ

設定の変更……カスタマイズを行います。

カスタマイズ →392ページ

工場出荷値……カスタマイズしたすべての設定を初期化し、工場出荷時の設定に戻すことができます。

工場出荷時の設定に戻すとき →408ページ

戻る……通常表示画面に戻ります。

知 識

- 表示の中で、“送る ⓘ”がステアリングのインフォ（ⓘ）スイッチの機能、“SEL 決定”が示しているのはステアリングのセレクト／リセット（SEL RESET）スイッチの機能です。

知 識

- カスタマイズ操作は、エンジンスイッチが“II”で、セレクトレバーがPのときに行うことができます。
  カスタマイズ操作の途中でエンジンスイッチを“I”または“0”にしたり、セレクトレバーをP以外にしたときは、通常画面に戻ります。このとき、変更途中の設定は、変更されず元の設定のままになります。
  追突軽減ブレーキ(CMS)の設定のみ、走行中でも行うことができます。
  追突軽減ブレーキ(CMS) →288ページ
- “カスタマイズエントリー”画面表示後は、メーター内のセレクト／リセットノブを回して項目を選択し、セレクト／リセットノブを押して決定することもできます。

●カスタマイズ

カスタマイズグループの選びかた

①インフォ(ⓘ)スイッチを約3秒以上押し続けて、“カスタマイズエントリー”画面を表示させます。

②“設定の変更”を選択し、決定すると、“カスタマイズグループ”画面に切り換わります。

スイッチの使いかたとカスタマイズ画面　→389ページ

知　識

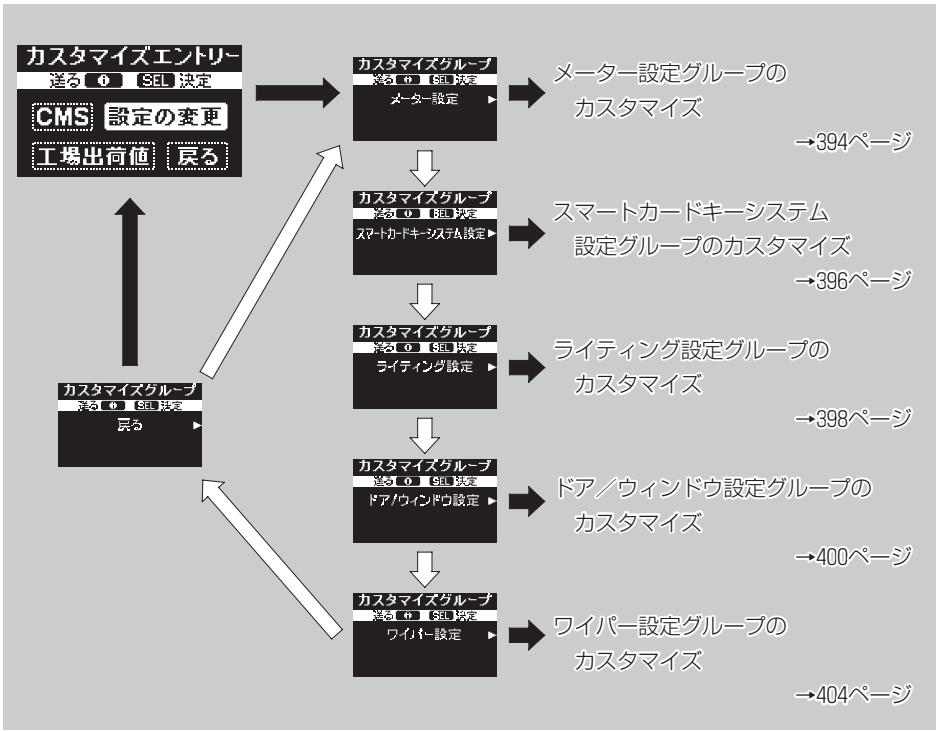
●カスタマイズグループおよびカスタマイズメニューの編成や、カスタマイズする機能の詳細については、カスタマイズメニュー一覧で確認できます。

カスタマイズメニュー一覧　→386ページ

③カスタマイズしたい機能のカスタマイズグループを選択し、決定すると、“カスタマイズメニュー”画面に切り換わります。“戻る”を選択し、決定すると、“カスタマイズエントリー”画面に戻ります。

⇨ インフォ(ⓘ)スイッチを押す。(選択)

➡ セレクト／リセット(SEL RESET)スイッチを押す。(決定)



メーター設定グループのカスタマイズ

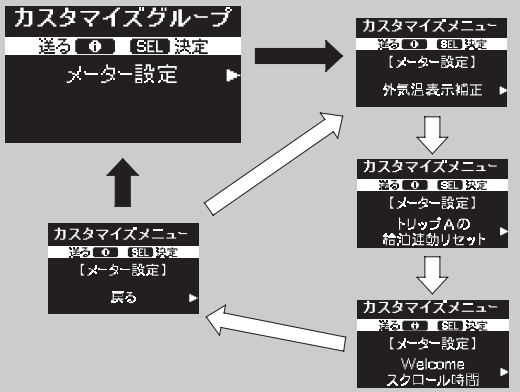
①カスタマイズグループから“メーター設定”を選択し、決定すると、“カスタマイズメニュー”画面に切り換わります。

カスタマイズグループの選びかた　→392ページ

②カスタマイズしたい機能の“カスタマイズメニュー”を選択し、決定します。“戻る”を選択し、決定すると、“カスタマイズグループ”画面に戻ります。

⇨ インフォ(ⓘ)スイッチを押す。(選択)

➡ セレクト／リセット(SEL RESET)スイッチを押す。(決定)



・カスタマイズ

設定したい内容の表示を選択し、決定すると、“…に設定しました”が約2秒間表示され、“カスタマイズメニュー”画面に戻ります。

：工場出荷時の設定

表示画面	設定	設定の内容
	± 0 ℃	外気温表示が＋ 3 ℃～－ 3 ℃の範囲で 1 ℃ごとに補正できます。
	＋ 3 ℃～－ 3 ℃	
	連動	“TRIPA”が給油時に自動的にリセットします。
	非連動	“TRIPA”は給油時に自動的にリセットしません。
	0.1秒	「Welcome」のスクロール速度が速くなります。
	0.2秒	「Welcome」のスクロール速度が遅くなります。

知 識

- “戻る”を選択すると、設定されずに1つ前の画面へ戻ります。
- 通常画面に戻るときは、次のいずれかの操作を行います。
  - ・エンジンスイッチを“Ⅰ”または“0”にする
  - ・セレクトレバーをP以外にする
  - ・通常画面が表示されるまで“戻る”を選択し、決定する操作を繰り返す

スマートカードキーシステム設定グループのカスタマイズ

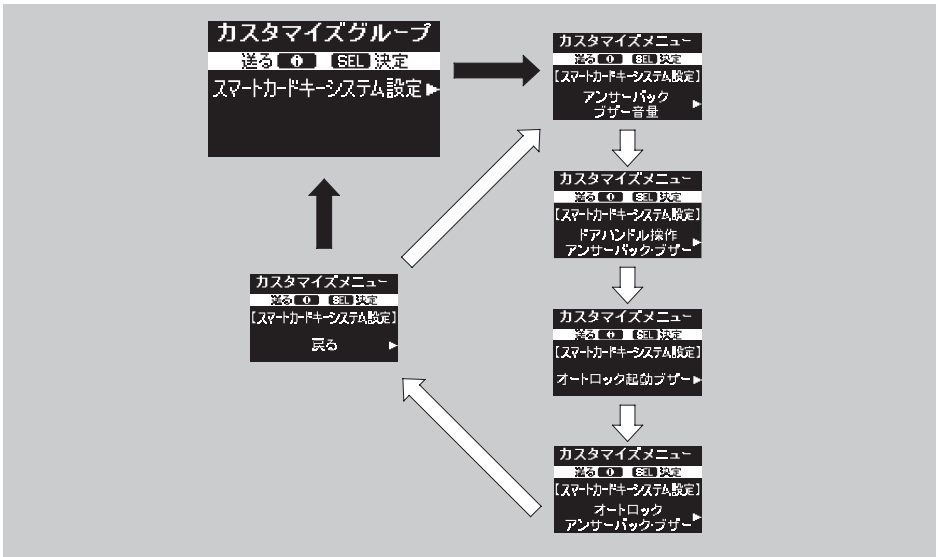
①カスタマイズグループから“スマートカードキーシステム設定”を選択し、決定すると、“カスタマイズメニュー”画面に切り換わります。

カスタマイズグループの選びかた　→392ページ

②カスタマイズしたい機能の“カスタマイズメニュー”を選択し、決定します。“戻る”を選択し、決定すると、“カスタマイズグループ”画面に戻ります。

⇨ インフォ(ⓘ)スイッチを押す。(選択)

➡ セレクト／リセット(SEL RESET)スイッチを押す。(決定)



・カスタマイズ

設定したい内容の表示を選択し、決定すると、“…に設定しました”が約 2 秒間表示され、“カスタマイズメニュー”画面に戻ります。

：工場出荷時の設定

表示画面	設定	設定の内容
	大	スマートカードキーを使って施錠・解錠するときのブザー音量を大きくします。
	小	スマートカードキーを使って施錠・解錠するときのブザー音量を小さくします。
	作動	スマートカードキーを使って解錠したときにブザーが鳴ります。
	非作動	スマートカードキーを使って解錠したときにブザーは鳴りません。
	作動	オートロック起動時にブザーが鳴ります。
	非作動	オートロック起動時にブザーが鳴りません。
	作動	スマートカードキーを使って施錠するときにブザーが鳴ります。
	非作動	スマートカードキーを使って施錠するときにブザーは鳴りません。

知 識

- “戻る”を選択すると、設定されずに 1 つ前の画面へ戻ります。
- 通常画面に戻るときは、次のいずれかの操作を行います。
  - ・エンジンスイッチを“ I ”または“ 0 ”にする
  - ・セレクトレバーを回以外にする
  - ・通常画面が表示されるまで“戻る”を選択し、決定する操作を繰り返す

ライティング設定グループのカスタマイズ

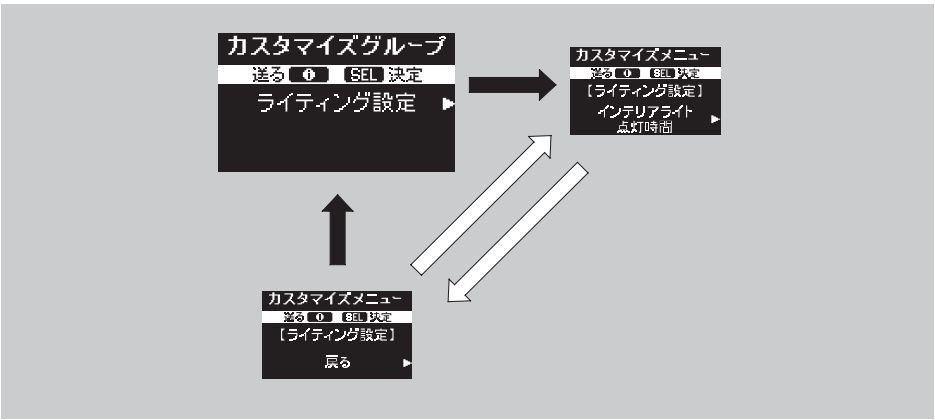
①カスタマイズグループから“ライティング設定”を選択し、決定すると、“カスタマイズメニュー”画面に切り換わります。

カスタマイズグループの選びかた　→392ページ

②カスタマイズしたい機能の“カスタマイズメニュー”を選択し、決定します。“戻る”を選択し、決定すると、“カスタマイズグループ”画面に戻ります。

⇨ **インフォ(ⓘ)スイッチを押す。(選択)**

➡ **セレクト／リセット(SEL RESET)スイッチを押す。(決定)**



・カスタマイズ

設定したい内容の表示を選択し、決定すると、“…に設定しました”が約 2 秒間表示され、“カスタマイズメニュー”画面に戻ります。

：工場出荷時の設定

表示画面	設定	設定の内容
	15秒	ドアを閉めてから約15秒後に室内灯が消灯します。
	30秒	ドアを閉めてから約30秒後に室内灯が消灯します。
	60秒	ドアを閉めてから約60秒後に室内灯が消灯します。

知 識

- “戻る”を選択すると、設定されずに 1 つ前の画面へ戻ります。
- 通常画面に戻るときは、次のいずれかの操作を行います。
  - ・エンジンスイッチを“ I ”または“ 0 ”にする
  - ・セレクトレバーを P 以外にする
  - ・通常画面が表示されるまで“戻る”を選択し、決定する操作を繰り返す

ドア／ウィンドー設定グループのカスタマイズ

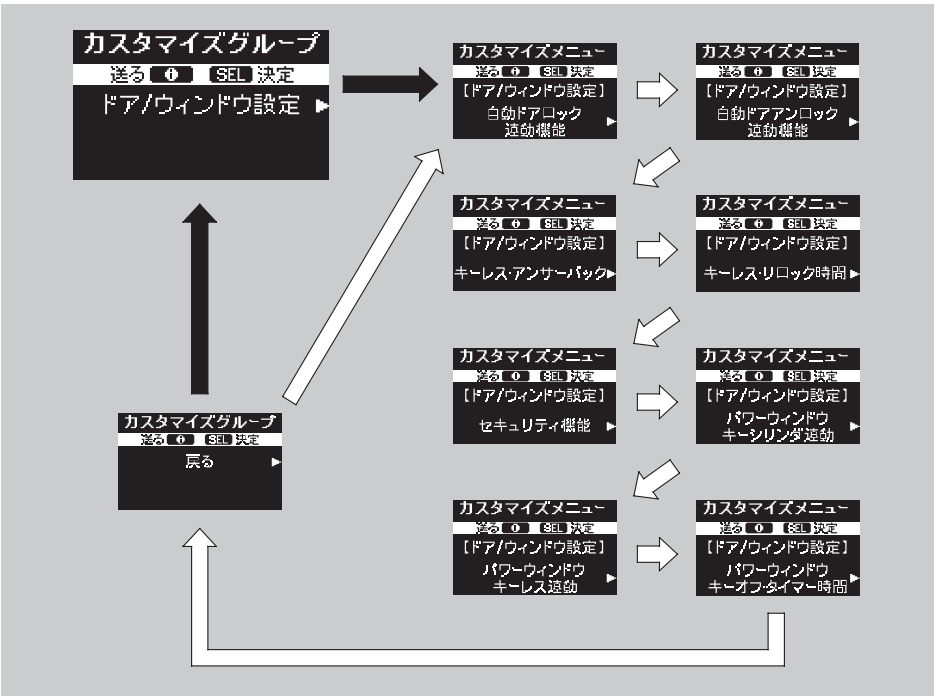
①カスタマイズグループから“ドア／ウィンドウ設定”を選択し、決定すると、“カスタマイズメニュー”画面に切り換わります。

カスタマイズグループの選びかた　→392ページ

②カスタマイズしたい機能の“カスタマイズメニュー”を選択し、決定します。“戻る”を選択し、決定すると、“カスタマイズグループ”画面に戻ります。

⇨ インフォ(ⓘ)スイッチを押す。(選択)

➡ セレクト／リセット(SEL RESET)スイッチを押す。(決定)



・カスタマイズ

設定したい内容の表示を選択し、決定すると、“…に設定しました”が約2秒間表示され、“カスタマイズメニュー”画面に戻ります。

：工場出荷時の設定

表示画面	設定	設定の内容
	車速連動	車速が約15km/h以上になると自動的に施錠します。
	シフト連動	セレクトレバーをPから P以外にすると自動的に施錠します。
	非連動	自動的に施錠しません。
	シフト連動	セレクトレバーをPにすると自動的に解錠します。
	IG OFF連動	エンジンスイッチを“II”から“ I ”または“ 0 ”にすると自動的に解錠します。
	非連動	自動的に解錠しません。
	作動	キーレスエントリーで施錠・解錠したときに非常点滅灯を点灯します。
	非作動	キーレスエントリーで施錠・解錠したときに非常点滅灯を点灯しません。

：工場出荷時の設定

表示画面	設定	設定の内容
	30秒	キーレスエントリーで解錠後、約30秒以上ドアやテールゲートを開けないでいると、自動的に再度施錠します。
	60秒	キーレスエントリーで解錠後、約60秒以上ドアやテールゲートを開けないでいると、自動的に再度施錠します。
	90秒	キーレスエントリーで解錠後、約90秒以上ドアやテールゲートを開けないでいると、自動的に再度施錠します。
	作動	施錠後、セキュリティーシステムが作動します。
	非作動	施錠後、セキュリティーシステムが作動しません。

：工場出荷時の設定

表示画面	設定	設定の内容
	連動	キーを使ってパワーウィンドーの開閉ができます。
	非連動	キーを使ったパワーウィンドーの開閉はできません。
	連動	キーレスエントリー用発信器を使ってパワーウィンドーの開閉ができます。
	非連動	キーレスエントリー用発信器を使ったパワーウィンドーの開閉はできません。
	0秒	エンジンスイッチを“II”から“I”または“0”にしてから、パワーウィンドーの操作はできません。
	45秒※1	エンジンスイッチを“II”から“I”または“0”にしてから、約45秒間はパワーウィンドーの操作ができます。
	10分※2	エンジンスイッチを“II”から“I”または“0”にしてから、約10分間はパワーウィンドーの操作ができます。

※1：G、M
※2：VZ、VX、VG、X

知 識

- “戻る”を選択すると、設定されずに1つ前の画面へ戻ります。
- 通常画面に戻るときは、次のいずれかの操作を行います。
  - エンジンスイッチを“I”または“0”にする
  - セレクトレバーを[P]以外にする
  - 通常画面が表示されるまで“戻る”を選択し、決定する操作を繰り返す

ワイパー設定グループのカスタマイズ

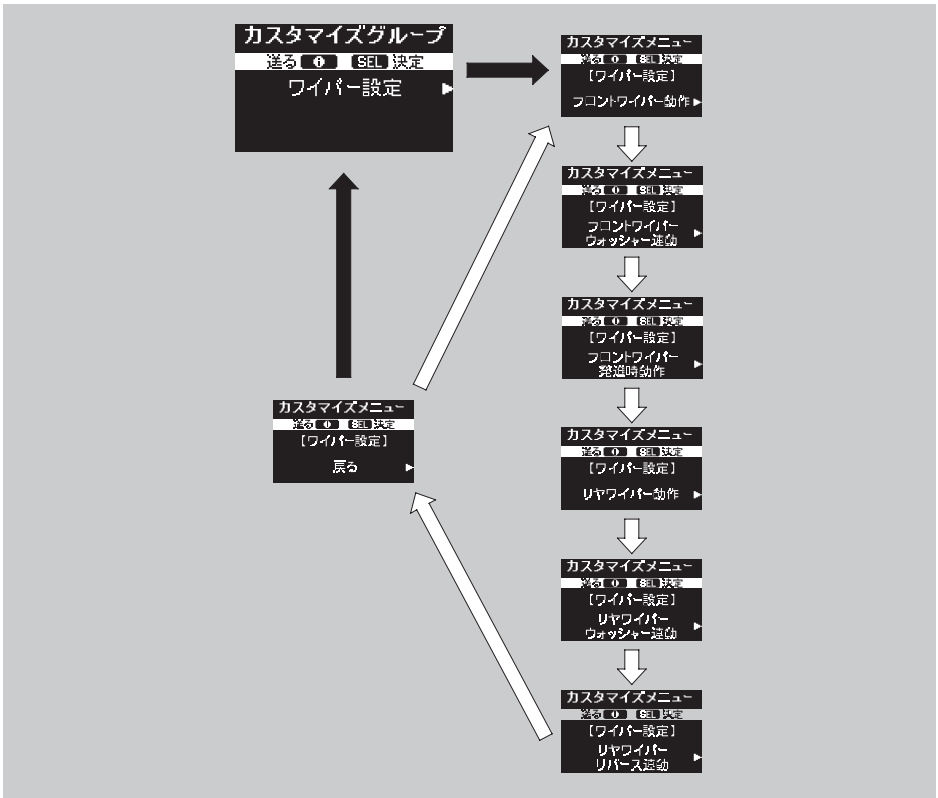
①カスタマイズグループから“ワイパー設定”を選択し、決定すると、“カスタマイズメニュー”画面に切り換わります。

カスタマイズグループの選びかた　→392ページ

②カスタマイズしたい機能の“カスタマイズメニュー”を選択し、決定します。“戻る”を選択し、決定すると、“カスタマイズグループ”画面に戻ります。

⇨ インフォ(ⓘ)スイッチを押す。(選択)

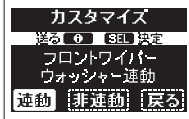
➡ セレクト／リセット(SEL RESET)スイッチを押す。(決定)



・カスタマイズ

設定したい内容の表示を選択し、決定すると、“…に設定しました”が約 2 秒間表示され、“カスタマイズメニュー”画面に戻ります。

：工場出荷時の設定

表示画面	設定	設定の内容
	車速連動	フロントワイパーの作動が車速と連動します。
	間欠	フロントワイパーがワイパースイッチのリングの設定で作動します。
	連動	フロントウォッシャー操作時にフロントワイパーも作動します。
	非連動	フロントウォッシャー操作時にフロントワイパーは作動しません。
	作動	フロントワイパーの間欠作動中、発進時にフロントワイパーが 1 回作動する。
	非作動	フロントワイパーの間欠作動中、発進時にフロントワイパーは作動しない。

：工場出荷時の設定

表示画面	設定	設定の内容
	間欠	リヤワイパーが間欠作動します。
	連続	リヤワイパーが連続作動します。
	連動	リヤウォッシャー操作時にリヤワイパーも作動します。
	非連動	リヤウォッシャー操作時にリヤワイパーは作動しません。
	連動	フロントワイパー作動時にセレクトレバーを[R]にすると、リヤワイパーも作動する。
	非連動	フロントワイパー作動時にセレクトレバーを[R]にしても、リヤワイパーは作動しない。

知 識

- “戻る”を選択すると、設定されずに１つ前の画面へ戻ります。
- 通常画面に戻るときは、次のいずれかの操作を行います。
  - ・エンジンスイッチを“ I ”または“ 0 ”にする
  - ・セレクトレバーをPレ以外にする
  - ・通常画面が表示されるまで“戻る”を選択し、決定する操作を繰り返す

工場出荷時設定のしかた

カスタマイズ(設定変更)したすべての設定を、一度に工場出荷時の設定に戻すことができます。また、キーレスエントリー用発信器を使用して、一時的にカスタマイズグループのライティング設定、ドア／ウインドウ設定、ワイパー設定を工場出荷時の設定に戻すこともできます。

すべての設定を工場出荷時の設定に戻すとき

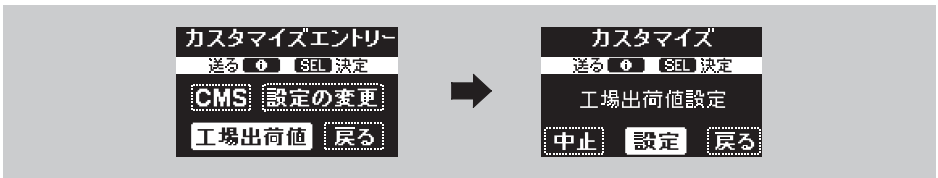
IHCC装備車

マルチインフォメーションディスプレイを使って、カスタマイズしたすべての設定を初期化し、工場出荷時の設定に戻すことができます。

①インフォ(ⓘ)スイッチを約 3 秒以上押し続けて、“カスタマイズエントリー”画面を表示させます。

②“工場出荷値”を選択し、決定すると、“工場出荷値設定”画面に切り換わります。

スイッチの使いかたとカスタマイズ画面　→389ページ



③“設定”を選択し、決定すると、“工場出荷値に設定しました”が約 2 秒間表示され、“カスタマイズエントリー”画面に戻ります。
“戻る”を選択し、決定しても、“カスタマイズエントリー”画面へ戻ります。

④“カスタマイズエントリー”画面で“戻る”を選択し、決定すると通常画面に戻ります。

IHCC非装備車

カスタマイズしたすべての設定を工場出荷時の設定に戻す場合には、Honda販売店にご相談ください。

知 識

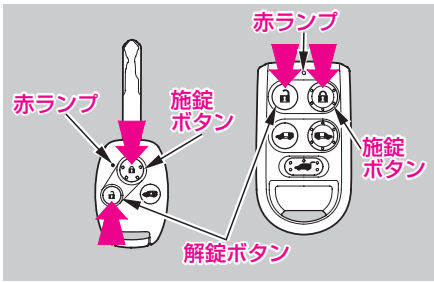
- カスタマイズしていた設定に戻すには、再度カスタマイズを行ってください。

カスタマイズ機能について　→386ページ

一時的に一部の設定を工場出荷時の設定に戻すとき

キーレスエントリー用発信器を使用して、一時的にカスタマイズグループのライティング設定、ドア／ウインドウ設定、ワイパー設定を工場出荷時の設定に戻すことができます。その間は、マルチインフォメーションディスプレイ（IHCC装備車）でのカスタマイズは行えません。

①キーレスエントリー用発信器の施錠ボタンと解錠ボタンを、同時に約1秒以上押し続けると、発信器の赤ランプが点滅します。



2回点滅…工場出荷時状態にする
1回点滅…カスタマイズされている状態にする

②設定したい方の点滅回数であることを確認して、解錠ボタンのみを再度押します。

知　識

- キーレスエントリー用発信器を使用して、一時的に工場出荷時の設定に戻す場合や、カスタマイズされた状態に戻すときは、エンジンスイッチを“0”にして、キーを抜いていないと行えません。
- 一時的に工場出荷時の設定に戻している間でも、追突軽減ブレーキ（CMS）の設定の変更は行うことができます。

追突軽減ブレーキ（CMS）　→288ページ

セキュリティーシステム

セキュリティー(盗難防止)システムは、お車を盗難から守るための装置です。

このシステムは、キーあるいはキーレスエントリー用発信器、スマートカードキー(タイプ別装備)を使わずにドアを開けたり、ボンネットやテールゲートを開けたりすると警報装置が作動し、ホーンを鳴らし、同時に非常点滅表示灯を点滅させます。

警報装置について

警報装置は、システムがセットされているときに次のようなことのいずれかを行うと作動します。

- ドアまたはテールゲートをキーあるいはキーレスエントリー用発信器、スマートカードキー(タイプ別装備)を使わずに解錠した場合
- ボンネットをこじ開けようとした場合
- エンジンスイッチを"II"にしたとき

警報装置が作動すると、ホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯がすべて点滅します。
警報装置は、システムを止めるまで最大5分間作動します。(ホーンおよび非常点滅表示灯は1回の警報作動につき約30秒間動作し、その警報作動が最大10回行われます。)

知 識

- セキュリティーシステムの作動、非作動の設定を変更することができます。(工場出荷時は、作動に設定されています。)
  カスタマイズ機能 →386ページ

●警報装置の止めかた

キーあるいはキーレスエントリー用発信器、スマートカードキー(タイプ別装備)で解錠すればその時点で警報装置は止まります。

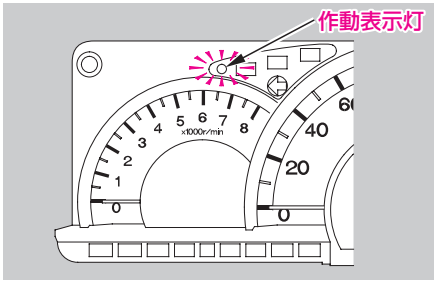
セットのしかた

次の操作がすべて行われると自動的にシステムがセットされます。

・ボンネットを閉める。
・すべてのドアとテールゲートを閉め、施錠する。

上記がすべて行われると、メーター内にある作動表示灯が点滅を始めます。約15秒後に点滅間隔が変わり、システムがセットされたことを知らせます。

作動表示灯は、システムがセットされている間は、点滅を続けます。



セットを解除するときは、キーあるいはキーレスエントリー用発信器、スマートカードキー(タイプ別装備)で解錠します。

知 識

- 車から離れるときは、セキュリティーシステムがセットされ、作動していることを表示灯で確認してください。
- ボンネット、ドア、テールゲートのすべてが完全に閉まっていないと、セキュリティーシステムはセットされません。メーター内のセーフティーインジケーターで閉まっていることを確認してください。ボンネットについては実際に手で押さえつけて確認してください。

メーター(セーフティーインジケーター) →178ページ
ボンネット →77ページ

- 車内に人が乗っている状態、またはウィンドーやサンルーフが開いた状態でもセキュリティーシステムは作動します。警報装置の思わぬ作動を防ぐため、人が乗っている状態やウィンドーやサンルーフが開いた状態ではセキュリティーシステムをセットしないでください。
- **Hondaスマートカードキーシステム装備車**
  車内に人が乗っている状態でもカードキー携帯者が車両から離れると自動で施錠され、約15秒後にセキュリティーシステムもセットされます。警報装置の思わぬ作動を防ぐためにオートロックを一回だけ解除することができます。

オートロックの解除 →234ページ

- セキュリティーシステムをセットしたあとに、バッテリーあがりなどでバッテリーの充電・交換をする際は、警報装置が作動する場合がありますので、キーあるいはキーレスエントリー用発信器、スマートカードキー(タイプ別装備)で解錠し、セキュリティーシステムを解除してください。

5

万一のとき

●工具・スペアタイヤ・発炎筒
格納場所 ……414
工具の種類 ……415
発炎筒について ……415

●故障したとき
踏切で動けなくなったとき …416
高速道路で故障したとき ……416
道路で動けなくなったとき …417
故障の修理について ……417

●事故が起きたとき ……418

●けん引
けん引されるとき
（ロープによるけん引）……420
故障車をけん引するとき ……423

●パンクしたとき
ジャッキの取り扱い ……424
応急用スペアタイヤ ……427
タイヤ交換 ……430

●オーバーヒートしたとき
……438

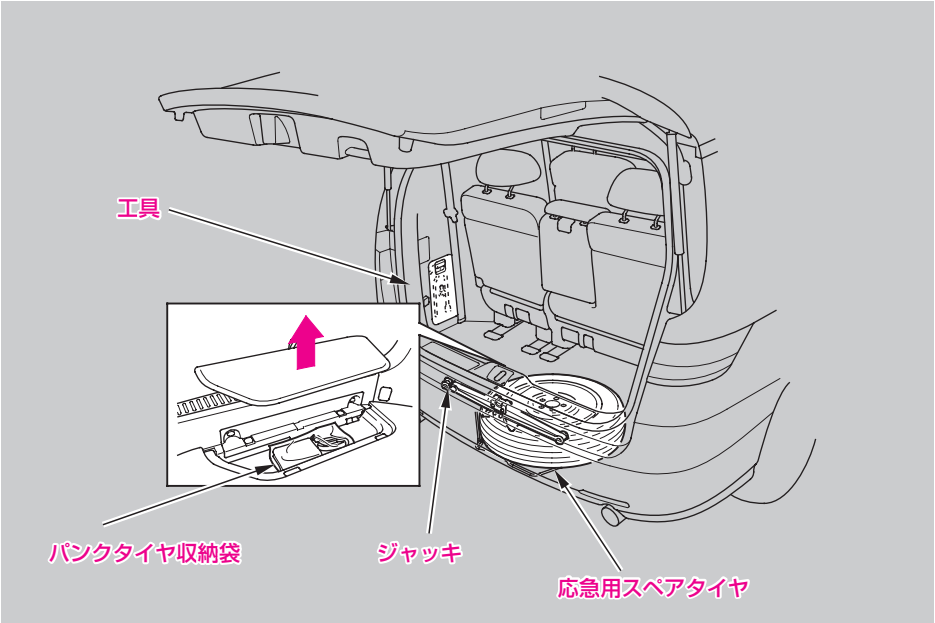
●電気系統が異常のとき
バッテリーあがりのとき ……440
ライト類が点灯しないとき、
電気装置が
作動しないとき ……444
パワーテールゲートが
開かないとき ……461
テールゲートの解錠が
できないとき ……462

＊全国のHonda販売店およびJAFの電話番号は別冊の「サービス網一覧」に記載してあります。

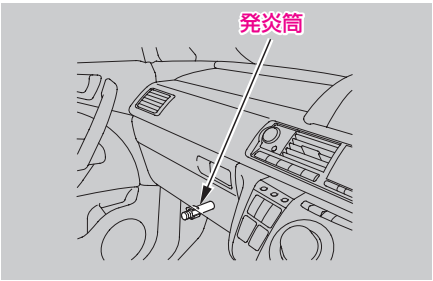
工具・スペアタイヤ・発炎筒

格納場所

●工具・スペアタイヤ

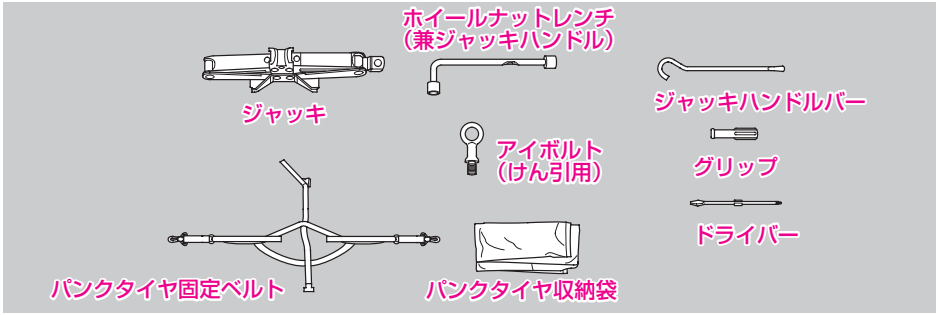


●発炎筒



発炎筒は助手席足元にあります。

工具の種類



知 識

- 工具の種類、ジャッキ、発炎筒の使いかたなどは万一のとき困らないようあらかじめ確かめておきましょう。
- スペアタイヤ、ジャッキは走行中動かないように、所定の位置にしっかり固定してください。
- 高速道路で故障などにより停止するときは、停止表示器材による表示義務がありますので、停止表示板などを常時携帯するようにしましょう。

発炎筒について

高速道路、踏切などの危険な場所で故障したときに使います。発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

・使いかた　・使用上の注意
・発炎時間　・有効期限

⚠警告

- ガソリンなどの燃えやすいもののそばでは使わないでください。
  火災や爆発のおそれがあります。

⚠注意

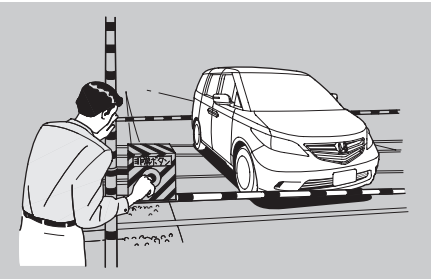
- お子さまにいじらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 発炎筒を使うとき顔やからだに向けるとやけどなどをすることがあるのでおやめください。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。
  トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

故障したとき

車を路肩に停め、非常点滅表示灯を点滅させます。必要に応じて停止表示板(または停止表示灯)、発炎筒を使い、後続する車に故障車とわかるようにします。

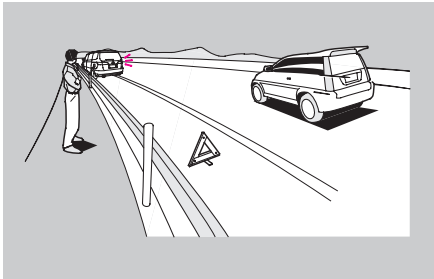
踏切で動けなくなったとき

脱輪などで踏切内で動けなくなったときは、踏切の非常ボタンを押してください。非常ボタンがわからず、緊急を要するときは、発炎筒で合図をしてください。



高速道路で故障したとき

車を路側帯に寄せ、非常点滅表示灯を点滅させ、車両後方に停止表示板(または停止表示灯)を置いて表示してください。法律で義務づけられています。



人は車からおりて、安全な場所に避難してください。

道路で動けなくなったとき

一般道路で動けなくなったときは、付近の人に安全な場所まで押してもらってください。

知 識

- オートマチック車はスターターを回して車を動かすことはできません。

故障の修理について

Honda販売店へお申しつけください。

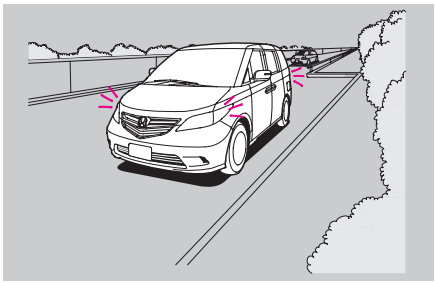
お持ちこみいただければ、簡単なものはその場で修理いたします。長くかかるものは、予定をお知らせします。
お持ちこみのむずかしいときには電話でご連絡ください。
遠出などのときは全国どこでもHonda販売店へご連絡ください。
Honda販売店およびJAFの電話番号については別冊の「サービス網一覧」をご覧ください。

事故が起きたとき

あわてずに次の処置をとります。

1事故の続発を防ぐ。

他の交通のさまたげにならないような安全な場所（路肩、あき地など）に車を移動させ、エンジンを止めます。



2負傷者がいる場合は、応急手当を行う。

医師、救急車などが到着するまでの間、可能な応急手当を行います。
この場合、とくに頭部に傷などがあるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしますが、後続事故の心配があるときは安全な場所に移動させます。

知　識

- 外傷がなくても医師の診断を受けましょう。後になってから後遺症が出るおそれがあります。

3警察へ連絡する。

事故が発生した場所、状況、負傷者や負傷の程度などを警察官に報告し、指示を受けます。

4相手方、事故の状況をメモする。

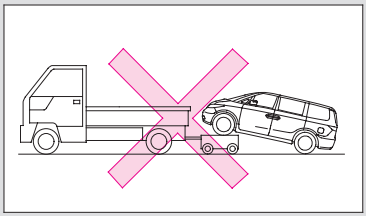
5ご購入された販売店や保険会社へ連絡する。

けん引

けん引は専門業者に依頼し、できるだけ四輪または前輪を持ち上げて行ってください。

アドバイス

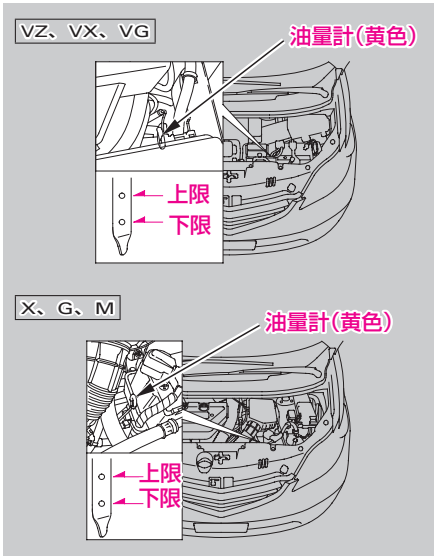
- 車輪が動かないときなど動力伝達装置に異常があると思われるときは、必ず四輪または前輪を持ち上げてけん引してください。
- 4WD車の場合、前輪または後輪を台車に載せた(車輪が回転できない)状態でのけん引は、絶対に行わないでください。
  駆動装置が破損したり、車輪が台車からとび出すおそれがあります。



けん引されるとき(ロープによるけん引)

やむをえず四輪を接地させてロープでけん引を行う場合は、次の方法で行ってください。

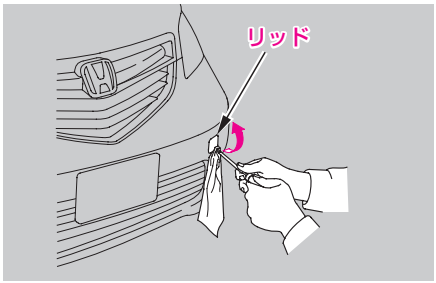
①トランスミッションオイルの量が目盛りの上限と下限の間にあるかを点検します。



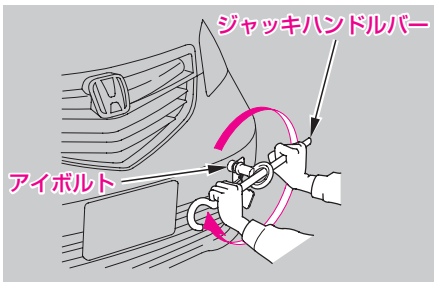
下限より下がっている場合は、四輪または前輪を持ち上げてけん引してください。

②カーゴルームの工具収納リッドを開け、ドライバー、グリップ、ジャッキハンドルバーとアイボルトを取り出します。
格納場所　→414ページ

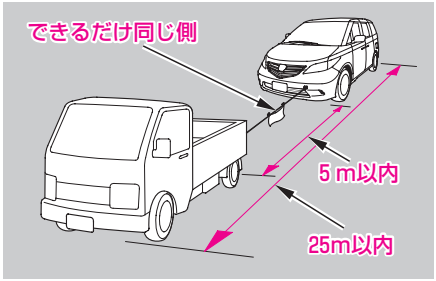
③マイナスドライバーの先でリッドを開けます。



④アイボルトがガタつかない程度まで手で締めつけてから、ジャッキハンドルバーなどをかけて確実に締めつけます。



⑤ロープをアイボルトにかけ、ロープ中央部に白い布(0.3m平方以上)を付けます。



⑥エンジンをかけます。
エンジンがかからないときは、エンジンスイッチを“ I ”または“II”にします。

⑦セレクトレバーを🄽(ニュートラル)にします。

⑧パーキングブレーキを解除し、けん引されます。けん引中は、前の車の制動灯に注意してロープをたるませないようにしてください。

⑨速度30km/h以下、走行距離80km以内でけん引してください。

アドバイス

- アイボルトにロープをかけるときは、車体の破損・変形を防ぐために次のことに気をつけてください。
  - ・アイボルトは確実に取り付けてください。
  - ・アイボルト以外のところにロープをかけないでください。
  - ・けん引時にアイボルトに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。
  - ・けん引ロープはできるだけ伸縮性のあるロープを使用してください。

知 識

- エンジンが停止している状態でのけん引は、次のことに気をつけてください。
  - ・ブレーキの倍力装置がはたらかなくなるので、ブレーキのききが悪くなります。
  - ・パワーステアリングのパワー装置がはたらかなくなるので、ハンドル操作が重くなります。
- 長い下り坂では、ブレーキ部の温度が上がりブレーキがきかなくなるおそれがあります。レッカー車にけん引してもらってください。

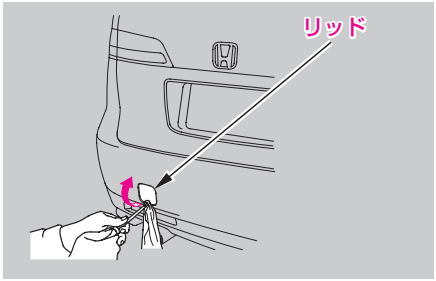
故障車をけん引するとき

やむをえず故障車をけん引するときは、自車より重い車のけん引は避けてください。

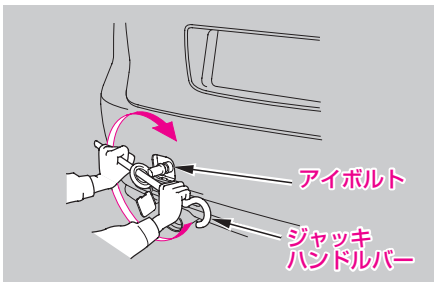
①カーゴルームの工具収納リッドを開け、ドライバー、グリップ、ジャッキハンドルバーとアイボルトを取り出します。

格納場所　→414ページ

②マイナスドライバーの先でリッドを開けます。



③アイボルトがガタつかない程度まで手で締めつけてから、ジャッキハンドルバーなどをかけて確実に締めつけます。



アドバイス

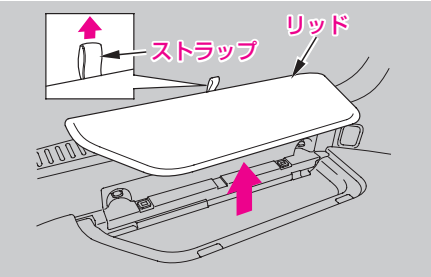
- アイボルトにロープをかけるときは、車体の破損・変形を防ぐために次のことに気をつけてください。
  - アイボルト以外のところにロープをかけないでください。
  - けん引時にアイボルトに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。
  - けん引ロープはできるだけ伸縮性のあるロープを使用してください。

パンクしたとき

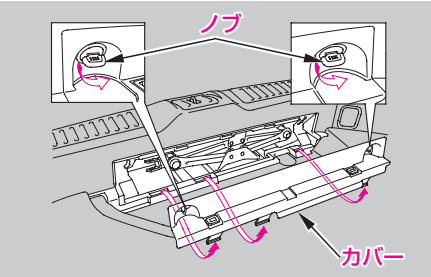
ジャッキの取り扱い

●ジャッキの取り出しかた

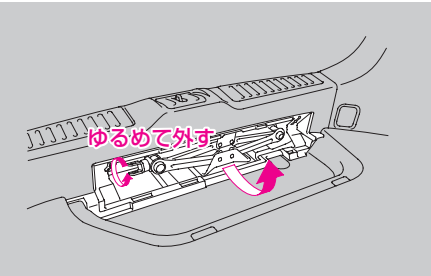
①テールゲートを開け、ストラップを引いてリッドを開けます。



②左右のノブを矢印の方向へ回し、カバーを外します。



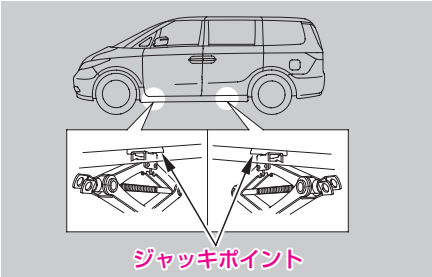
③ジャッキをゆるめて外します。



知 識

●ジャッキを格納するときはドライバーなどで無理に締めないでください。
ジャッキ取り付け部が変形するおそれがあります。

●ジャッキをかける位置

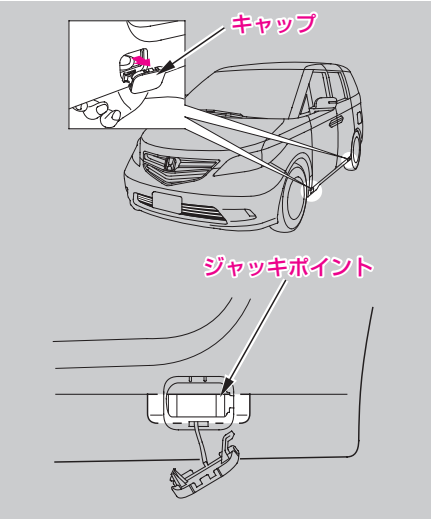


●ジャッキのかけかた

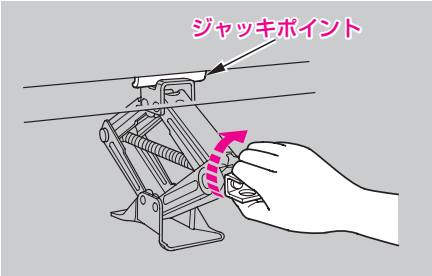
①地面が固い平らなところに車を停めます。

②パーキングブレーキを十分にかけ、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に石などで輪止めをします。

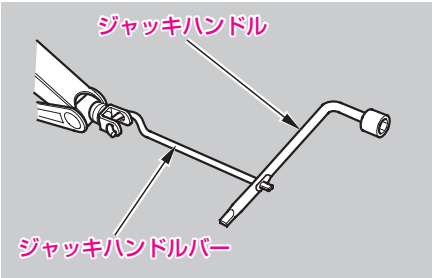
③サイドスカートのキャップを内側から押して外し、ジャッキポイントを確認します。



④ジャッキを地面に置き、手で回してジャッキの溝がジャッキポイントに入るまで上げます。



⑤ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤと地面が少し離れるまで車体を上げます。



⚠警告

●車がジャッキだけで支えられているときは、不安定な状態にあるので車の下に入ったりしないでください。
万一、ジャッキが外れると、思わぬ事故につながります。

⚠注意

●ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守ってください。
・エンジンをかけたままにしない。
・地面が固い平らなところ以外では使用しない。
・指定された位置以外にかけない。
・人や荷物をのせたままにしない。
・ジャッキの上や下に物をいれたりしない。
・タイヤ交換やタイヤチェーン着脱以外には使用しない。

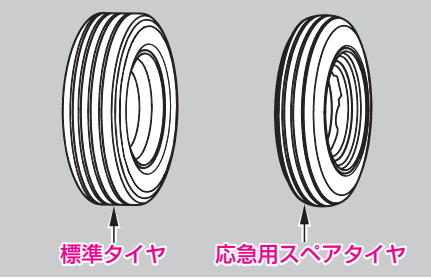
知 識

●この車に搭載されているジャッキをお使いください。他のジャッキでは支えられる重量(呼荷重)が不足したり、形状が合わないことがあります。

応急用スペアタイヤ

応急用スペアタイヤは、タイヤがパンクしたときの応急用としてのみに使うタイヤです。

パンクタイヤの収納　→432ページ



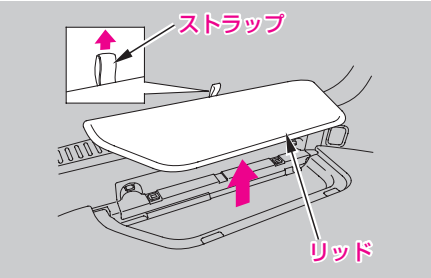
お使いになるときは次のことをお守りください。

知 識

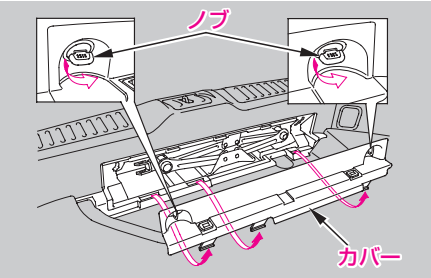
- 空気圧はときどき点検し、指定空気圧でお使いください。
  指定空気圧:
  420 kPa (4.2 kgf/cm²)
- 応急用スペアタイヤを装着したときは、100km/h以下で走行し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
- 応急用スペアタイヤは標準タイヤと比べて直径が小さいため車高が低くなります。突起物など乗り越えるときは、車の下にひっかけないように注意してください。
- この応急用スペアタイヤとホイールはこの車の専用品です。他のタイヤやホイールと組み合わせたり、他の車に使わないでください。
- 応急用スペアタイヤにはタイヤチェーンは装着できません。
  チェーン装着時に前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に装着し、外した後輪タイヤを前輪に取り付け、これにタイヤチェーンを装着してください。

●外しかた

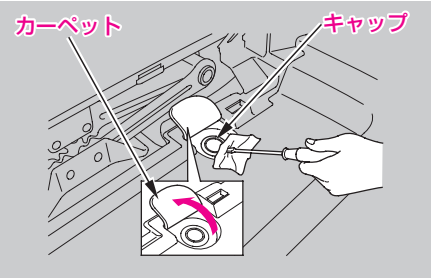
①テールゲートを開け、ストラップを引いてリッドを開けます。



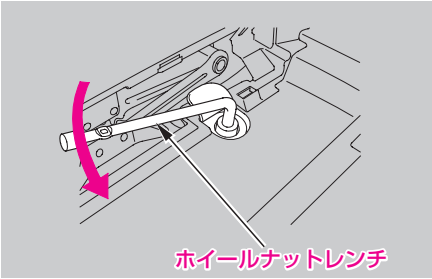
②左右のノブを矢印の方向へ回し、カバーを外します。



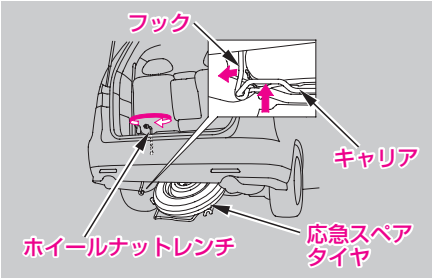
③カーペットをめくり、マイナスドライバーの先でキャップを取ります。



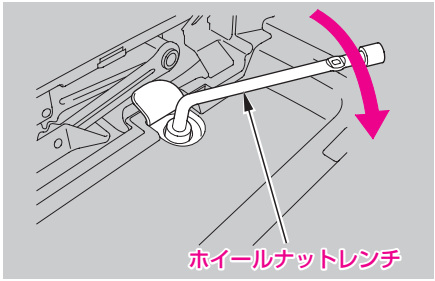
④工具収納リッドを開けて、ホイールナットレンチを取り出します。ホイールナットレンチで固定ボルトを少しゆるめます。



⑤ホイールナットレンチをかけ換え、固定ボルトをゆるめてフックを外し、応急用スペアタイヤを引き出します。



⑥フックをかけなおし、ホイールナットレンチでゆるみ、ガタがないように固定ボルトを十分に締めつけます。

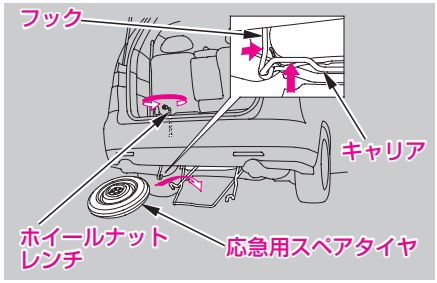


⚠注意

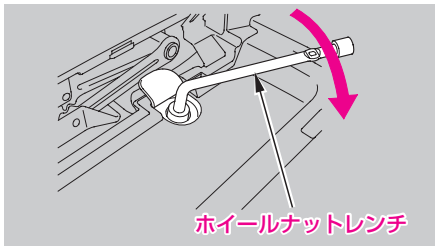
- 取り外しや収納するときに、手などをはさまないように十分注意してください。
- 固定ボルトをゆるめすぎないでください。フックが固定ボルトから外れ、キャリアが落下し、足などにけがをするおそれがあります。

●収納のしかた

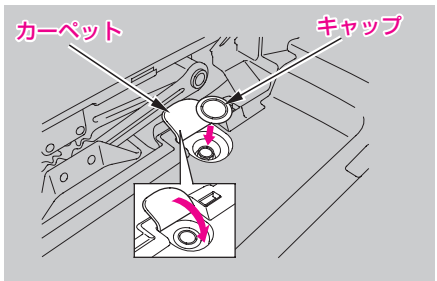
①応急用スペアタイヤのホイール表面を上にして取り付けて、図のようにフックにキャリアをかけ、固定ボルトを締めます。



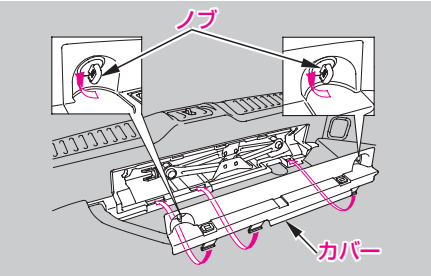
②ホイールナットレンチをかけ換えて、ゆるみ、ガタがないように固定ボルトを十分に締めつけます。



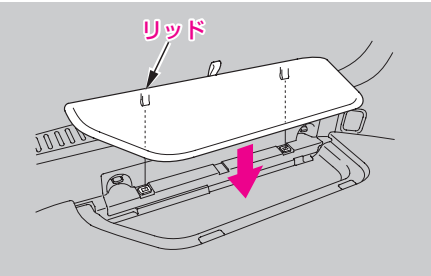
③キャップを取り付けて、カーペットを戻します。



④カバーを取り付け、左右のノブを矢印の方向へ回します。



⑤リッドを閉めます。



⚠注意

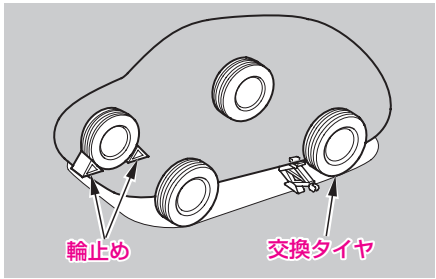
- 取り付けた後は、確実に固定されていることを確認してください。ゆるみ等により取り付けが不安定な状態になっていると、走行中に外れるなどして思わぬ事故の原因となるおそれがあります。
- 取り外しや収納するときに、手などをはさまないように十分注意してください。

タイヤ交換

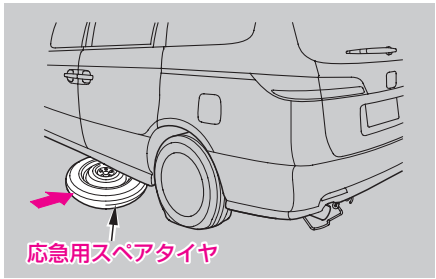
1 はじめに

①車を地面が固く平らで安全な場所に停め、工具類、応急用スペアタイヤを取り出します。

②パーキングブレーキを十分にかけ、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に石などで輪止めをします。



③応急用スペアタイヤは交換するタイヤ近くの車体の下にホイール表面を上にして置きます。

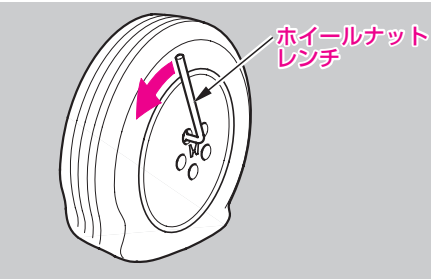


2ジャッキで車体を上げる

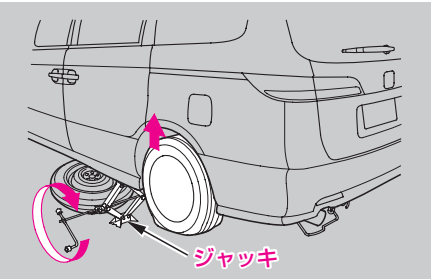
①ジャッキをセットします。

→424ページ

②ホイールナットをホイールナットレンチで少し(約１回転)ゆるめます。

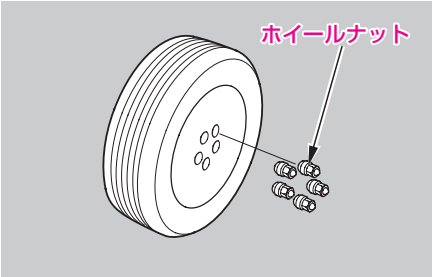


③タイヤと地面が少し離れるまでジャッキで車体を上げます。



3タイヤを交換する

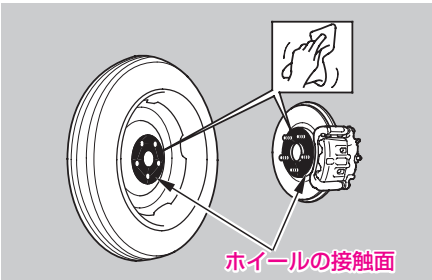
①ホイールナットを外し、タイヤを外します。



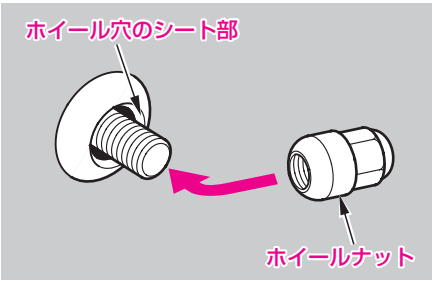
知 識

- タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にして置いてください。
  下にして置くと、ホイールに傷がつくおそれがあります。

②応急用スペアタイヤのホイールの接触面のよごれをふき取ります。

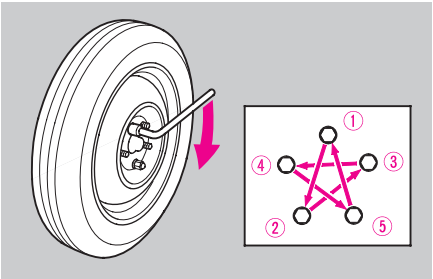


③応急用スペアタイヤを取り付けます。
④ホイールナットがホイール穴のシート部に軽く当たり、ホイールがガタつかない程度までホイールナットを締めます。



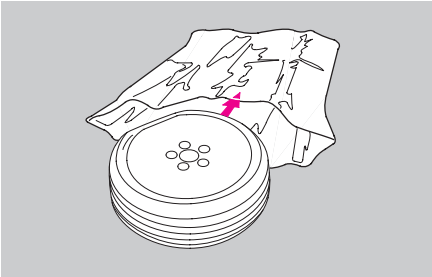
⑤ジャッキをおろし、図の番号順に2～3度にわたり、ホイールナットをしっかり締め付けます。

ホイールナット締め付けトルク:
98－118 N·m (10.0－12.0 kgf·m)

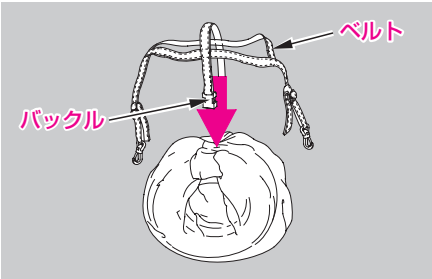


4パンクタイヤを収納する

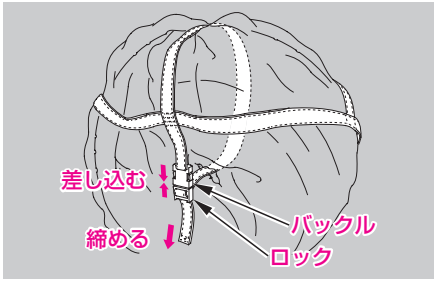
①センターキャップを外し、タイヤ収納袋にタイヤを入れます。



②収納袋の上端を縛ります。
③バックルを手前側にして、固定ベルトをかけます。



④袋に穴をあけてからベルトをホイールのセンターキャップの穴に通し、ロックをバックルに差し込んでベルトを締めつけます。

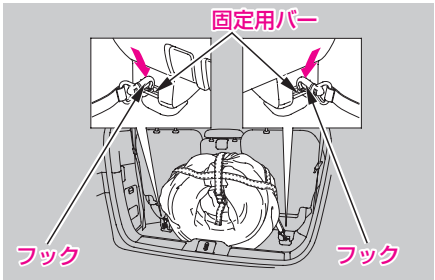


⑤サードシートを両席とも後方いっぱいに動かし、背もたれを固定できる一番前の位置まで起こします。

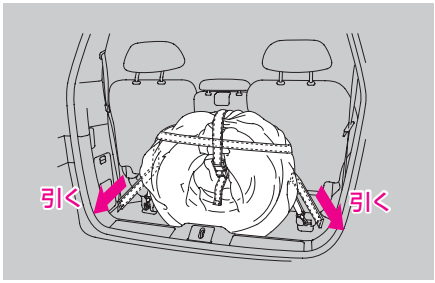
サードシートの前後位置の調節、
サードシートの背もたれの調節
→110ページ

⑥タイヤをカーゴルームに立てかけます。

⑦ベルトの両端にあるフックを、サードシート下部両端にある固定用バーにフックをかけます。



⑧タイヤがぐらつかないようにベルトを引いて締めつけます。

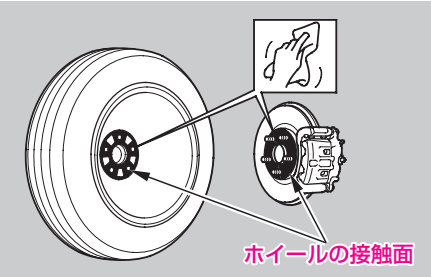


知 識

- パンクタイヤを固定した後にサードシートの調節を行わないでください。
  - ・シートが後方いっぱいになっていないと、ベルトがゆるみパンクタイヤが不安定になるおそれがあります。
  - ・背もたれが後ろに倒れた状態だと、テールゲートを閉めたとき、テールゲートがパンクタイヤに当たり、破損や変形などの原因になります。

5標準タイヤを取り付けるときは

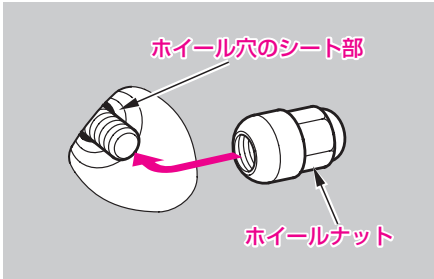
①標準タイヤのホイールの接触面のよごれをふき取ります。



知 識

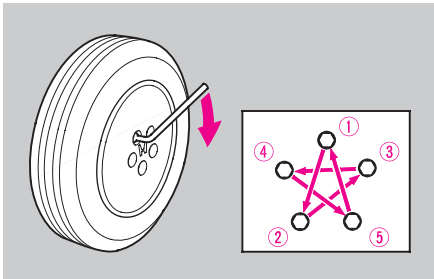
- タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にして置いてください。
  下にして置くと、ホイールに傷がつくおそれがあります。

③ホイールナットがホイール穴のシート部に軽く当たり、ホイールがガタつかない程度までホイールナットを締めます。



④ジャッキをおろし、図の番号順に2～3度にわたり、ホイールナットをしっかり締め付けます。

ホイールナット締め付けトルク:
98－118 N·m (10.0－12.0 kgf·m)



アドバイス

- 4WD車は、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。
  サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを混用すると動力伝達装置に悪影響をあたえます。
- VSA装備車は、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。
  サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを混用するとVSAが正常に機能しなくなることがあります。
- IHCC装備車は、四輪とも同一サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。
  サイズ、種類、銘柄や、摩耗度合いの異なるタイヤを混用するとIHCCが正常に機能しなくなることがあります。

知 識

- この車専用のホイールをお使いください。
  専用以外のホイールを使うと走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換に際しては、必ずHonda販売店にご相談ください。
- レンチを足で踏んだり、パイプなどを使って必要以上に締め付けないでください。トルクがかかりすぎることがあります。
- パンク修理、タイヤの摩耗、リムの変形などでホイールバランスが狂うことがあります。車体の振動などの異常を感じたらHonda販売店で点検を受けてください。
- タイヤ交換は安全のため、地面の硬い平らな場所で、他の交通に十分注意して行ってください。必要に応じて停止表示板、非常点滅表示灯を使ってください。
- 必ず指定サイズ、同一種類のタイヤを使ってください。指定サイズ以外のタイヤや種類の異なるタイヤを使うと安全性を損ないます。
- 応急用スペアタイヤの空気圧は使うときに調整してください。
  やむをえず、未調整のまま走る場合は、速度を控えめにしてください。

タイヤの空気圧　→508ページ

- パンク修理などでホイールを取り付け直したときには、念のため1,000km走行時にホイールナットのゆるみの有無を点検してください。

オーバーヒートしたとき

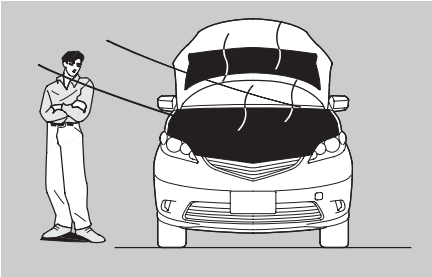
次のようなときは、オーバーヒートです。
・水温計の針が“H”の目盛に入ったり、エンジンの力が急に落ちる。
・エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている。

⚠警告

- エンジンルームから蒸気が出ているときは、ボンネットを開けないでください。
  蒸気や熱湯がふき出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。
- エンジンが十分に冷え、水温が下がるまでラジエーターキャップを外さないでください。
  冷却水には圧力がかかっているため、蒸気や熱湯がふき出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

●処置のしかた

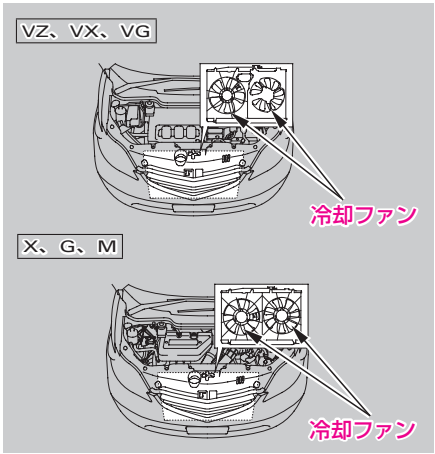
①車を安全な場所に停めます。
②エンジンをかけたままボンネットを開けて風通しをよくします。



知 識

- エンジンルームから蒸気が出ているときは、エンジンを止めます。蒸気が出なくなってからボンネットを開け、エンジンをかけてください。

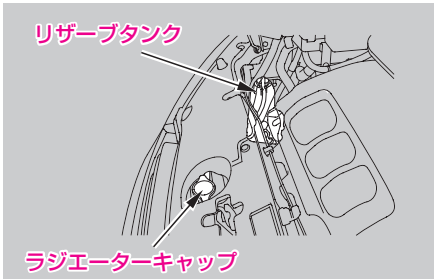
③冷却ファンの作動を確認し、水温計の針が下がってきてからエンジンを止めます。
冷却ファンが作動していないときはすぐにエンジンを止めてください。



アドバイス

- 冷却ファンが作動していない場合は、故障が考えられますので、Honda販売店へご連絡ください。

④エンジンが冷えてから、冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検します。



⑤冷却水量が不足していたらラジエーターとリザーブタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

アドバイス

- エンジンが熱いときに冷却水を入れないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。
冷却水はエンジンが冷えてからゆっくりと入れてください。

⑥なるべく早くHonda販売店で点検を受けてください。

電気系統が異常のとき

バッテリーあがりのとき

次のようなときは、バッテリーあがりです。
・スターターが回らないか、回っても回転が弱くエンジンがかからない。
・ライトがいつもより極端に暗かったり、ホーンの音が小さい。

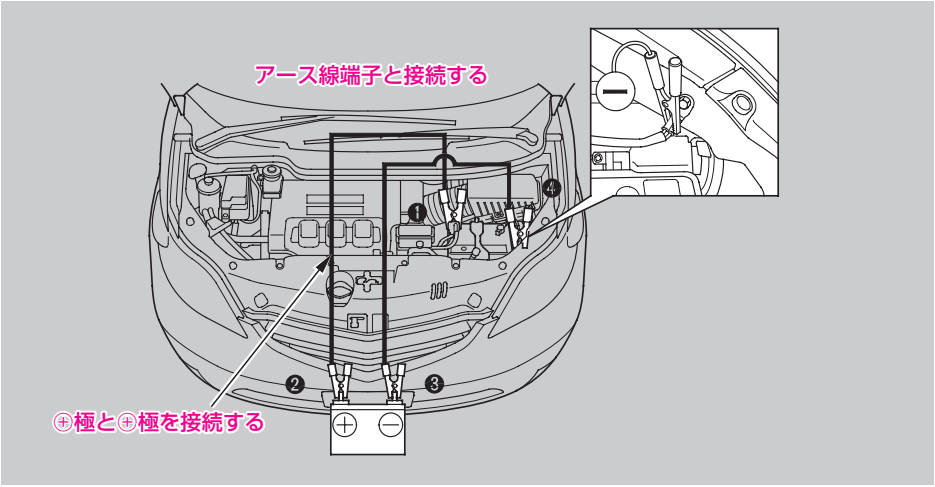
●処置のしかた

VZ、VX、VG

救援車のバッテリーを利用してエンジンを始動させます。
①ブースターケーブルを次の順番でつなぎます。

1本目
❶自車のバッテリーの⊕端子
❷救援車のバッテリーの⊕端子

2本目
❸救援車のバッテリーの⊖端子
❹自車のアース線端子



②救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにします。
③自車のエンジンをかけます。
④ブースターケーブルをつないだときと逆の順番で外します。
⑤Honda販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

X、G、M

救援車のバッテリーを利用してエンジンを始動させます。

①ブースターケーブルを次の順番でつなぎます。

1本目

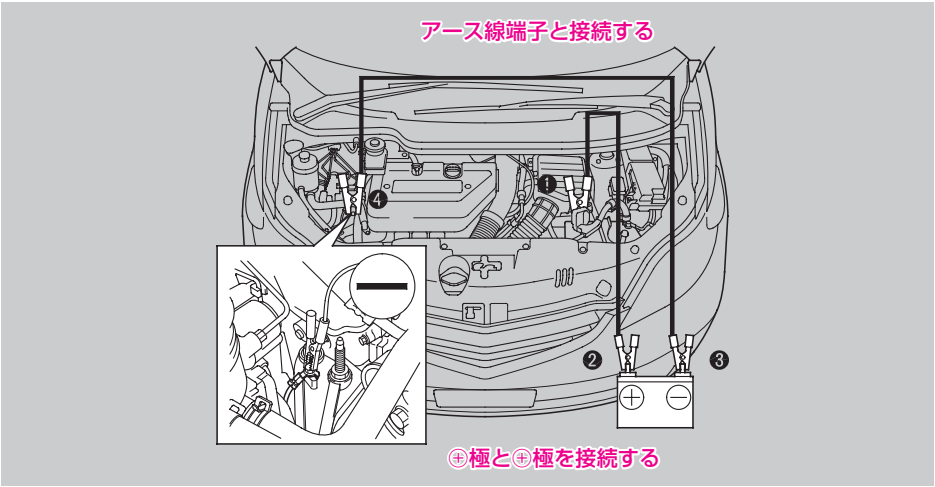
❶自車のバッテリーの⊕端子

❷救援車のバッテリーの⊕端子

2本目

❸救援車のバッテリーの⊖端子

❹自車のエンジンのアース線端子



②救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにします。

③自車のエンジンをかけます。

④ブースターケーブルをつないだときと逆の順番で外します。

⑤Honda販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

⚠警告

●バッテリーを取り扱うときは次のことを必ず守ってください。
バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると爆発のおそれがあります。
・バッテリー液が不足しているときは、エンジンの始動または充電を行わないでください。
・火気を近づけないでください。
・帯電した体でバッテリーに触れないでください。
・換気に十分注意し、換気の悪い場所では充電を行わないでください。
・バッテリーを充電するときは、すべてのキャップを外してください。

●ブースターケーブルをつなぐときは次のことを必ず守ってください。火花が出て、バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると爆発のおそれがあります。
・自車のバッテリーの⊖端子に直接ケーブルをつながないでください。
・⊕端子と⊖端子を間違えないでください。
・ケーブルの先端どうしを接触させないでください。

●バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに着くとその部分が侵されますので十分注意してください。
万一、付着したときはすぐに多量の水ですくなくとも 5 分間以上洗浄し、飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲んでください。応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

知 識

- バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。
  バッテリー内部の劣化の進行が促進するおそれがあります。
- ブースターケーブルのクリップは、エンジン始動時などの振動で外れたりしないように確実に固定してください。また、ブースターケーブルが冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分気をつけてください。
- 救援車には、12Vのバッテリーを装着している車を使用してください。
- バッテリー交換などでバッテリーケーブルを取り外すと、ラジオにセットされた周波数が消去されます。また、バッテリーを取り付けた後は、パワーウィンドーはオート作動ができなくなることがあり、パワースライドドアやパワーテールゲートは自動で閉まらなくなることがあります。その場合は、オート作動の機能を復帰させてください。

パワースライドドアはさみ込み防止機構　→55ページ
パワーテールゲートオート作動機能の復帰　→66ページ
パワーウィンドーはさみ込み防止機構　→87ページ

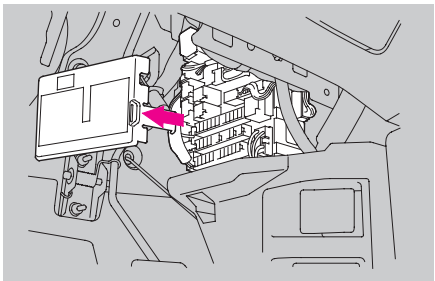
ライト類が点灯しないとき、電気装置が作動しないとき

バッテリーがあがっていないときは、ヒューズ切れや電球(バルブ)切れが考えられます。

①エンジンスイッチを“0”の位置にします。
②ヒューズが切れていないかを点検します。
・故障の状況から点検すべきヒューズをヒューズボックスの表示と取扱説明書で確認し、点検します。
③必要に応じて、ヒューズや電球を交換します。

●ヒューズの点検、交換

運転席足元のヒューズボックス



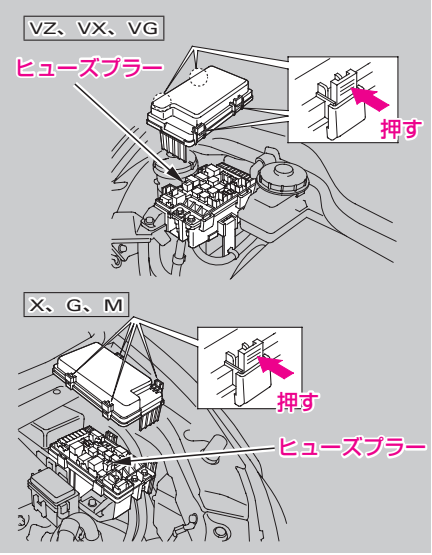
・各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
1		オーディオ／アンプ※1	15A
2		バックアップ	10A
3		ドアロック	20A
4		室内灯	10A
5		シガレットライター	20A
6		アクセサリー	(7.5A)
7		SRSエアバッグシステム	10A
8		メーター	7.5A
9		オプション	(7.5A)
10		ウォッシャー	7.5A
11		フューエルポンプ	15A
12		アクセサリー	7.5A
13		助手席側イージードアクローザー	20A
14	DR	運転席パワーシート前後スライド※2	(20A)
15	DR	運転席パワーシートリクライニング※2	(20A)
16		運転席側イージードアクローザー	20A
17	—	—	—
18		イルミ	7.5A
19		オプション2	(7.5A)
20		ACG	15A

	表示	装備	容量
21		サイドエアバッグ 自動停止装置※3	7.5A
22		E-プリテンショナー	(7.5A)
23		ワイパー	30A
24	RR	後席サンルーフ※4	(20A)
25	FR	前席サンルーフ※4	(20A)
26	DR	パワーウィンドー 運転席	20A
27	AS	パワーウィンドー 助手席	20A
28	RR L	パワーウィンドー 後席左側	20A
29	RR R	パワーウィンドー 後席右側	20A
30		LAF	20A
31		ドライブバイワイヤ	(15A)
32		イグニッションコイル	15A
33		アクセサリー	7.5A
34		LAF	7.5A

※1：AM/FM一体式CDステレオ装備車
※2：運転席パワーシート装備車
※3：サイドエアバッグ装備車
※4：サンルーフ装備車

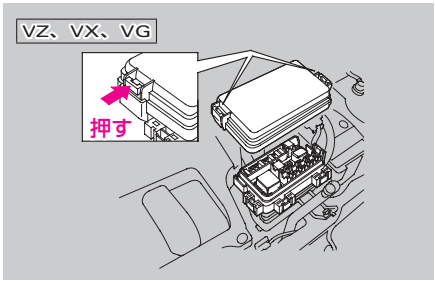
エンジンルーム内のヒューズボックス



・各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
1	L	左側ヘッドライト ロービーム	15A
2		リヤデフロスターコイル	30A
3	L	左側ヘッドライト ハイビーム	10A
4		車幅灯	15A
5	R	右側ヘッドライト ハイビーム	10A
6	R	右側ヘッドライト ロービーム	15A
7		バックアップ	7.5A
8		フューエルポンプ	15A
9		クラッチリレー	7.5A
		コンデンサーファン※1	30A
10		(フロントフォグライト)※2	(20A)
11		ラジエターファン※1	30A
12		クラッチリレー※1	7.5A
13		ホーン／制動灯	20A
14		リヤデフロスター	20A
15		バックアップ／ アクセサリー	40A
16		非常点滅表示灯	15A
17	ABS	ABSモーター	30A
	VSA MOTOR	VSAモーター※3	30A
18	ABS	ABS	20A
	VSA	VSA※3	40A
19		オプション	40A
20		オプション	40A
21		ヒーターモーター	40A
22		リヤヒーターモーター	40A
		バッテリー	120A
23		イグニッション	50A
		パワーウィンドー	50A

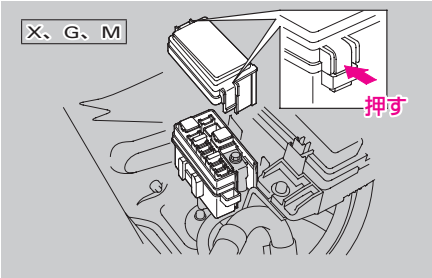
※1：X、G、M
※2：販売店オプション
※3：VSA装備車



・各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
1	—	—	—
2	—	—	—
3	—	—	—
4		パワーテールゲート※1	(40A)
5		ラジエターファン	50A
6	RR R	運転席側 パワースライドドア※2	(40A)
7	RR L	助手席側 パワースライドドア※2	40A
8		バックアップ	10A
9	AC100V	AC100V電源ソケット※3	(20A)
10		パワーテールゲート※1	(20A)
11		シートヒーター※4	(20A)
12		助手席 E-プリテンショナー	(30A)
13		運転席 E-プリテンショナー	(30A)
14		オーディオ	(30A)
15		リアエンターテインメント システム※5	(15A)
16	—	—	—
17	—	—	—
18		フロントデフロスター	(15A)

※1：パワーテールゲート装備車
※2：パワースライドドア装備車
※3：AC100V電源ソケット装備車
※4：シートヒーター装備車
※5：リアエンターテインメント
　　システム装備車



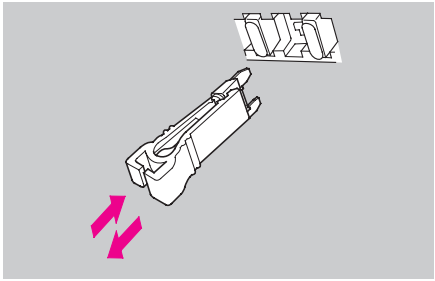
・各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
1	—	—	—
2	RR R	運転席側パワースライドドア※1	(40A)
3	RR L	助手席側パワースライドドア※1	(40A)
4		パワーテールゲート※2	(40A)
5	AC100V	AC100V電源ソケット※3	(20A)
6		シートヒーター※4	(20A)
7		オーディオ	(30A)
8		リアエンターテインメントシステム※5	(15A)
9		フロントデフロスター	(15A)
10		パワーテールゲート※2	(20A)
11	—	—	—

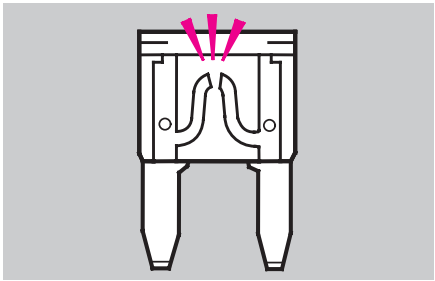
※1：パワースライドドア装備車
※2：パワーテールゲート装備車
※3：AC100V電源ソケット装備車
※4：シートヒーター装備車
※5：リアエンターテインメントシステム装備車

ヒューズの外しかた

備え付けのヒューズプラーでヒューズを外します。



ヒューズが切れているとき



ヒューズボックスの表示に従い規定容量のヒューズに交換します。

アドバイス

- 規定容量のヒューズ以外のものは絶対に使わないでください。配線コードなどを焼損させる原因となります。

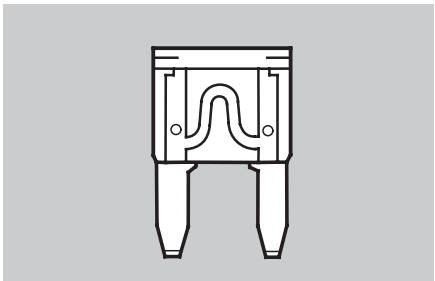
知 識

- パワーウィンドーのヒューズが切れると、ヒューズを交換した後もパワーウィンドーのオート作動ができなくなることがあります。その場合は、オート作動の機能を復帰させてください。
  パワーウィンドーはさみ込み防止機構 →87ページ
- パワースライドドアを開けた状態でヒューズを交換した場合は、パワースライドドアが自動で閉まらなくなります。
  その場合は、オート作動の機能を復帰させてください。
  パワースライドドアはさみ込み防止機構 →55ページ
- パワーテールゲートを開けた状態でヒューズを交換した場合は、パワーテールゲートが自動で閉まらなくなります。
  その場合は、オート作動の機能を復帰させてください。
  →66ページ

知 識

- オーディオのヒューズが切れると、ラジオにセットされた周波数が消去されます。
- 交換しても、またヒューズが切れる場合は、電気系統の異常が考えられますので、Honda販売店で点検を受けてください。

ヒューズが切れていないとき



- ライト類が点灯しないときは、電球切れが考えられます。
  電球を点検し、切れているときは交換してください。

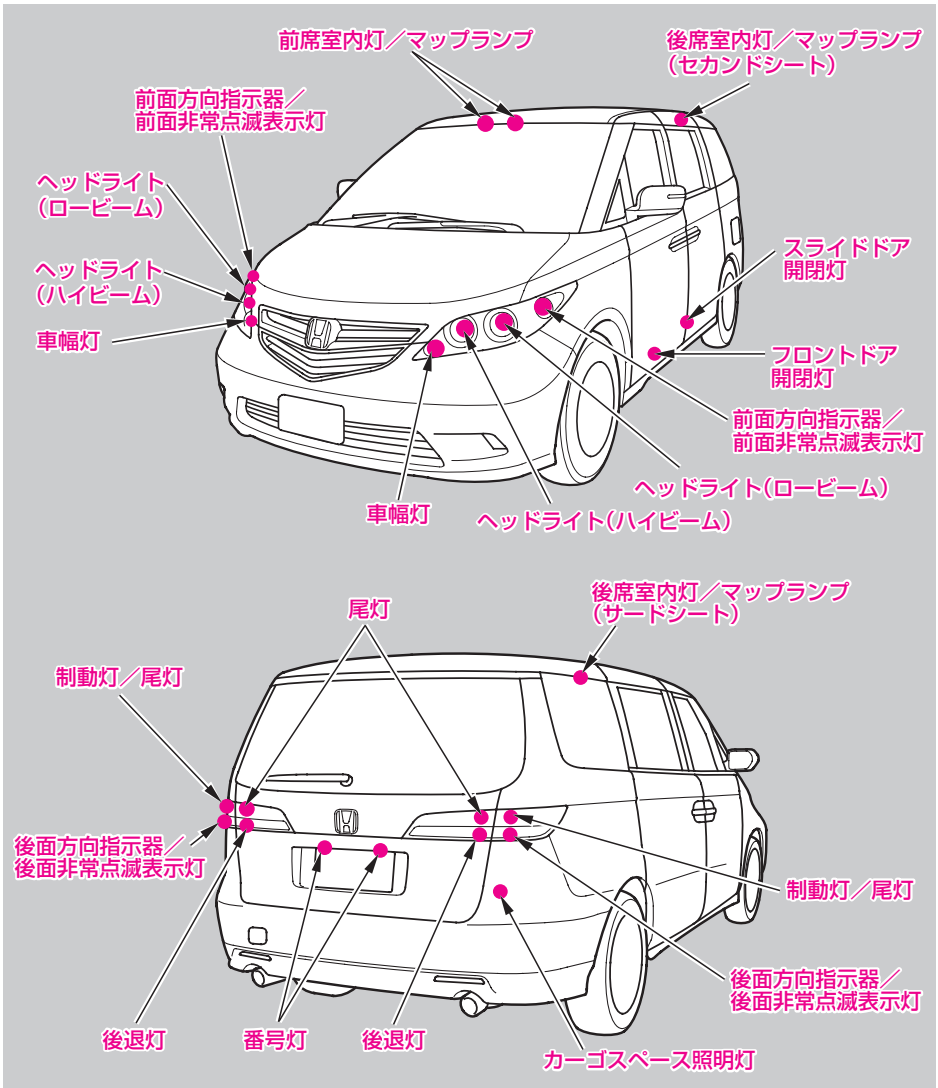
知 識

- 電球が切れていない場合は、電気系統の異常が考えられますので、Honda販売店で点検を受けてください。

- ライト類以外の電気装置が作動しないときは、電気系統の異常が考えられますので、Honda販売店で点検を受けてください。

●電球(バルブ)の交換

ヒューズが切れていないのにライト類が点灯しないときは、電球切れが考えられます。
電球を点検し、切れているときは交換してください。



知 識

- ランプ本体やレンズを外すときは、ボディに傷を付けないように注意してください。
- 電球を交換するときはワット(W)数の違うものを使わないでください。

電球のワット数　→505ページ

- ハロゲンバルブはガラス球内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷をつけたりすると破損してガラスがとび散ることがあります。
  取り扱いには十分に注意してください。
  また、ハロゲンバルブの電球の表面に手などが、触れないようにしてください。使用時電球が高温になるため、油などが付着すると寿命が短くなります。触れた場合は、中性洗剤の薄い水溶液を柔らかい布に含ませてよくふき取ってください。

知 識

- ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。
  ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、Honda販売店にご相談ください。

ヘッドライトについて

ヘッドライト(ロービーム)の電球切れの点検、交換は必ずHonda販売店で行ってください。

⚠注意

- ディスチャージヘッドライトは高電圧を使用しており、不適切な取り扱いや分解を行うと感電するおそれがあります。

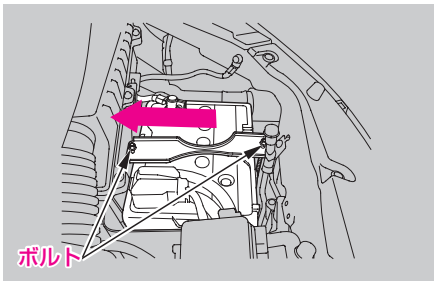
ヘッドライト(ハイビーム)

ハロゲンバルブを使用していますので、取り扱いに注意してください。

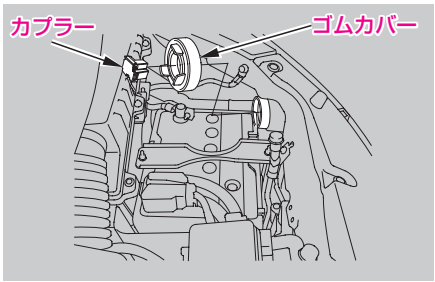
ハロゲンバルブ　→451ページ

・左側

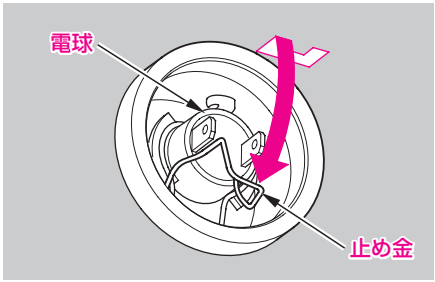
①バッテリー固定用のボルトをゆるめ、バッテリーをずらします。



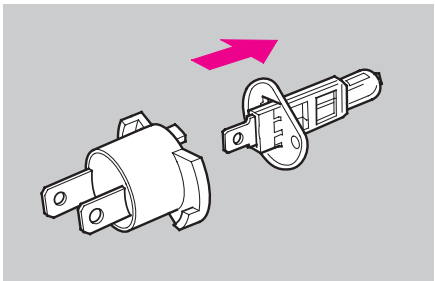
②カプラーを抜き取ります。
③ゴムカバーを外します。



④止め金を外し、電球を外します。



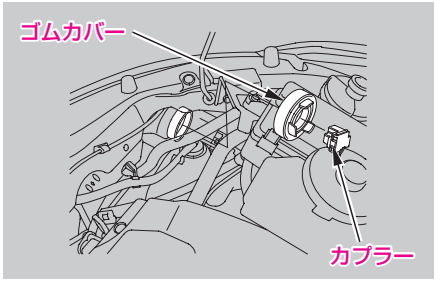
⑤電球本体を抜き取ります。



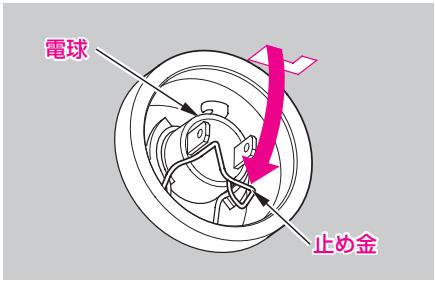
・右側

①カプラーを抜き取ります。

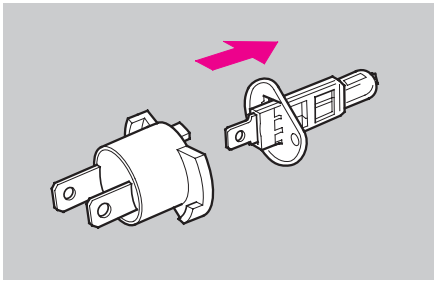
②ゴムカバーを外します。



③止め金を外し、電球を外します。



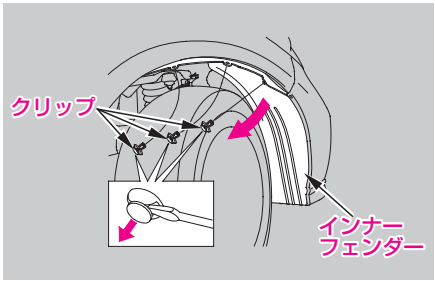
④電球本体を抜き取ります。



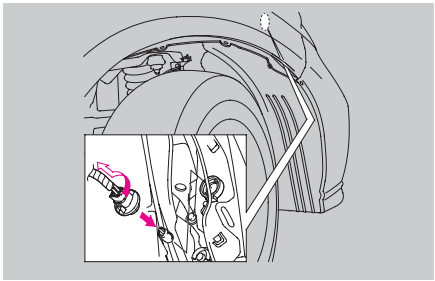
前面方向指示器／前面非常点滅表示灯

①交換する側と反対にハンドルをいっぱいに切ります。

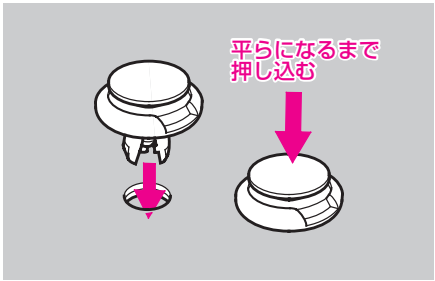
②クリップを外してインナーフェンダーをめくります。



③ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。



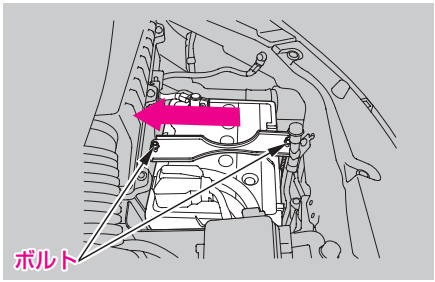
インナーフェンダーを固定するときは、クリップの中央部のピンを起こしたままインナーフェンダーに差し込み、ピンを平らになるまで押し込みます。



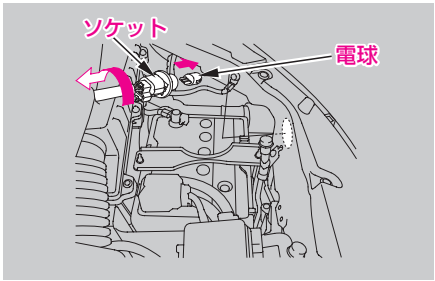
車幅灯

・左側

①バッテリー固定用のボルトをゆるめ、バッテリーをずらします。

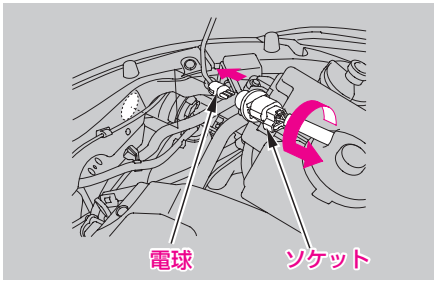


②ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。



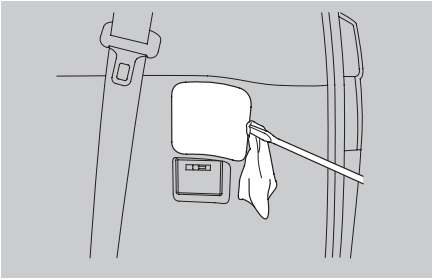
・右側

①ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。

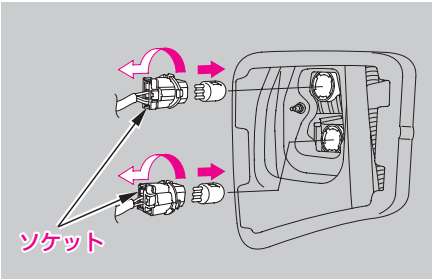


制動灯、後面方向指示器／後面非常点滅表示灯

①ドライバーの先端に布などを巻き、カバーを外します。

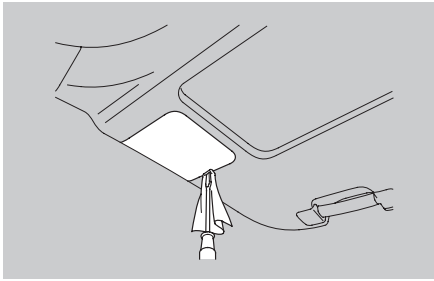


②ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。

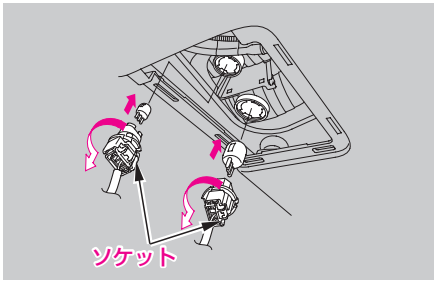


尾灯、後退灯

①ドライバーの先端に布などを巻き、カバーを開けます。

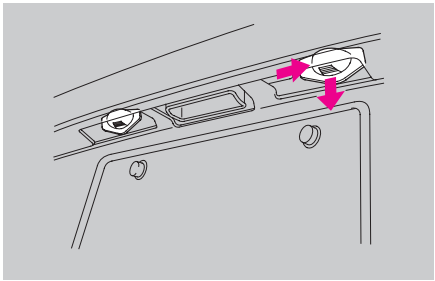


②ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。

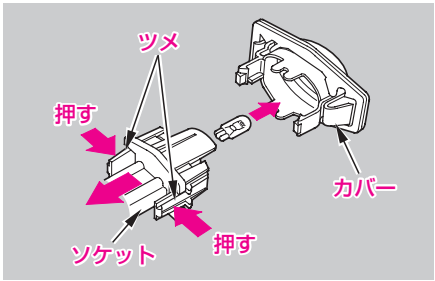


番号灯

①側面を押し、ランプ本体を外します。

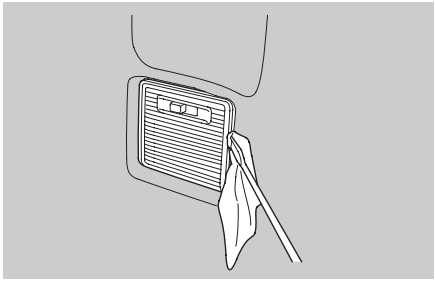


②ツメを押して、カバーを外します。
③ソケットから電球を抜き取ります。

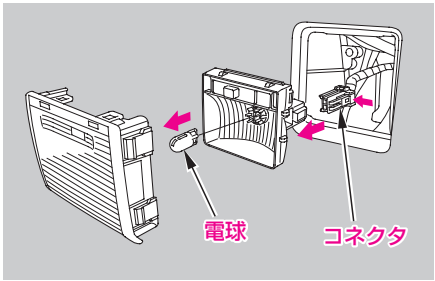


カーゴルーム照明灯

①ドライバーの先端に布などを巻き、レンズを外します。



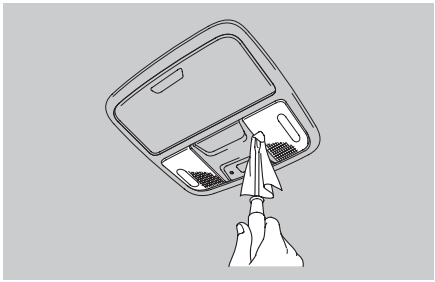
②コネクタを外し、レンズを開け電球を抜き取ります。



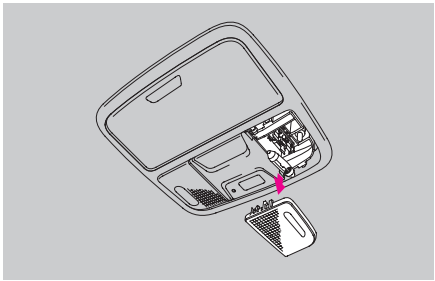
前席室内灯／マップランプ

タイプ別装備

①レンズを押してすきまを作り、ドライバーを差し込んでレンズを外します。

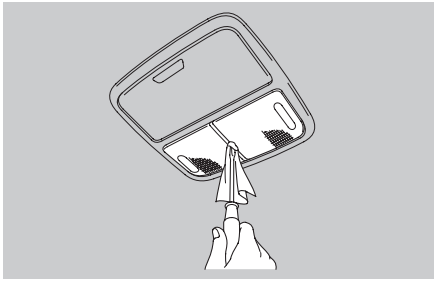


②電球を抜き取ります。

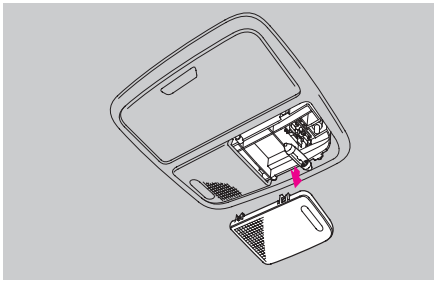


タイプ別装備

①レンズを押してすきまを作り、ドライバーを差し込んでレンズを外します。

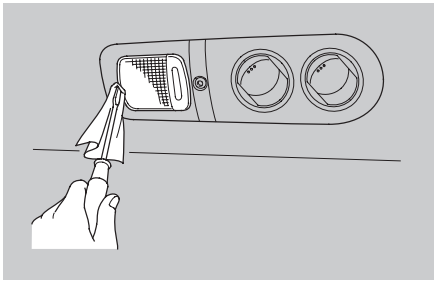


②電球を抜き取ります。

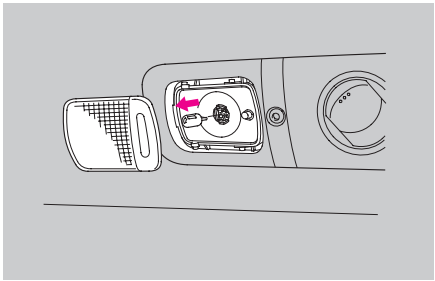


後席室内灯／マップランプ（セカンドシート、サードシート）

①レンズを押してすきまを作り、ドライバーを差し込んでレンズを外します。

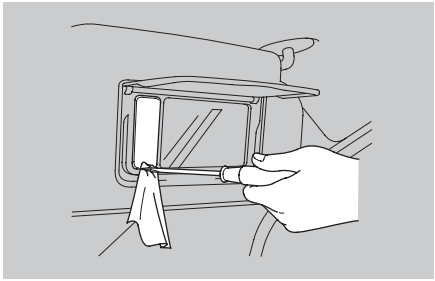


②電球を抜き取ります。

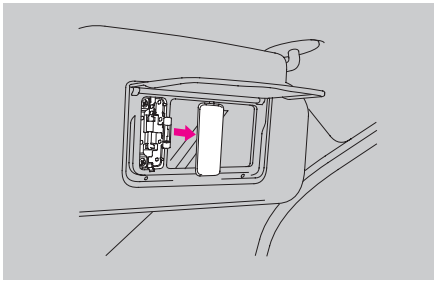


バニティミラー照明灯

①レンズを押してすきまを作り、ドライバーを差し込んでレンズを外します。

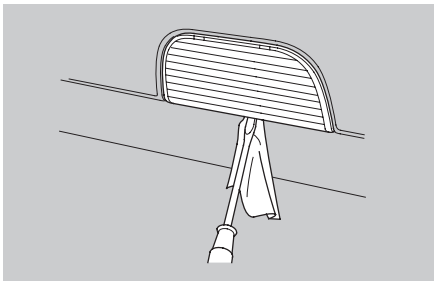


②電球を抜き取ります。

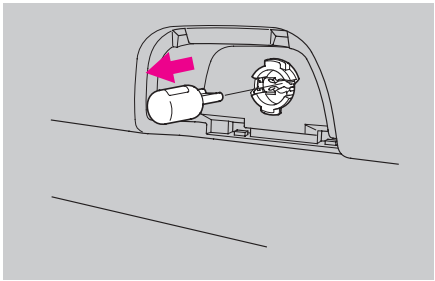


フロントドア開閉灯

①ドライバーの先端に布などを巻き、カバーを外します。

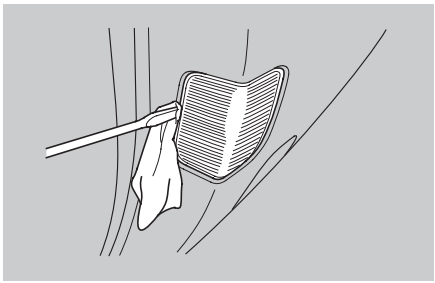


②電球を抜き取ります。

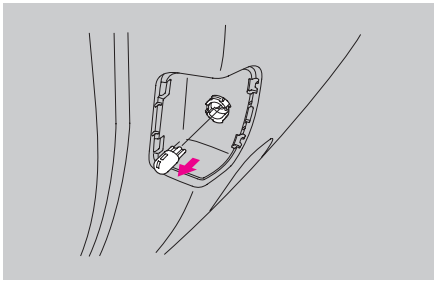


スライドドア開閉灯

①ドライバーの先端に布などを巻き、カバーを外します。



②電球を抜き取ります。

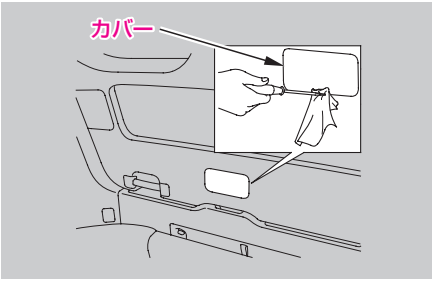


パワーテールゲートが開かないとき

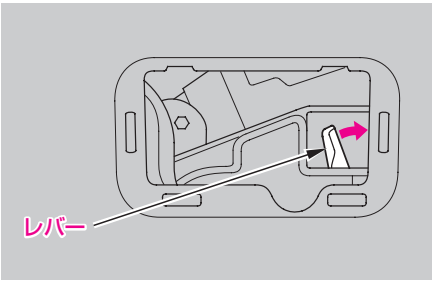
パワーテールゲート装備車

万一、パワーテールゲートを開けることができなくなった場合は、応急処置としてテールゲート解錠レバーを右の方向に動かして開けてください。

①パワーテールゲートのカバーにドライバーを図のように差し込んでカバーを外します。



②レバーを右の方向に動かした状態で、パワーテールゲートを内側から押して開けます。



⚠注意

- パワーテールゲートを内側から開けるときは、周囲の安全と車の上方や後方に十分なスペースがあることを確認してください。

知 識

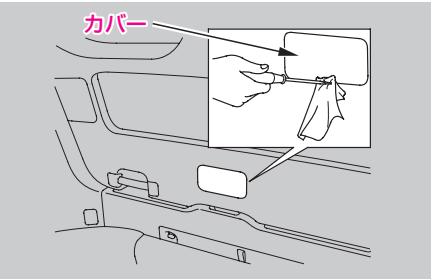
- 応急処置後はHonda販売店で点検を受けてください。

テールゲートの解錠ができないとき

パワーテールゲート非装備車

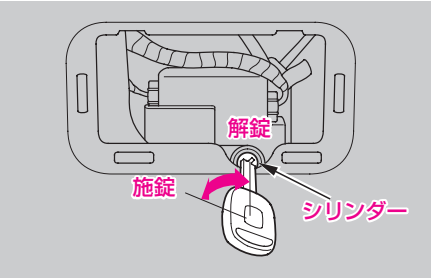
万一、テールゲートが解錠できなくなった場合は、応急処置としてテールゲート解錠シリンダーにキーなどを差し込み矢印の方向に回して解錠してください。

①テールゲートのカバーにドライバーを図のように差し込んでカバーを外します。



②シリンダーにキーなどを差し込み右の方向に回し、テールゲートを解錠します。

テールゲートの開閉　→71ページ



テールゲート解錠シリンダーを左方向に回すと施錠します。

知　識

- 応急処置後はHonda販売店で点検を受けてください。

6

車の手入れ

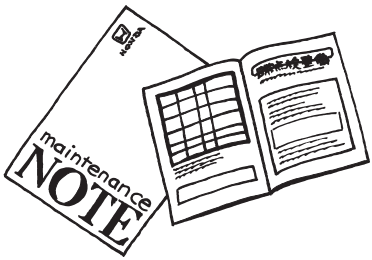
●点検・整備について……464

●日常の手入れ
外装の手入れ……468
内装の手入れ……474
タイヤについて……476
アルミホイールについて……480

●車にあった部品の使用…482

点検・整備について

車は走行するにしたがい、また時間が経過するとともに部品の劣化や摩耗などが進んでいき、適切な点検整備を行わないと、安全・快適に乗っていただけなくなるばかりか大気汚染や騒音の増加などを引き起こすことがあります。
このようなことから点検整備が必要であり、ドライバー(運転者)は点検整備を実施することが法律でも義務づけられています。

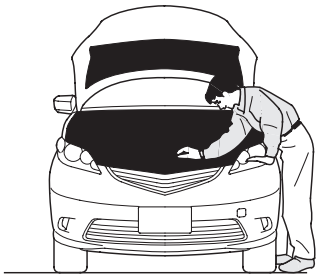


詳しくは、別冊のメンテナンスノートに記載してありますので、よくお読みになり必ず点検整備を行ってください。

●点検整備の種類

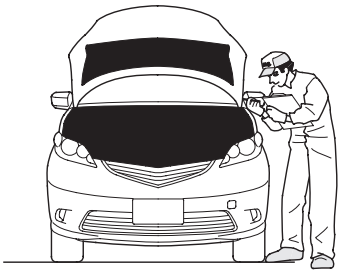
日常点検

日常の車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検で、お客様自身で実施が可能な項目となっています。
点検時期の目安としては長距離走行前や洗車時、給油時などに実施します。



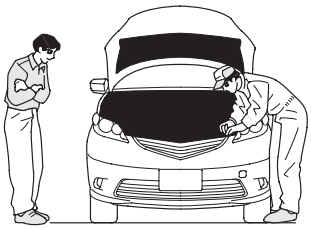
法定定期点検

年間走行距離が10,000km程度の標準的な使用を前提に、12か月および24か月毎に実施する点検です。
法律で定められているものと、Hondaが指定するものがあります。



その他

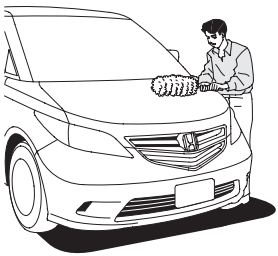
新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。



日常の手入れ

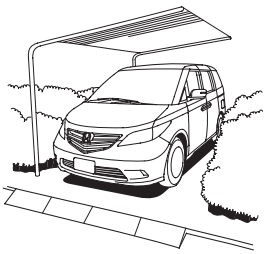
走行後は

- 塗装面に付着したほこりを毛ばたきなどではらい落としましょう。
- とび石などによる塗装面の傷は錆の原因となります。見つけたら早めに補修してください。



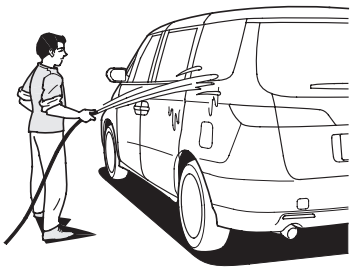
保管、駐車は

- 風通しのよい車庫や、屋根のある場所をおすすめします。



洗車を忘れずに

- 少なくとも月に一度は洗車しましょう。
- 次の場合は、必ず洗車してください。
  - 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき、海岸地帯を走行したとき。
    錆の原因となるので車体の下回り、フェンダーの内側を念入りに洗ってください。
  - コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などがついたとき。
    化学変化で塗装面にむらができるので、中性洗剤で洗ってから水で完全に流し、必要に応じてポリシングワックス（ワックス乳液）で磨いてください。
    ポリシングワックスは、Honda純正ケミカル用品をお使いください。

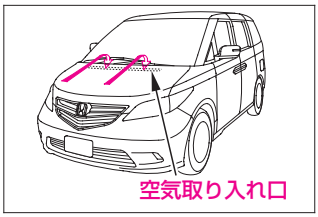


外装の手入れ

●洗車のしかた

・十分に水をかけながら、下回り、足まわりの汚れを落とします。
・塗装面は屋根から順に下のほうへ水をかけながら、スポンジかセーム皮のような柔らかいもので洗います。
・汚れがひどいところは中性洗剤で洗い、さらに水で完全に洗い落とします。
・水が乾かないうちに拭き取ります。

●ボンネットの裏のインシュレーターには、直接水をかけて洗わないでください。
●故意に空気取り入れ口やエンジンルーム内の電気部品に水をかけないでください。
故障のもとになります。



自動洗車機を使うとき

・ドアミラーを格納して洗車してください。

●自動洗車機を使うと、ブラシの傷がつき光沢が失われたり、劣化を早めることがあります。

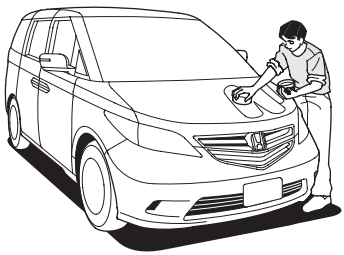
コイン洗車機を使うとき

洗車ノズルと車体の距離を十分に離して洗車してください。
ウィンドーまわりは、特に注意して行ってください。近づけすぎると室内へ水が侵入することがあります。

●ワックスをかけるとき

月に一回程度または水をはじかなくなったときに行います。
洗車したあと、日陰か車体表面が体温以下になっているときにワックスをかけます。

・ワックスはHonda純正ケミカル用品をお使いください。



●みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは使わないでください。
塗装面に細かい傷が残ることがあります。

●樹脂塗装部品(バンパーなど)の手入れ

ガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着すると、しみの発生や塗膜がはがれる原因となります。
すみやかに柔らかい布で拭き取ってください。

●樹脂塗装部品の傷の補修をする場合は、Honda販売店にご相談ください。不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

●ガラスの手入れ

ガラスの油膜を取るときは、ガラスクリーナーをお使いください。

・ガラスクリーナーはHonda純正ケミカル用品をお使いください。

はっ水ガラスについて

タイプ別装備

前席ウィンドー(ドアガラス)にはっ水膜がコーティングしてあり、水滴をはじきます。

知 識

●水滴をはじく効果の持続時間には限りがありますが、できるだけ長持ちさせるために次のことをお守りください。

・前席ウィンドーが汚れているときは、水洗いをするか柔らかい湿った布などでふき取ってください。
また、泥などの汚れがひどいときは、前席ウィンドーの開閉をなるべく行わないでください。

・みがき粉(コンパウンド)入りガラスクリーナーやワックス、洗剤等は使わないでください。

・金属製の物で霜取りなどを行わないでください。

・自動洗車機を使うときは、先に泥などの汚れを落してから行ってください。

●ガラスクリーナーを使うと一時的に水はじきが悪くなることがありますが、水洗いをすれば元に戻ります。

●水はじきが悪くなったときは、補修できますのでHonda販売店にご相談ください。

ガラスの清掃をするとき

ガラスの内側に電熱線やアンテナ線が装着されていますので、これに沿って柔らかい布で拭いてください。

●アクアクリーンミラー（親水ミラー）の回復作業

タイプ別装備

鏡面に汚れなどが付着して、一時的に親水効果が低くなることがありますが、異常ではありません。
数日間の日射をすることで親水効果が回復しますが、早く回復させたいときは次の回復作業を行ってください。

・点検

ミラー鏡面に散水し、水滴にならず薄い水膜（親水状態）になることを確認します。親水状態になっていない場合は、洗浄作業を行います。親水状態になっている場合は、紫外線照射を行います。

・回復作業

①ミラー鏡面を水洗いし、汚れを落とします。
②水を含ませたきれいな布で、汚れを落とします。
③それでも汚れが落ちない場合は、純正ガラスクリーナーや家庭用中性洗剤などを使用して、柔らかい布を使ってミラー鏡面を洗浄後、十分な水で洗浄剤を洗い流してください。

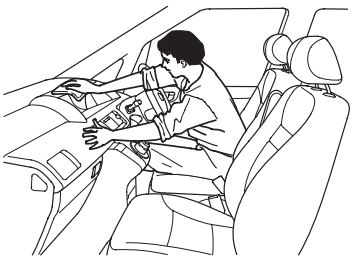
・紫外線照射

屋外に車両を 5 ～ 9 時間ほど放置し、ミラー鏡面に太陽の光を当てます。

内装の手入れ

①中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませて、汚れを落とします。
・飲食物などをこぼしたときは、すぐに汚れを落としてください。
②真水を含ませた柔らかい布で、残った洗剤分をきれいに拭き取ります。
③直射日光を避け、風通しのよい日陰で乾燥させます。

●室内に水をかけないでください。電気部品に水がかかると故障の原因となります。



●ケミカル類、液体芳香剤について

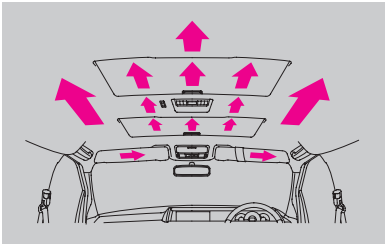
ケミカル類、液体芳香剤はその成分によっては、樹脂部品、布材、本革の変色、しみ、ひび割れを起こすことがあります。
取り扱いには十分にご注意ください。

●ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶剤は使わないでください。
また、ケミカル類には、これらの成分が含まれているおそれがあります。ご使用の前に確認してください。
●ケミカル類を使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取ってください。
また、使用した布はそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。
●液体芳香剤はこぼさないように、容器を確実に固定してください。
芳香剤の使用にあたっては固形タイプのものをおすすめします。

●スウェード調サンバイザーおよびルーフライニングの取り扱い

タイプ別装備

サンバイザーおよびルーフライニングにはスウェード調表皮を採用しています。表皮に触れるなどして毛乱れが発生しムラに見えるときは、真水を含ませた柔らかい布で矢印の方向に軽く拭いて毛足を整えてください。



●本革の取り扱い

タイプ別注文装備

①ウール用中性洗剤の５％水溶液を柔らかい布に軽く含ませて、汚れを落とします。
②真水を含ませた柔らかい布で、残った洗剤分をきれいにふき取ります。
③直射日光を避け、風通しのよい日陰で乾燥させます。

- 本革部分に油汚れなどが付くとカビなどの原因となるので、早めに落としてください。
- 本革部分を直射日光に長時間さらすと、変質、縮みの原因となります。駐車するときは、日よけに心がけてください。
- 夏期などは、ビニール類を本革部分の上に置かないでください。
  室内が高温になっていると、ビニールが変質して本革部分に付着するおそれがあります。
- 雨などでぬれたときは、早めに水分をふき取り風通しのよい日陰で乾燥させてください。
  シート表面に水分が残っていると、皮革の硬化、収縮の原因となります。
- **サイドエアバッグシステム装備車**
  助手席は、乾燥していない状態で使用するとサイドエアバッグの乗員姿勢検知システムが正しく作動しないおそれがあります。

タイヤについて

タイヤの異常摩耗、亀裂、損傷および指定外の空気圧は、乗り心地、操縦性、タイヤの寿命を損ないます。また、摩耗したタイヤは雨天時の高速走行で通常よりもハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

・安全のため、こまめに点検を行ってください。
　また、必ず指定サイズ、同一種類のタイヤをお使いください。

⚠警告

●次のようなタイヤは使わないでください。
　コントロールを失うことがあり、思わぬ事故につながります。
　・摩耗限度を超えたタイヤ
　・指定空気圧に調整されていないタイヤ
　　タイヤの空気圧
→508ページ

⚠注意

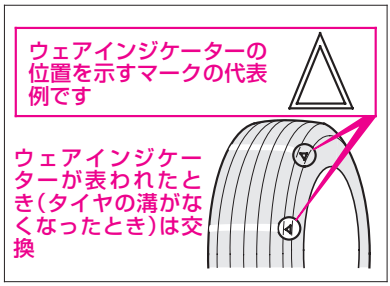
●タイヤの空気圧を調整するときは、規定圧力を守ってください。
　空気を入れ過ぎると、タイヤが破裂しけがをするおそれがあります。

- 4WD車は、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを混用すると動力伝達装置に悪影響を与えます。
- VSA装備車は、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを混用するとVSAが正常に機能しなくなることがあります。
- IHCC装備車は、四輪とも同一サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを混用するとIHCCが正常に機能しなくなることがあります。

摩耗限界表示（ウェアインジケーター）

ウェアインジケーターが表れたらタイヤを交換してください。

・ウェアインジケーターは、タイヤの接地面にあり、他の部分より溝が1.6mmだけ浅くなっています。



●位置交換（タイヤローテーション）

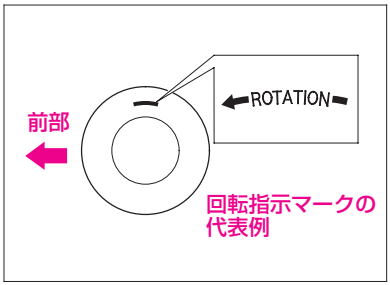
5,000kmごとにタイヤの位置を交換します。

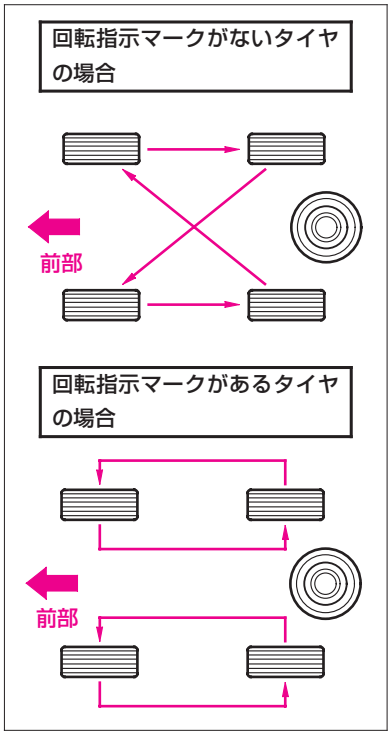
・同じ位置で長く走ると偏摩耗し、タイヤの寿命を縮めるだけでなく走行性、制動力にまで悪影響を与えます。

●応急用スペアタイヤは、位置交換に使わないでください。

タイヤ回転指示マーク

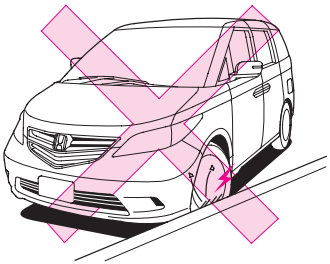
タイヤの性能上、回転方向が指定されているタイヤには、タイヤ側面に回転指示マークがあります。
回転指示マークが前部へ向くように取り付けてください。





アルミホイールについて

アルミホイールは一般的なスチールホイールと取り扱いかたが異なります。
アルミホイールの特性を維持するため、必ず次のことをお守りください。



●取り扱い

- この車専用のホイールをお使いください。専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換に際しては、必ずHonda販売店にご相談ください。
- パンク修理などでホイールを取り付け直した際には、念のため1,000km走行時にホイールナットのゆるみの有無を点検してください。
- アルミホイールは傷つきやすいので歩道の縁石などに乗り上げたり、すり当てたりすることを避けてください。
- バランスウェイトやバルブはHonda純正のアルミホイール専用品をお使いください。ホイールに傷をつけたり、機能を損なうことがあります。
- タイヤチェーンを装着するときは、正しく装着してください。ホイールに対して片寄ったり、ゆるかったりするとホイールに傷をつけるおそれがありますので注意して装着してください。

●手入れ

- アルミホイールは、塩分や汚れを嫌いますので、海水や道路凍結防止剤などが付いたときには、スポンジに中性洗剤を含ませ、汚れを早めに落としてください。
- ホイールの光沢を維持するため、時々ワックスがけをしてください。
- アルミホイールは傷つきやすいので、砂入り石鹸や硬いブラシを使わないでください。高速洗車機（ホイール専用ブラシ付きのもの）によるホイールの洗浄は避けてください。
- スチーム洗浄などで、熱湯がホイールに直接かからないようにしてください。
  光沢を失うおそれがあります。

車にあった部品の使用

車の性能、品質を維持するために、Honda車に最も適したHonda純正部品をお使いください。
純正部品は厳しい検査を実施し、Honda車に適合するように作られています。
お求め、装着に際しては、Honda販売店にご相談ください。

・純正部品には下のマークがついています。

HONDA
GENUINE PARTS

・Honda純正部品以外の車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。
適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故のもとになったりすることがあります。
・車の改造はしないでください。
不正改造は、法律に触れることはもちろん思わぬ事故を起こす場合があります。

7

車との上手なつきあいかた

●積雪・寒冷時の取り扱い
運転するまえ……484
運転するとき……486
駐車するとき……490
冬期の手入れ……492

●こんなときは
雨の日の運転……494
夏場の取り扱い……496

●環境にやさしい省エネドライブをするために……498

積雪・寒冷時の取り扱い

運転するまえ

●車に積もった雪や着氷は取り除く

屋根に積もった雪

走行時にガラス面に落ちた雪が視界のさまたげとなり危険です。走行するまえに取り除いてください。

・氷結している部分を無理に取り除くと塗装などを傷めます。氷が溶けてから取り除いてください。

ガラス面の雪や霜

雪や霜を落として視界を確保してください。

・プラスチックの板などを使うとガラスに傷をつけずに落とすことができます。

・ **アクアクリーンミラー装備車**
ドアミラーに付着した雪や霜は、ヒーテッドドアミラースイッチを“ON”にするか、温水や水道水を使って溶かしてください。
解氷剤を使ったり、プラスチックの板を使って削り落とすと、ミラー表面に傷が付き、親水効果を失います。

ヒーテッドドアミラー
→122ページ

足まわりの着氷

足まわりなどに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないように十分注意して取り除いてください。

●凍結しているとき

ドアの凍結

無理に開けるとドアまわりのゴムがはがれたりするので、お湯をかけて氷を溶かしてから開けてください。

・ドアキー穴部には、お湯をかけないでください。凍結すると、キーが差し込めなくなります。

お湯をかけたあとは、凍結防止のために水分をよく拭き取ってください。

ワイパーの凍結(ガラス面が着氷、積雪しているとき)

ワイパーブレード(ゴム部)を損傷したり、モーターの故障となりますので、氷や雪を取り除いてから動かしてください。

●乗車するとき

靴にこびりついた雪をよく落としてから、乗車してください。

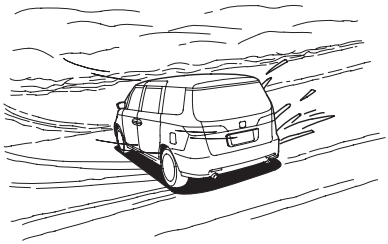
・ペダル類を操作するときに滑ったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったりすることがあります。

運転するまえに

ペダル類やハンドルの動きが円滑かどうか確認してください。

運転するとき

●雪道や凍結路では、たいへん滑りやすくなっているので、速度を落とし車間距離を十分とって運転しましょう。
また、ハンドルやブレーキの操作は特に慎重にしてください。
・急加速、急減速、急ブレーキや急ハンドルは横すべりを起こして方向性を失います。

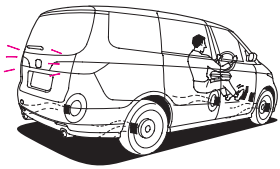


●冬用タイヤ、タイヤチェーンを装着して走行してください。
タイヤチェーンについて
→488ページ
・冬用タイヤを装着するときは、四輪とも同じ種類のものに交換してください。
・地区条例により違いがありますので、その地区の条例に従ってください。

●冬用タイヤを装着したときには、安全のため高速走行は避けてください。

●ブレーキのききについて

ブレーキ装置に付着した雪や水が凍結し、ブレーキのききが悪くなることがあります。
その際には、前後の車に十分注意して、ブレーキペダルを軽く踏みながら低速で走行し、ブレーキのしめりを乾かしてください。



- ブレーキのききが回復しないときは、ブレーキ系統に異常が考えられますので、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

●ウォッシャー液を噴射するとき

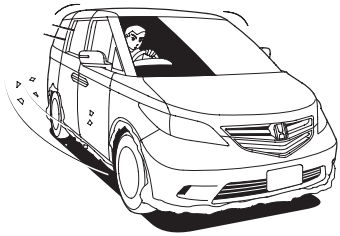
先にヒーターを使ってフロントガラスを暖めてからウォッシャー液を噴射します。

⚠注意

- 寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射しないでください。
  ウォッシャー液が凍りついて視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ハンドルのきれについて（タイヤまわりの着氷）

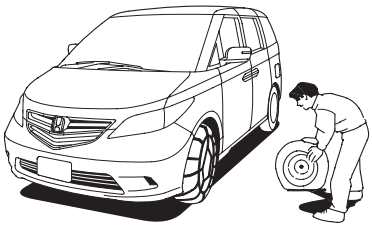
フェンダー裏側に付着した雪が氷結し、次第にたい積してハンドルのきれが悪くなることがあります。
ときどき確認し、着氷が大きくなる前に取り除いてください。



●パンクしたとき（タイヤチェーン装着時）

前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に付け、外した後輪タイヤを前輪につけてタイヤチェーンを装着します。

- 応急用スペアタイヤには、タイヤチェーンは装着できません。



●タイヤチェーンについて

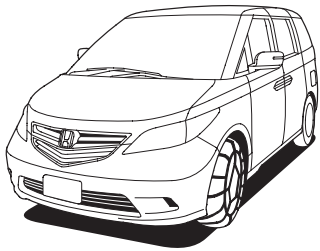
推奨タイヤチェーン

フェンダーやホイール表面を傷つけるおそれがありますので、Honda純正スーパーグリップチェーンをお使いください。
お求めはHonda販売店へお申し付けください。

- タイヤチェーンはタイヤに合った適正なものをお使いください。
  推奨タイヤチェーン以外のものを使うと、ブレーキ配管やフェンダーなどを破損するおそれがあります。

標準的なタイヤチェーンの取り付けかた

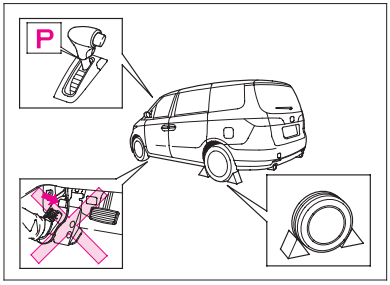
タイヤチェーンは、駆動輪の前輪に装着してください。
4WD車の場合も前輪駆動を主とした四輪駆動なので、チェーンは前輪に装着してください。
後輪には、タイヤチェーンを装着しないでください。



- タイヤチェーンに付属の取扱説明書にしたがって、正しく取り付けてください。
- タイヤチェーンは平らな所で他の交通に十分注意して取り付けてください。
  必要に応じて非常点滅表示灯などを使ってください。
- タイヤチェーンを取り付けたときには、安全のため雪道、凍結路では30km/h以下の速度で運転してください。
  なお乾燥路面ではタイヤチェーンを装着したままで走行するのは避けてください。チェーンの摩耗を早めます。
- 応急用スペアタイヤには、タイヤチェーンは装着できません。
  チェーン装着時に前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に装着し、外した後輪タイヤを前輪に取り付け、これに標準タイヤ用のタイヤチェーンを装着してください。

駐車するとき

パーキングブレーキの凍結を防ぐために、パーキングブレーキは使わないでください。
セレクトレバーを[P]に入れます。
石などで輪止めをしておきます。



●屋外に駐車するとき

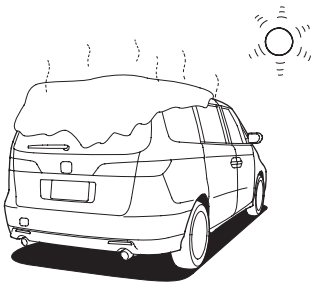
- エンジンの冷えすぎを防ぐために、車の前部を風下や日の当たる方向に向けて停めてください。
  - ・エンジンが冷えすぎると始動しにくくなることがあります。
- 落雪や積雪を避けるために、軒下や樹木の下などには停めないでください。
  - ・車の屋根などがへこむことがあります。
- ワイパーアームは起こしてください。
  - ・雪の重みでアームの取り付け部がこわれることがあります。

●長期間使わないで屋外におくとき

塗装面の保護とドアまわりの凍結を防ぐために、ボディカバーを使ってください。

⚠注意

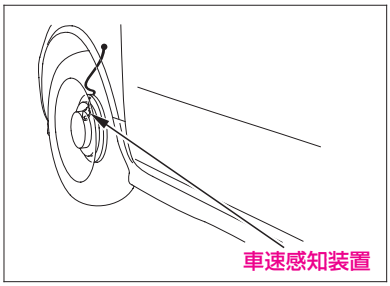
- 格納するとき、エンジン部を毛布で覆ったり、ラジエーターのまわりに段ボールや新聞紙をはさみ込んだりしないでください。
  そのまま走行すると、火災のおそれがあります。



冬期の手入れ

●雪道走行後の手入れ

・フェンダー裏側や足まわりに付着した泥、雪は周囲の部品を損傷しないように取り除いてください。足まわり（前、後輪の 4 か所）に車速感知装置が取り付けてありますので、傷をつけないように特に注意してください。



車速感知装置

・積雪時には道路に凍結防止剤がまかれていることがあります。錆の原因になりますので、走行後はすぐに洗車してください。特に下回りは念入りに行ってください。

●点検・整備

バッテリーについて

気温が下がるとバッテリーの性能が低下し、エンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

エンジンオイルについて

冬期はオイルの劣化が激しくなります。
冬期に主として短距離、または市街地を運転される方は、早めに交換してください。

冷却水について

冷却水の凍結を防ぐために点検してください。

ウォッシャー液について

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

●点検方法はメンテナンスノートを参照し、交換はHonda販売店にご相談ください。

こんなときは

雨の日の運転

雨の日は視界が悪くなるうえ、窓ガラスが曇ったり、路面が滑りやすくなるなど悪条件が重なるので通常より注意深い運転が必要です。

- 急加速、急ブレーキや急ハンドルを避け、晴れの日よりも速度を落とし、車間距離を十分にとって運転しましょう。
- ハイドロプレーニング現象に注意しましょう。
- 雨の降り始めの舗装道路は滑りやすいので特に気を付けましょう。
- 冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。
  エンジンの破損や電装品の故障および車両故障につながるおそれがあります。

⚠警告

- 滑りやすい路面では、急加速、急ブレーキや急ハンドルは避けてください。
  車のコントロールを失い思わぬ事故につながります。

ハイドロプレーニング現象とは

路面が水でおおわれているところを高速で走行しようとしたときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態になることをいいます。

- このような状態になると、ハンドルやブレーキがきかなくなり、非常に危険です。

●ガラスの曇りをとりたいとき

ガラスが曇って外が見にくいときは、エアコンのデフロスターを使って曇りをとります。

リヤガラスの曇りは

リヤデフロスタースイッチを押して、曇りをとります。

●ガラスの油膜をとりたいとき

油膜があると、雨の夜は対向車のライトなどが乱反射します。
ガラスクリーナーを使ってガラスの表面をきれいにします。

・ガラスクリーナーはHonda純正ケミカル用品をお使いください。

●ワイパーのふきむらがあるとき

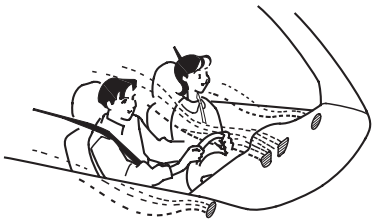
ワイパーブレードのラバーが傷んでいると、ふきむらが出て視界のさまたげとなります。また、ガラス面を傷つけることがありますので、早めに交換してください。

夏場の取り扱い

●エアコンの上手な使いかた

・冷媒(ガス)が不足していると、冷房性能が低下します。
夏になる前に点検、補充をしておきましょう。
・室内温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンをかけましょう。
・エアコンの冷やしすぎは健康上良くありません。

●この車の冷媒は、環境保護のため、新冷媒HFC-134a (R-134a)を使用しています。
補充・交換が必要な場合は、Honda販売店にご相談ください。



●炎天下に駐車するときは

・ボディーに覆いをかけたり、ハンドルやシートにタオルなどをかけて、室内温度の上昇を抑えましょう。
・フロントガラスにアルミ光沢性の日除けバイザーを使うと、反射光が集光し、インストルメントパネルなどが変色、変形することがあります。

●海から帰ってきたときは

海に出かけた後は車も塩分を浴びています。錆の原因になりますので早めに洗車してください。下回りも念入りに洗いましょう。

●オーバーヒートを防ぐために

冷却水の量が不足しないように、こまめに点検します。

・走行中、水温計の針が“H”の目盛に入った場合は、オーバーヒートのおそれがあります。安全な場所に停車してエンジンを冷やしてください。

オーバーヒートしたとき
→438ページ

環境にやさしい省エネドライブをするために

●点検整備をきちんとし、タイヤの空気圧を適正にしましょう。

■適正空気圧で50km走ると50kPa {0.5kgf/cm²} 減のときに比べてガソリン 150ccの節約。

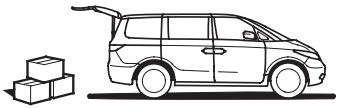
▲CO_2 1250g削減(650km／月)

●タイヤの空気圧が低下すると走行抵抗が増加し、燃費に大きく影響します。また、冬用タイヤや幅広タイヤを装着したときも同様に燃費に影響します。

●不必要な荷物は降ろして走行しましょう。

■10kgの荷物を降ろして50km走ると、ガソリン 15ccの節約。

▲CO_2 130g削減(650km／月)



●エアコンは少し控えめにしましょう。
室内温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンをかけましょう。

■エアコンを 6 分停止して、ガソリン 70ccの節約。

▲CO_2 1340g削減(3 時間／月)

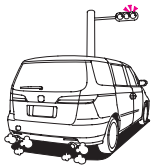
●エアコンは冷媒を循環するため、コンプレッサーをエンジンで駆動しており、エンジンに大きな負荷が発生します。それを補うため、燃料消費が多くなります。

●ヘッドライトやリヤデフロスターは電力を多く消費するため、不必要なときはスイッチを“OFF”にしてください。

●発電機はエンジンで駆動しており、消費電力が増加すると発電量が増加し、エンジンの負荷が大きくなり、それを補うため、燃料消費が多くなります。

●空ぶかしはしないようにしましょう。

■空ぶかしを1回やめて、ガソリン 6 ccの節約。
▲CO_2 1150g削減(300回／月)

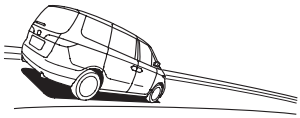


●長時間停車するときは、エンジンを停止してください。また、長すぎる暖機運転をしないようにしましょう。

■5分間のアイドリングを止めて、ガソリン65ccの節約。
▲CO_2 420g削減(10回／月)

●変速位置の選択は、走行速度や坂の勾配に合わせて適切に行ってください。

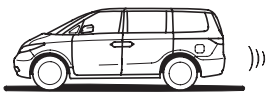
・通常はDで走行します。
・下り坂で速度が出すぎてしまうときは、D3スイッチONまたは2にし、エンジンブレーキを使います。
さらに強いエンジンブレーキが必要なときは1を使ってください。



●下り坂などでエンジンブレーキを使う目的で、より低速のギヤを有効に使うと、燃料供給の停止時間が長くなり、燃費が良くなることがあります。

●経済速度について

・高速道路では100km/hを80km/hにして燃費10～30%の節約。
・一般道路では法定速度(40～60km/h)の範囲で一定走行すると燃費は良くなります。



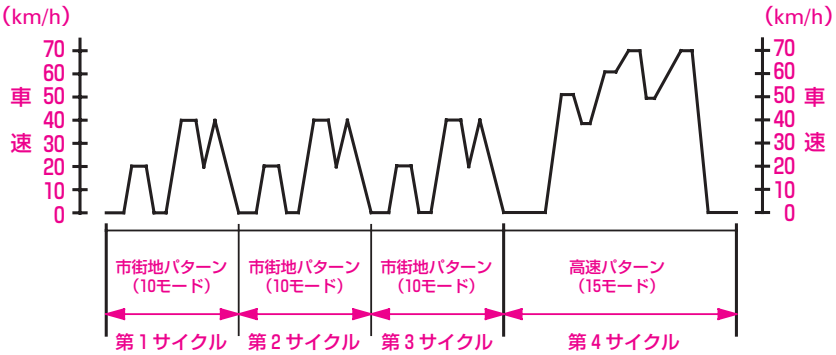
参考資料＊社団法人日本自動車工業会：「あしたへECO－MOTION」参照
《対象車種2.0L乗用(AT)の燃費＝11.7km/l(10・15モード)が計算ベース》

●10・15モード燃費について

10・15モード燃費とは

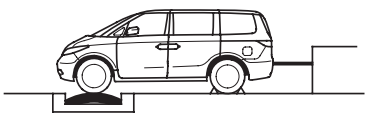
東京都内の幹線道路における平均的な走行形態の10モードと、高速走行や渋滞など大都市における走行形態を反映させた15モードを図のように
・市街地パターン(10モード)を３回
・高速パターン(15モード)を１回
の計４サイクルで走行したときの排出ガス量(g/km)を測定します。
このときに消費した燃料を10・15モード燃費(km/l)として表示しています。

＊計測走行距離　4.2km、平均時速　23km/h



10・15モード燃費と実走行燃費との違い

10・15モード燃費は図のようにシャーシダイナモメーター上で定められた試験条件のもとで行われた燃費値です。
実際の走行時には気象、道路、車両、運転、整備などの状況が異なってきますので、それに応じて燃費が異なります。

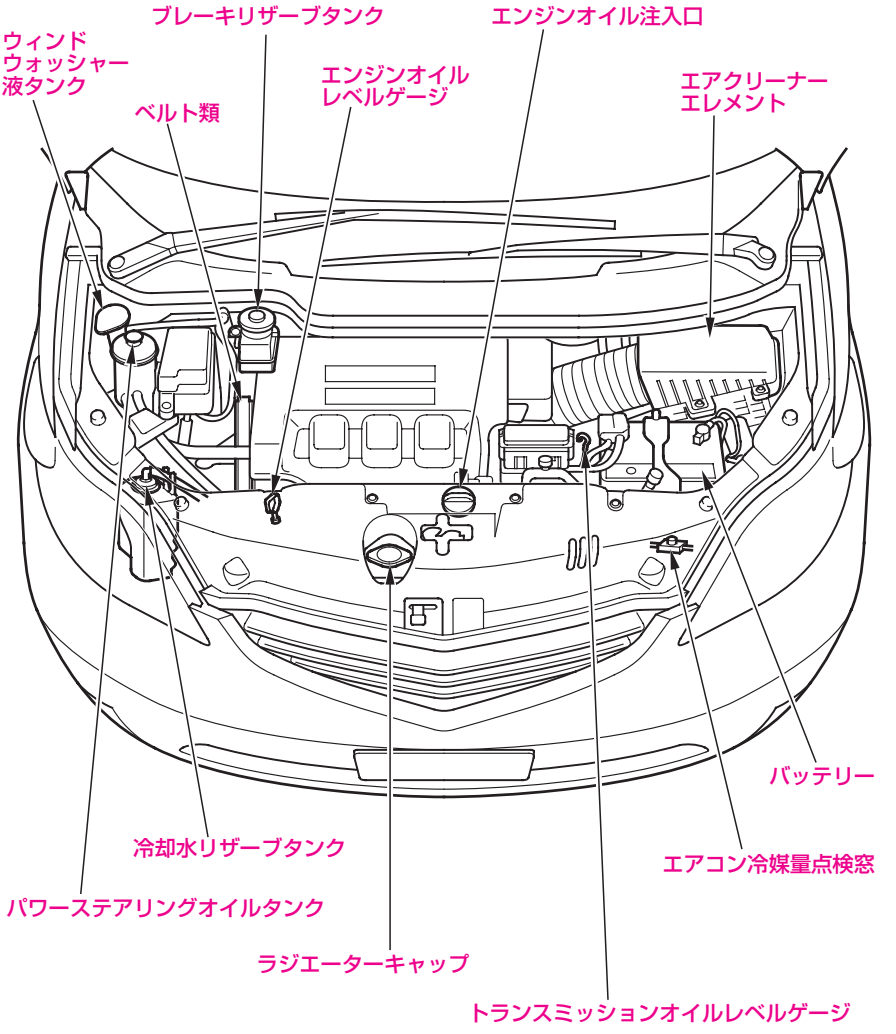


10・15モード燃費の計測方法(国土交通省認可時 測定条件)

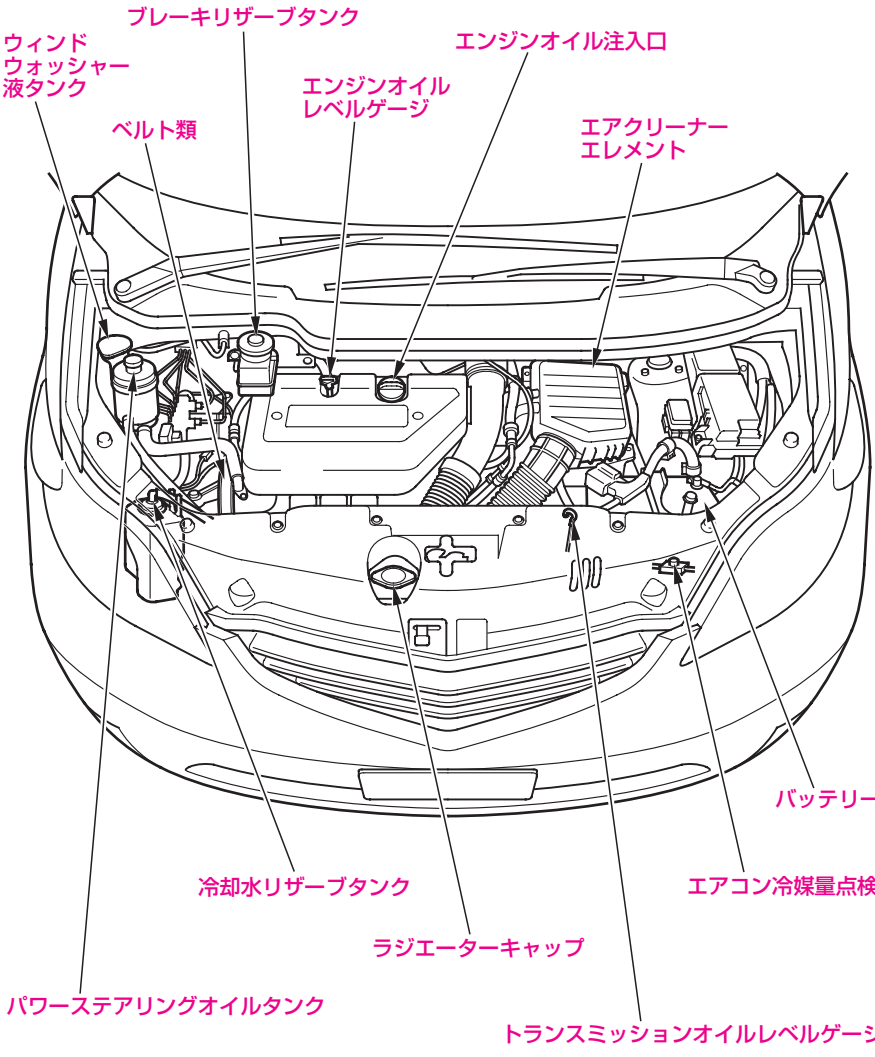
- 3,000km慣らし走行後の車両
- 完全暖機状態　60km/h 15分暖機後モード測定
- 走行抵抗設定　車両(空車)状態+110kg(2名乗車分)
- 搭載電気機器"OFF"状態
- エアコン"OFF"で測定

サービスデータ

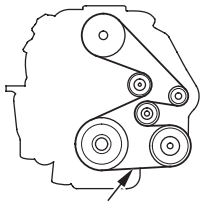
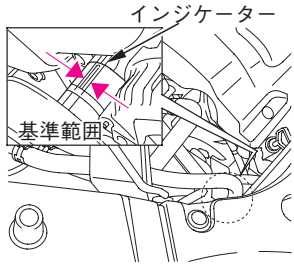
VZ、VX、VG

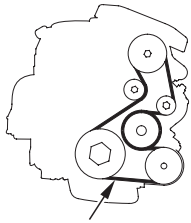
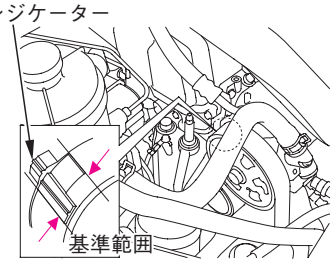


X、G、M


ブレーキリザーブタンク
ウィンド
ウォッシャー
液タンク
エンジンオイル注入口
エンジンオイル
レベルゲージ
ベルト類
エアクリーナー
エレメント
バッテリー
冷却水リザーブタンク
エアコン冷媒量点検窓
ラジエーターキャップ
パワーステアリングオイルタンク
トランスミッションオイルレベルゲージ

点検整備については「メンテナンスノート」も合せてご覧ください。

<table>
<tr><th>項　目</th><th colspan="3">サ　ー　ビ　ス　デ　ー　タ</th></tr>
<tr><td rowspan="4">ベルトのたわみ量</td><td colspan="3">VZ、VX、VG
 
発電機ベルト
 

（エアコンディショナーベルト、パワーステアリングベルト兼用）</td></tr>
<tr><td colspan="3">X、G、M
 
発電機ベルト
 

（エアコンディショナーベルト、パワーステアリングベルト兼用）</td></tr>
<tr><td>発電機ベルト</td><td colspan="2">自動調節式（インジケーターが基準範囲内にあること）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">点火プラグ※</td><td rowspan="2">タイプ</td><td>NGK</td><td>IZFR6K11</td></tr>
<tr><td>DENSO</td><td>SKJ20DR-M11</td></tr>
<tr><td>電極のすき間</td><td colspan="2">1.0－1.1 mm</td></tr>
</table>

※：ISO（国際標準化機構）規格品の突出しタイプを使用しています。 、 のマークがついています。

イリジウムプラグを使用していますので、次のことに注意してください。

- イリジウム合金チップの微粒子膜を損傷するおそれがあるので、ワイヤーブラシ等による清掃は行わないでください。
- プラグギャップは調整できません。基準値をこえているものは交換してください。（清掃はクリーナーにて20秒以下で行ってください。）

項目		サービスデータ		
ブレーキペダル	遊び	1－5 mm		
	床板とのすき間	100 mm 以上 {約196N(20kgf)の力}		
	カーペットとのすき間（参考値）	80 mm 以上 {約196N(20kgf)の力}		
パーキングブレーキ	踏みしろ	2WD車	5－6回 {約294N(30kgf)の力}	
		4WD車	6－7回 {約294N(30kgf)の力}	
バッテリー	容量／タイプ	VZ、VX、VG	52AH(5)／70D23L	
		X、G(4WD車)	ナビゲーションシステム装備車	36AH(5)／55B24L
			ナビゲーションシステム非装備車	36AH(5)／46B24L
		G(2WD車)、M	36AH(5)／46B24L	
電球（バルブ）	W（ワット）／CP(キャンドルパワー）数［CP(キャンドルパワー）：光度の単位］	ヘッドライト(ロービーム)・・・・・・ 12V－35W※1 (ハイビーム)・・・・・・ 12V－55W※2 前面方向指示器／前面非常点滅表示灯 ・・・・ 12V－21W(橙色) 車幅灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12V－5W 後面方向指示器／後面非常点滅表示灯 ・・・・ 12V－21W(橙色) 番号灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12V－5W 制動灯／尾灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12V－21/5W 後退灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12V－21W 前席室内灯／マップランプ・・・・・・ 12V－5W 後席室内灯／マップランプ （セカンドシート、サードシート)・・・・・・・・・・・・・ 12V－5W ドア開閉灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12V－2CP(3.8W) カーゴルーム照明灯・・・・・・・・・・・・ 12V－5W バニティミラー照明灯・・・・・・・・・・ 12V－1.8W		

※1：ディスチャージヘッドライト
※2：ハロゲンバルブ

⚠注意

- ディスチャージヘッドライトのバルブを交換する場合は、必ずHonda販売店で行ってください。
  ディスチャージヘッドライトは高電圧を使用しており、不適切な取り扱いや分解を行うと感電するおそれがあります。

項目		サービスデータ		
エンジンオイル	推奨オイル	Honda純正オイル（4サイクル四輪車用） ウルトラLEO SL（API SL/GF-3級SAE 0W-20）※ ウルトラLTD SL（API SL/GF-3級SAE 5W-30） ウルトラGOLD SL（API SL級SAE 5W-40） ウルトラMILD SL（API SL/GF-3級SAE 10W-30）		
	規定量	オイル交換時		4.0ℓ
		オイル、オイルフィルター同時交換時	VZ、VX、VG	4.3ℓ
			X、G、M	4.2ℓ

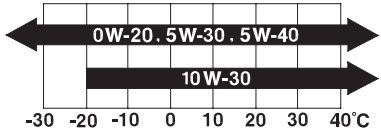
※：0W-20は、最も省燃費性に優れたオイルです。

推奨エンジンオイル

Honda純正エンジンオイルまたはAPI SJ級以上か、オイル缶にAPI CERTIFICATION（エーピーアイ　サーティフィケーション）マークの入ったエンジンオイルをお使いください。

API CERTIFICATIONマーク

市販のエンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを下表にもとづきお使いください。

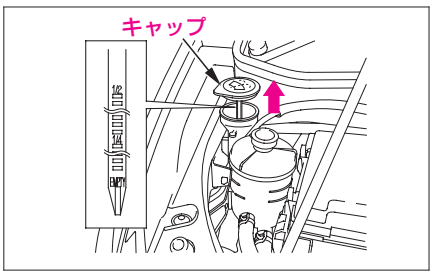


項目		サービスデータ		
燃料	指定燃料	VZ、VX、VG	無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）	
		X、G、M	無鉛レギュラーガソリン（無鉛ハイオクも使用可）	
	タンク容量	70ℓ		
トランスミッションオイル	指定液	Honda純正オイルウルトラATF-Z1		
	規定量（交換時）	2WD車		2.9ℓ
		4WD車	VX、VG	3.2ℓ
			X、G、M	3.1ℓ
デファレンシャルオイル（4WD車）	指定液	Honda純正オイルウルトラDPSF		
	規定量（交換時）	1.6ℓ		
冷却水※	指定液	Honda純正ウルトラeクーラント		
	規定濃度	50%		
	規定量（交換時リザーブタンク0.75ℓ含む）	VZ、VX、VG	5.8ℓ	
		X、G、M	5.4ℓ	
ブレーキ液	指定液	Honda純正ウルトラブレーキフルードDOT 3またはDOT 4		
パワーステアリング液	指定液	Honda純正ウルトラパワーステアリングフルード-Vまたは-II		
ウォッシャー液	タンク容量	2.5ℓ		
エアクリーナーエレメント	タイプ	湿式		

※：後席用オートエアコン装備車の冷却水の交換に際しては、Honda販売店にご相談ください。

ウォッシャー液の量の点検

ウォッシャー液の量は、キャップに付いているウォッシャー液レベルゲージにより確認します。



215/65R16 98S タイヤ装着車

項目 / タイヤサイズ		タイヤ空気圧 kPa(kgf/cm²)		※リムサイズ	
		前輪	後輪	スチールホイール	アルミホイール
標準タイヤ	215/65R16 98S	230 (2.3)	230 (2.3)		16×6½JJ
応急用スペアタイヤ	T135/90D16 102M	420 (4.2)		16×4T	

215/60R17 96H タイヤ装着車

項目 / タイヤサイズ		タイヤ空気圧 kPa(kgf/cm²)		※リムサイズ	
		前輪	後輪	スチールホイール	アルミホイール
標準タイヤ	215/60R17 96H	240 (2.4)	240 (2.4)		17×6½JJ
応急用スペアタイヤ	T145/90D16 106M	420 (4.2)		16×4T	

タイヤの溝の深さ	1.6 mm以上
位置交換時期(タイヤローテーション)	5,000 kmごと

※：この車専用のホイールをお使いください。
専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。
ホイール交換に際しては、必ずHonda販売店にご相談ください。

名称	排気量(cm³)	車体形状	乗車定員(人)	タイプ	
エリシオン	2,997	4 ドア ステーション ワゴン	8	VZ	2WD
				VX	2WD
					4WD
				VG	2WD
					4WD
	2,354			X	2WD
					4WD
				G	2WD
					4WD
				M	2WD
					4WD

さくいん

赤色文字の項目は、万一のときの処置についてのものです。

ア

アームレスト ····· 98・101・104・112
アクアクリーンミラー ····· 123
　親水効果の回復作業 ····· 472
アクセサリーソケット ····· 382
アダプティブフロントライティング
　システム(AFS) ····· 184
　警告灯 ····· 185
雨の日の運転 ····· 494
アルミホイール ····· 480
アンチロックブレーキシステム(ABS)
　運転のしかた ····· 280
　ABSのしくみ ····· 280
　警告灯 ····· 281
　取り扱いについて ····· 281
アンテナ ····· 340

イ

イージーテールゲートクローザー ····· 67
イージードアクローザー ····· 60
イグニッション(エンジン)
　キー ····· 38
　スイッチ ····· 180
　スイッチノブ ····· 235
イモビライザーシステム ····· 41
　表示灯 ····· 164
イルミネーションコントロール ····· 150

ウ

ウィンカー
　スイッチ ····· 187
　電球の交換 ····· 454・456
　W(ワット)数 ····· 505
ウィンドー ····· 82
　パワーウィンドー ····· 82
ウェルカムライト ····· 365
ウォッシャー液
　スイッチ ····· 188
　タンクの容量 ····· 507
　冬期の手入れ ····· 493
　補給 ····· 507
動けなくなったとき ····· 416・417
運転のしかた ····· 196

エ

エアコン ····· 302
　インデックス ····· 304
　エアクリーンフィルター ····· 332
　オートエアコン ····· 306・318
　後席用オートエアコン ····· 318
　後席用クーラー ····· 328
　使いかた ·· 306・318・324・328・330
　吹き出し風の調節 ····· 303
　ベルト ····· 504
AM/FMラジオ一体式CDステレオ ····· 342
SRSエアバッグシステム
　SRSエアバッグシステムのしくみ ···· 250
　お子さまを乗せるときは ····· 255
　作動しないとき ····· 253
　作動するとき ····· 252
　警告灯 ····· 257
　取り扱いについて ····· 256
エンジンオイル・フィルター
　オイル量 ····· 506
　冬期の手入れ ····· 492
エンジンキー(キー) ····· 38
エンジンスイッチ ····· 180
　照明灯 ····· 370
エンジンスイッチノブ ····· 235
エンジンのかけかた ····· 196・239
エンジンブレーキ ····· 22
エンジンルーム ····· 502・503

オ

応急用スペアタイヤ
格納場所 …… 414
空気圧 …… 508
サイズ …… 508
スペアタイヤについて …… 427
オーディオ
インデックス …… 341
上手な使いかた …… 338
リモートコントロールスイッチ …… 359
オートエアコン …… 306・318
オートマチックトランスミッション
運転のしかた …… 207
オイル …… 507
セレクトレバー …… 202
オートライトコントロール …… 182
警告灯 …… 177
オーバーヒートしたとき …… 438
オドメーター …… 146
音声操作
エアコン …… 314
温度感知装置 …… 316・327
音量調節機能付きヘッドホン端子 …… 385

カ

カーゴスペース照明灯
使いかた …… 369
電球の交換 …… 457
W(ワット)数 …… 505
カーゴスペースの作りかた …… 119
外気温表示 …… 147
外装の手入れ …… 468
学童用(ジュニア)シート …… 19・130
カスタマイズ機能
カスタマイズ機能について …… 386
マルチインフォメーションを使った
カスタマイズ …… 389
工場出荷時設定のしかた …… 408
カップホルダー …… 380
ガラスの手入れ …… 470
換気 …… 17
環境にやさしい省エネドライブを
するために …… 498
寒冷時の取り扱い …… 484

キ

キー …… 38・223
キーオフオペレーション …… 86・91
キー抜き忘れ警告ブザー …… 181
キーレスエントリー …… 73
キックダウン …… 24

ク

曇り取り(デフロスター) …… 310
クリープ現象 …… 24
クルーズコントロール …… 216
車にあった部品の使用 …… 482
グローブボックス …… 376

ケ

警告灯
警告灯類 …… 168
電球切れの点検 …… 179
携帯電話接続キット …… 376
けん引
けん引されるとき …… 420
故障車をけん引するとき …… 423

赤色文字の項目は、万一のときの処置についてのものです。

コ

コインポケット ····· 377
工具(ツール)
　格納場所 ····· 414
　種類 ····· 415
後席ウィンドー ····· 87
後席室内灯 ····· 366
　電球の交換 ····· 459
　W(ワット)数 ····· 505
後席用オートエアコン ····· 318
後席用クーラー ····· 328
高速道路で故障したとき ····· 416
後退灯(バックランプ)
　電球の交換 ····· 456
　W(ワット)数 ····· 505
後部ワイパー(リヤワイパー)
　スイッチ ····· 191
故障したとき ····· 416
故障の修理について ····· 417
小物入れ ····· 376
コンビニフック ····· 379

サ

サードシート ····· 110
サービスデータ ····· 502
サイドエアバッグシステム／
　サイドカーテンエアバッグシステム
　お子さまを乗せるときは ····· 269
　警告灯 ····· 273
　サイドエアバッグシステム／
　　サイドカーテンエアバッグシステム
　　の効果を十分に発揮させる
　　ために ····· 264
　サイドエアバッグシステム／
　　サイドカーテンエアバッグシステム
　　のしくみ ····· 258
　サイドエアバッグシステム自動停止
　　表示灯 ····· 164・268
　作動しないとき ····· 263
　作動するとき ····· 262
　乗員姿勢検知システム ····· 266
　取り扱いについて ····· 270
サングラスホルダー ····· 375
三点式シートベルト ····· 127・132・299
サンバイザー ····· 374
サンルーフ
　サンシェード(遮光板) ····· 88
　操作 ····· 89

シ

CDチェンジャーコントローラー
MD／カセットプレーヤーの使いかた ····· 350
シート
アレンジインデックス ····· 94
カーゴスペースの作りかた ····· 119
サードシート ····· 110
セカンドシート ····· 102
正しい運転姿勢 ····· 92
ヒーター ····· 335
フルフラットシート ····· 115
フロントシート ····· 96・99
シートアンダートレー ····· 378
シートベルト ····· 124
種類 ····· 126
ショルダーアンカー ····· 133
チャイルドシート固定機構 ····· 136
着用のしかた ····· 132
非着用警告灯 ····· 173
リマインダー ····· 127・299
シートベルトプリテンショナー
シートベルトプリテンショナーのしくみ ····· 274
取り扱いについて ····· 276
シガレットライター ····· 372
事故が起きたとき ····· 418
室内照明 ····· 364
室内灯スイッチ ····· 365
シフトロック装置 ····· 27・210・299
霜取り・曇り止め
前面／側面ガラス ····· 310
ジャッキの取り扱い ····· 424
車幅灯(ポジションランプ)
電球の交換 ····· 455
W(ワット)数 ····· 505
車両挙動安定化制御システム(VSA)
運転のしかた ····· 285
警告灯 ····· 287
取り扱いについて ····· 286
VSAのしくみ ····· 284
充電警告灯 ····· 173
樹脂塗装部品 ····· 469
ジュニア(学童用)シート ····· 19・130
瞬間燃費表示 ····· 149
純正部品 ····· 482
親水ミラー ····· 123

ス

水温計 ····· 149
スイッチの使いかた ····· 180
スノータイヤ(冬用タイヤ) ····· 486
スノーモード
スイッチ ····· 204
表示灯 ····· 166
スパークプラグ(点火プラグ) ····· 504
スピードメーター ····· 145
スペアタイヤ
格納場所 ····· 414
空気圧 ····· 508
サイズ ····· 508
スペアタイヤについて ····· 427
スマートカードキーシステム ····· 222
エンジンスイッチノブ ····· 235
エンジンのかけかた ····· 239
カードキーの電池交換 ····· 242
カスタマイズ機能について ····· 386
キー ····· 223
警告灯 ····· 247
警告表示について ····· 243
作動範囲について ····· 228
ドア・テールゲートの施錠・解錠 ····· 230
スライドドア ····· 56
開閉 ····· 57
施錠・解錠 ····· 56
チャイルドプルーフ ····· 59

赤色文字の項目は、万一のときの処置についてのものです。

セ

制動灯(ブレーキランプ)
電球の交換 …… 456
W(ワット)数 …… 505
セーフティインジケーター …… 178
整備 …… 464
セカンドシート …… 102
積雪・寒冷時の取り扱い
運転するとき …… 486
運転するまえ …… 484
駐車するとき …… 490
冬期の手入れ …… 492
セキュリティーシステム
警報装置について …… 410
セットのしかた …… 411
セレクトレバー
操作 …… 202
ポジション表示灯 …… 163
洗車 …… 467
前照灯(ヘッドライト)
上向きと下向きの切り換え …… 183
上向き表示灯 …… 163
追越合図(パッシング) …… 183
スイッチ …… 182
電球の交換 …… 452・453
W(ワット)数 …… 505
前席室内灯 …… 366
電球の交換 …… 458
W(ワット)数 …… 505
センターアッパーボックス …… 377
センターテーブル …… 380
センターロアボックス …… 377

ソ

速度計 …… 145
速度範囲 …… 205
その他の安全装備 …… 299

タ

タイヤ
位置交換(ローテーション) …… 478
ウェアインジケーター …… 477
応急用スペアタイヤ …… 427
空気圧 …… 508
サイズ …… 508
スノータイヤ …… 486
タイヤを交換するときは …… 430
チェーン …… 488
点検 …… 476
タイヤ収納袋 …… 432
タコメーター …… 145
正しい運転姿勢 …… 92

チ

チェーン …… 488
チケットホルダー …… 374
チャイルド(幼児用)シート …… 19・130
チャイルドシート固定機構
付きシートベルト …… 136
チャイルドシート固定装置 …… 136
チャイルドプルーフ …… 56・59
駐車
坂道 …… 29
積雪・寒冷時の取り扱い …… 490
駐車ブレーキ(パーキングブレーキ)
警告灯 …… 171
積雪・寒冷時の取り扱い …… 490
操作 …… 199
チルトステアリング …… 120

ツ

追突軽減ブレーキ(CMS)
警告灯 …… 297
作動しないとき …… 291
CMSのしくみ …… 288
CMSの自動停止について …… 294
CMSの停止について …… 294
取り扱いについて …… 295
追突警報について …… 292

テ

テールゲート
解錠ができないとき …… 462
開閉 …… 71
開閉警告灯 …… 177・178
テザーアンカー …… 139
デファレンシャルオイル …… 507
デフロスター …… 310
点火プラグ …… 504
電気系統が異常のとき …… 440
電気装置が作動しないとき …… 444
電球(バルブ)
交換 …… 450
W(ワット)数 …… 505
点検・整備について …… 464
電動リモコンドアミラー …… 121

ト

ドア
開閉警告灯 …… 178
スライドドア …… 56
積雪・寒冷時の取り扱い …… 485
施錠・解錠 …… 43
パワースライドドア …… 47
フロントドア …… 45
ドア開閉灯(カーテシーランプ) …… 369
電球の交換 …… 460
W(ワット)数 …… 505
ドアミラー …… 121
冬期の手入れ …… 492
道路で動けなくなったとき …… 417
時計 …… 358
塗装の手入れ …… 466
トランスミッション
オイルの容量 …… 507
警告灯 …… 173
トリップメーター …… 146

ナ

内装の手入れ …… 474
夏場の取り扱い …… 496

ニ

日常の手入れ …… 466
二点式シートベルト …… 127・134
乳児用(ベビー)シート …… 19・130

ネ

燃料(ガソリン)
指定燃料 …… 79・507
タンク容量 …… 79・507
燃費表示 …… 146・149
燃料計 …… 149
燃料残量警告灯 …… 174
補給口 …… 79

赤色文字の項目は、万一のときの処置についてのものです。

ハ

パーキングブレーキ
警告灯 …… 171
積雪・寒冷時の取り扱い …… 490
操作 …… 199
灰皿 …… 373
ハイドロプレーニング現象 …… 494
ハイビーム表示灯 …… 163
ハイマウントストップランプ …… 299
ハザードランプ(非常点滅表示灯)
スイッチ …… 194
電球の交換 …… 454・456
W(ワット)数 …… 505
発炎筒
格納場所 …… 414
発炎筒について …… 415
バックミラー(後写鏡)
使いかた …… 120
バッテリー
充電 …… 440
冬期の手入れ …… 492
バッテリーあがり …… 440
容量／タイプ …… 505
発電機ベルト …… 504
バニティミラー(化粧鏡) …… 374
バニティミラー照明灯
電球の交換 …… 459
W(ワット)数 …… 505
ハロゲンバルブについて …… 451
パワーウィンドー …… 82・84
パワーシート …… 96
パワースライドドア …… 47
開閉 …… 48
開閉警告灯 …… 178
警告灯 …… 177
施錠・解錠 …… 47
チャイルドプルーフ …… 56
はさみ込み防止機構 …… 55
パワーテールゲート
開かないとき …… 461
開閉 …… 62
開閉警告灯 …… 178
警告灯 …… 177
施錠・解錠 …… 61
はさみ込み防止機構 …… 68
パワードアロック(オートドアロック) …… 44
パンク
積雪・寒冷時の取り扱い …… 487
パンクしたとき …… 424
番号灯(ライセンスランプ)
電球の交換 …… 457
W(ワット)数 …… 505

ヒ

ビークルスタビリティアシスト(VSA)
運転のしかた …… 285
警告灯 …… 287
取り扱いについて …… 286
VSAのしくみ …… 284
PGM-FI警告灯 …… 172
ヒーテッドドアミラー …… 122
非常点滅表示灯(ハザードランプ)
スイッチ …… 194
電球の交換 …… 454・456
W(ワット)数 …… 505
尾灯
電球の交換 …… 456
W(ワット)数 …… 505
ヒューズ …… 444
表示灯 …… 160

フ

吹き出し風の調節 …… 303
踏切で動けなくなったとき …… 416
フューエルリッド …… 80
プラグ …… 504
フルフラットシート
　フルフラットフロント・
　　セカンドシート …… 116
　フルフラットセカンド・
　　サードシート …… 117
ブレーキ
　警告灯 …… 171
　積雪・寒冷時の取り扱い …… 487
　倍力装置 …… 22
　ペダル …… 505
ブレーキアシスト …… 282
　取り扱いについて …… 282
フロントガラス熱線 …… 192
フロントシート
　パワーシート …… 96
　マニュアルシート …… 99
フロントドア …… 45

ヘ

平均燃費表示 …… 148
ヘッドライト
　上向きと下向きの切り換え …… 183
　上向き(ハイビーム)表示灯 …… 163
　追越合図(パッシング) …… 183
　スイッチ …… 182
　電球の交換 …… 452・453
　ロービームについて …… 451
　W(ワット)数 …… 505
ヘッドレスト …… 97・100・103・111
ベビー(乳児用)シート …… 19・130
ベルトのたわみ量 …… 504

ホ

ホイールサイズ …… 508
芳香剤 …… 474
方向指示器(ウィンカー)
　スイッチ …… 187
　電球の交換 …… 454・456
　表示灯 …… 163
　W(ワット)数 …… 505
ホーンスイッチ …… 194
ボトルホルダー …… 382
本革の取り扱い …… 475
ボンネット …… 77

赤色文字の項目は、万一のときの処置についてのものです。

マ

マップランプ
　使いかた …… 368
　電球の交換 …… 458
　W(ワット)数 …… 505
窓ガラスアンテナ …… 340
マニュアルシート …… 99
マルチインフォメーション
　ディスプレイ …… 152
　警告表示について …… 154
　表示について …… 153
万一のとき …… 413

ミ

ミラー
　ドアミラー …… 121
　ルームミラー …… 120

ム

無線装置 …… 31

メ

メーター(計器類) …… 144

ユ

油圧警告灯 …… 172
雪道走行後の手入れ …… 492

ヨ

幼児用(チャイルド)シート …… 19・130
四輪駆動機構(4WD)
　運転するときは …… 298
　取り扱いについて …… 298

ラ

ライト消し忘れ警告ブザー …… 183
ライトスイッチ …… 182
ライト類が点灯しないとき …… 444
ラジオの使いかた …… 344
ラジオポケット …… 377

リ

リムサイズ …… 508
リモートコントロールドアミラー …… 121
リヤカメラシステム
　ガイド線の消しかた …… 362
　画面に表示される映像の範囲 …… 361
　リヤカメラシステムについて …… 360
リヤデフロスタースイッチ …… 193
リヤワイパー …… 191・299

ル

ルームミラー(防眩式室内後写鏡) …… 120

レ

冷却水(ラジエーター液)
　水量 …… 507
　冬期の手入れ …… 493

ワ

ワイパー
　スイッチ …… 188
　積雪・寒冷時の取り扱い …… 485
ワックスがけ …… 469

A

ABS(アンチロックブレーキシステム)
運転のしかた ····· 280
ABSのしくみ ····· 280
警告灯 ····· 281
取り扱いについて ····· 281
A/C(エアコン)
インデックス ····· 304
使いかた ·· 306・318・324・328・330
吹き出し風の調節 ····· 303
ベルト ····· 504
AC100V電源ソケット ····· 383
AFS(アダプティブフロント
ライティングシステム) ····· 184
警告灯 ····· 185
AM/FMラジオ一体式CDステレオ ····· 342
AT(オートマチックトランスミッション)
運転のしかた ····· 207
オイル ····· 507
セレクトレバー ····· 202
AV入力端子 ····· 385

C

CDチェンジャーコントローラー、
MD／カセットプレーヤー
の使いかた ····· 350
CDプレーヤーの使いかた ····· 348
CMS(追突軽減ブレーキ)
警告灯 ····· 297
作動しないとき ····· 291
CMSのしくみ ····· 288
CMSの自動停止について ····· 294
CMSの停止について ····· 294
取り扱いについて ····· 295
追突警報について ····· 292

E

ELR付三点式シートベルト ····· 126
ELR・ALR付三点式シートベルト ····· 126
E-プリテンショナー
E-プリテンショナーのしくみ ····· 278
取り扱いについて ····· 279

H

HFC-134a(エアコン冷媒) ····· 496
Hondaスマートカードキーシステム ···· 222
エンジンスイッチノブ ····· 235
エンジンのかけかた ····· 239
カードキーの電池交換 ····· 242
カスタマイズ機能について ····· 386
キー ····· 223
警告灯 ····· 247
警告表示について ····· 243
作動範囲について ····· 228
ドア・テールゲートの施錠・解錠 ···· 230

I

INT(間欠ワイパー) ····· 189
ISO FIXテザータイプチャイルドシート
固定装置 ····· 139

M

MIST(ワイパースイッチ) ····· 189

P

PGM-FI警告灯 ····· 172
PRESS(シートベルトバックル) ·· 132・134

S

SRSエアバッグシステム
SRSエアバッグシステムの効果を十分に発揮させるために …… 254
SRSエアバッグシステムのしくみ …… 250
お子さまを乗せるときは …… 255
警告灯 …… 257
作動しないとき …… 253
作動するとき …… 252
取り扱いについて …… 256

T

TRIP(トリップメーター) …… 146

V

VSA(ビークルスタビリティアシスト)
運転のしかた …… 285
警告灯 …… 287
取り扱いについて …… 286
VSAのしくみ …… 284

W

W数(ライト類の電球のワット数) …… 505

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まず、Honda販売店にお気軽にご相談ください。

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

フリーダイヤル　0120-112010（イイフレアイオ）

受付時間　9：00～12：00　13：00～17：00
〒351-0188　埼玉県和光市本町 8 － 1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

①車検証記載事項
　車両型式、車体番号、エンジン型式、登録番号、登録年月日
②車種名、タイプ名、走行距離
③ご購入年月日
④販売店名

こんなことでお困りのとき

●キーレスエントリーで解錠しても、自動で閉まってしまう

・キーレスエントリーで解錠してから、ドア、テールゲートを開けないまま、約30秒たっていませんか。

キーレスエントリー　→73ページ

●キーが回せない

“0”から“I”に回らないとき（ハンドルロックの解除）

・ハンドルを左右に動かしながらキーを回してください。

エンジンスイッチ　→180ページ

・**Hondaスマートカードキーシステム装備車**

ハンドルを左右に動かしながらエンジンスイッチノブを回すか、エンジンスイッチノブを押し直してゆっくり回してください。

エンジンスイッチノブ　→235ページ

“I”から“0”に回らないとき

・セレクトレバーがPに入っていますか。

キーを抜くとき　→180ページ

●エンジンがかからない

・セレクトレバーがPかNに入っていますか。

・イモビライザーシステム表示灯が点滅していませんか。

イモビライザーシステム　→41ページ

・**Hondaスマートカードキーシステム装備車**

カードキーに異常はありませんか。

Hondaスマートカードキーシステム　→222ページ

・ガソリンが入っていますか。（メーター内の燃料計で確認してください。）

・バッテリーがあがっていませんか。

バッテリーあがりのとき　→440ページ

●セレクトレバーがPから動かせない

・ブレーキペダルを踏んでから操作していますか。

（操作できないときは、キーをシフトロック解除穴に差し込み、押しながらセレクトレバーを動かしてください。）

セレクトレバーが動かないとき　→210ページ

・エンジンスイッチを“II”にしてから操作していますか。

シフトロック装置の正しい理解を　→27ページ

●パワーウィンドーの開閉ができない

・パワーウィンドーのメインスイッチが“OFF”になっていませんか。

パワーウィンドー　→82ページ

●ドアを開けるとブザーが鳴る

「ピピピピ」とブザーが繰り返し鳴り続けるときは

・キーをエンジンスイッチに差し込んだままになっていませんか。

キー抜き忘れ警告ブザー　→181ページ

・ **Hondaスマートカードキーシステム装備車**

エンジンスイッチノブを“0”(プッシュオフ)以外にしていませんか。

警告ブザー　→237、238ページ

「ピー」とブザーが鳴り続けるときは

・ライトを消し忘れたままになっていませんか。

ライト消し忘れ警告ブザー　→183ページ

・ **パワースライドドア装備車**

フューエルリッド(燃料補給口)が開いているときに、助手席側のパワースライドドアを開けようとしたとき。

助手席パワースライドドアを開けるとき　→53ページ

●後席ドアが室内から開けられない

・チャイルドプルーフが施錠されていませんか。

チャイルドプルーフ　→56、59ページ

●キーを閉じ込めてしまった

・Honda販売店またはJAFへご連絡ください。

●水温計の針が“H”の目盛に入った
●エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

・オーバーヒートのおそれがあります。
(安全な場所に停車して、エンジンを冷やしてください。)

オーバーヒートしたとき　→438ページ

●走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がする

・ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。
(Honda販売店で点検を行ってください。)

●走行中にブレーキを踏むと、ペダルが振動する

・アンチロックブレーキシステム(ABS)が作動したものと思われます。

ABSのしくみ　→280ページ

●走行するとブザーが鳴る

ブザーが鳴り、シートベルト非着用警告灯が点滅しているときは

・運転席シートベルトを着用していますか。
(運転席シートベルトを着用してください。)

シートベルトリマインダー　→173ページ

ブザーが鳴り、ブレーキ警告灯が点滅しているときは

・パーキングブレーキを完全に戻していますか。
(パーキングブレーキを完全に戻してください。)

ブレーキ警告灯　→171ページ

HONDA

The Power of Dreams

万一、異常や故障などの不具合が生じた場合は、
Honda 販売店で点検整備を受けてください。
各所在地、電話番号については、別冊の「サービス網一覧」
をご覧ください。

インターネットでも取扱説明情報をお伝えしております。
Digital Owner's Manual のホームページ
http://www.honda.co.jp/manual/

30SJK601
00X30-SJK-6016

Ⓞ (HC) 5000.2005.06.4
© 2005 本田技研工業株式会社